

### Ⅲ. 調査結果の分析

---



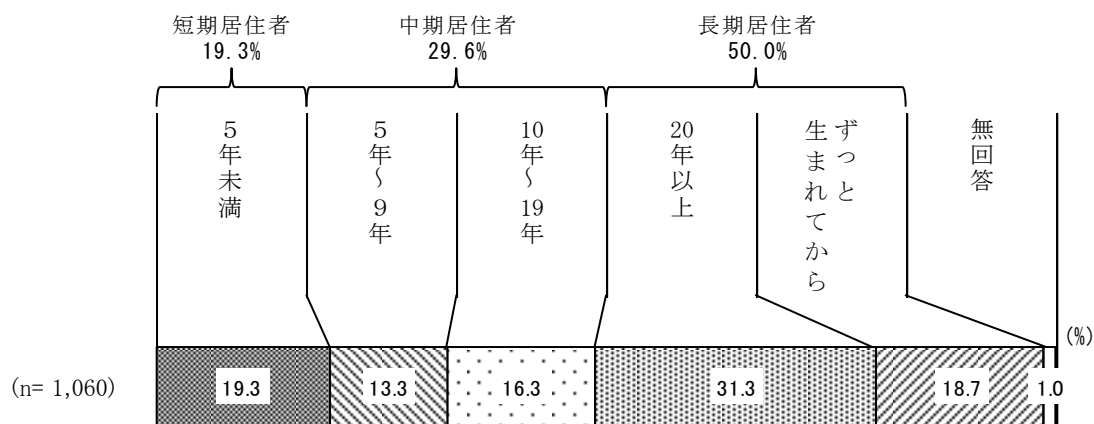
# 1. 定住性

## 1-1 居住年数

『長期居住者』が5割

問1 あなたは、台東区にお住みになって何年になりますか。(○は1つだけ)

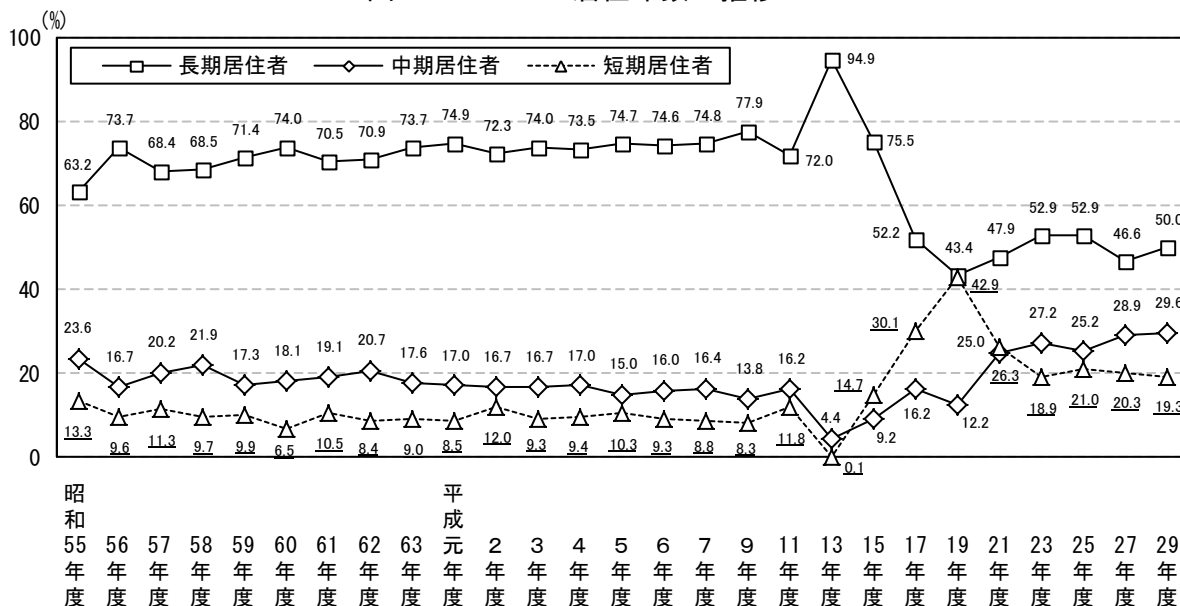
図1-1-1



居住年数は、「20年以上」(31.3%)が3割を超えて最も多く、「生まれてからずっと」(18.7%)を合わせた『長期居住者』(50.0%)が5割となっている。また、「5年～9年」(13.3%)と「10年～19年」(16.3%)を合わせた『中期居住者』(29.6%)が3割、「5年未満」の『短期居住者』(19.3%)がほぼ2割となっている。(図1-1-1)

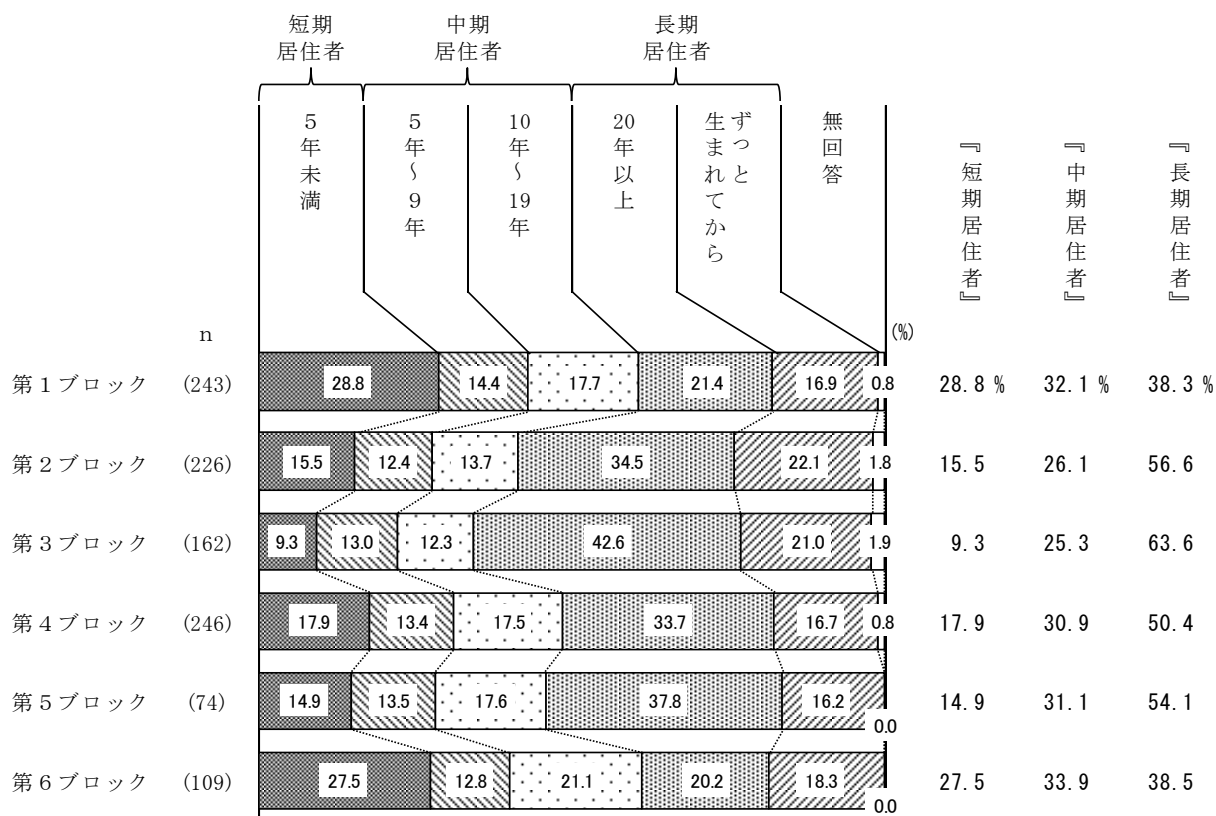
居住年数の推移をみると、「20年以上」と「生まれてからずっと」を合わせた『長期居住者』は平成13年度から平成19年度にかけて大きく減少していたが、平成21年度以降、5割前後で推移している。また、「5年～9年」と「10年～19年」を合わせた『中期居住者』は平成21年度以降、2割半ばかりから3割、「5年未満」の『短期居住者』は平成23年度以降、2割前後で推移している。(図1-1-2)

図1-1-2 居住年数-推移



地区別でみると、「20年以上」と「生まれてからずっと」を合わせた『長期居住者』は第3ブロック（63.6%）で6割を超えて最も多く、第2ブロック（56.6%）、第4ブロック（50.4%）、第5ブロック（54.1%）でも5割を超えている。「5年～9年」と「10年～19年」を合わせた『中期居住者』は第1ブロック（32.1%）、第4ブロック（30.9%）、第5ブロック（31.1%）、第6ブロック（33.9%）で3割を超えている。「5年未満」の『短期居住者』は第1ブロック（28.8%）と第6ブロック（27.5%）で3割近くとなっている。（図1-1-3）

図1-1-3 居住年数-地区別

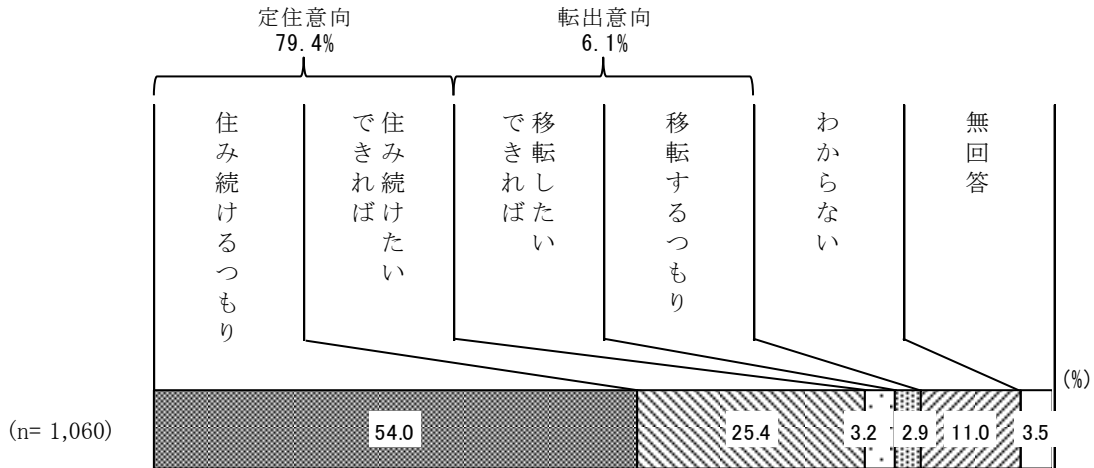


## 1-2 定住・転出意向

『定住意向』がほぼ8割

問2 これからも引き続いて、台東区にお住まいになりますか。(○は1つだけ)

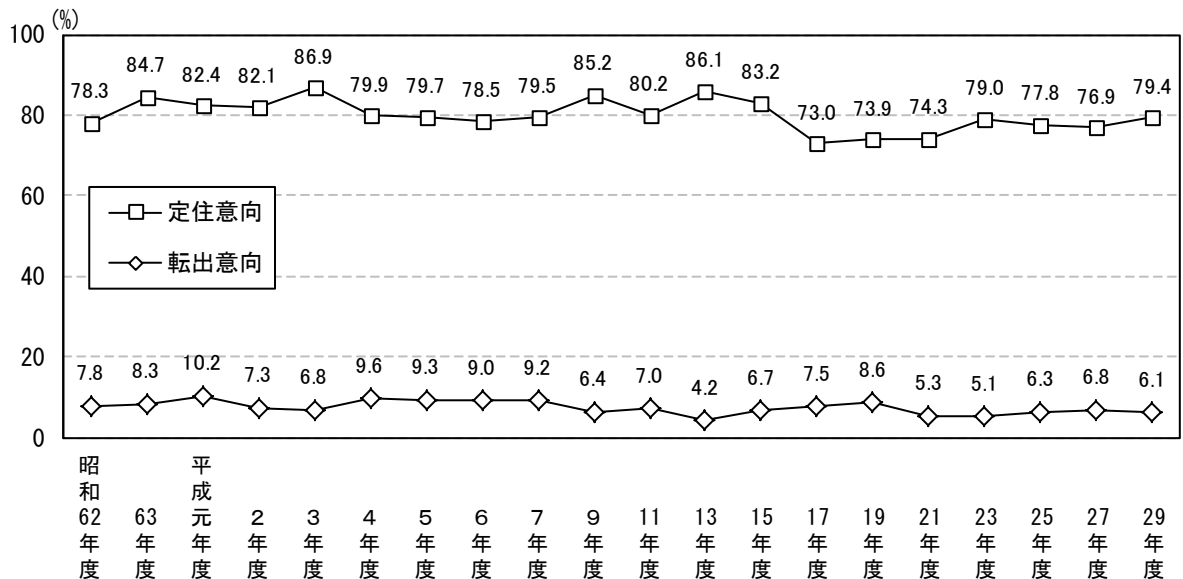
図1-2-1



定住・転出意向は、「住み続けるつもり」(54.0%)が5割半ばで最も多く、次いで「できれば住み続けたい」(25.4%)が2割半ばで、両者を合わせた『定住意向』(79.4%)はほぼ8割となっている。一方、「できれば移転したい」(3.2%)と「移転するつもり」(2.9%)を合わせた『転出意向』は6.1%である。(図1-2-1)

定住・転出意向の推移をみると、「住み続けるつもり」と「できれば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は平成23年度から平成27年度にかけて減少傾向であったが、今回調査では平成27年度より2.5ポイント高くなっている。一方、「できれば移転したい」と「移転するつもり」を合わせた『転出意向』は今回調査では平成27年度から0.7ポイント低くなっている。(図1-2-2)

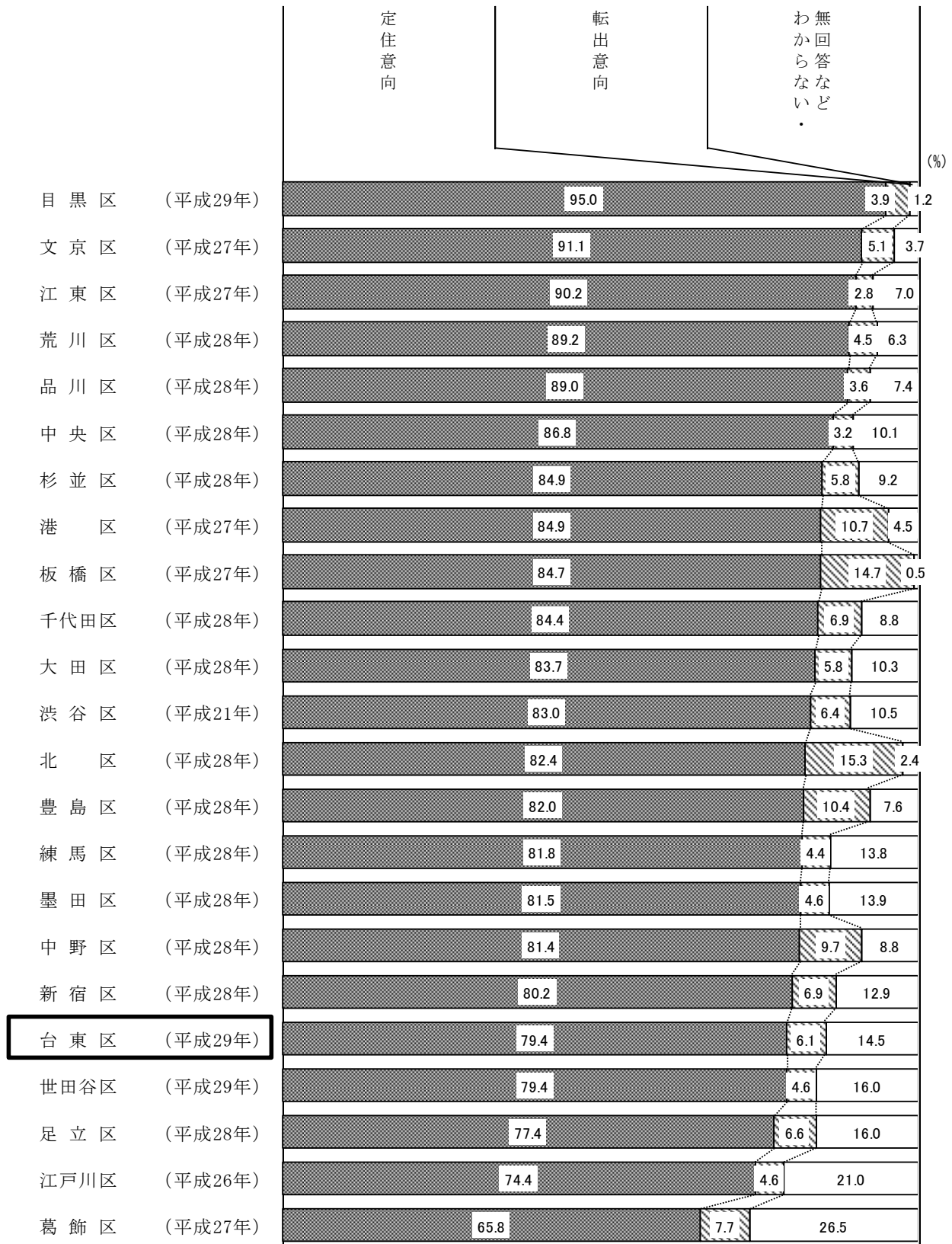
図1-2-2 定住・転出意向-推移



定住・転出意向を他区と比較すると、各区の選択肢が異なっているため単純に比較はできないが、台東区の「住み続けるつもり」と「できれば住み続けたい」を合わせた『定住意向』(79.4%)の高さは東京都の23区の中で第19位となっている。一方、「できれば移転したい」と「移転するつもり」を合わせた『転出意向』(6.1%)の高さでは東京都の23区の中で第11位となっている。

(図1-2-3)

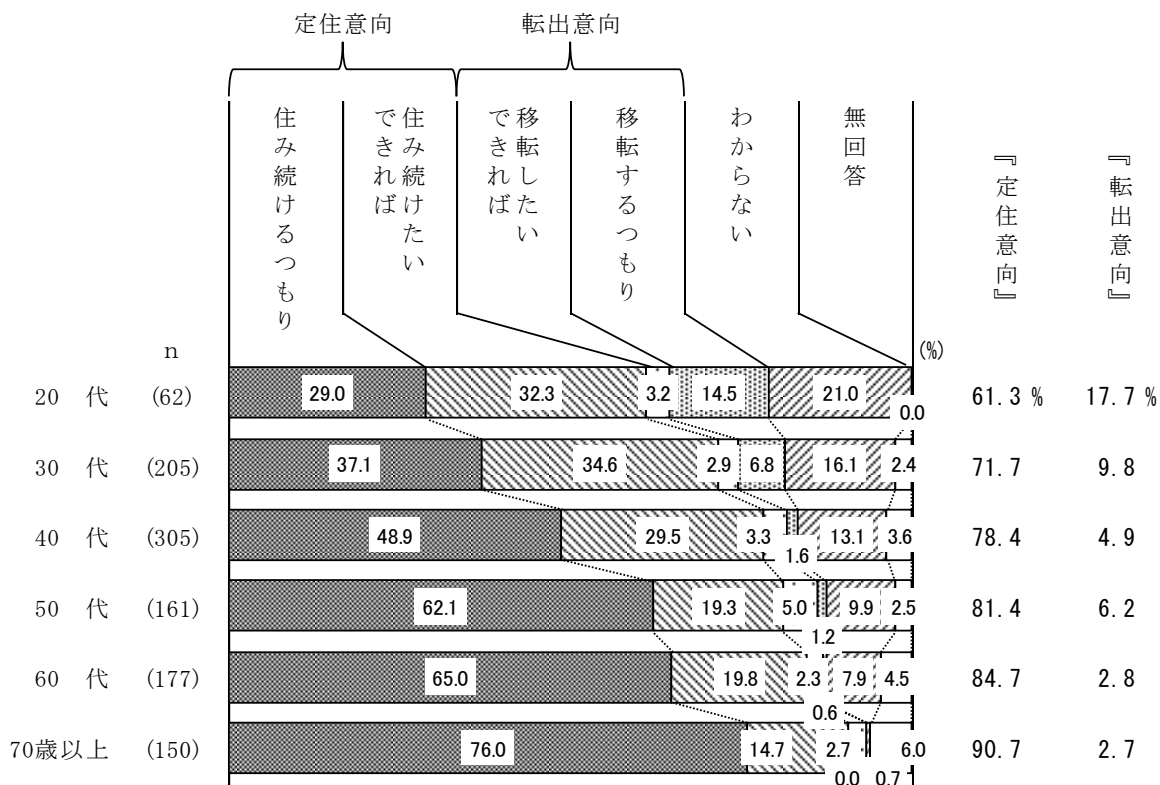
図1-2-3 定住・転出意向—他区との比較



年代別でみると、「住み続けるつもり」と「できれば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は高い年代になるにつれて多くなる傾向があり、20代（61.3%）では6割を超える程度であるが、70歳以上（90.7%）ではほぼ9割となっている。また、この傾向は「住み続けるつもり」ではさらに顕著であり、20代（29.0%）と70歳以上（76.0%）では47ポイントの差となっている。

(図1-2-4)

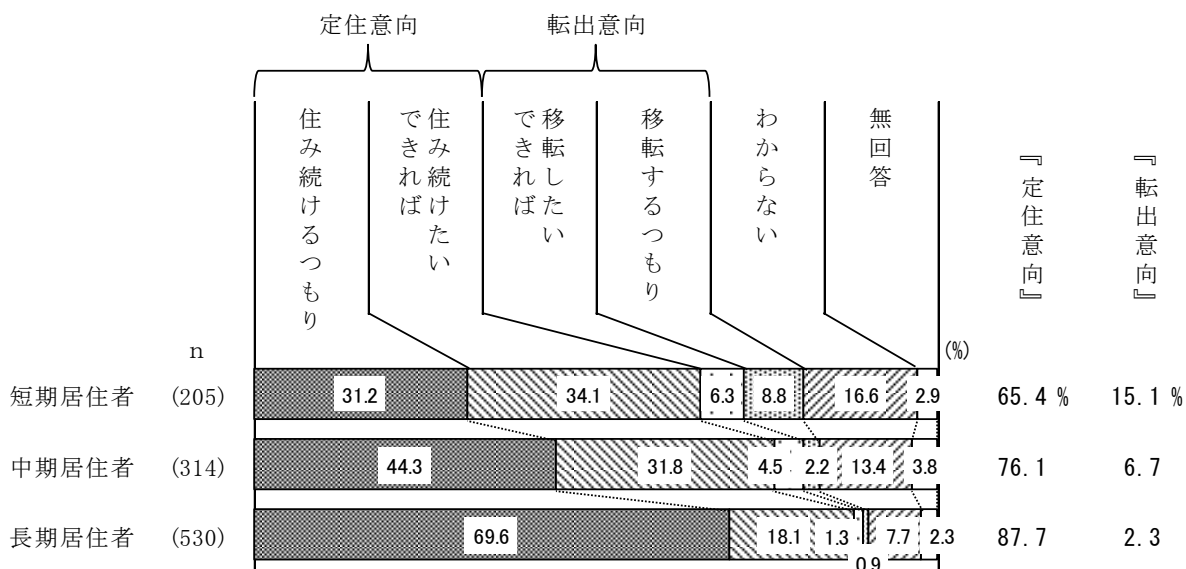
図1-2-4 定住・転出意向—年代別



居住年数別でみると、「住み続けるつもり」と「できれば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は居住年数が長くなるにつれて多くなる傾向があり、短期居住者（65.4%）では6割半ばであるが、長期居住者（87.7%）では9割近くとなっており、両者との差は約22ポイントとなっている。

(図1-2-5)

図1-2-5 定住・転出意向—居住年数別

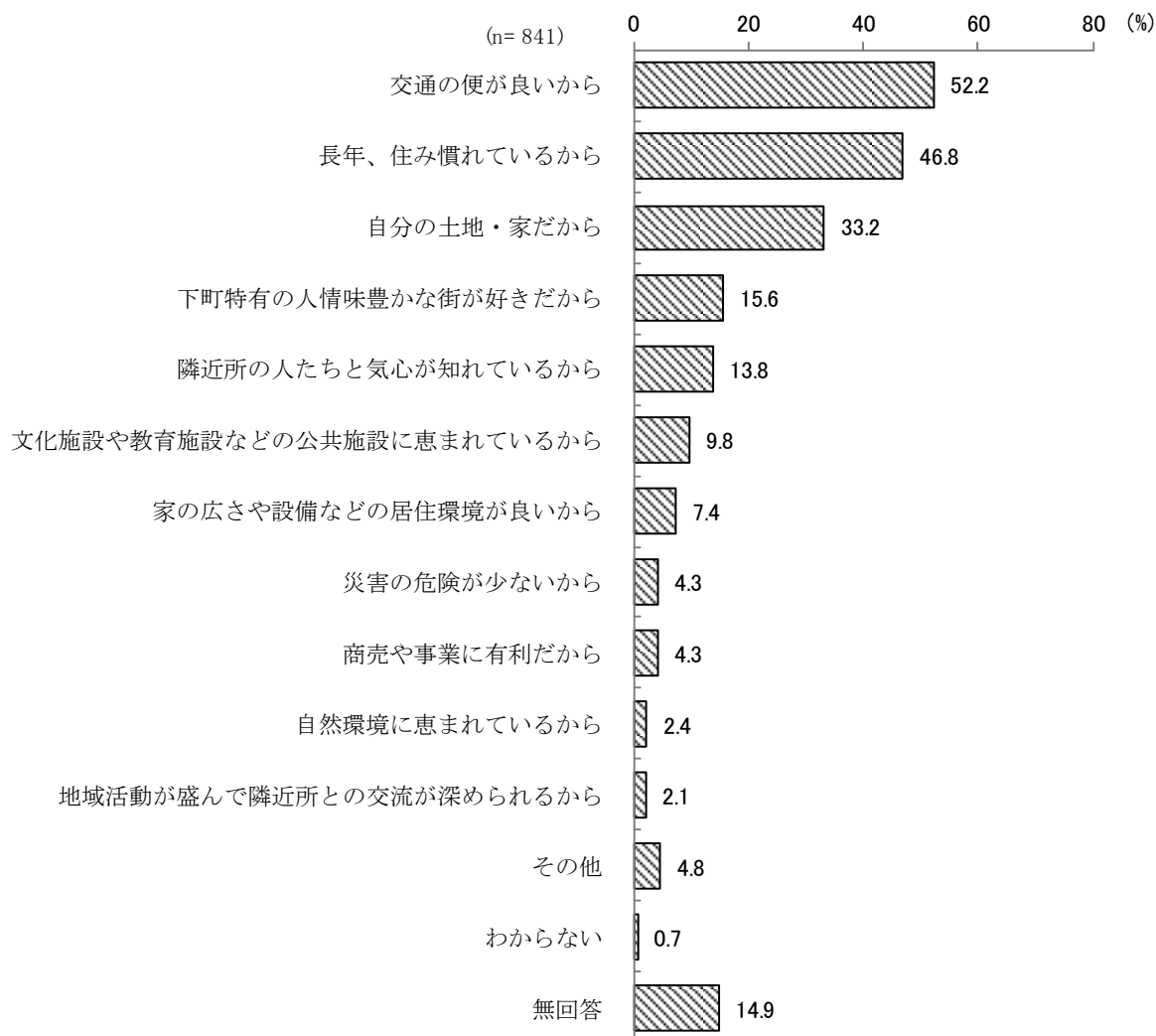


### 1-3 定住意向理由

「交通の便が良いから」が5割を超える

(問2で「1. 住み続けるつもり」または「2. できれば住み続けたい」とお答えの方に)  
問2-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図1-3-1



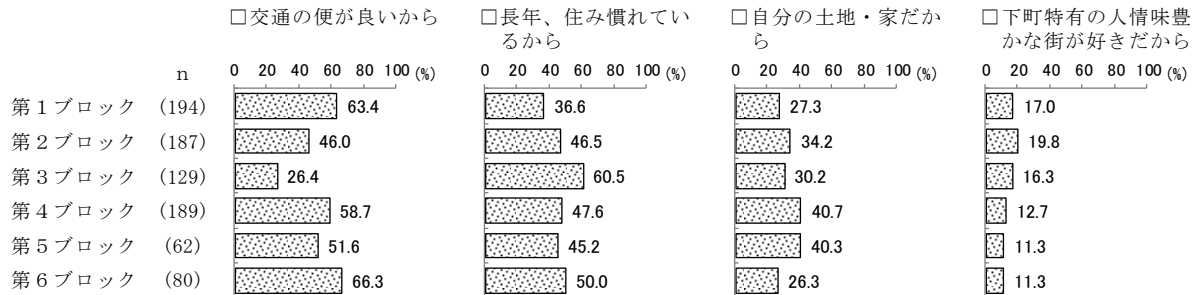
「住み続けるつもり」と「できれば住み続けたい」を合わせた『定住意向』のある人に、その理由を聞いたところ、「交通の便が良いから」(52.2%)が5割を超えて最も多く、次いで「長年、住み慣れているから」(46.8%)、「自分の土地・家だから」(33.2%)、「下町特有の人情味豊かな街が好きだから」(15.6%)、「隣近所の人たちと気心が知れているから」(13.8%)となっている。

(図1-3-1)



地区別でみると、「交通の便が良いから」は第6ブロック（66.3%）で6割半ば、第1ブロック（63.4%）で6割を超え、他の地区と比べて多くなっている。また、「長年、住み慣れているから」は第3ブロック（60.5%）でほぼ6割と、他の地区と比べて多くなっている。「自分の土地・家だから」は第4ブロック（40.7%）と第5ブロック（40.3%）が4割台と、他の地区と比べて多くなっている。（図1-3-2）

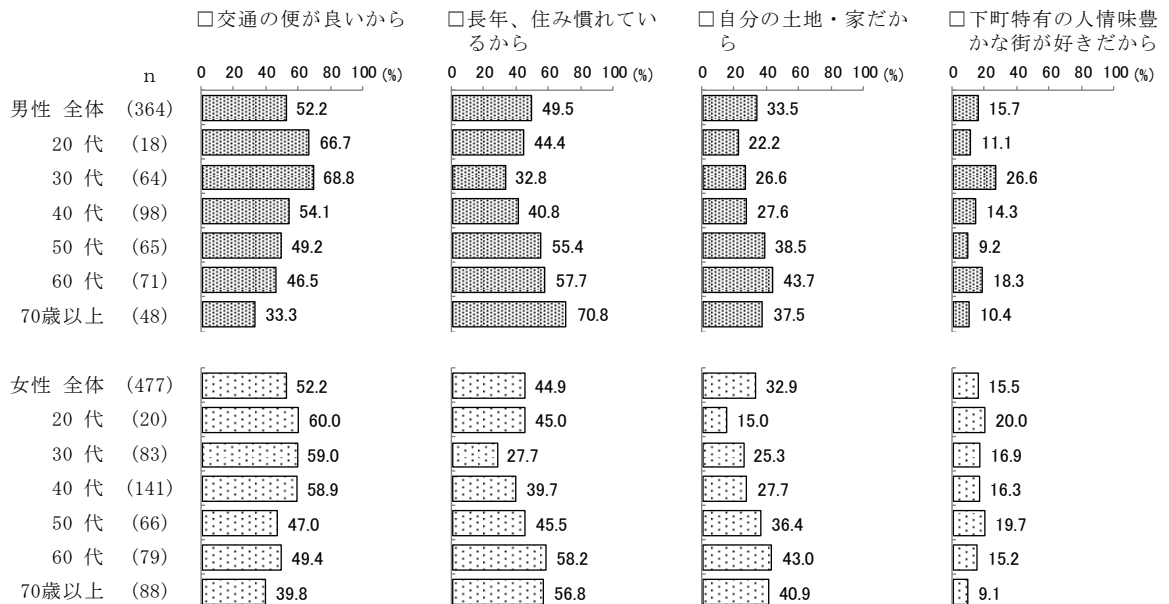
図1-3-2 定住意向理由—地区別（上位4位）



性別でみると、上位4位まででは特に男女差は見られない。

性・年代別でみると、「交通の便が良いから」は男性20代（66.7%）、男性30代（68.8%）、女性20代（60.0%）が6割台と、他の性・年代に比べて多くなっている。「長年、住み慣れているから」は男性70歳以上（70.8%）で7割を超え多くなっている。（図1-3-3）

図1-3-3 定住意向理由—性別、性・年代別（上位4位）



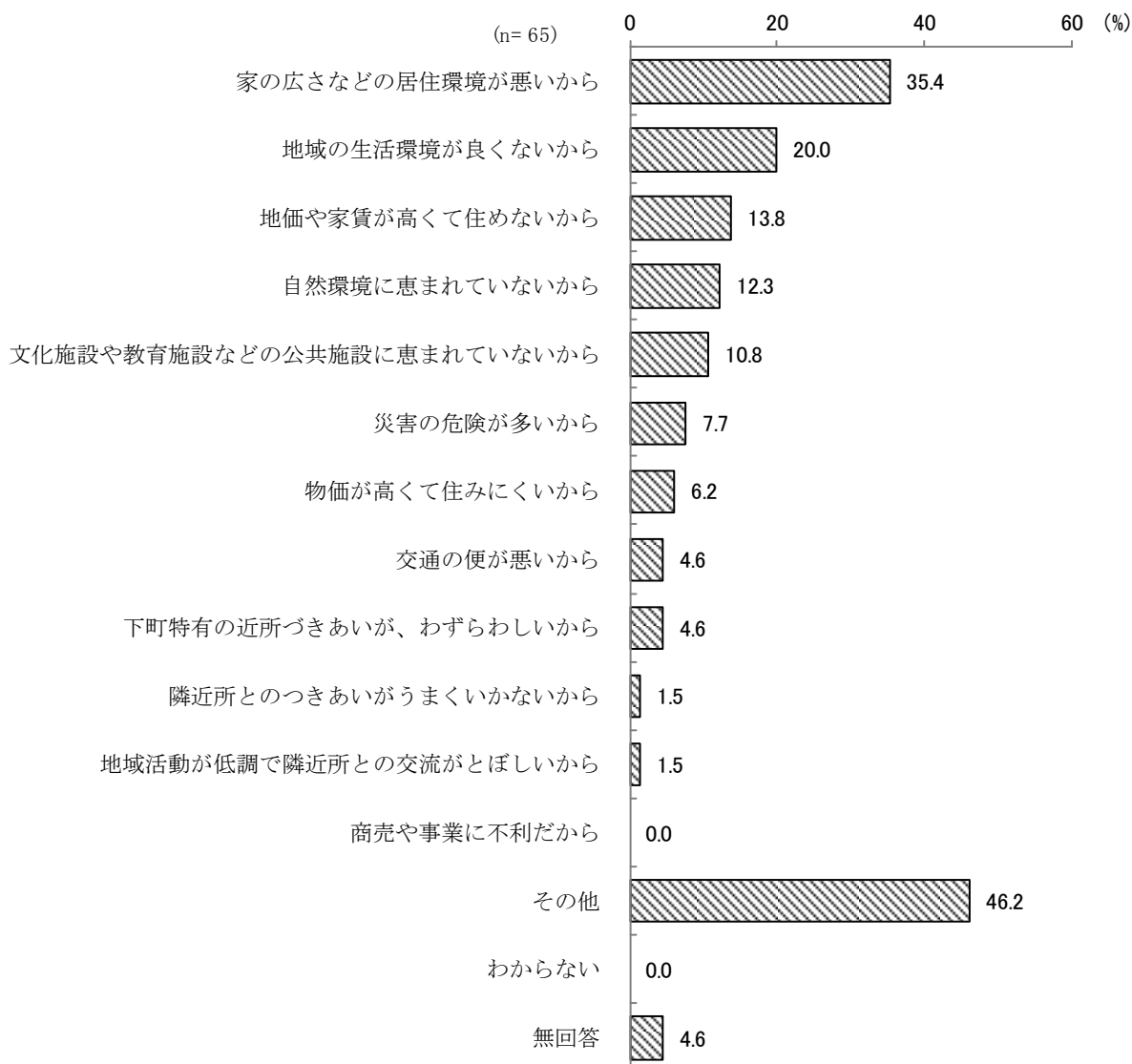
## 1-4 転出意向理由

「家の広さなどの居住環境が悪いから」が3割半ば

(問2で、「3. できれば移転したい」または「4. 移転するつもり」とお答えの方に)

問2-2 移転したい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図1-4-1



「できれば移転したい」と「移転するつもり」を合わせた『転出意向』のある人に、その理由を聞いたところ、「家の広さなどの居住環境が悪いから」(35.4%)が3割半ばで最も多く、次いで「地域の生活環境が良くないから」(20.0%)、「地価や家賃が高くて住めないから」(13.8%)、「自然環境に恵まれていないから」(12.3%)、「文化施設や教育施設などの公共施設に恵まれていないから」(10.8%)となっている。(図1-4-1)

## 1-5 住み続ける上での改善点

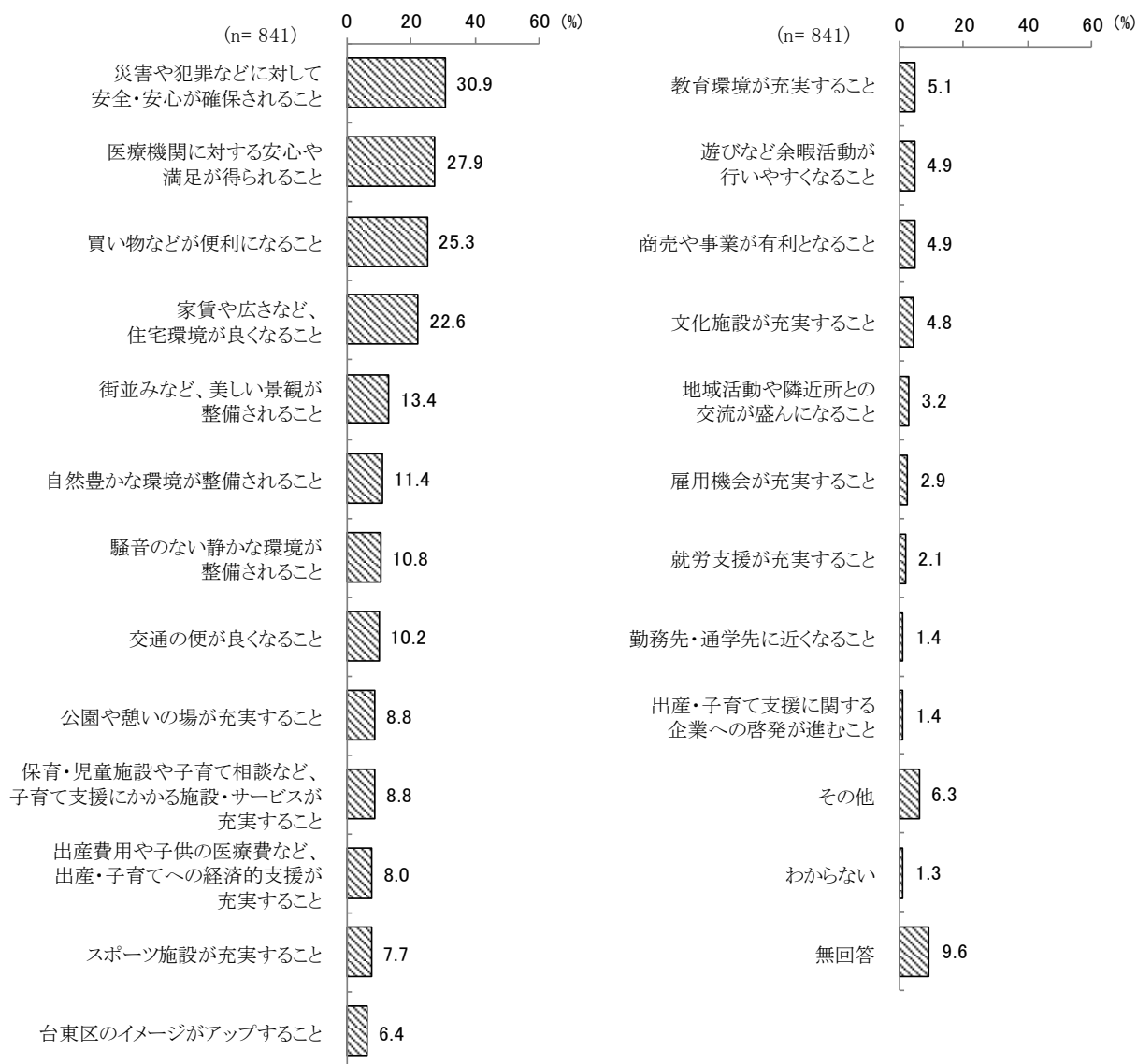
「災害や犯罪などに対して安全・安心が確保されること」がほぼ3割

(問2で「1. 住み続けるつもり」または「2. できれば住み続けたい」とお答えの方に)

問2-3 区内に住み続ける上で、「こうなれば、より良い」と考えることは何ですか。

(○は3つまで)

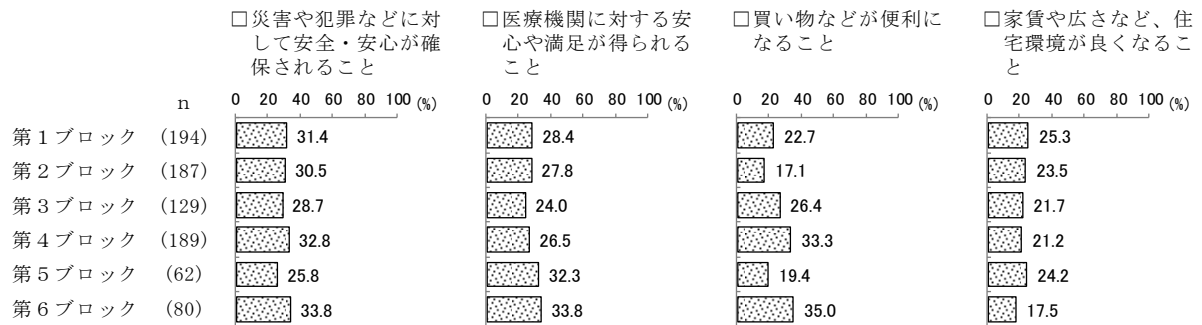
図1-5-1



「住み続けるつもり」と「できれば住み続けたい」を合わせた『定住意向』のある人に、住み続ける上での改善点を聞いたところ、「災害や犯罪などに対して安全・安心が確保されること」(30.9%)がほぼ3割と最も多く、次いで「医療機関に対する安心や満足が得られること」(27.9%)、「買い物などが便利になること」(25.3%)、「家賃や広さなど、住宅環境が良くなること」(22.6%)となっている。(図1-5-1)

地区別でみると、「災害や犯罪などに対して安全・安心が確保されること」は第6ブロック (33.8%) が3割を超えて最も多く、第1ブロック (31.4%)、第2ブロック (30.5%)、第4ブロック (32.8%) でも3割台となっている。「医療機関に対する安心や満足が得られること」は第5ブロック (32.3%) と第6ブロック (33.8%) で3割を超え、他の地区と比べて多くなっている。「買い物などが便利になること」は第6ブロック (35.0%) で3割半ば、第4ブロック (33.3%) で3割を超え、他の地区と比べて多くなっている。(図1-5-2)

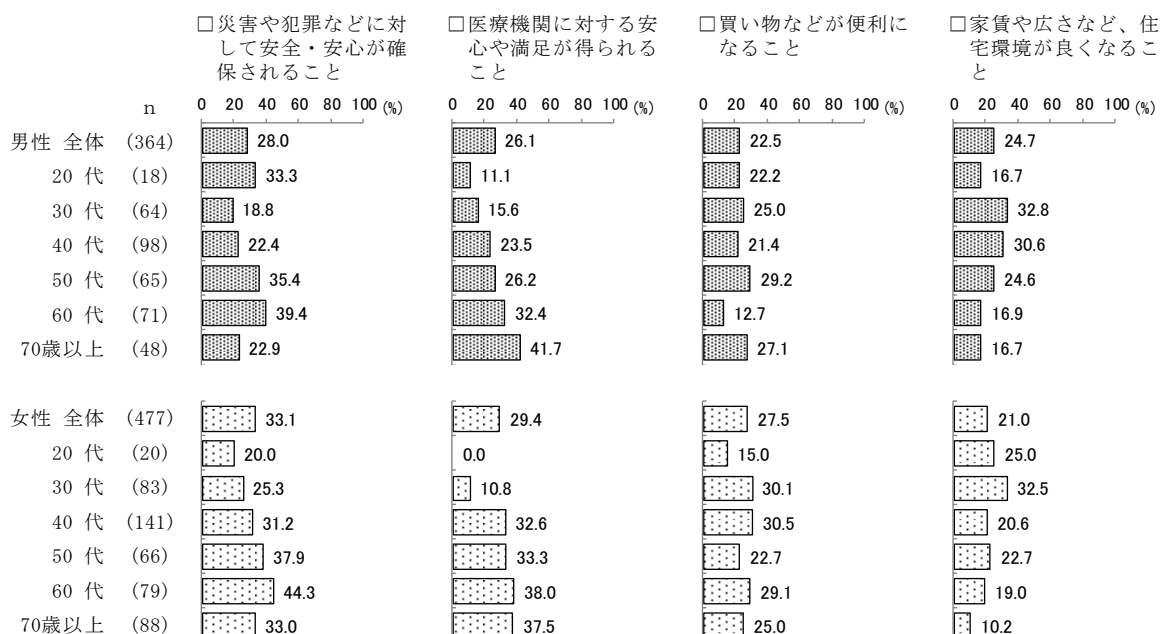
図1-5-2 住み続ける上での改善点—地区別 (上位4位)



性別でみると、「災害や犯罪などに対して安全・安心が確保されること」は女性 (33.1%) が男性 (28.0%) より 5.1 ポイント高くなっている。「買い物などが便利になること」は女性 (27.5%) が男性 (22.5%) より 5.0 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「災害や犯罪などに対して安全・安心が確保されること」は女性 60代 (44.3%) で4割半ばと多くなっている。「医療機関に対する安心や満足が得られること」は性別を問わず年代が高くなるにつれて多くなっており、男性 70歳以上 (41.7%) では4割を超えている。「買い物などが便利になること」は女性 30代 (30.1%) と女性 40代 (30.5%) で3割台となっている。「家賃や広さなど、住宅環境が良くなること」は男性 30代 (32.8%)、男性 40代 (30.6%)、女性 30代 (32.5%) が3割台と、他の性・年代に比べて多くなっている。(図1-5-3)

図1-5-3 住み続ける上での改善点—性別、性・年代別 (上位4位)



## 2. 観光振興

「平成 28 年度台東区観光統計・マーケティング調査」では、本区の観光客数は、5,000 万人を超えました。今後は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、観光客がさらに増加することが予想されています。

本調査では、8 割近くの方が観光客の増加に対して好意的に受け止めており、観光客が訪れることでのプラス要因への回答割合も平成 27 年度調査より高くなっています。一方で、マイナス要因への回答割合も平成 27 年度調査より高くなっていることが分かりました。自由意見からは外国からの観光客向けマナー啓発やコミュニケーションパンフレットなど実施している観光振興施策の認知度が低いことが分かりました。

本調査結果を参考に、観光客だけでなく、区民生活の向上につながる観光施策を展開してまいります。

(文化産業観光部 観光課)

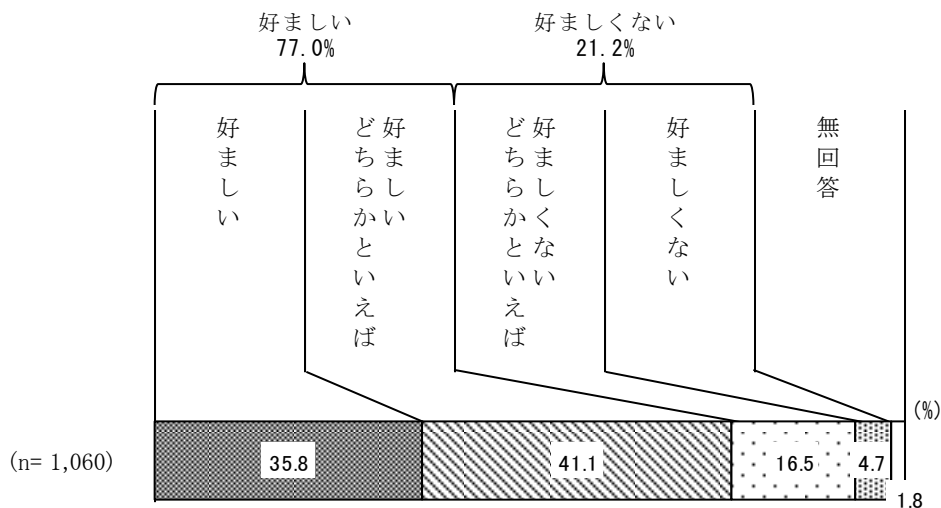
## 2-1 観光客の増加についての考え

『好ましい』が8割近く

問3 台東区に今より多くの観光客が訪れることについて、どのように思いますか。

(○は1つだけ)

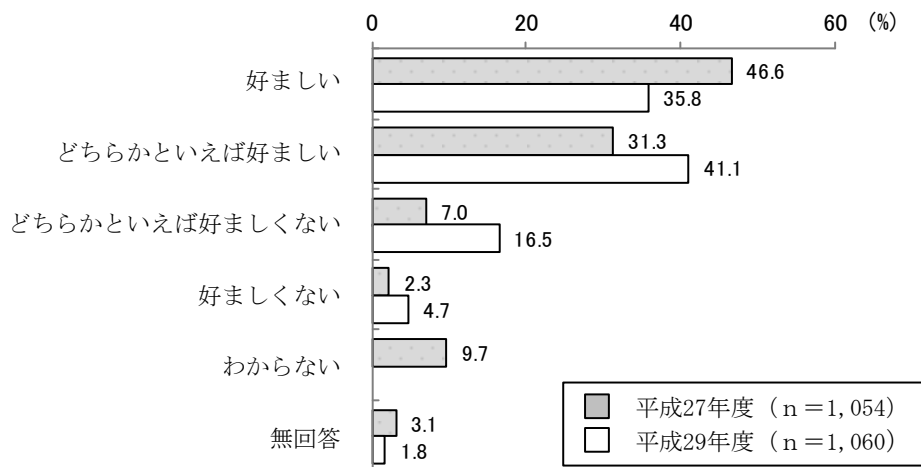
図2-1-1



観光客の増加についての考えは、「どちらかといえば好ましい」(41.1%)が4割を超えて最も多く、「好ましい」(35.8%)を合わせた『好ましい』(77.0%)は8割近くとなっている。一方、「どちらかといえば好ましくない」(16.5%)と「好ましくない」(4.7%)を合わせた『好ましくない』(21.2%)は2割を超えている。(図2-1-1)

推移をみると、過年度調査とは選択肢が異なるため単純に比較することができないが、「好ましい」が平成27年度から10.8ポイント低くなっている。(図2-1-2)

図2-1-2 観光客の増加についての考え－推移

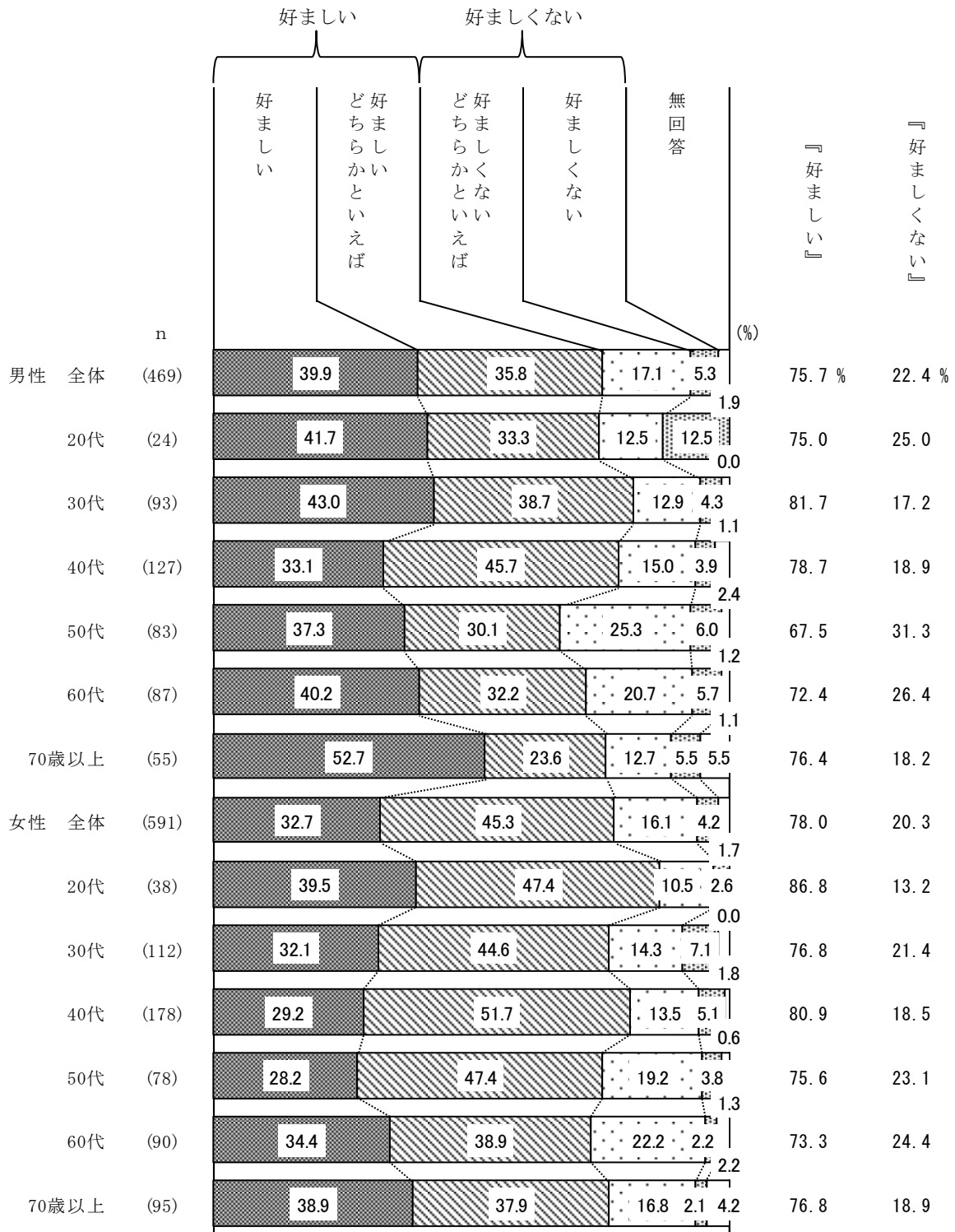


※「わからない」は平成29年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「好ましい」は男性（39.9%）が女性（32.7%）より7.2ポイント高くなっている。一方、「どちらかといえば好ましい」を合わせた『好ましい』は女性（78.0%）が男性（75.7%）より2.3ポイント高くなっている。

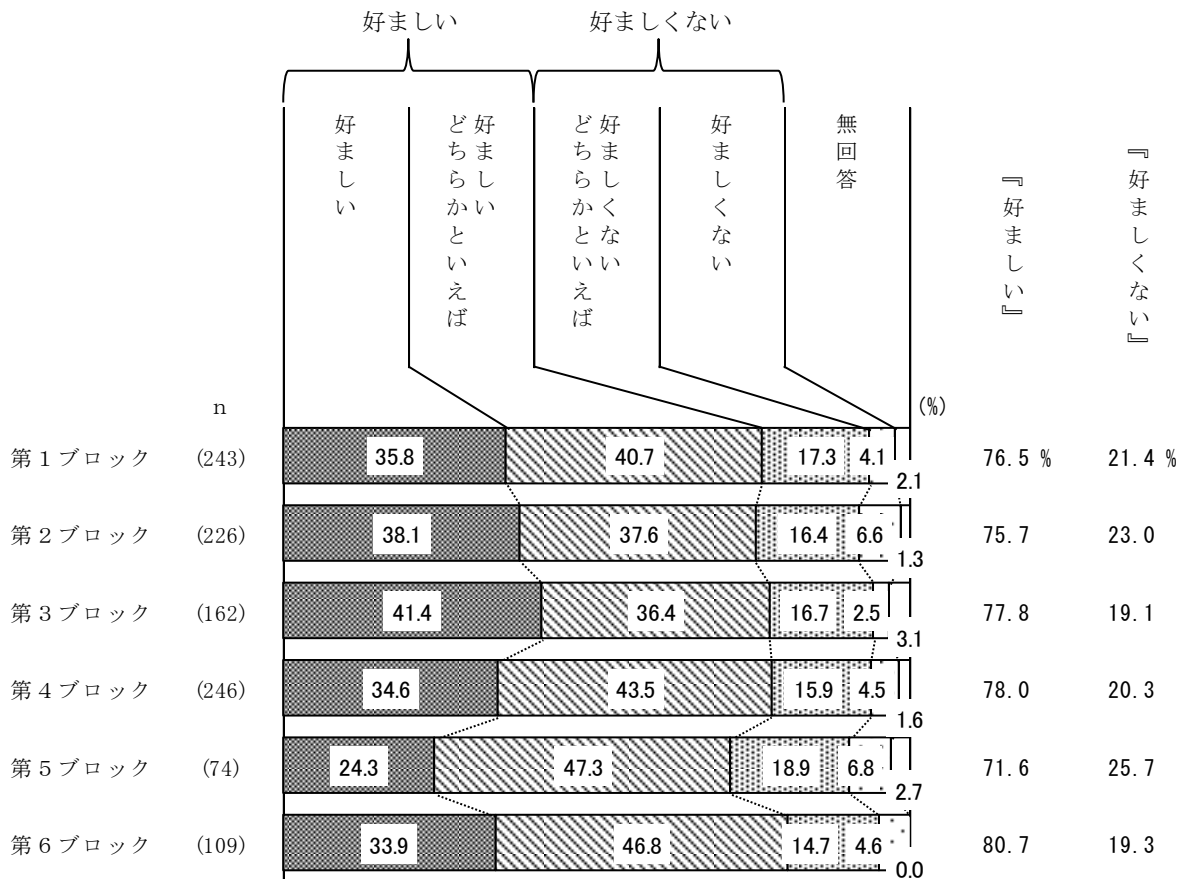
性・年代別で見ると、「好ましい」は男性70歳以上（52.7%）が5割を超え、他の性・年代に比べて多くなっている。「どちらかといえば好ましい」を合わせた『好ましい』は男性30代（81.7%）、女性20代（86.8%）、女性40代（80.9%）で8割台と多くなっている。一方、「どちらかといえば好ましくない」と「好ましくない」を合わせた『好ましくない』は男性50代（31.3%）で3割を超えている。（図2-1-3）

図2-1-3 観光客の増加についての考え—性別、性・年代別



地区別にみると、「好ましい」は第3ブロック（41.4%）で4割を超え最も多くなっている。また、「どちらかといえば好ましい」を合わせた『好ましい』は第6ブロック（80.7%）でほぼ8割と最も多くなっている。「どちらかといえば好ましくない」と「好ましくない」を合わせた『好ましくない』は第5ブロック（25.7%）で最も多い。（図2-1-4）

図2-1-4 観光客の増加についての考え—地区別





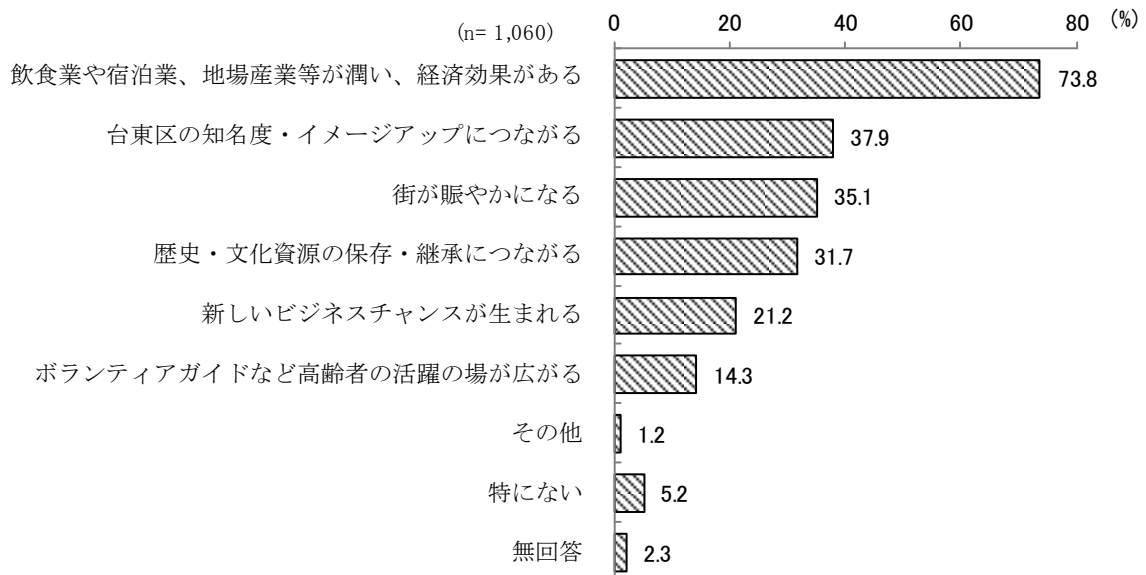
## 2-2 観光客が訪れることで期待するプラスの要因

「飲食業や宿泊業、地場産業等が潤い、経済効果がある」が7割を超える

問4 観光客が訪れることによるプラスの要因は、どのようなことが考えられますか。

(○はいくつでも)

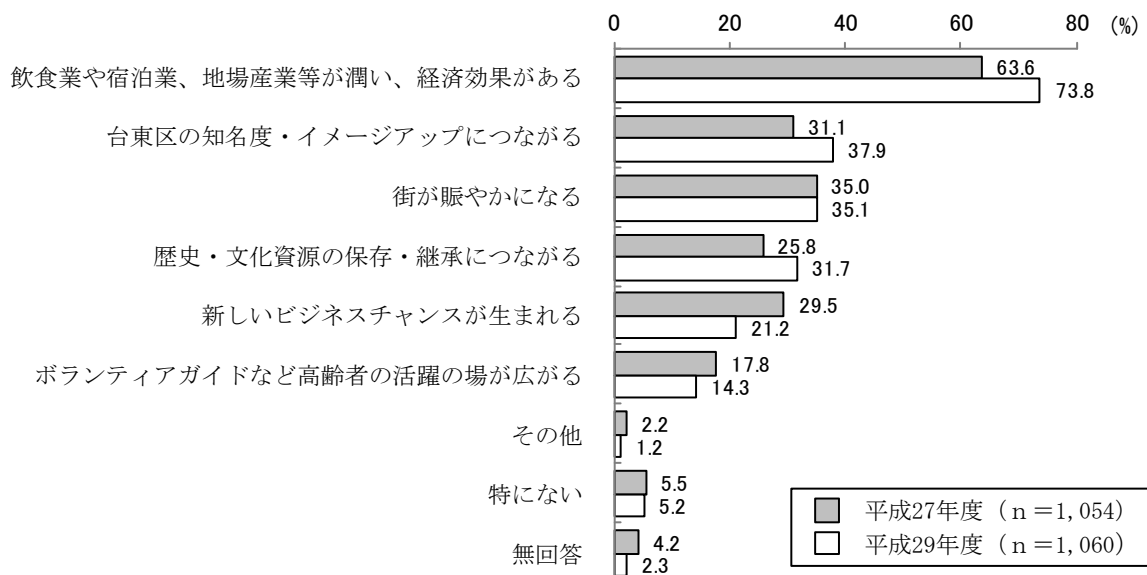
図2-2-1



観光客が訪れることで期待するプラスの要因は、「飲食業や宿泊業、地場産業等が潤い、経済効果がある」(73.8%)が7割を超えて最も多く、次いで「台東区の知名度・イメージアップにつながる」(37.9%)、「街が賑やかになる」(35.1%)、「歴史・文化資源の保存・継承につながる」(31.7%)、「新しいビジネスチャンスが生まれる」(21.2%)となっている。(図2-2-1)。

推移をみると、「飲食業や宿泊業、地場産業等が潤い、経済効果がある」が平成27年度から10.2ポイント高く、「新しいビジネスチャンスが生まれる」が平成27年度から8.3ポイント低くなっている。(図2-2-2)

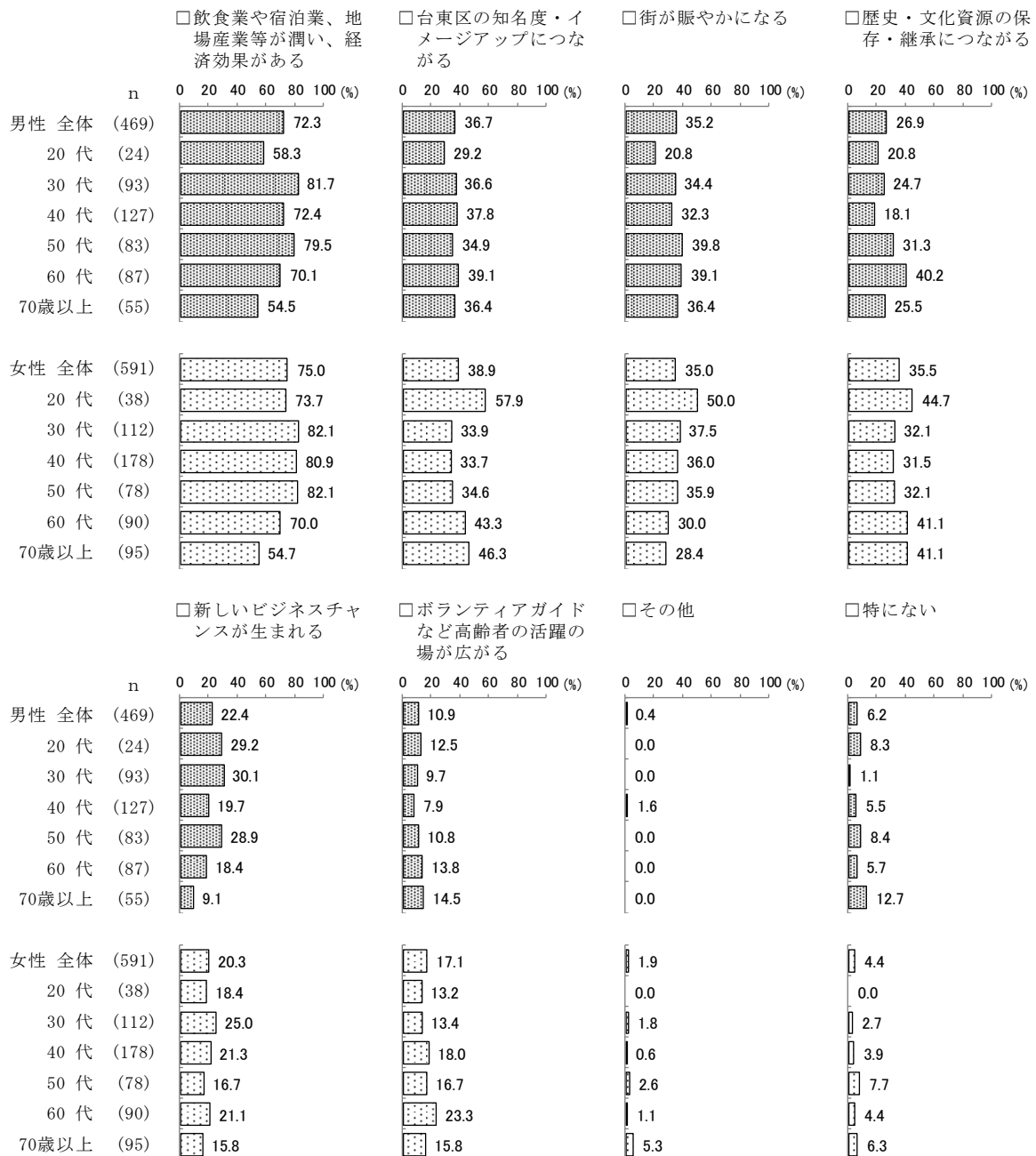
図2-2-2 観光客が訪れることで期待するプラスの要因－推移



性別で見ると、「歴史・文化資源の保存・継承につながる」は女性（35.5%）が男性（26.9%）より8.6ポイント、「ボランティアガイドなど高齢者の活躍の場が広がる」は女性（17.1%）が男性（10.9%）より6.2ポイント、それぞれ高くなっている。

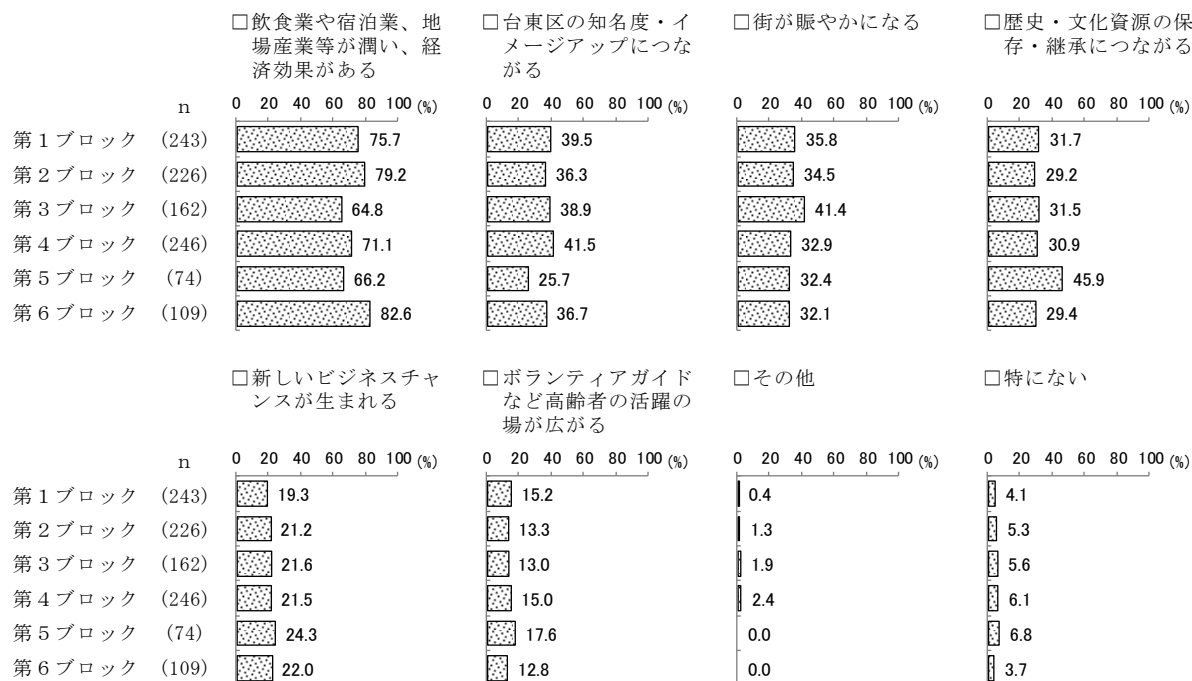
性・年代別で見ると、「飲食業や宿泊業、地場産業等が潤い、経済効果がある」は男性30代（81.7%）、女性30代（82.1%）、女性40代（80.9%）、女性50代（82.1%）で8割台となっている。「台東区の知名度・イメージアップにつながる」は女性20代（57.9%）が6割近く、「街が賑やかになる」も女性20代（50.0%）が5割と、他の性・年代に比べて多くなっている。「歴史・文化資源の保存・継承につながる」は男性60代（40.2%）、女性20代（44.7%）、女性60代（41.1%）、女性70歳以上（41.1%）でそれぞれ4割台と多くなっている。（図2-2-3）

図2-2-3 観光客が訪れることで期待するプラスの要因—性別、性・年代別



地区別にみると、「飲食業や宿泊業、地場産業等が潤い、経済効果がある」は第6ブロック(82.6%)で8割を超え、第2ブロック(79.2%)もほぼ8割となっている。「台東区の知名度・イメージアップにつながる」は第4ブロック(41.5%)で、「街が賑やかになる」は第3ブロック(41.4%)、で4割を超えている。「歴史・文化資源の保存・継承につながる」は第5ブロック(45.9%)で4割半ばと多くなっている。(図2-2-4)

図2-2-4 観光客が訪れることで期待するプラスの要因—地区別



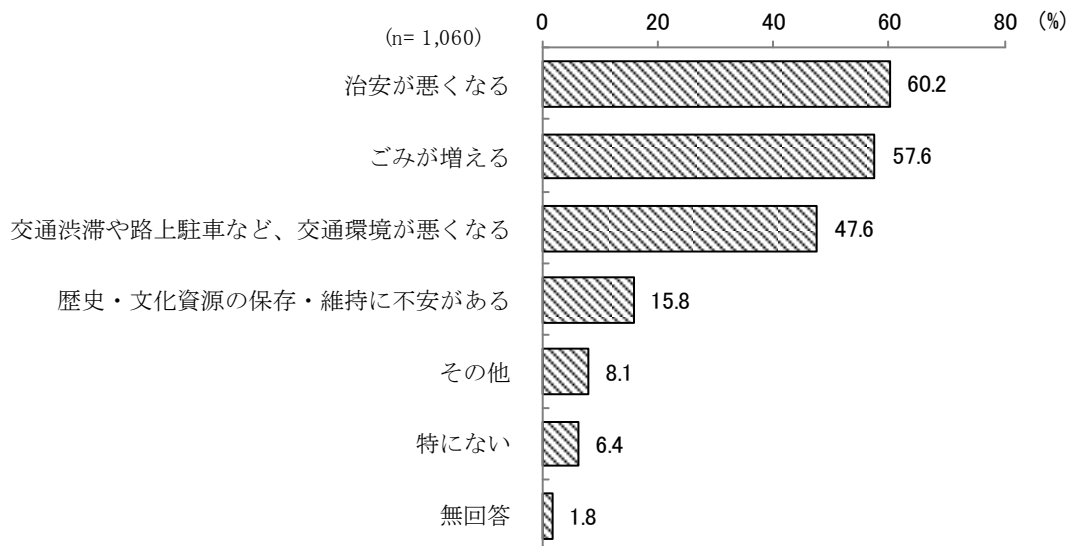
## 2-3 観光客が訪れることで心配するマイナスの要因

「治安が悪くなる」が6割

問5 観光客が訪れることによるマイナスの要因は、どのようなことが考えられますか。

(○はいくつでも)

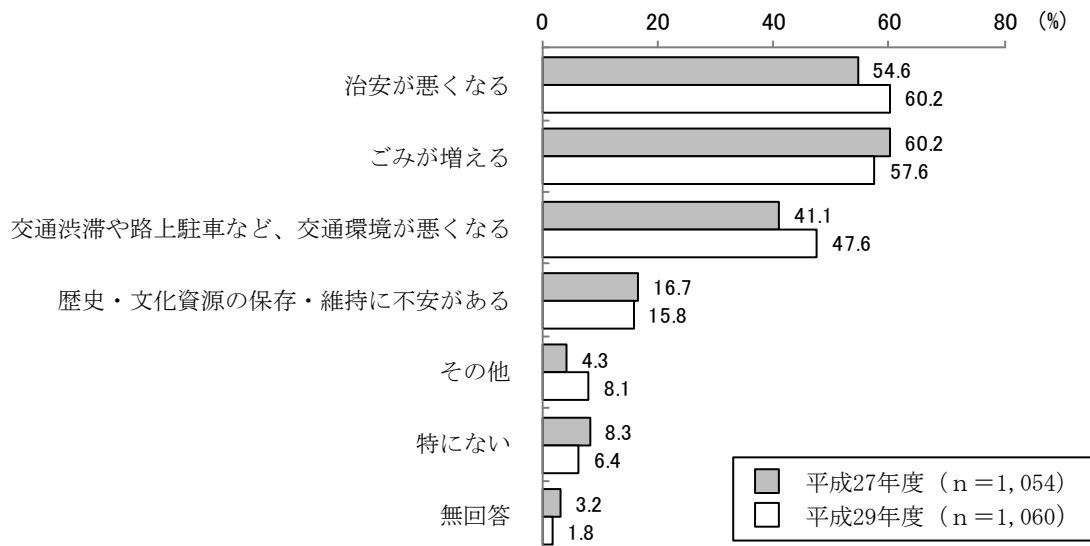
図2-3-1



観光客が訪れることで心配するマイナスの要因は、「治安が悪くなる」(60.2%)が6割と最も多く、次いで「ゴミが増える」(57.6%)、「交通渋滞や路上駐車など、交通環境が悪くなる」(47.6%)、「歴史・文化資源の保存・維持に不安がある」(15.8%)となっている。(図2-3-1)

推移をみると、過年度調査とは選択肢が異なるため単純に比較することができないが、平成27年度から「交通渋滞や路上駐車など、交通環境が悪くなる」が6.5ポイント、「治安が悪くなる」が5.6ポイント、それぞれ高くなっている。(図2-3-2)

図2-3-2 観光客が訪れることで心配するマイナスの要因—推移

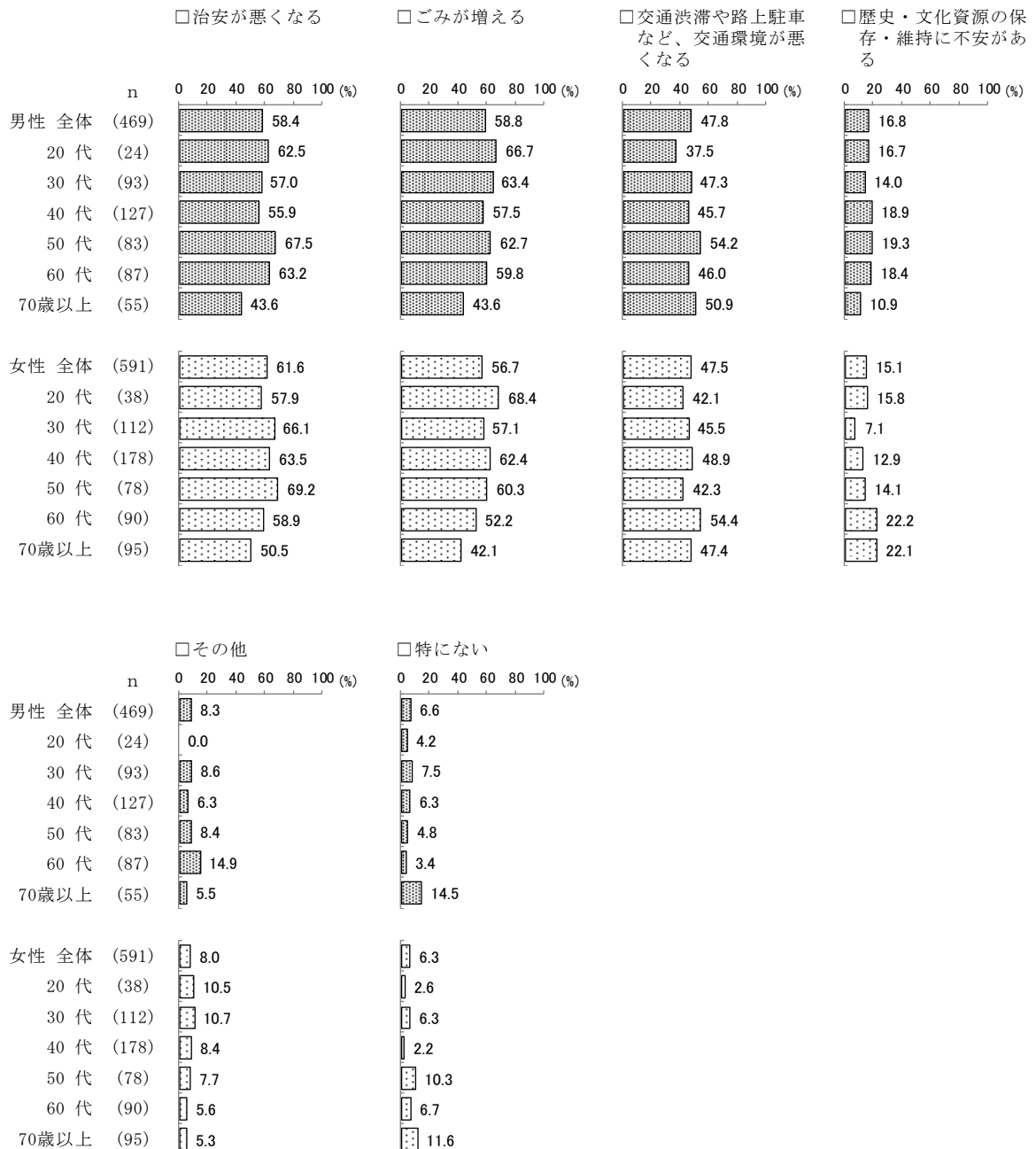


※「ゴミが増える」は平成27年度調査では「騒音」も含まれる。

性別で見ると、「治安が悪くなる」は女性（61.6%）が男性（58.4%）より3.2ポイント高くなっており、「ゴミが増える」は男性（58.8%）が女性（56.7%）より2.1ポイント高くなっている。

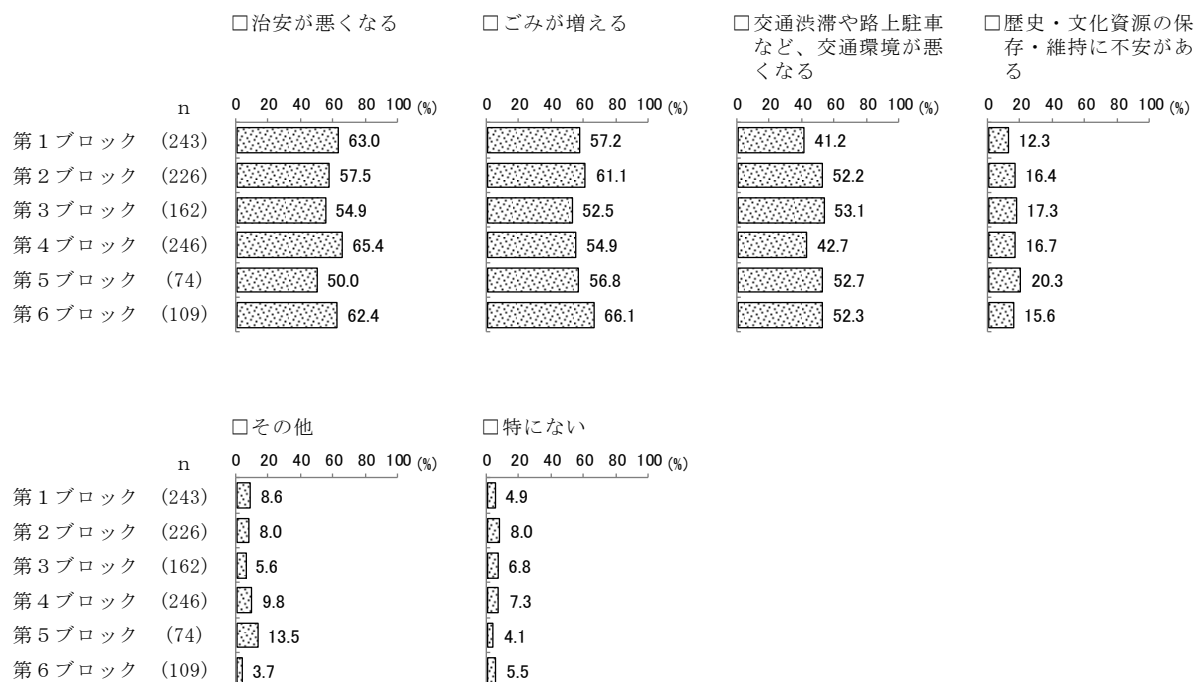
性・年代別で見ると、「治安が悪くなる」は男性50代（67.5%）と女性50代（69.2%）が多くなっている。「ゴミが増える」は男性20代（66.7%）と女性20代（68.4%）が多くなっている。「交通渋滞や路上駐車など、交通環境が悪くなる」は男性の50代（54.2%）、男性の70歳以上（50.9%）、女性の60代（54.4%）で5割台となっている。（図2-3-3）

図2-3-3 観光客が訪れることで心配するマイナスの要因—性別、性・年代別



地区別にみると、「治安が悪くなる」は第1ブロック（63.0%）、第4ブロック（65.4%）、第6ブロック（62.4%）で6割台となっている。「ごみが増える」は第2ブロック（61.1%）と第6ブロック（66.1%）が6割台、「交通渋滞や路上駐車など、交通環境が悪くなる」は第2ブロック（52.2%）、第3ブロック（53.1%）、第5ブロック（52.7%）、第6ブロック（52.3%）で5割を超えている。（図2-3-4）

図2-3-4 観光客が訪れることで心配するマイナスの要因—地区別

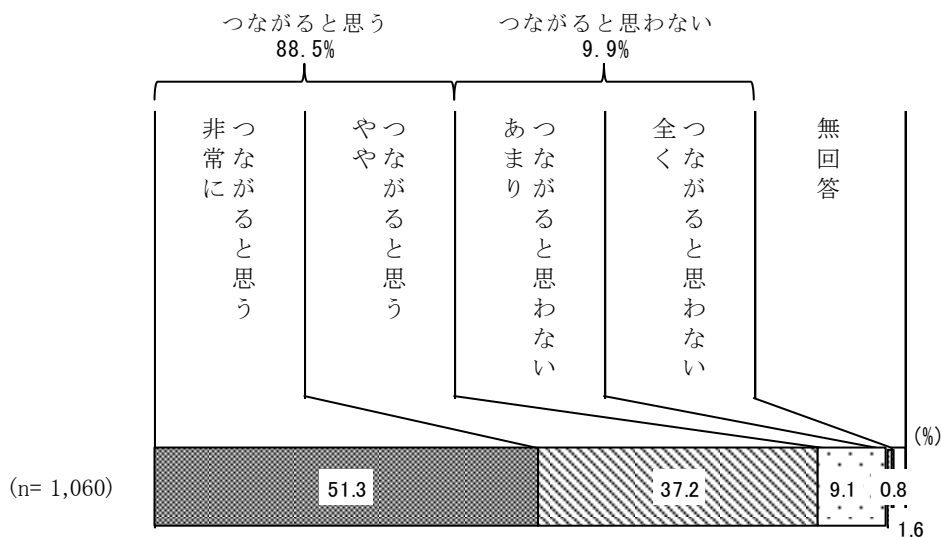


## 2-4 観光基盤の整備と区民生活のつながり

『つながると思う』が9割近く

問6 施設・道路等のバリアフリー化の推進や、利便性の高い交通網などの観光基盤を整備することが、区民生活の向上につながると思われますか。(○は1つだけ)

図2-4-1

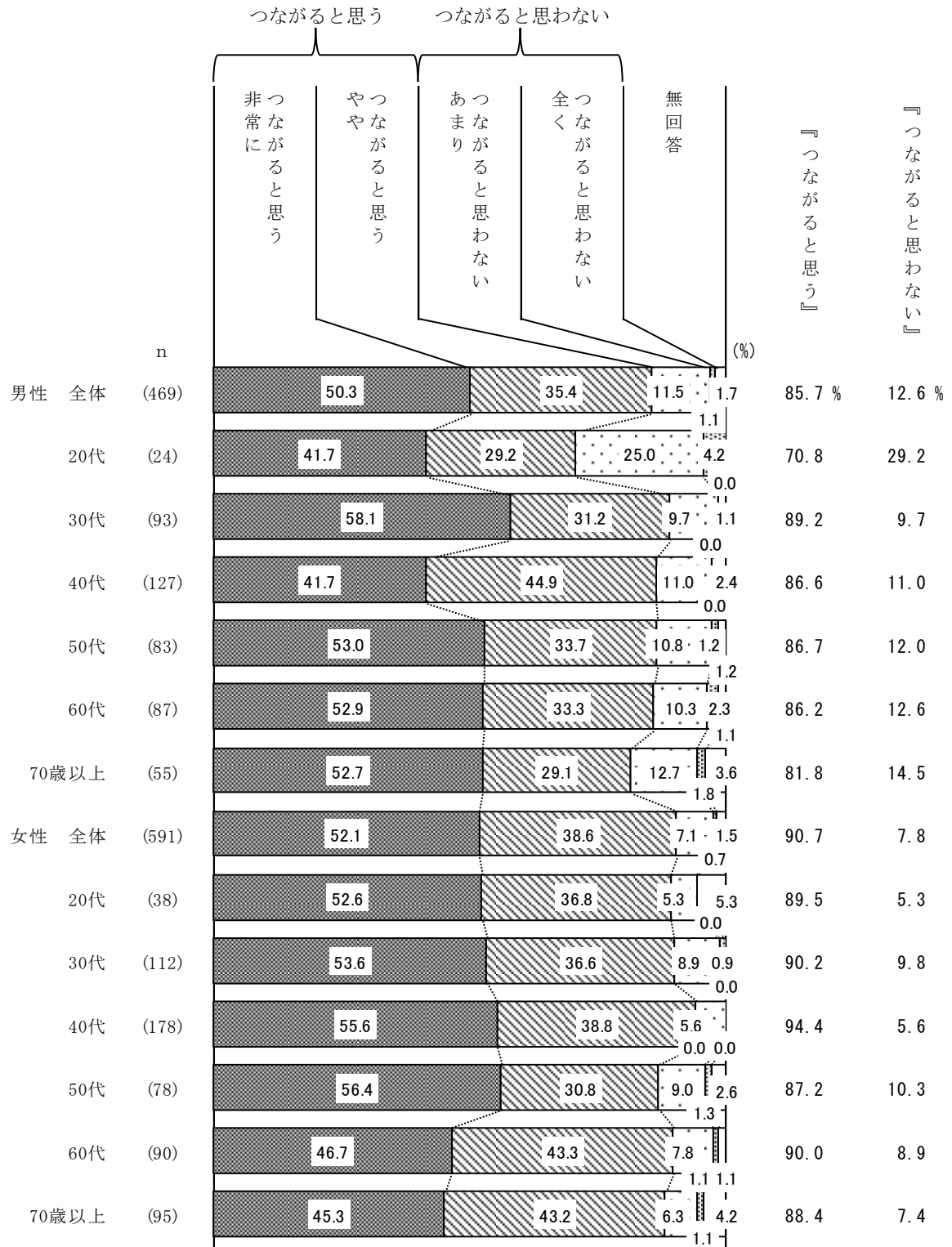


観光基盤の整備と区民生活のつながりは、「非常につながると思う」(51.3%)が5割を超えて最も多く、「ややつながると思う」(37.2%)を合わせた『つながると思う』(88.5%)は9割近くとなっている。一方、「あまりつながると思わない」(9.1%)と「全くつながると思わない」(0.8%)を合わせた『つながると思わない』(9.9%)は1割となっている。(図2-4-1)

性別で見ると、「非常につながると思う」と「ややつながると思う」を合わせた『つながると思う』は女性(90.7%)が男性(85.7%)より5.0ポイント高くなっている。一方で「あまりつながると思わない」と「全くつながると思わない」を合わせた『つながると思わない』は、男性(12.6%)が女性(7.8%)より4.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「非常につながると思う」は男性30代(58.1%)で6割近くと最も多くなっている。「ややつながると思う」を合わせた『つながると思う』は、女性30代(90.2%)、女性40代(94.4%)、女性60代(90.0%)で9割台となっている。一方、「あまりつながると思わない」と「全くつながると思わない」を合わせた『つながると思わない』は男性20代(29.2%)でほぼ3割となっている。(図2-4-2)

図2-4-2 観光基盤の整備と区民生活のつながり—性別、性・年代別

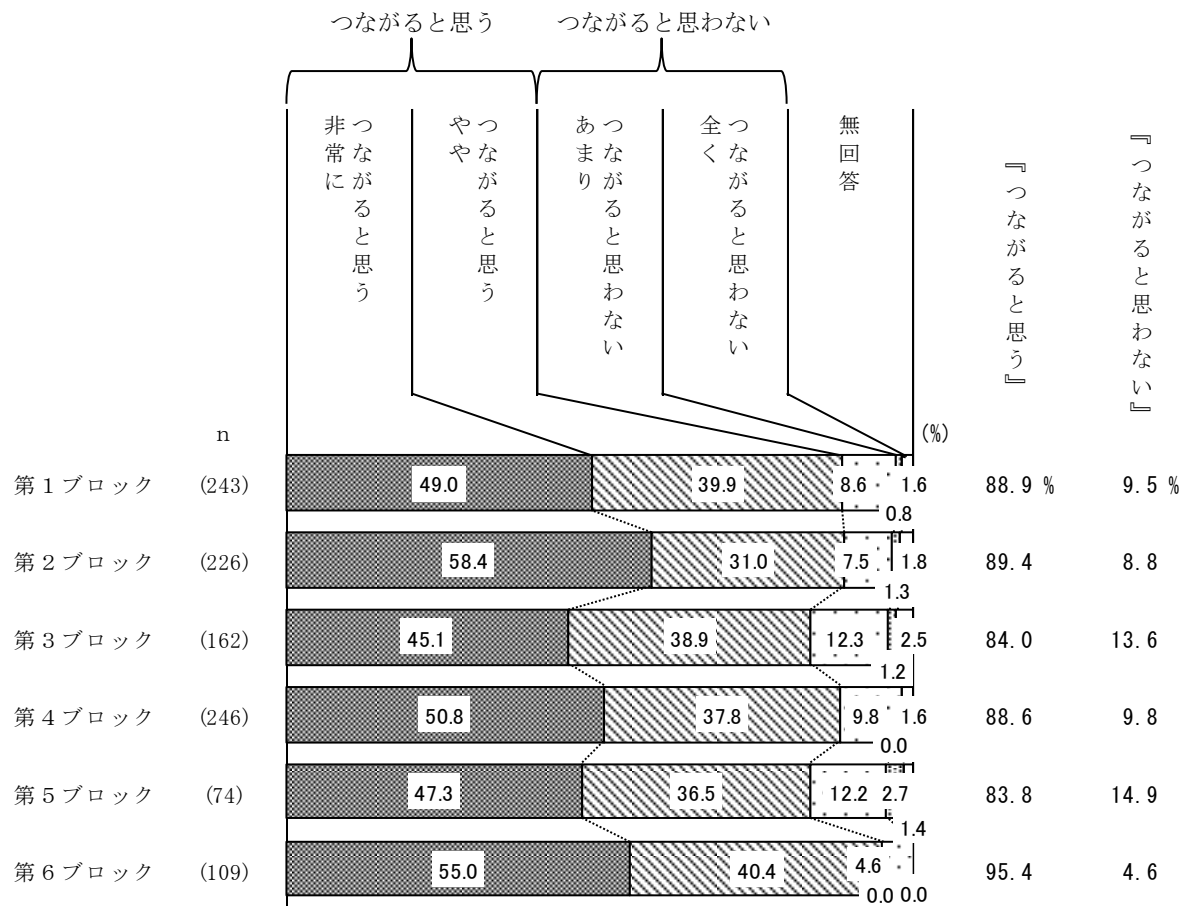




地区別にみると、「非常につながると思う」は第2ブロック（58.4%）で6割近くと最も多くなっており、「ややつながると思う」を合わせた『つながると思う』は、第6ブロック（95.4%）で9割半ばとなっている。一方、「あまりつながると思わない」と「全くつながると思わない」を合わせた『つながると思わない』は第5ブロック（14.9%）で1割半ばとなっている。

(図2-4-3)

図2-4-3 観光基盤の整備と区民生活のつながり—地区別

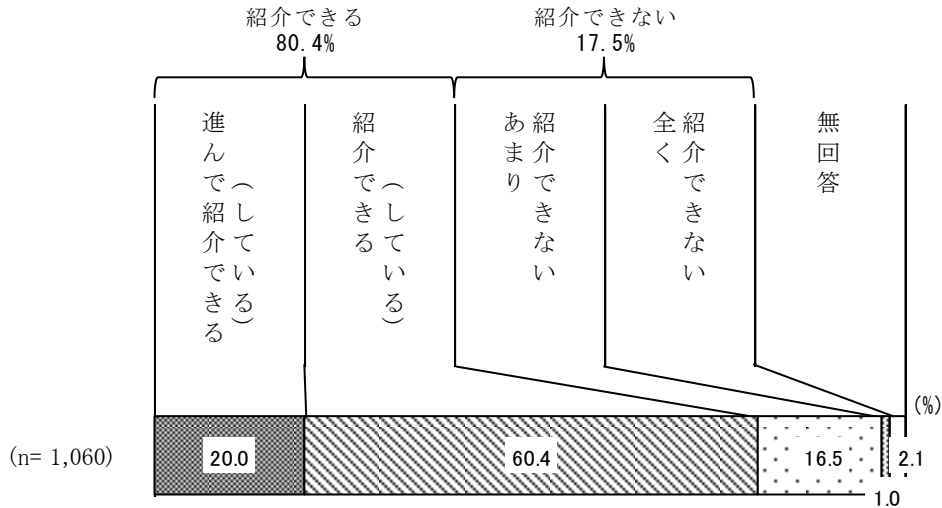


## 2-5 台東区を魅力ある観光地として紹介できるか

『紹介できる』が8割

問7 あなたは、台東区を魅力ある観光地としてほかの人に紹介できますか。(○は1つだけ)

図2-5-1



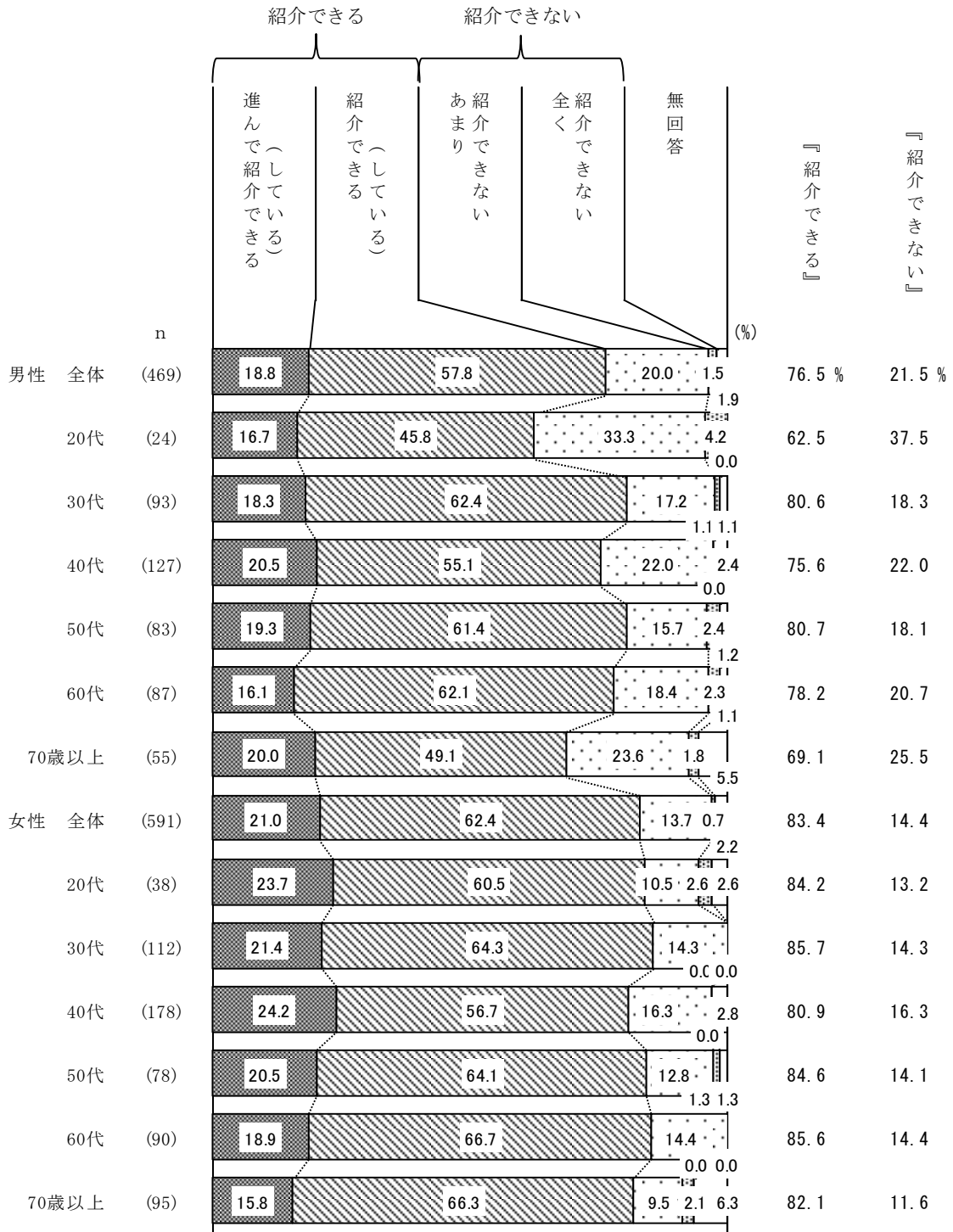
台東区を魅力ある観光地として紹介できるかは、「紹介できる（している）」（60.4%）が6割と最も多く、「進んで紹介できる（している）」（20.0%）を合わせた『紹介できる』（80.4%）は8割となっている。一方、「あまり紹介できない」（16.5%）と「全く紹介できない」（1.0%）を合わせた『紹介できない』（17.5%）は2割近くとなっている。（図2-5-1）

性別で見ると、「進んで紹介できる（している）」は女性（21.0%）が男性（18.8%）より2.2ポイント高くなっている。また「紹介できる（している）」を合わせた『紹介できる』も女性（83.4%）が男性（76.5%）より6.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「進んで紹介できる（している）」は女性40代（24.2%）で2割半ばと最も多くなっている。「紹介できる（している）」を合わせた『紹介できる』は女性のすべての年代で8割台となっている。一方、「あまり紹介できない」と「全く紹介できない」を合わせた『紹介できない』は男性20代（37.5%）で4割近く、男性70歳以上（25.5%）で2割半ばとなっている。

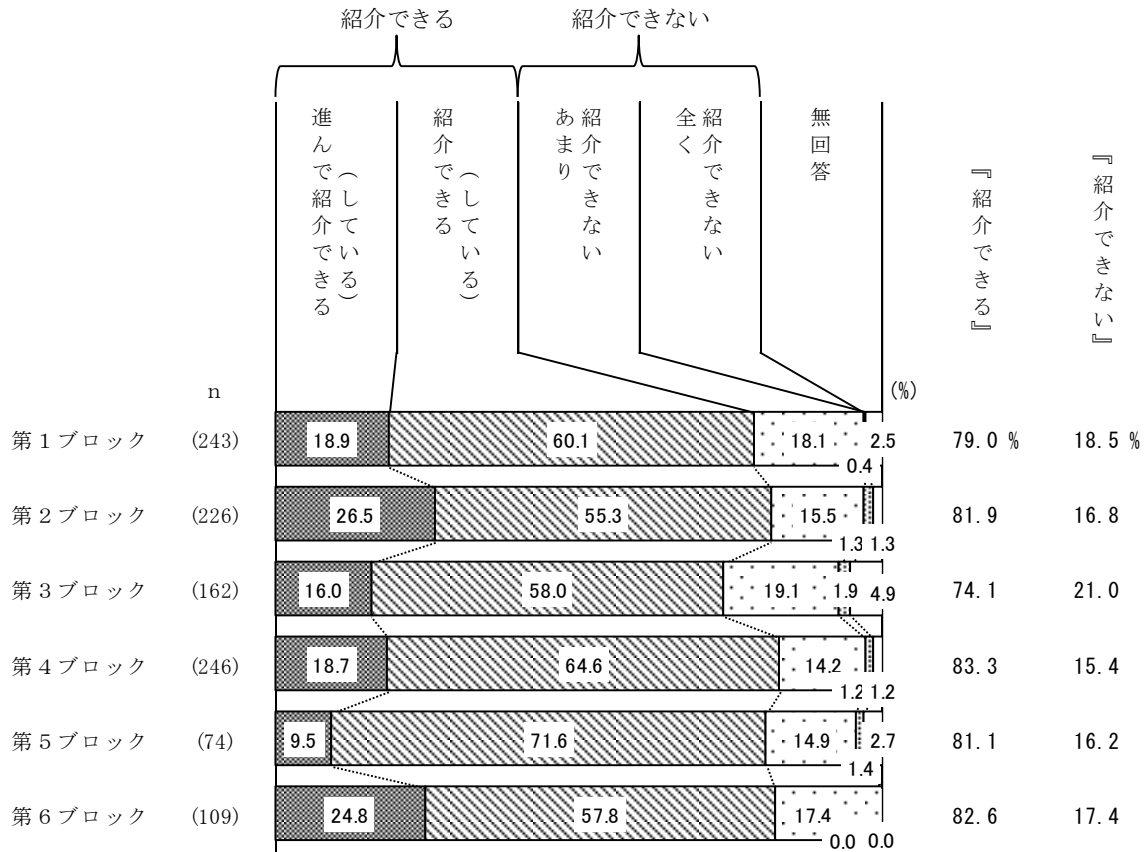
（図2-5-2）

図2-5-2 台東区を魅力ある観光地として紹介できるか—性別、性・年代別



地区別にみると、「進んで紹介できる（している）」は第2ブロック（26.5%）と第6ブロック（24.8%）で2割台と多くなっている。「紹介できる（している）」を合わせた『紹介できる』は第1ブロック（79.0%）と第3ブロック（74.1%）を除く各ブロックで8割台となっている。一方、「あまり紹介できない」と「全く紹介できない」を合わせた『紹介できない』は第3ブロック（21.0%）で2割を超えている。（図2-5-3）

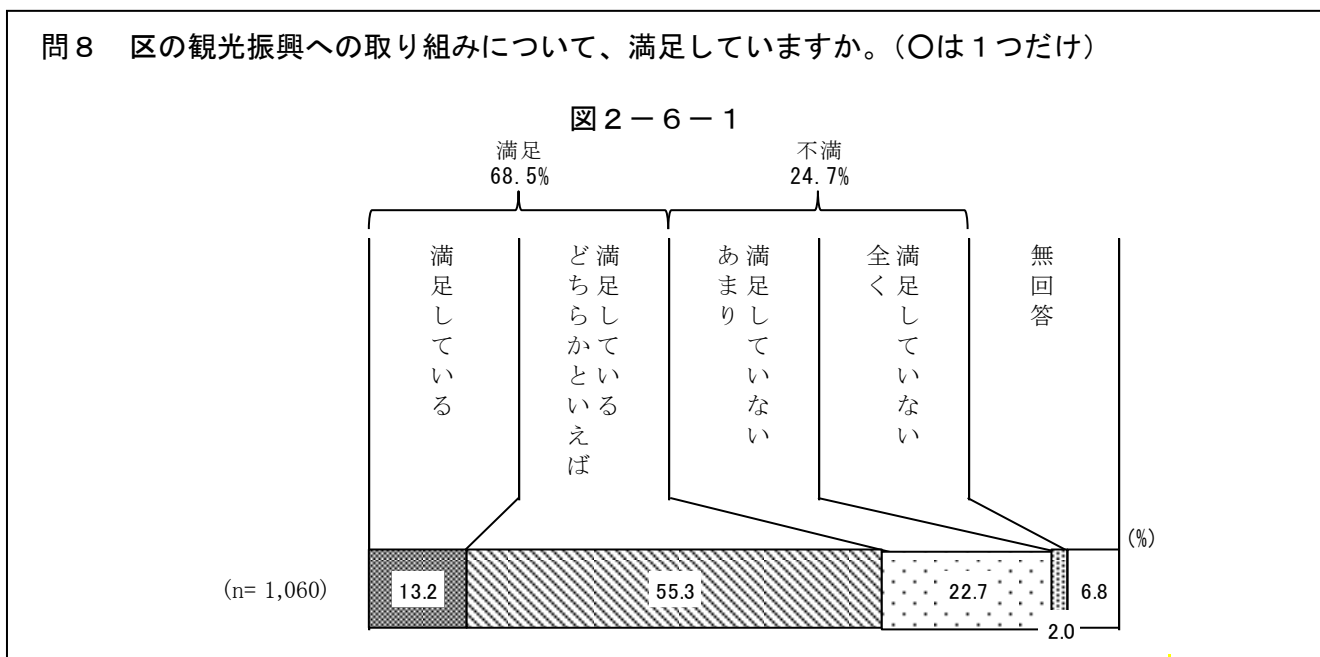
図2-5-3 台東区を魅力ある観光地として紹介できるか—地区別



## 2-6 区の観光振興への取り組みの満足度

『満足』が7割近く

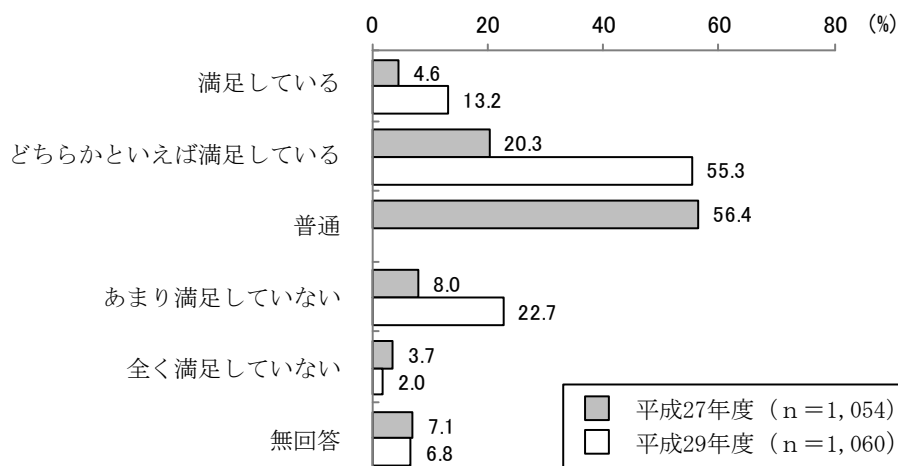
問8 区の観光振興への取り組みについて、満足していますか。(○は1つだけ)



区の観光振興への取り組みの満足度は、「どちらかといえば満足している」(55.3%)が5割半ばと最も多く、「満足している」(13.2%)を合わせた『満足』(68.5%)は7割近くとなっている。一方、「あまり満足していない」と「全く満足していない」を合わせた『不満』(24.7%)は2割半ばとなっている。(図2-6-1)

推移をみると、過年度調査とは選択肢が異なるため単純に比較することができないが、「どちらかといえば満足している」が平成27年度から35ポイント高くなっている。(図2-6-2)

図2-6-2 区の観光振興への取り組みの満足度—推移

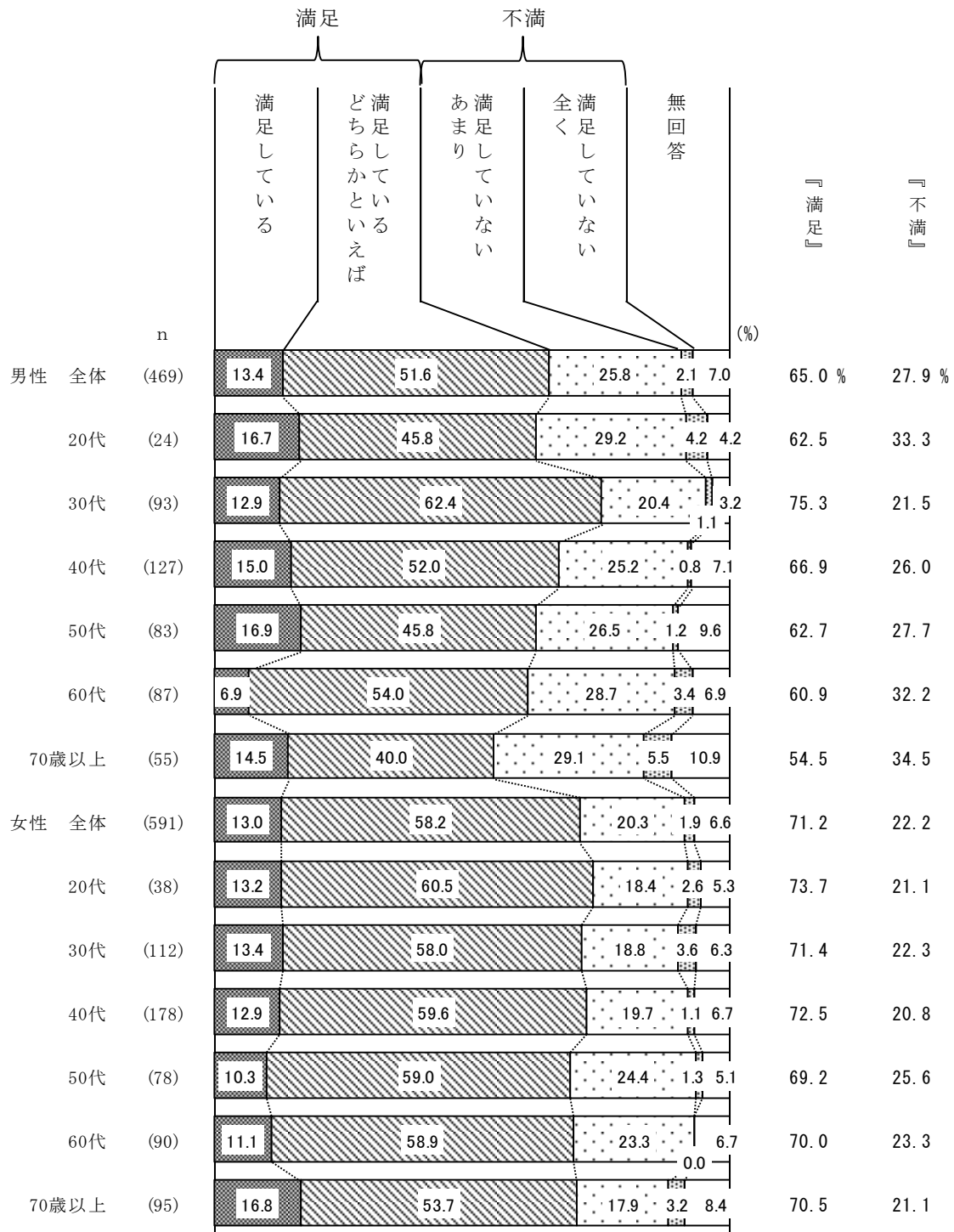


※「普通」は平成29年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足』は、女性（71.2%）が男性（65.0%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「満足している」は男性50代（16.9%）が2割近くと最も多い一方、男性60代（6.9%）は性・年代別の中で最も低くなっている。「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足』は、男性30代（75.3%）が7割半ばと多くなっている。「あまり満足していない」と「全く満足していない」を合わせた『不満』は、男性20代（33.3%）、男性60代（32.2%）、男性70歳以上（34.5%）で3割台となっている。（図2-6-3）

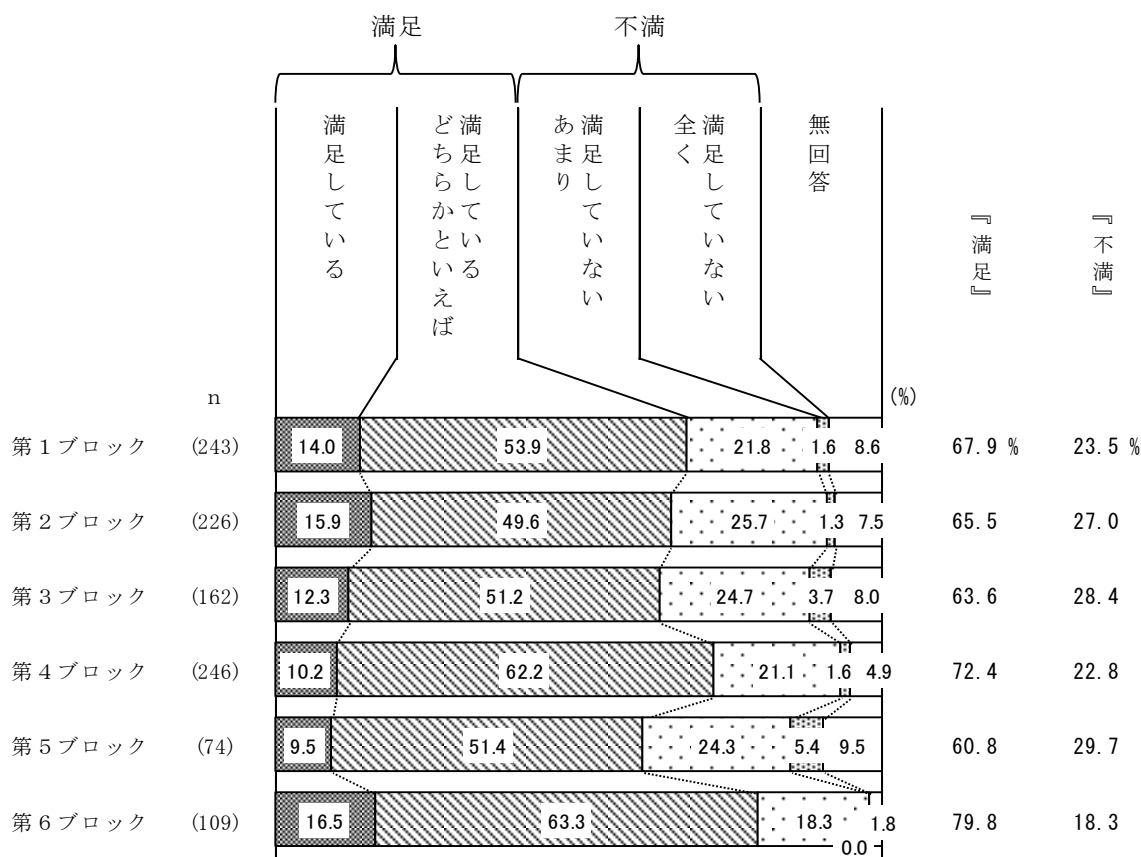
図2-6-3 区の観光振興への取り組みの満足度－性別、性・年代別



地区別にみると、「満足している」は第5ブロック（9.5%）を除く各ブロックで1割台となっている。「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足』は、第4ブロック（72.4%）と第6ブロック（79.8%）で7割台、「あまり満足していない」と「全く満足していない」を合わせた『不満』は、第6ブロック（18.3%）を除く各ブロックで2割台となっている。

(図2-6-4)

図2-6-4 区の観光振興への取り組みの満足度—地区別



## 2-7 台東区の観光についての意見や提案

問9 台東区の観光について、ご意見やご提案がありましたら、ご記入ください。

(100文字以内有効)

(代表的な意見)

### 【観光振興について】

- ・浅草や上野などの有名な地域だけでなく、下町の風情ある小さな地域も活性化するようにアピールした方がよいと思います。
- ・近年は、単なる「観光地めぐり」のみならず、日本人の日常生活に関心を持たれる傾向があるため、下町の日常生活ポイントを巡るツアーガイドを作成するとよい。
- ・ボランティアガイドの講習などの実施を。外国語による観光地の案内や説明ができればよいと思う。
- ・区の観光振興について今まで関心を持ったことがなかった。個々でも調べてみるべきだが、区がどんなことに取り組んでいるのか、もっとわかりやすくしておく必要があると思う。

### 【来街者対策について】

- ・街の活性化に観光客の増加はプラス面も多いが、観光客のマナーの悪さを改善するために、台東区と観光産業のスタッフなどが協力して、何か対策を講じて欲しいと思います。
- ・案内看板に外国人観光客向けの表記や、どんな世代にも分かりやすい表記があるとよい。外国人観光客には日本のマナーやルールが理解できるようなパンフレットを作成して配布してはどうか。そのようにすれば、こちらも気分がよいし、外国人観光客に日本の文化も知ってもらえる。

### 【バリアフリーの推進について】

- ・台東区だけでなく、都内全般に言えることだが、駅や道路などで体の不自由な人に対するバリアが多いと感じる。観光に来てもらいたい人がいるが、気軽に招待ができない。
- ・駅など公共交通機関の施設の整備を進めてほしい。エレベーターもエスカレーターもなく、乗り換えが不便で、観光客は大きなスーツケースを持って階段を上らなければならない、大変だと思う。
- ・区民のためにも、観光のためにも、駅（地下鉄）のエレベーターを増やすべき。困っている人をよく見かける。



### 【環境美化・景観について】

- ・古い街並もあるし、国立博物館や桜もある。祭事も多い。しかし、そのせいで雑然としている。ゴミをなくし、飲食店の裏道なども清潔に整然として欲しい。ボランティアの方々の協力を得て、美しい台東区にしていきたい。
- ・美しい街を維持してもらいたい。人が多く集まって街が騒々しく汚くなつては、住んでいる人にとって意味がない。
- ・街並や景観を整える上で、たばこやゴミのポイ捨てなどの不法投棄をなくす事を徹底してもらいたい。税金を使ってただ毎日ゴミを回収するだけではなく、根本的な改善を望む。
- ・大きい看板が増えて、町の景観を損ねている気がする。大きさや設置場所などの規制があったほうがよいと思う。

### 【経済効果について】

- ・日本人の観光客は日帰りも多いので、経済効果が上がっているかは疑問です。外国人もユースが多いので、台東区に来る観光客が増加していても、もっとお金を落としてくれるような観光ツアーなどを企画しないと、どんなに施設を増やしても経済効果UPにはならないと思う。
- ・海外からの観光客をさらに増やすため、経済効果の見込める事業に対してメリットがあるとよい。
- ・観光で得た資金を区民に還元できるようにして欲しい。観光客の満足度向上と区民の満足度向上は必ずしも一致しない。

### 【観光バス対策について】

- ・バスの駐車場が少なく、路上に駐停車していることが多いので、観光地として対策を検討すべきだと思います。今のままでは非常に危険だと感じます。
- ・浅草寺観光のバスが多く、周辺道路が混雑している。住民の日常生活にも影響がでているので対応をお願いします。
- ・観光バスが長時間、エンジンをかけたまま道路に駐停車しており、交通の妨げや騒音など、周辺的生活環境へ影響が出ています。きちんと規制して欲しい。
- ・観光バスの乗降がうまく誘導されておらず、乗降客が道路をふさぐように歩いていて通行に支障をきたしている。観光業者などへの指導を徹底して欲しい。

### 【交通環境の整備について】

- ・路線バスの運行状況がわかりづらいので、あまり利用していません。バス停や路線をわかりやすくしてほしい。
- ・浅草寺周辺の人力車が多すぎる。客の呼び込みなどで雷門前周辺が混雑して歩きづらくなっている。

### 【生活基盤の維持について】

- ・観光客を呼び込めばよいというものではないと思う。元々住んでいる住民への配慮がなされていないのでは意味がない。
- ・観光に力を入れすぎて、商業施設なども観光客向けのものが多く、住民向けの施設が少なすぎる。子育て世帯が多く引っ越してきているので、教育施設や住民向けの商業施設を積極的に増やすべきだと思う。
- ・観光地が賑やかになることはよいことですが、民泊などで住宅地に治安の影響が出るのが不安です。

### 【その他】

- ・台東区、東京、日本が大好きで歴史や文化などに触れたい、知りたいという外国の方々が、ぜひ行ってみたいと思う観光スポットが多くあったらよいと思います。
- ・海外の方が観光している姿をよく目にします。こちらからコミュニケーションがとれるように、外国語普及のための無料もしくは低価格で勉強できる場などがあればよいと思う。
- ・日本橋のように、老舗を守りつつ、新しいものを取り入れながら進化してほしい。次世代の若者に受け入れられ、継承してもらうよう啓発していくべきだと思う。
- ・台東区は自然がない分、行事を通して四季折々を楽しめる。観光にいらっしゃる方も町の歴史に詳しく、もてなす側も勉強する姿勢がこれから必要かもしれません。台東区は23区で一番狭い区です。そこへみなさんがいらしてくださる事に、感謝の気持ちを忘れずにいたいと思います。

### 3. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会

いよいよ3年後に開催が迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「東京2020大会」という)について、皆様の率直なご意見やお考えをお伺いしました。

今回の調査では、今後、東京2020大会に向けて力を入れていく分野として「安全・安心の向上」と回答された方が7割を超えて最も多く、次いで「駅や道路などのバリアフリー化」が約5割という結果となりました。前回の調査結果と同様に、高い関心をお持ちの方が多くことがわかりました。

また、東京2020パラリンピック競技大会の開催で期待することについては、「障害のある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会の実現」が、5割半ばと最も多く、次いで「公共施設等のバリアフリー化の推進」が続いています。

今回の調査結果を参考に、大会組織委員会や東京都などの関係機関と連携しながら東京2020大会に向けた各種取り組みを進めてまいります。

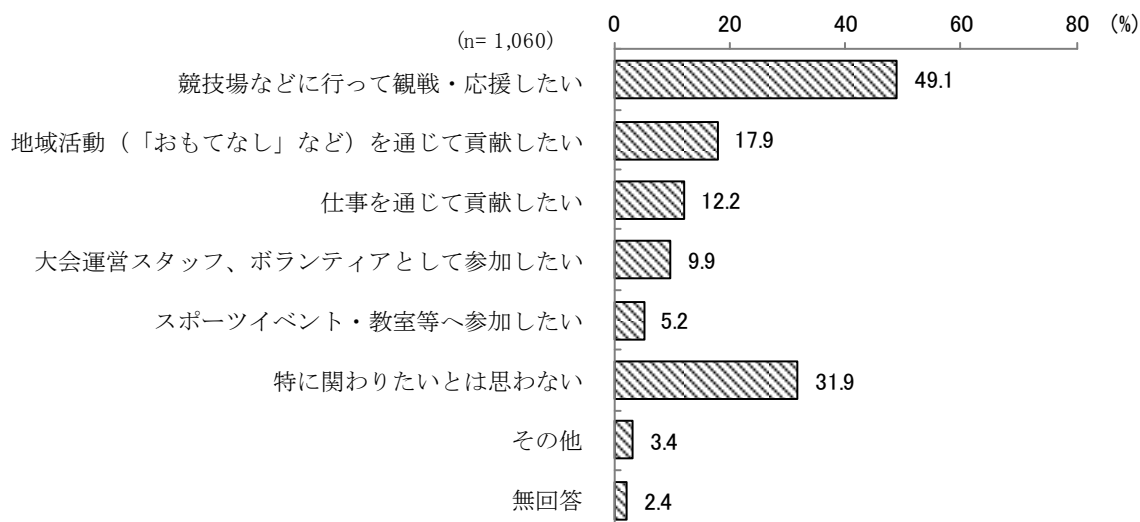
(総務部 東京オリンピック・パラリンピック担当)

### 3-1 東京 2020 大会への参加形態

「競技場などに行って観戦・応援したい」がほぼ5割

問 10 東京 2020 大会に対して、どのような形で参加したいですか。(〇はいくつでも)

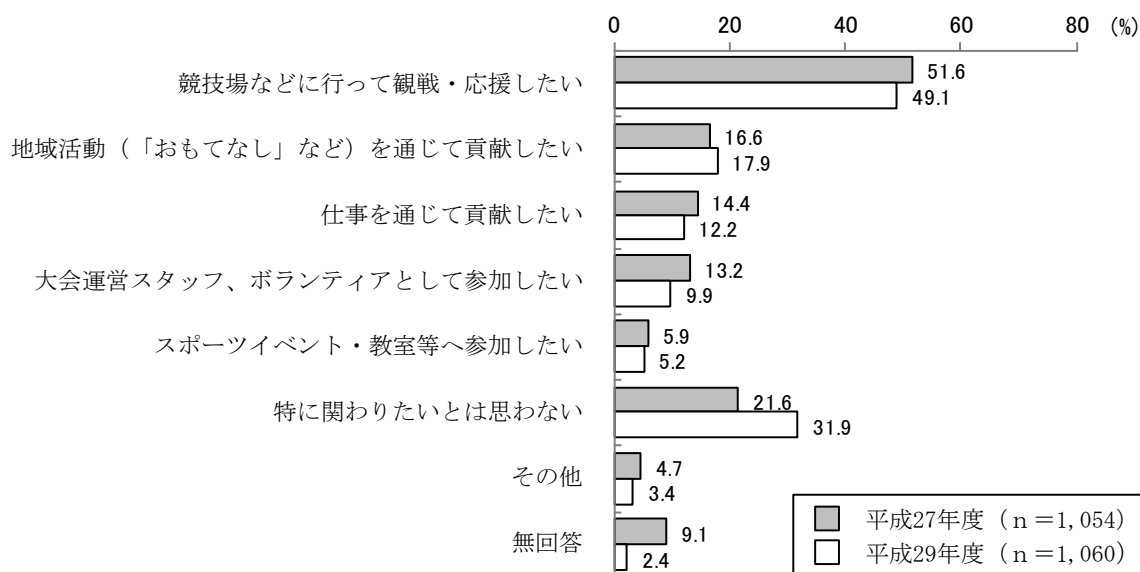
図 3-1-1



東京 2020 大会への参加形態は、「競技場などに行って観戦・応援したい」(49.1%) がほぼ5割で最も多く、「地域活動（「おもてなし」など）を通じて貢献したい」(17.9%)、「仕事を通じて貢献したい」(12.2%)、「大会運営スタッフ、ボランティアとして参加したい」(9.9%) となっている。一方、「特に関わりたいとは思わない」(31.9%) は3割を超えている。(図 3-1-1)

推移をみると、「地域活動（「おもてなし」など）を通じて貢献したい」と「特に関わりたいとは思わない」を除く各項目が減少している。「特に関わりたいとは思わない」は平成 27 年度から 10.3 ポイント高くなっている。(図 3-1-2)

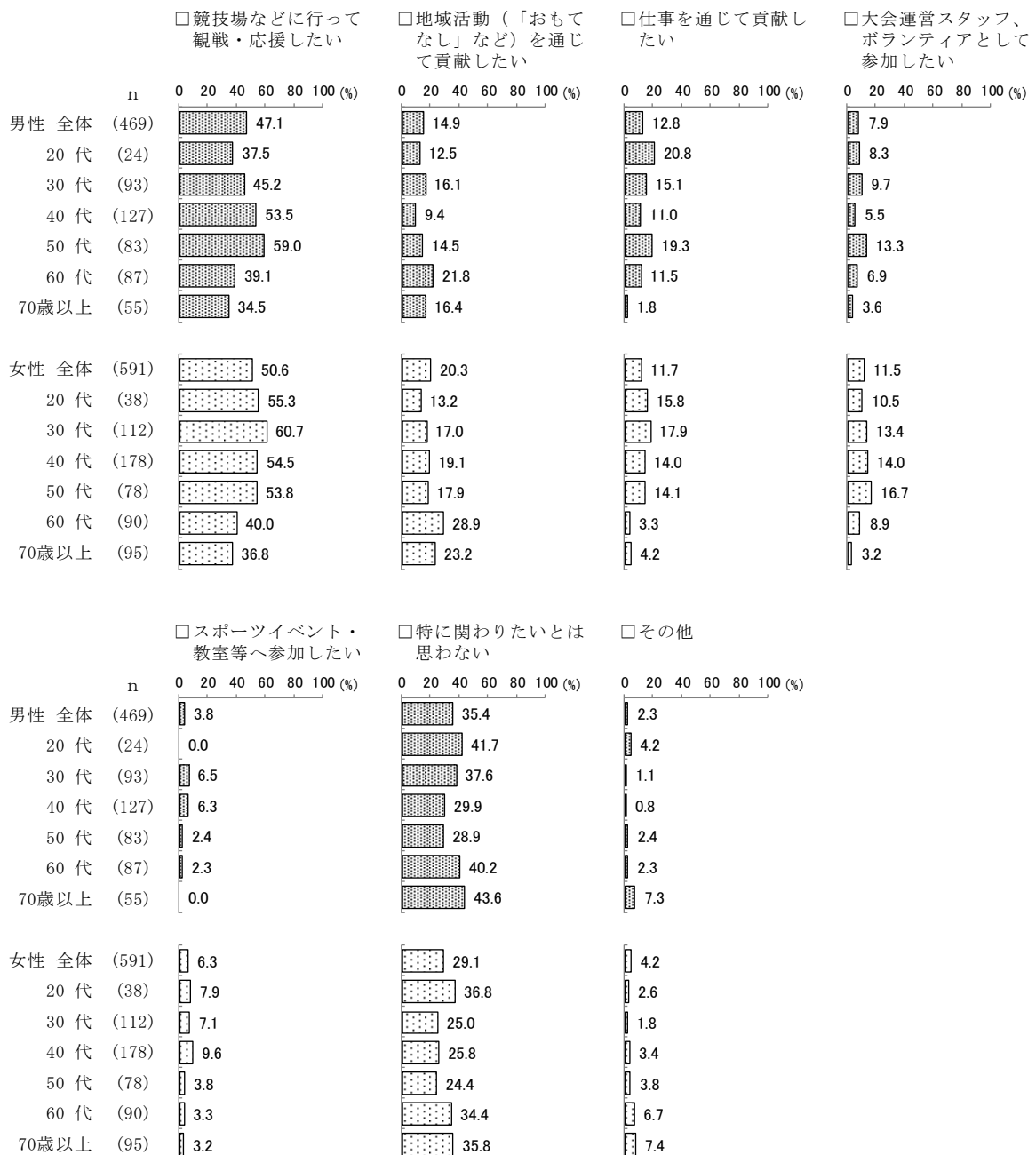
図 3-1-2 東京 2020 大会への参加形態－推移



性別で見ると、「地域活動（「おもてなし」など）を通じて貢献したい」は女性（20.3%）が男性（14.9%）よりも5.4ポイント高くなっている。また、「特に関わりたいとは思わない」は男性（35.4%）が女性（29.1%）よりも6.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「競技場などに行って観戦・応援したい」は女性30代（60.7%）でほぼ6割と多くなっている。「地域活動（「おもてなし」など）を通じて貢献したい」は男性60代（21.8%）、女性60代（28.9%）、女性70歳以上（23.2%）で2割台となっている。一方、「特に関わりたいとは思わない」は男性20代（41.7%）、男性60代（40.2%）、男性70歳以上（43.6%）で4割台と多くなっている。（図3-1-3）

図3-1-3 東京2020大会への参加形態—性別、性・年代別

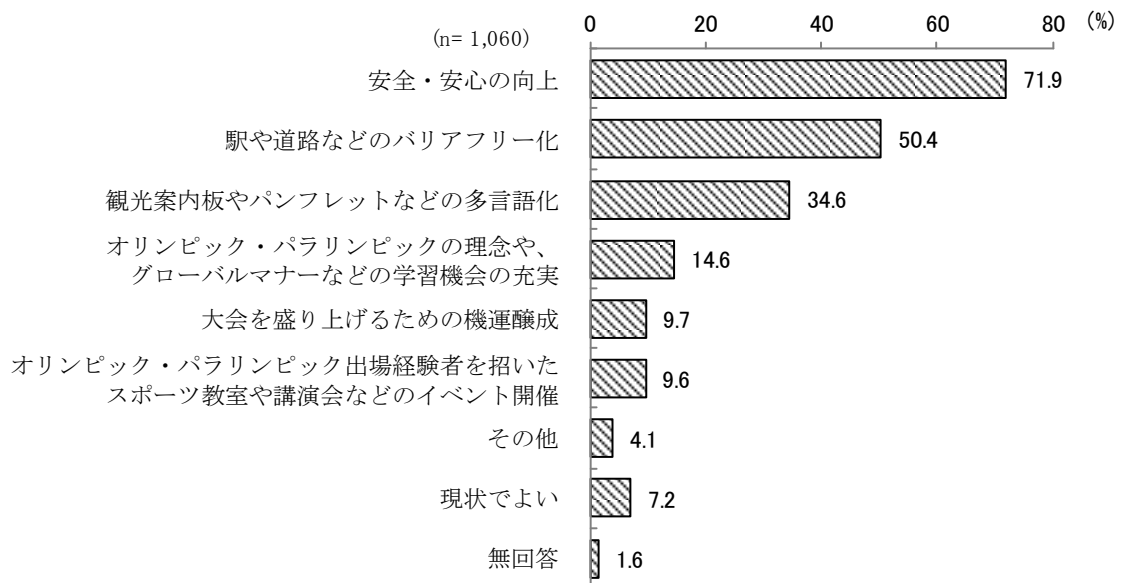


### 3-2 東京 2020 大会に向けて力を入れていく分野

「安全・安心の向上」が7割を超える

問 11 東京 2020 大会に向けて、台東区は今後、  
どのような分野に力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

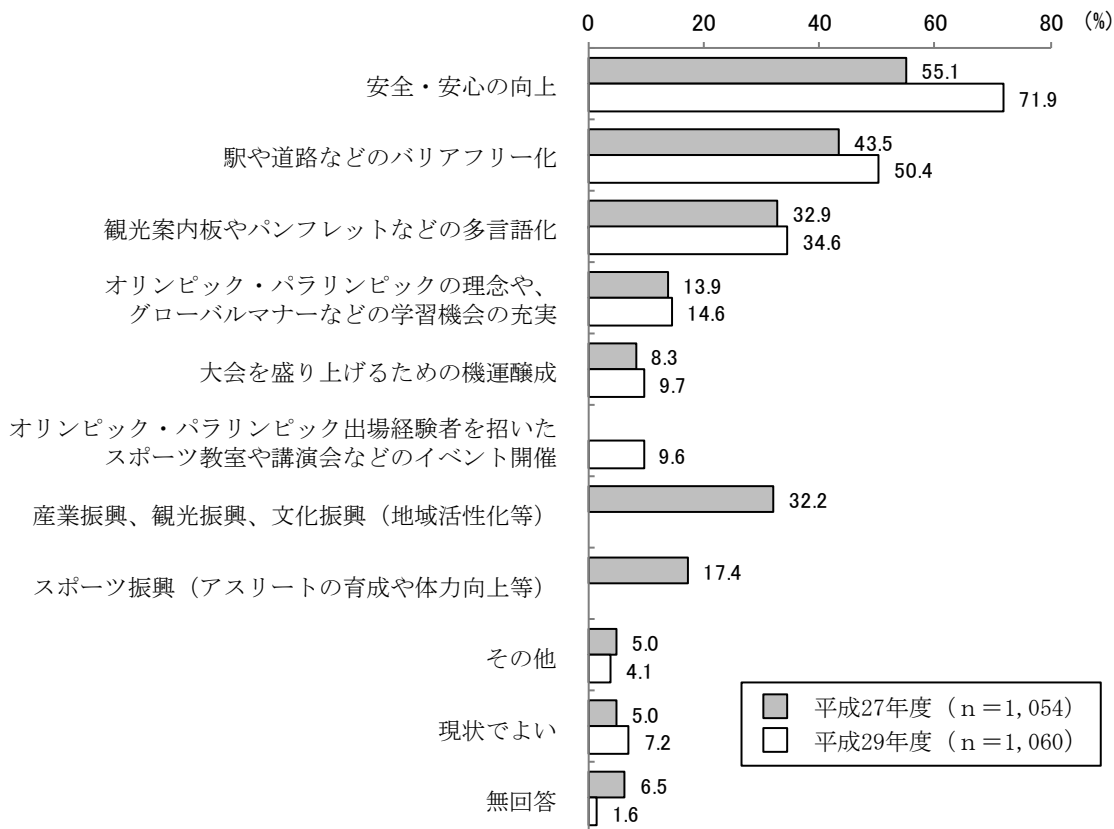
図 3-2-1



東京 2020 大会に向けて力を入れていく分野は、「安全・安心の向上」(71.9%) が7割を超えて最も多く、次いで「駅や道路などのバリアフリー化」(50.4%)、「観光案内板やパンフレットなどの多言語化」(34.6%)、「オリンピック・パラリンピックの理念や、グローバルマナーなどの学習機会の充実」(14.6%) となっている。(図 3-2-1)

推移をみると、過年度調査とは選択肢が異なるため単純に比較することができないが、各項目で増加している。平成 27 年度から「安全・安心の向上」が 16.8 ポイント、「駅や道路などのバリアフリー化」が 6.9 ポイント、それぞれ高くなっている。(図 3-2-2)

図 3-2-2 東京 2020 大会に向けて力を入れていく分野—推移



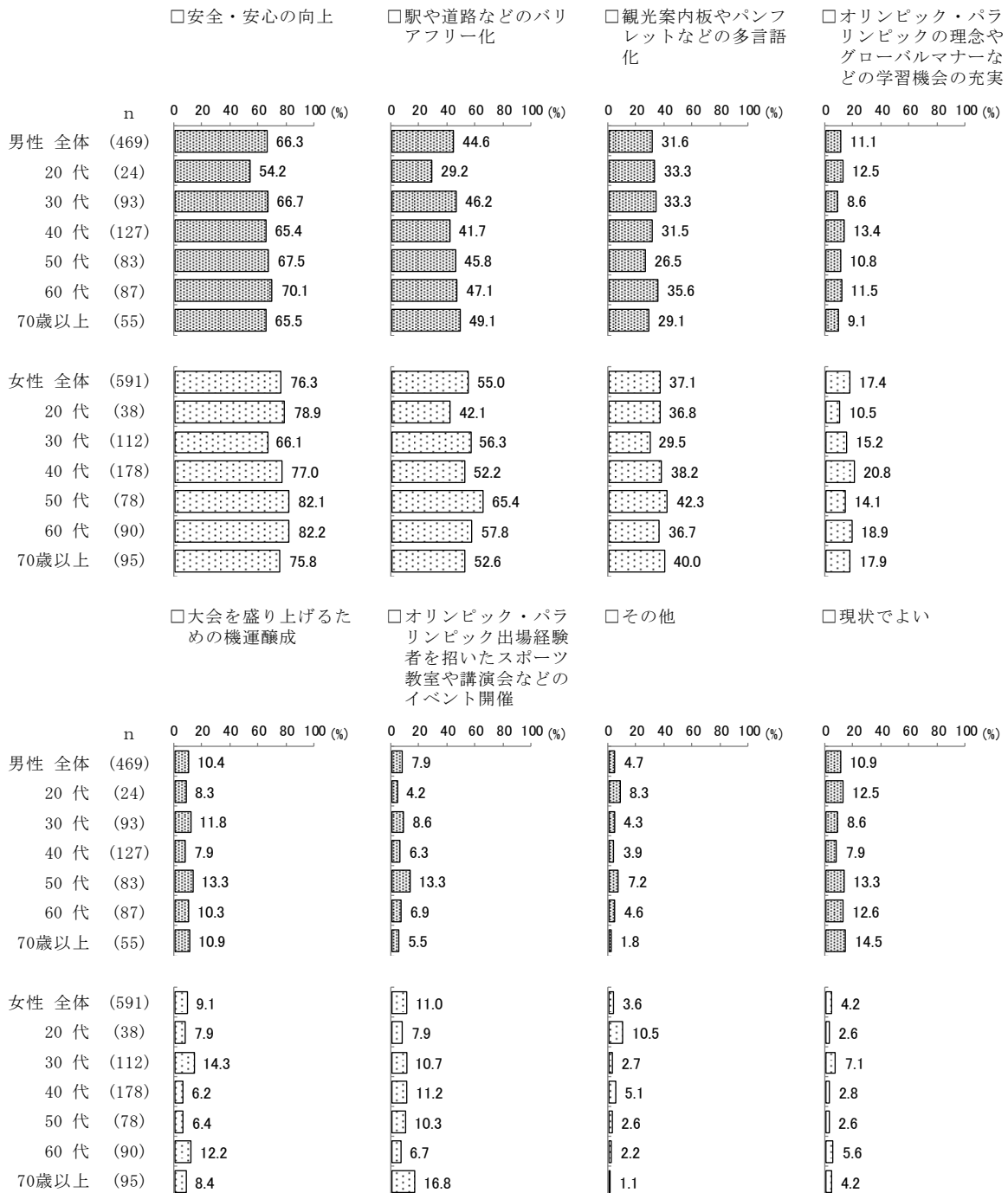
※「オリンピック・パラリンピック出場経験者を招いたスポーツ教室や講演会などのイベント開催」は平成 27 年度調査には無い選択肢である。

※「産業振興、観光振興、文化振興（地域活性化等）」、「スポーツ振興（アスリートの育成や体力向上等）」は平成 29 年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「安全・安心の向上」は女性（76.3%）が男性（66.3%）より10.0ポイント、「駅や道路などのバリアフリー化」は女性（55.0%）が男性（44.6%）より10.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、「安全・安心の向上」は女性50代（82.1%）と女性60代（82.2%）が8割を超えて多くなっている。「駅や道路などのバリアフリー化」は女性50代（65.4%）で6割半ば、「観光案内板やパンフレットなどの多言語化」は女性50代（42.3%）と女性70歳以上（40.0%）で4割台、「オリンピック・パラリンピックの理念や、グローバルマナーなどの学習機会の充実」は女性40代（20.8%）でほぼ2割となっている。（図3-2-2）

図3-2-2 東京2020大会に向けて力を入れていく分野—性別、性・年代別





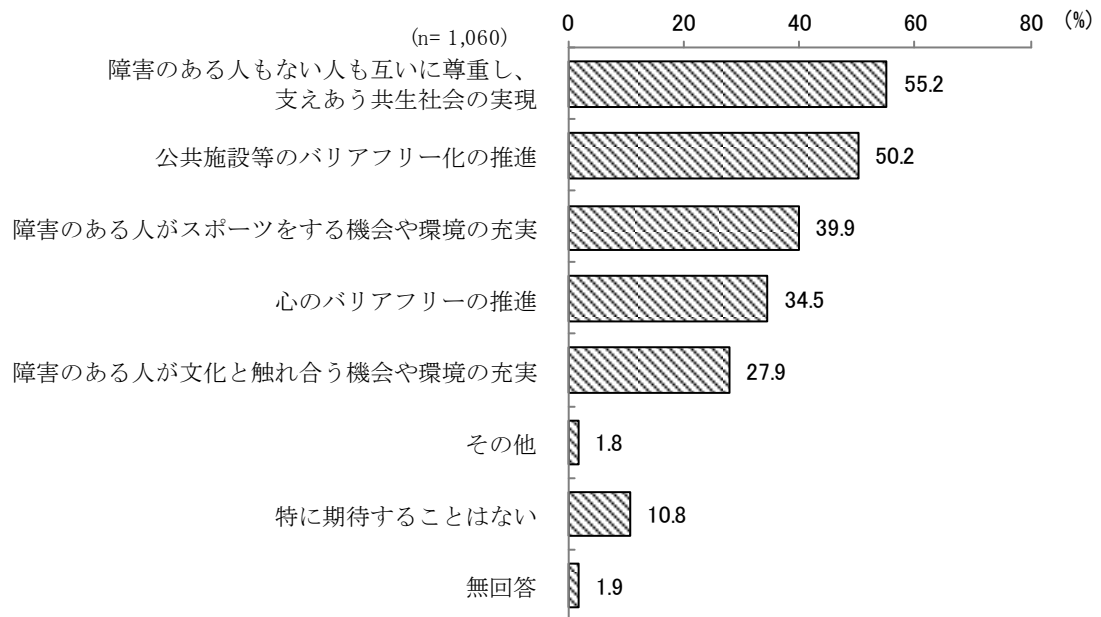
### 3-3 東京 2020 パラリンピック競技大会への期待

「障害のある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会の実現」が5割半ば

問 12 東京は、世界で初めて2回目の夏季パラリンピックを開催する都市となります。  
東京 2020 パラリンピック競技大会の開催で期待することはどのようなことですか。

(○はいくつでも)

図 3-3-1

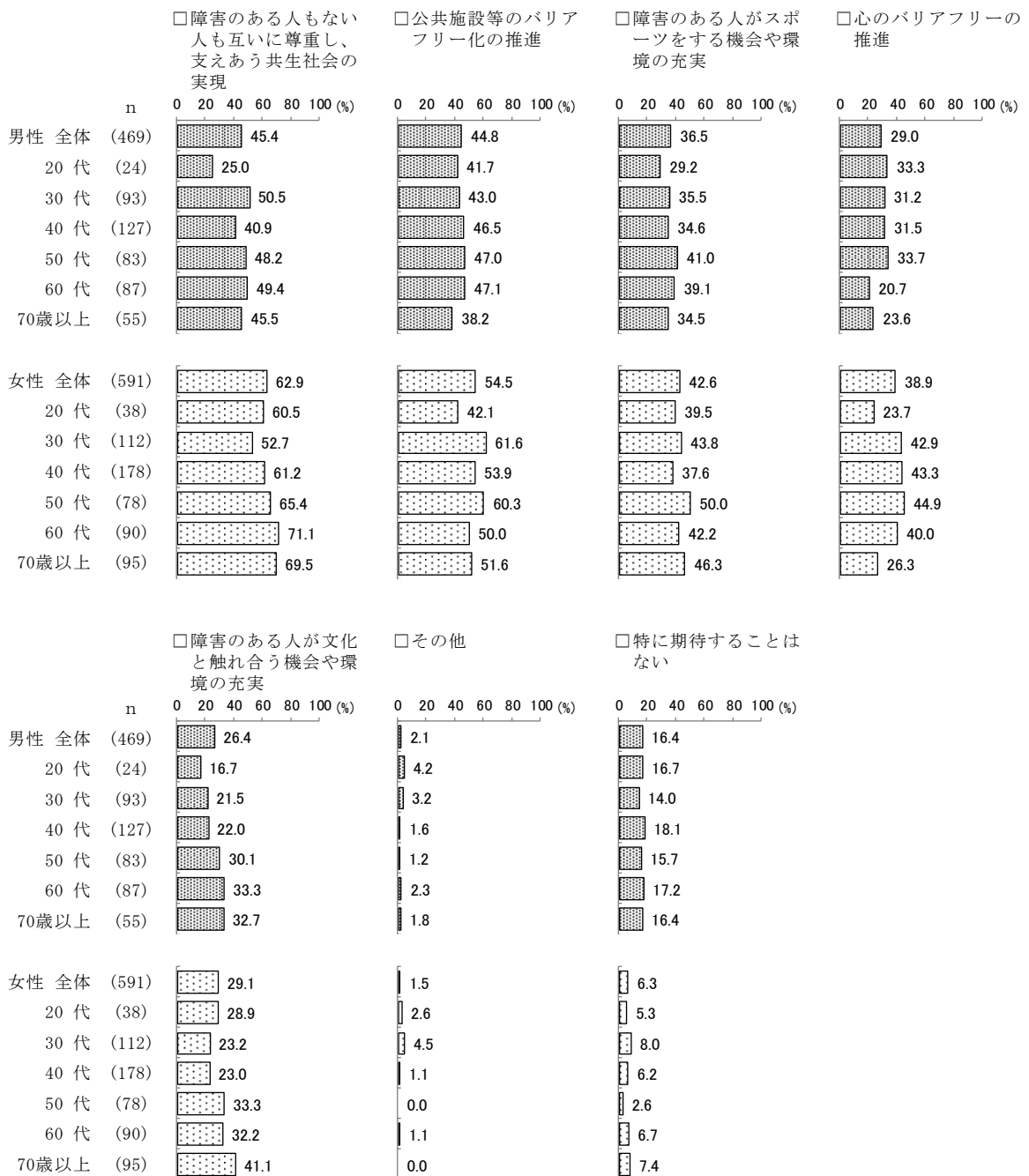


東京 2020 パラリンピック競技大会への期待は、「障害のある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会の実現」(55.2%)が5割半ばと最も多く、次いで「公共施設等のバリアフリー化の推進」(50.2%)、「障害のある人がスポーツをする機会や環境の充実」(39.9%)、「心のバリアフリーの推進」(34.5%)となっている。(図 3-3-1)

性別で見ると、「障害のある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会の実現」は女性（62.9%）が男性（45.4%）より17.5ポイント、「公共施設等のバリアフリー化の推進」は女性（54.5%）が男性（44.8%）より9.7ポイント、「心のバリアフリーの推進」は女性（38.9%）が男性（29.0%）より9.7ポイント、それぞれ高くなっており、各項目とも男性より女性が高くなっている。一方で、「特に期待することはない」は男性（16.4%）が女性（6.3%）より10.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「障害のある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会の実現」は女性60代（71.1%）で7割を超えて最も多くなっている。「公共施設等のバリアフリー化の推進」は女性30代（61.6%）と女性50代（60.3%）で6割台、「障害のある人がスポーツをする機会や環境の充実」は女性50代（50.0%）で5割と多くなっている。（図3-3-2）

図3-3-2 東京2020パラリンピック競技大会への期待—性別、性・年代別



## 4. 花の心プロジェクト

お住まい周辺の花（花壇やプランター等）の満足度については「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足』が49.0%であり、ほぼ5割となっています。満足度を地区別に見ると、上野恩賜公園、谷中霊園など広大な緑地空間がある第6ブロックの満足度は、他地区と比較して高く、56.9%が『満足』という結果でした。また、花の心プロジェクト推進のために力を入れる事業については「花壇・プランターの整備」が61.9%で最も多く、次いで「屋上緑化や壁面緑化等への助成」が35.2%でした。力を入れる事業を地区別に見ると、先の質問と同様に第6ブロックが、他地区と比較し、花壇等の整備が65.1%や屋上緑化等への助成が42.2%と最も高い割合でした。

花の心プロジェクトは、全ての区民が花を慈しみ、おもてなしの心を育むことで、おもてなしのまち台東区を世界に発信していくことを目的に実施しています。

ハード面では、左衛門橋通り等の区道や区有施設の花壇化を実施し、家庭等における花壇や緑の充実として、壁面緑化等の各種助成制度を実施するとともに、今年度からプランター設置助成を新規に開始しました。ソフト面では、学校における花育の推進や各種イベントでのPR活動等を実施し、本年10月からは、花育成ボランティア支援制度として「花の心フラワーサポーター制度」を左衛門橋通り、福井町通りの花壇で開始しました。

今後とも、花壇の充実を図るとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた機運醸成イベントなどを実施してまいります。

(環境清掃部 環境課)

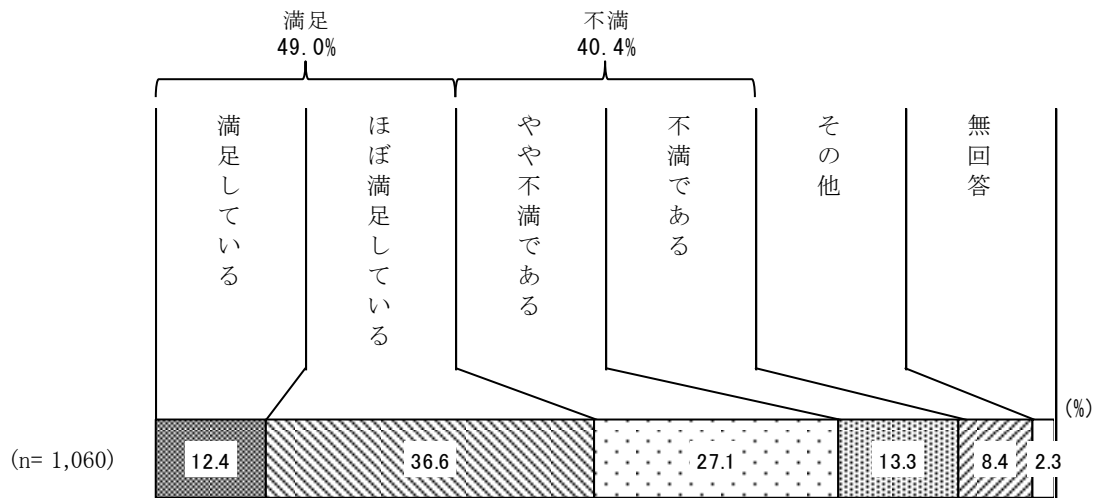
#### 4-1 花壇やプランターの満足度

『満足』がほぼ5割

問13 現在、お住まいの周辺の花（花壇やプランター等）について、満足していますか。

(○は1つだけ)

図4-1-1



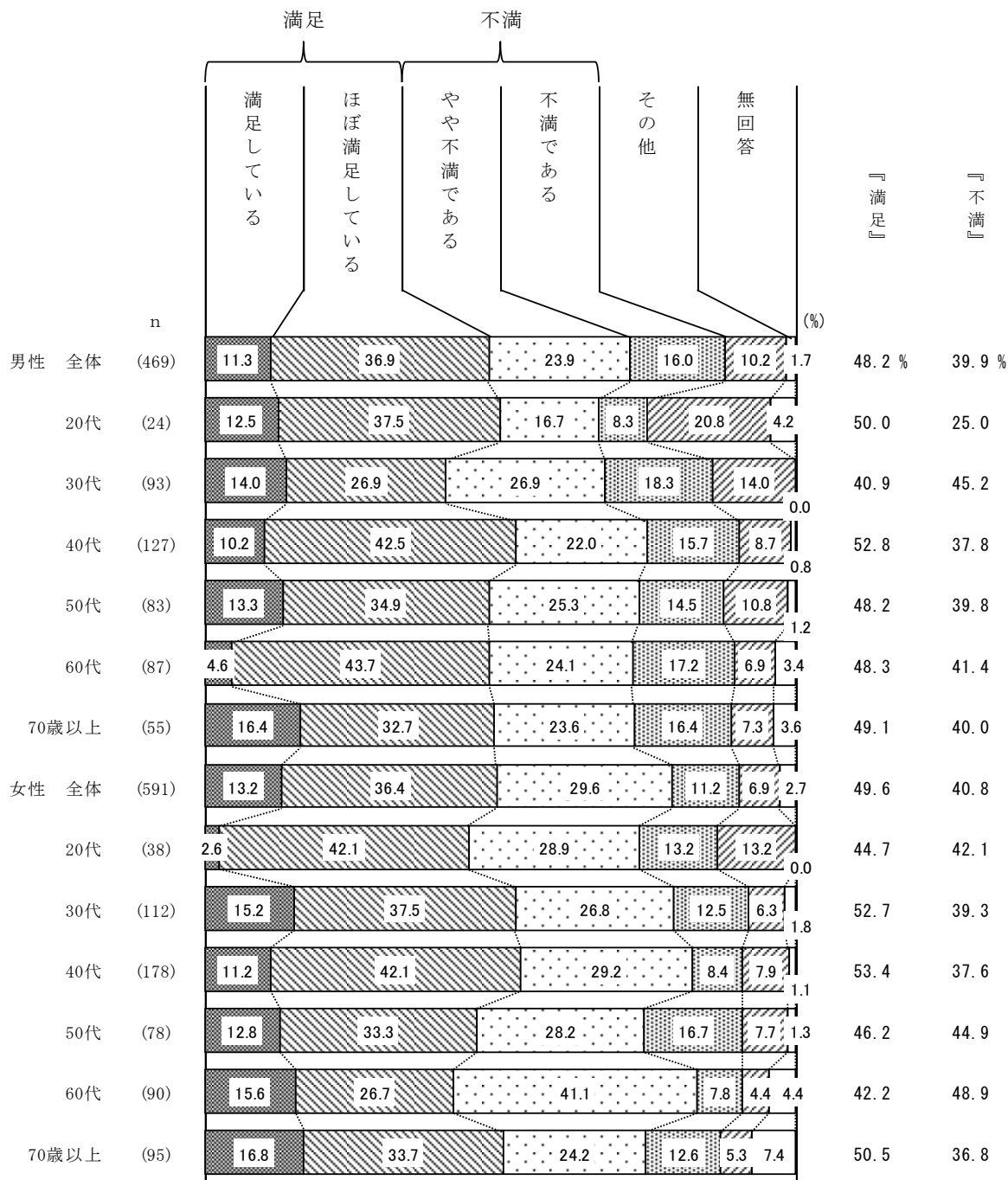
花壇やプランターの満足度は、「ほぼ満足している」(36.6%)が4割近くと最も多く、「満足している」(12.4%)と合わせた『満足』(49.0%)はほぼ5割となっている。一方、「やや不満である」(27.1%)と「不満である」(8.4%)を合わせた『不満』(40.4%)は4割となっている。

(図4-1-1)

性別でみると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足』、「やや不満である」と「不満である」を合わせた『不満』について、男女差は見られない。

性・年代別でみると、「満足している」は男性70歳以上(16.4%)、女性70歳以上(16.8%)と、ともに70歳以上が最も多くなっている。「ほぼ満足している」を合わせた『満足』は、男性40代(52.8%)と女性40代(53.4%)がともに5割を超えて最も多くなっている。一方、「やや不満である」と「不満である」を合わせた『不満』は、女性60代(48.9%)で5割近く、男性30代(45.2%)で4割半ばと、他の性・年代に比べて多くなっている。(図4-1-2)

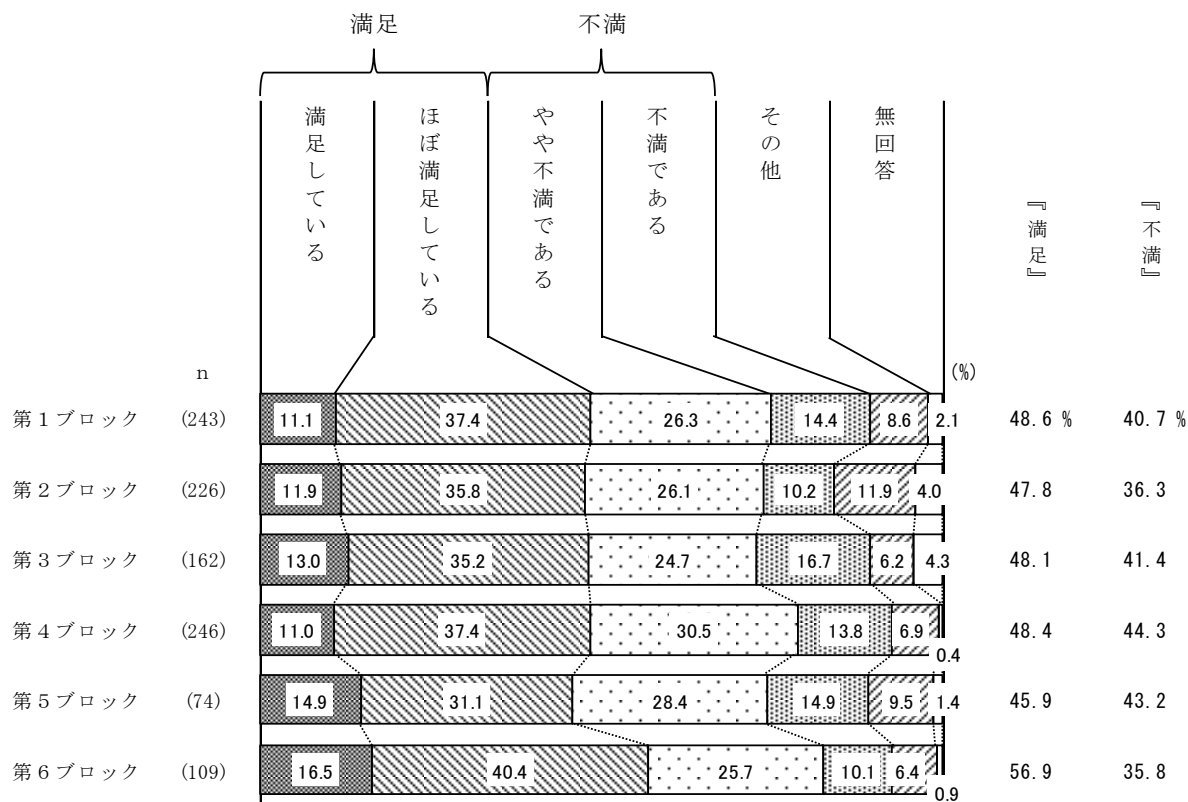
図4-1-2 花壇やプランターの満足度—性別、性・年代別



地区別にみると、「満足している」は第6ブロック（16.5%）で2割近くと最も多くなっており、「ほぼ満足している」を合わせた『満足』も、第6ブロック（56.9%）で6割近くと最も多くなっている。一方、「やや不満である」と「不満である」を合わせた『不満』は、第1ブロック（40.7%）、第3ブロック（41.4%）、第4ブロック（44.3%）、第5ブロック（43.2%）で4割台となっている。

(図4-1-3)

図4-1-3 花壇やプランターの満足度—地区別

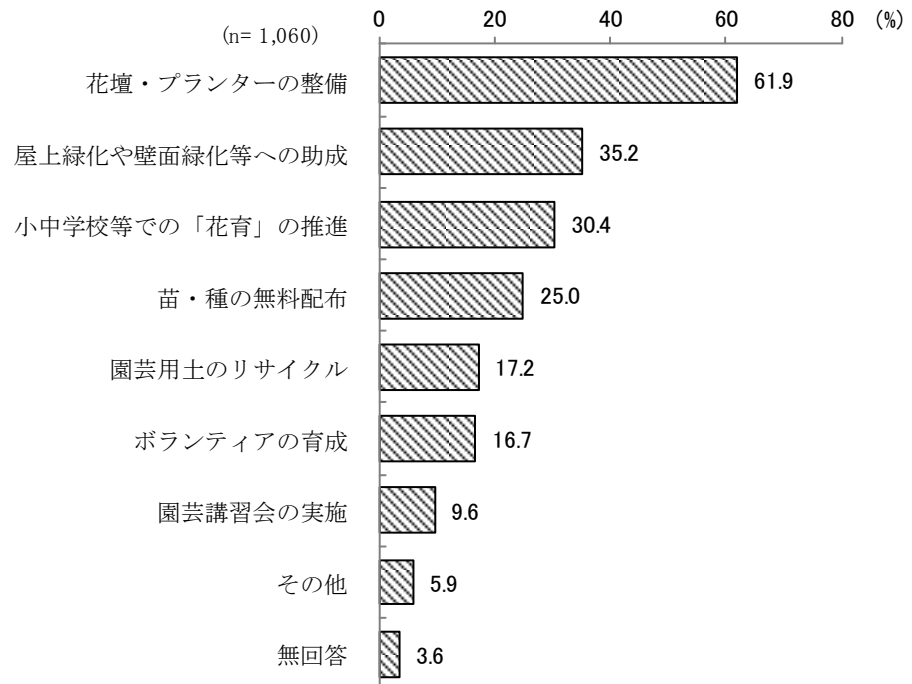


## 4-2 花の心プロジェクト推進のために力を入れる事業

「花壇・プランターの整備」が6割を超える

問14 花を守り、育てていくためには、区はどのような事業に力を入れた方が良いと思いますか。  
(〇はいくつでも)

図4-2-1

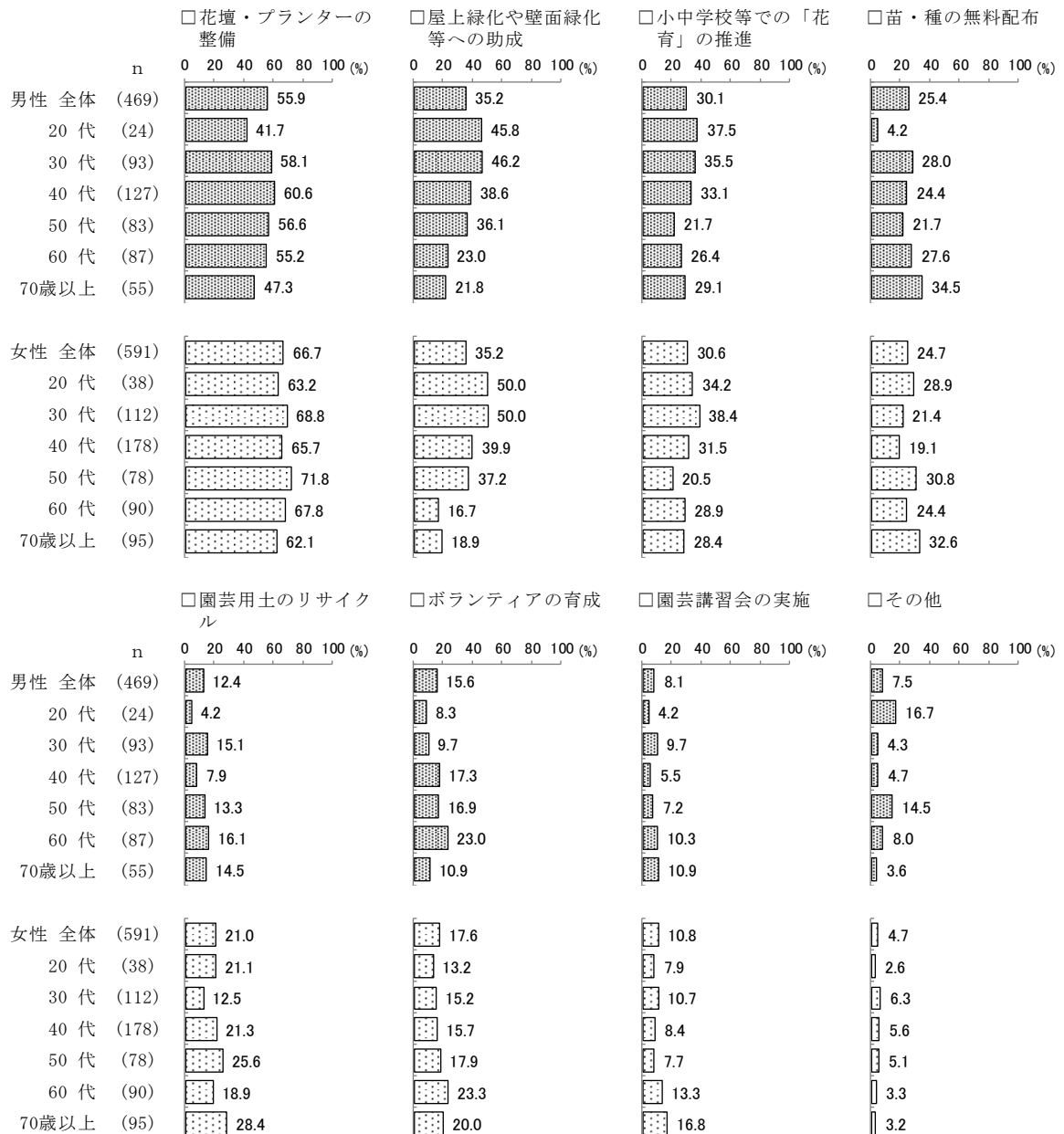


花の心プロジェクト推進のために力を入れる事業は、「花壇・プランターの整備」(61.9%)が6割を超え最も多く、次いで「屋上緑化や壁面緑化等への助成」(35.2%)、「小中学校等での「花育」の推進」(30.4%)、「苗・種の無料配布」(25.0%)、「園芸用土のリサイクル」(17.2%)、「ボランティアの育成」(16.7%)となっている。(図4-2-1)。

性別で見ると、「花壇・プランターの整備」は女性（66.7%）が男性（55.9%）より10.8ポイント、「園芸用土のリサイクル」は女性（21.0%）が男性（12.4%）より8.6ポイント、それぞれ高くなっている。その他の項目では大きな男女差は見られない。

性・年代別で見ると、「屋上緑化や壁面緑化等への助成」は女性20代（50.0%）と女性30代（50.0%）で5割と、他の性・年代に比べて多くなっている。「小中学校等での「花育」の推進」は男性20代（37.5%）と女性30代（38.4%）で4割近く、「苗・種の無料配布」は男性70歳以上（34.5%）、女性50代（30.8%）、女性70歳以上（32.6%）が3割台と多くなっている。（図4-2-2）

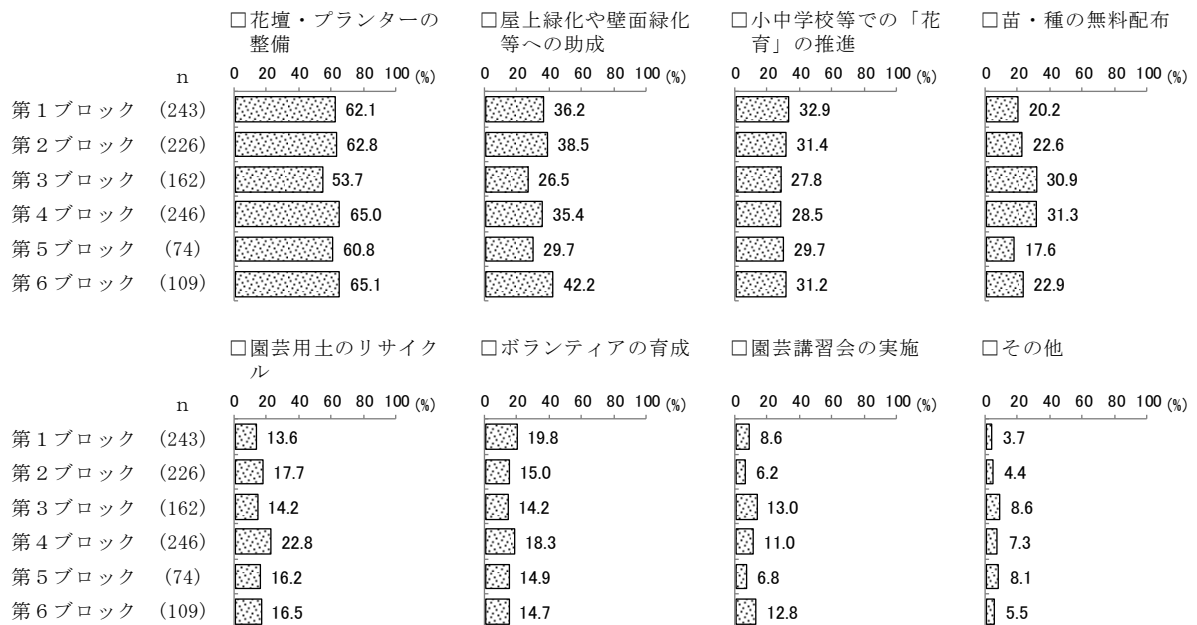
図4-2-2 花の心プロジェクト推進のために力を入れる事業—性別、性・年代別





地区別にみると、「花壇・プランターの整備」は第4ブロック（65.0%）と第6ブロック（65.1%）で6割半ばと多くなっている。「屋上緑化や壁面緑化等への助成」は第6ブロック（42.2%）で4割を超え、「小中学校等での「花育」の推進」は第1ブロック（32.9%）、第2ブロック（31.4%）、第6ブロック（31.2%）で3割台、「苗・種の無料配布」は第3ブロック（30.9%）と第4ブロック（31.3%）が3割台と多くなっている。（図4-2-3）

図4-2-3 花の心プロジェクト推進のために力を入れる事業—地区別



## 5. 東京初の世界文化遺産 国立西洋美術館

国立西洋美術館は、平成 28 年 7 月に世界文化遺産に登録されました。東京では初の世界文化遺産です。

台東区内に世界遺産があることについては、84.5%が「知っていた」という結果となり、平成 25 年度調査時の、台東区内に世界遺産候補があることについて、「知っていた」割合が 44.8%であったことと比較すると、大幅な増加となりました。これは、世界遺産登録が実現したことと合わせ、長年にわたり、地域、台東区、台東区議会の世界遺産登録推進 3 団体が連携し、周知・啓発活動を行ってきた成果であると考えます。

本調査では、今後の周知・啓発活動にかかる取り組みについて、「メディア（テレビ、新聞等）を使って積極的にPRを行う」や「各種イベントにおいて周知・啓発活動を行う」、「外国に向けた広報活動」が必要であるという意見が上位となりました。

こうしたご意見も踏まえ、今後も国立西洋美術館の文化的・建築的価値の周知・啓発活動に努め、世界文化遺産「国立西洋美術館」を将来の世代に継承していくとともに「世界遺産のあるまち 台東区」の魅力を広く発信してまいります。

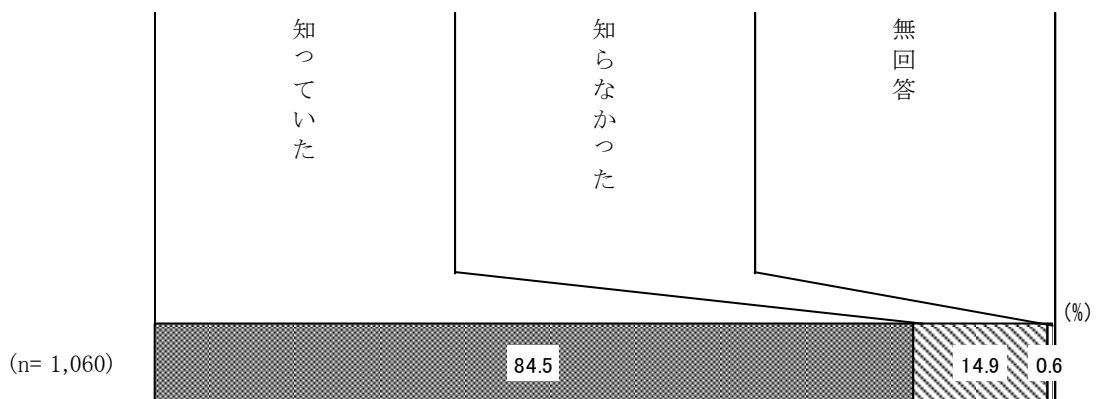
(国際・都市交流推進室 世界遺産担当)

### 5-1 台東区内の世界遺産（世界文化遺産）の認知度

「知っていた」が8割半ば

問 15 台東区内に世界遺産（世界文化遺産）があることをご存知でしたか。（○は1つだけ）

図 5-1-1

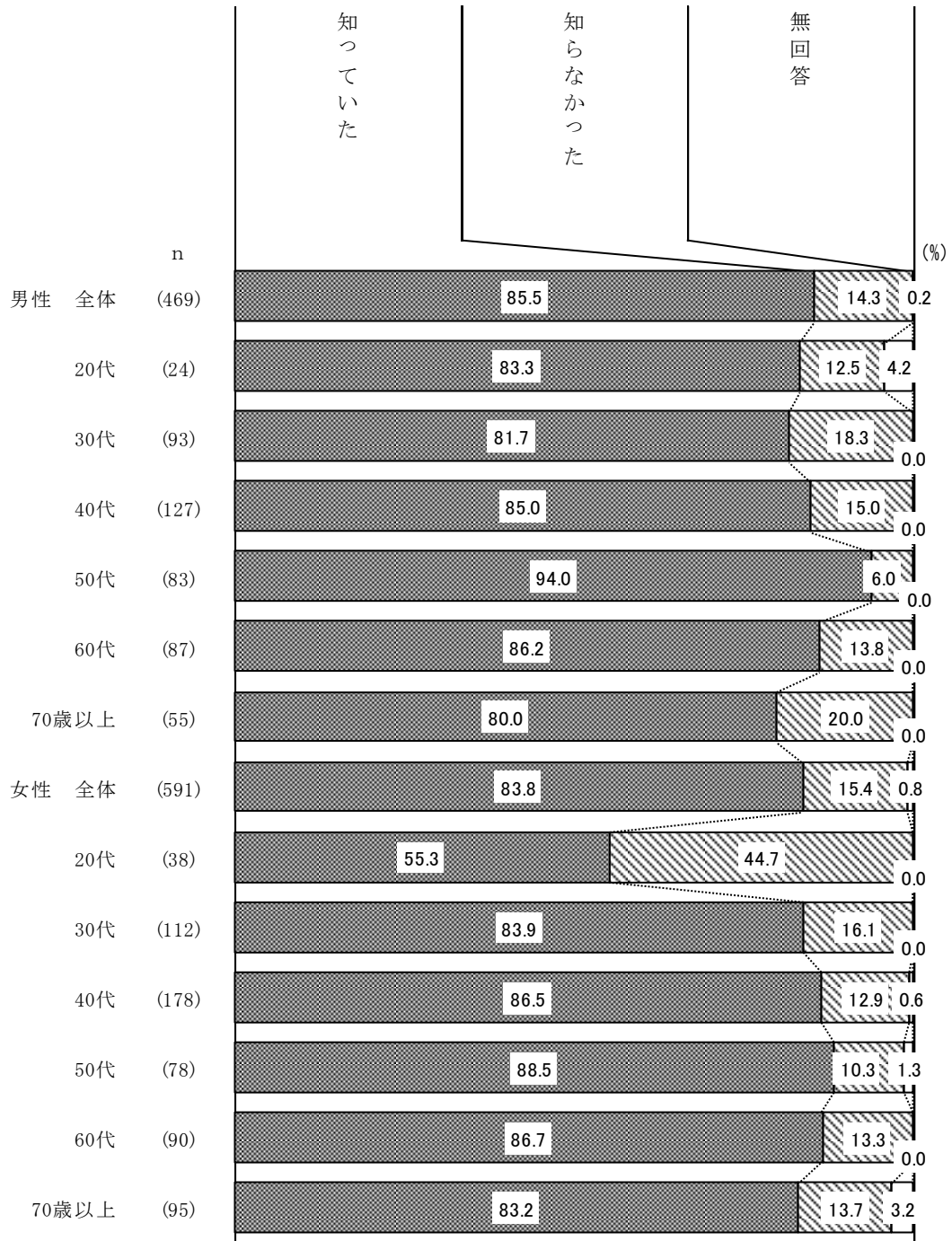


台東区内の世界遺産（世界文化遺産）の認知度は、「知っていた」（84.5%）が8割半ばと最も多く、「知らなかった」（14.9%）は1割半ばとなっている。（図 5-1-1）

性別で見ると、大きな男女差は見られない。

性・年代別で見ると、「知っていた」は男性50代（94.0%）で9割半ばと多くなっている他、女性20代（55.3%）を除いて8割台となっている。一方、「知らなかった」は女性20代（44.7%）で4割半ばとなっている。（図5-1-2）

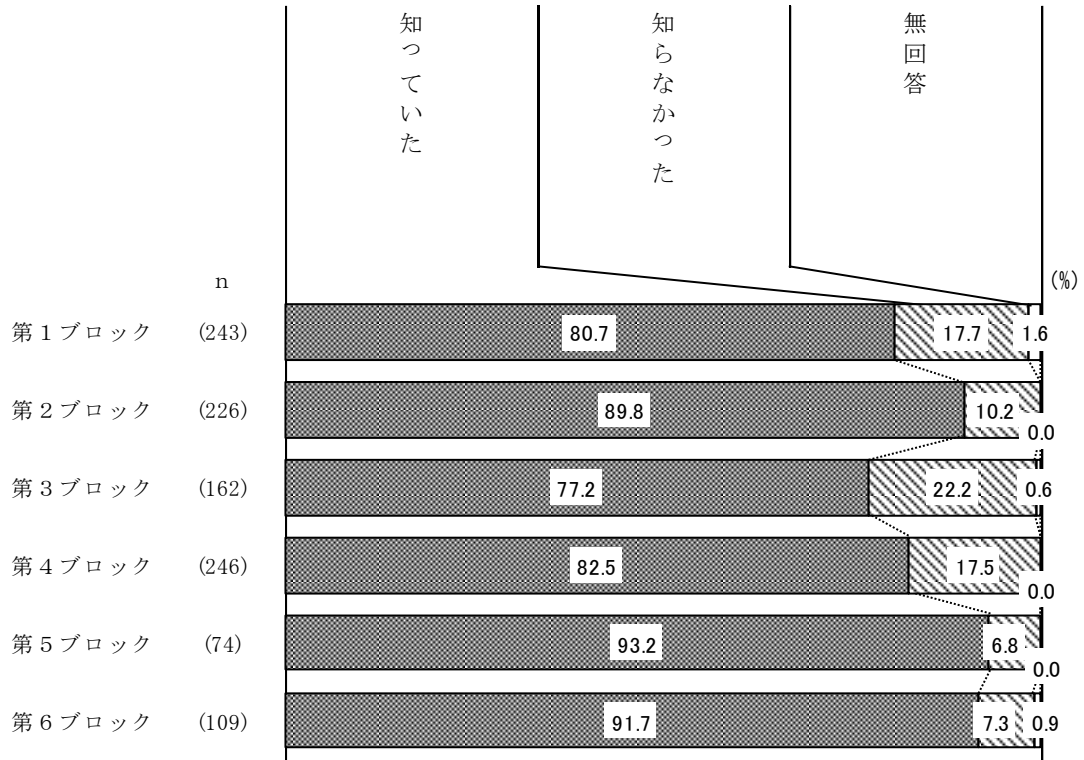
図5-1-2 台東区内の世界遺産（世界文化遺産）の認知度—性別、性・年代別



地区別にみると、「知っていた」は第5ブロック（93.2%）と第6ブロック（91.7%）で9割を超えている。一方、「知らなかった」は第3ブロック（22.2%）で2割を超えている。

（図5-1-3）

図5-1-3 台東区内の世界遺産（世界文化遺産）の認知度—地区別



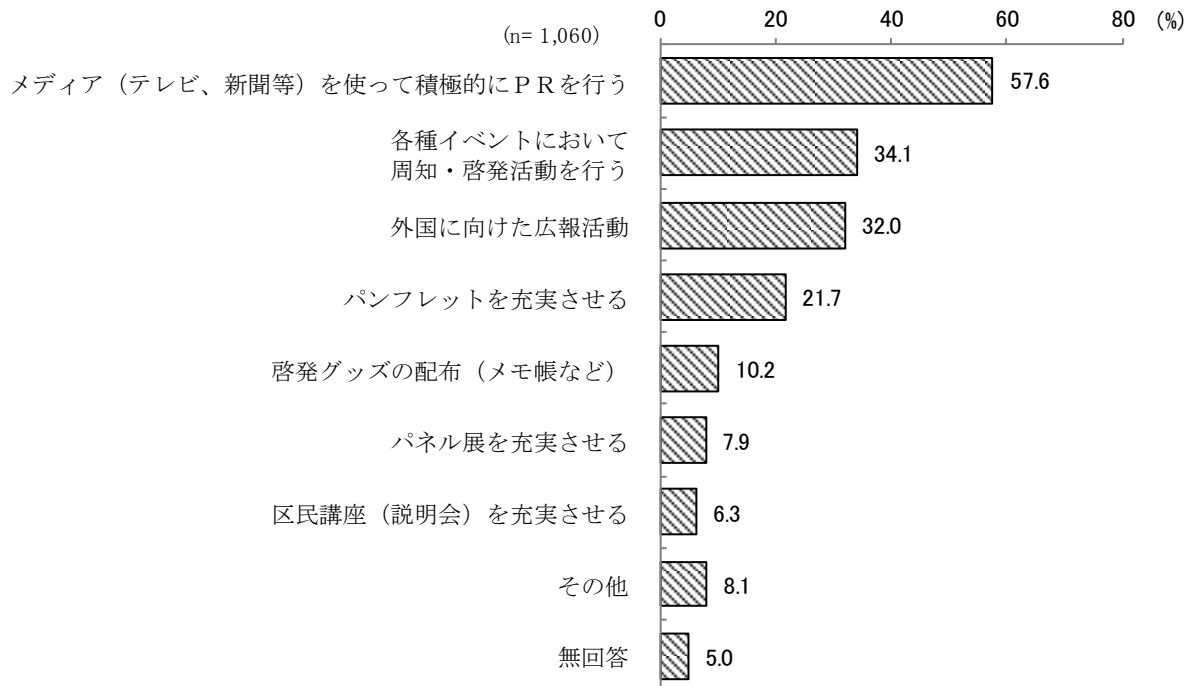
5-2 「世界遺産のあるまち 台東区」として必要な取り組み

「メディア（テレビ、新聞等）を使って積極的にPRを行う」が6割近く

問16 国立西洋美術館が東京初の世界文化遺産となったことから、区では、「世界遺産のあるまち 台東区」として、国際文化観光都市の魅力や素晴らしさを広く発信するための周知・啓発活動を行っています。今後、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(〇はいくつでも)

図5-2-1

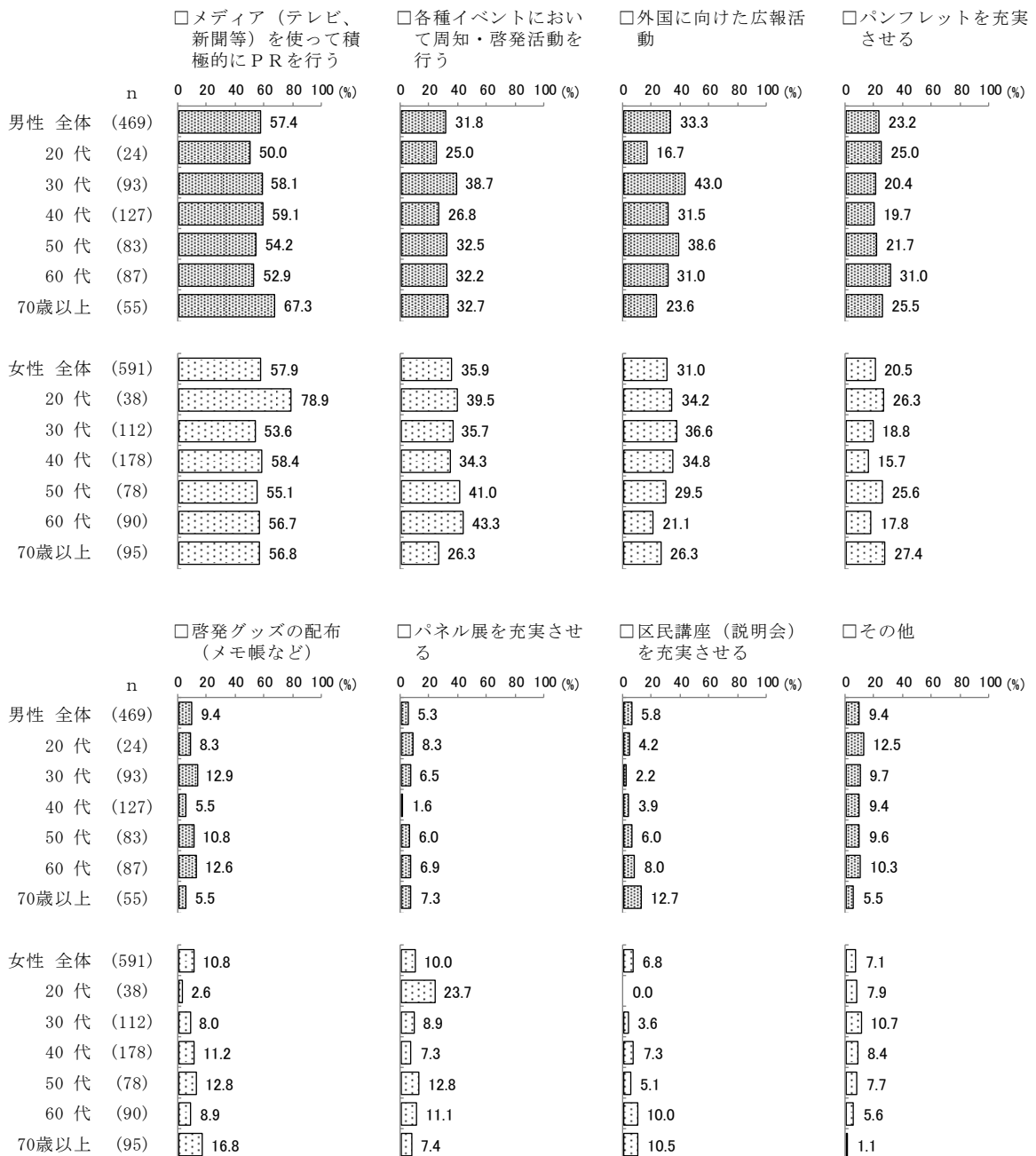


「世界遺産のあるまち 台東区」として必要な取り組みは、「メディア（テレビ、新聞等）を使って積極的にPRを行う」（57.6%）が6割近くと最も多く、次いで「各種イベントにおいて周知・啓発活動を行う」（34.1%）、「外国に向けた広報活動」（32.0%）、「パンフレットを充実させる」（21.7%）、「啓発グッズの配布（メモ帳など）」（10.2%）となっている。（図5-2-1）

性別で見ると、「各種イベントにおいて周知・啓発活動を行う」は女性（35.9%）が男性（31.8%）より4.1ポイント、「パネル展を充実させる」は女性（10.0%）が男性（5.3%）より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。

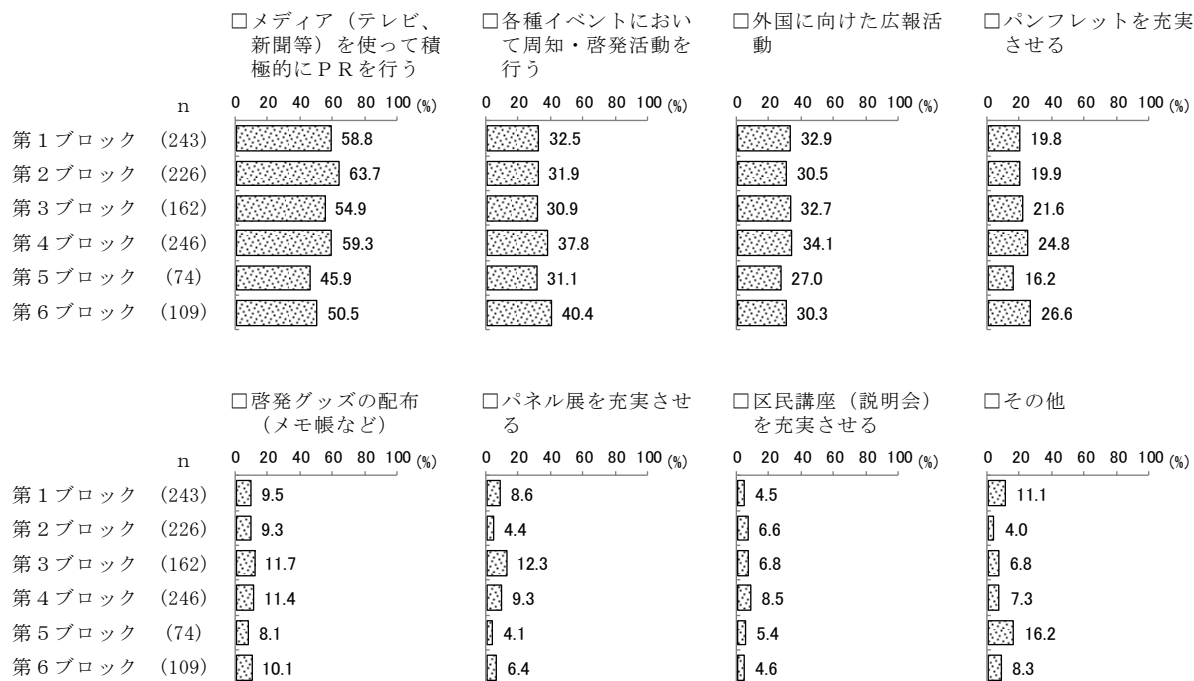
性・年代別で見ると、「メディア（テレビ、新聞等）を使って積極的にPRを行う」は女性20代（78.9%）で8割近く、男性70歳以上（67.3%）で7割近くとなっており、他の性・年代に比べて多くなっている。「各種イベントにおいて周知・啓発活動を行う」は女性50代（41.0%）と女性60代（43.3%）で4割を超え、「外国に向けた広報活動」は男性30代（43.0%）で4割を超え、「パンフレットを充実させる」は男性60代（31.0%）で3割を超えている。（図5-2-2）

図5-2-2 「世界遺産のあるまち 台東区」として必要な取り組み—性別、性・年代別



地区別にみると、「メディア（テレビ、新聞等）を使って積極的にPRを行う」は第2ブロック（63.7%）で6割を超えて多くなっている。「各種イベントにおいて周知・啓発活動を行う」は第6ブロック（40.4%）で4割、「外国に向けた広報活動」は第5ブロック（27.0%）を除く各ブロックで3割台となっている。（図5-2-3）

図5-2-3 「世界遺産のあるまち 台東区」として必要な取り組み—地区別

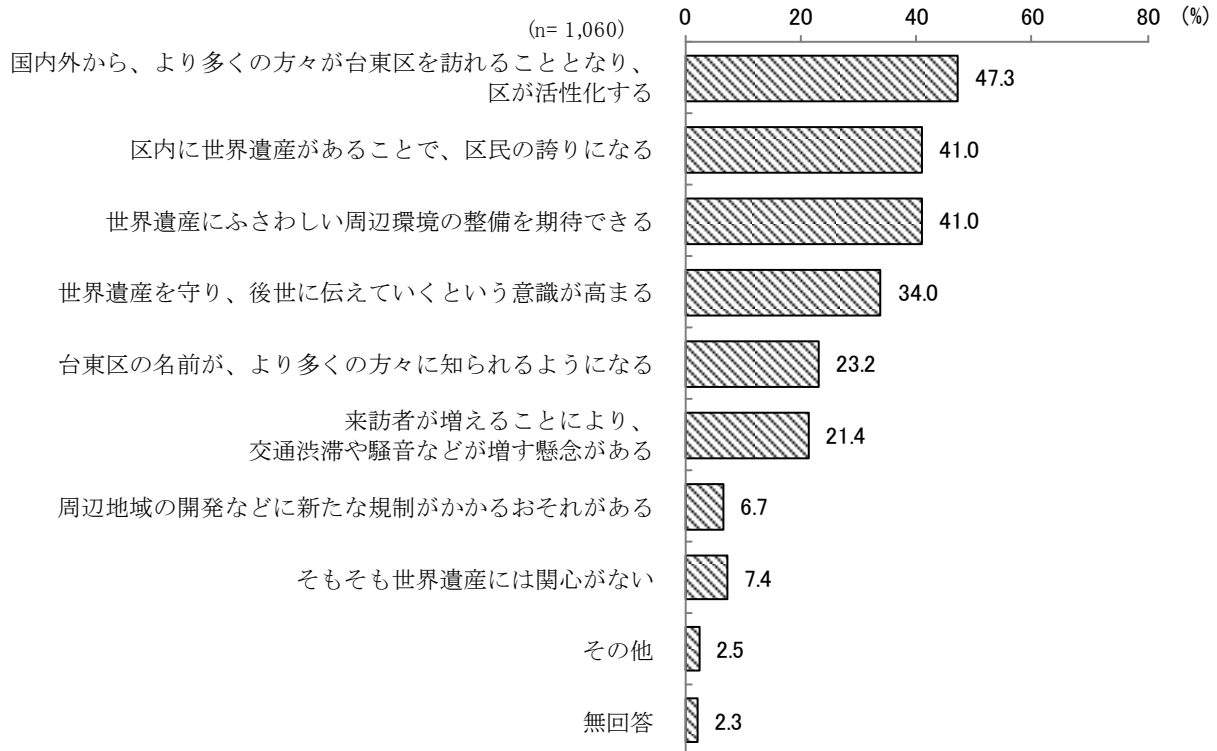


### 5-3 世界遺産（世界文化遺産）誕生による影響

「国内外から、より多くの方々が台東区を訪れることとなり、区が活性化する」が5割近く

問17 区内に世界遺産（世界文化遺産）が誕生したことにより、どのような影響があると思いますか。（〇はいくつでも）

図5-3-1



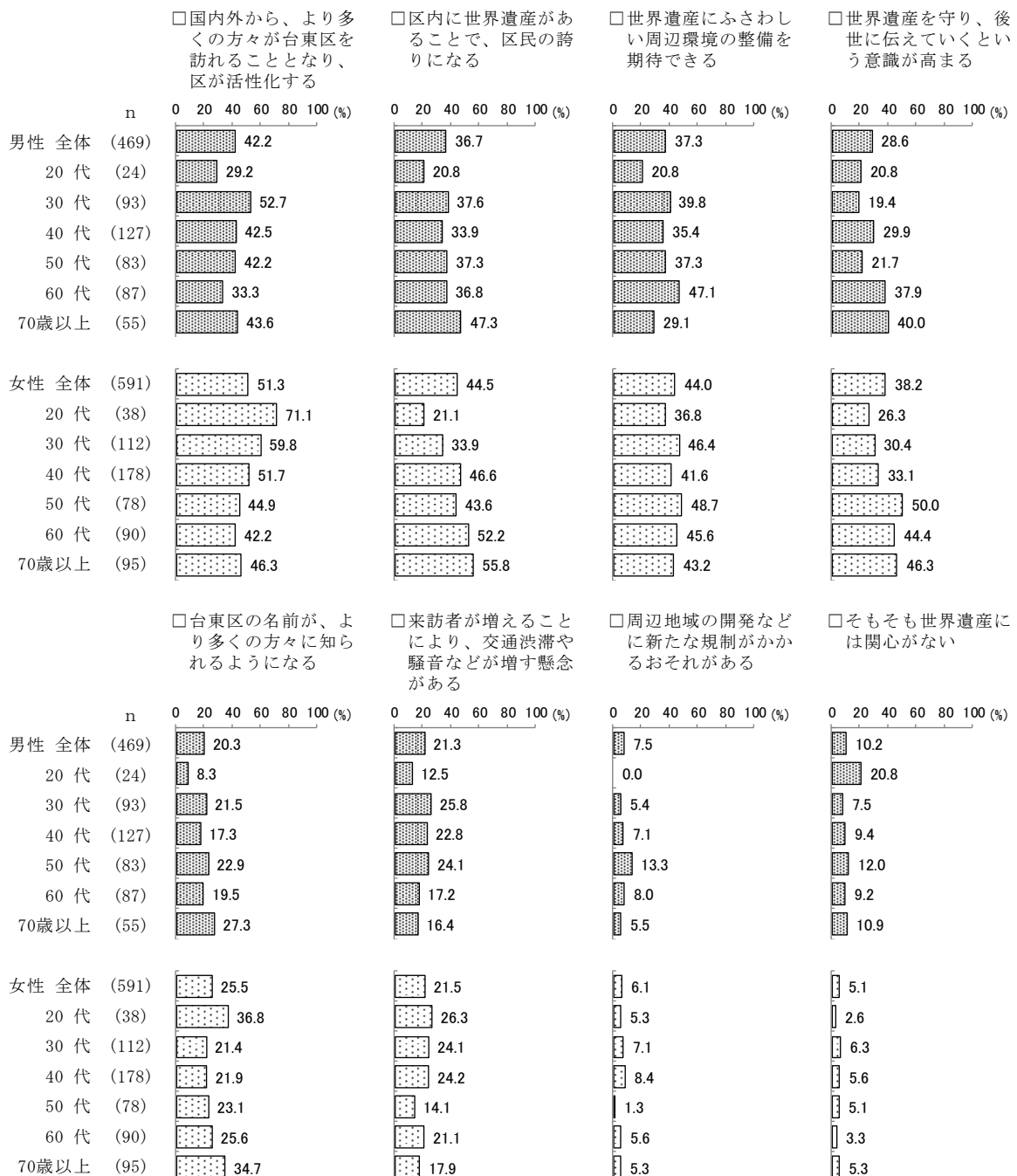
世界遺産（世界文化遺産）誕生による影響は、「国内外から、より多くの方々が台東区を訪れることとなり、区が活性化する」（47.3%）が5割近くと最も多く、次いで「区内に世界遺産があることで、区民の誇りになる」（41.0%）と「世界遺産にふさわしい周辺環境の整備を期待できる」（41.0%）が同数、「世界遺産を守り、後世に伝えていくという意識が高まる」（34.0%）、「台東区の名前が、より多くの方々に知られるようになる」（23.2%）、「来訪者が増えることにより、交通渋滞や騒音などが増す懸念がある」（21.4%）となっている。（図5-3-1）。



性別で見ると、「国内外から、より多くの方々が台東区を訪れることとなり、区が活性化する」は女性（51.3%）が男性（42.2%）より9.1ポイント、「世界遺産を守り、後世に伝えていくという意識が高まる」は女性（38.2%）が男性（28.6%）より9.6ポイント、それぞれ高くなっている。

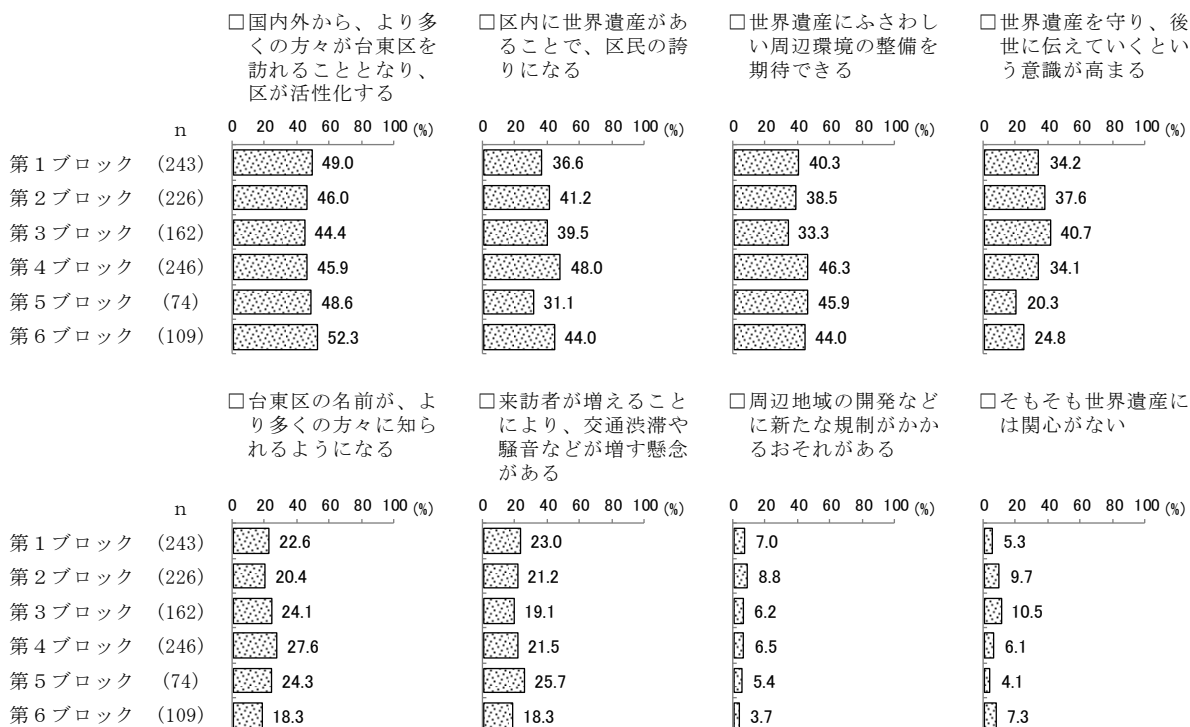
性・年代別で見ると、「国内外から、より多くの方々が台東区を訪れることとなり、区が活性化する」は女性20代（71.1%）で7割を超えて多くなっている。「区内に世界遺産があることで、区民の誇りになる」は女性60代（52.2%）と女性70歳以上（55.8%）で5割台、「世界遺産にふさわしい周辺環境の整備を期待できる」は男性60代（47.1%）と女性20代（36.8%）を除く女性の各年代において4割台となっている。（図5-3-2）

図5-3-2 世界遺産（世界文化遺産）誕生による影響  
一性別、性・年代別（その他を除く）



地区別にみると、「国内外から、より多くの方々が台東区を訪れることとなり、区が活性化する」は第6ブロック（52.3%）で5割を超えて多くなっている。「区内に世界遺産があることで、区民の誇りになる」は第2ブロック（41.2%）、第4ブロック（48.0%）、第6ブロック（44.0%）で4割台、「世界遺産にふさわしい周辺環境の整備を期待できる」は第4ブロック（46.3%）、第5ブロック（45.9%）、第6ブロック（44.0%）で4割半ば、「世界遺産を守り、後世に伝えていくという意識が高まる」は第3ブロック（40.7%）でほぼ4割となっている。（図5-3-3）

図5-3-3 世界遺産（世界文化遺産）誕生による影響  
—地区別（その他を除く）



## 6. 災害対策

東日本大震災後も、熊本地震や関東・東北豪雨などの災害が発生しており、災害に対する日頃からの備えの大切さも、改めて感じておられると思います。そこで、災害や防災に関して、皆様の率直なご意見やご考えをお伺いいたしました。

避難の方法の認知度が4割半ば、防災訓練参加者が5割半ば、地震に対する備えとしてご家庭で備蓄を行っている方がほぼ6割という結果が出ております。

今後、公助として、避難方法の周知や防災訓練の実施、ご家庭での3日分以上の備蓄の必要性を啓発してまいりますので、区民の皆様には、自助として防災への備えについても、さらにご協力をお願いいたします。この調査結果を充分踏まえ、防災力の向上を推進してまいります。

(危機管理室 危機・災害対策課)

## 6-1 避難の方法の認知度

【避難の方法（順序）の認知度】は4割半ば、【一時集合場所の認知度】は5割半ば、【避難所の認知度】は4割半ば、【避難場所の認知度】はほぼ5割

震災が発生し、避難する必要がある場合に備えて、区では、「一時（いつとき）集合場所」「避難所」、都では「避難場所」を指定するとともに、避難の方法を次のとおり定め、『広報たいとう』や『防災地図』などにより周知に努めています。

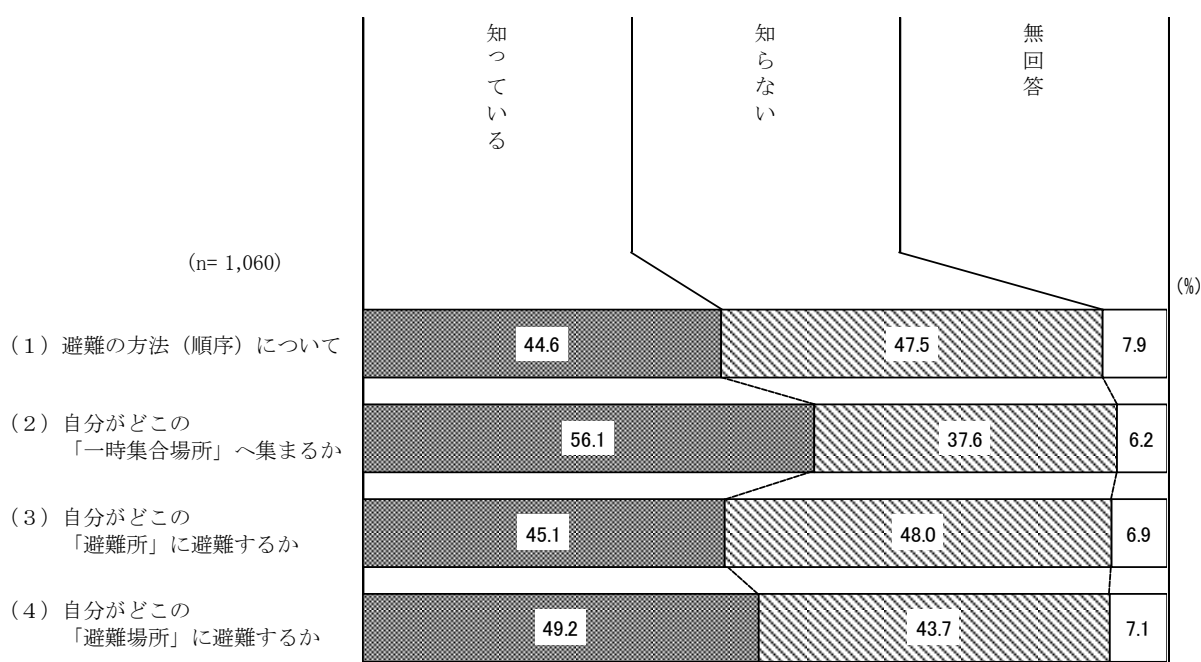
### 「避難方法」

- ① 自宅（被災現場）から「一時集合場所」に集まります。
- ② 一時集合場所から集団で、被災状況により「避難所」または「避難場所」へ避難します。（自宅が安全な場合は自宅に帰ります。）
- ③ 「避難所」が延焼している場合は、「避難場所」へ避難します。

問 18 下記の（1）～（4）にあげる避難の方法について、あなたをご存知ですか。

（○はそれぞれ1つつつ）

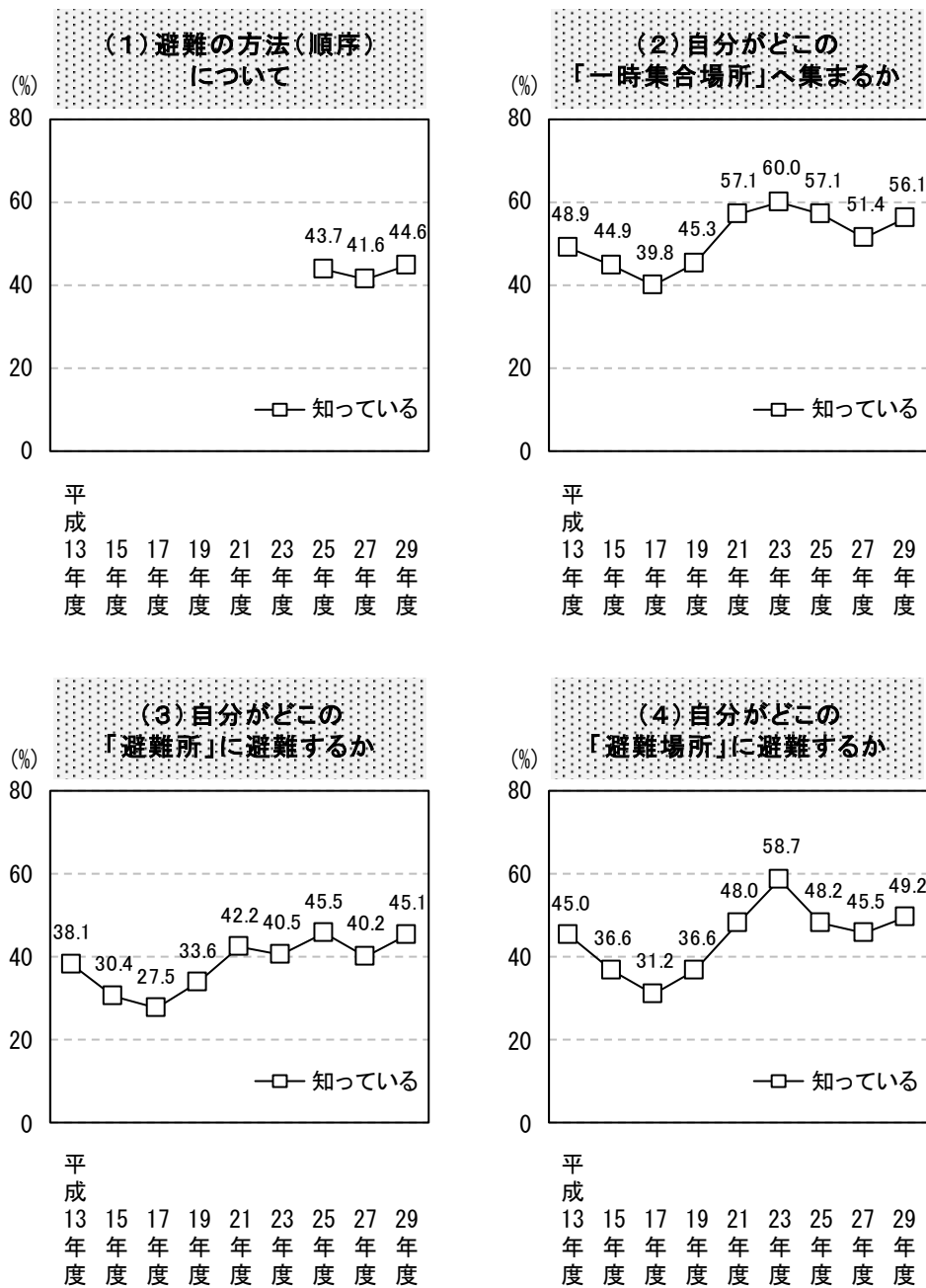
図 6-1-1



避難の方法の認知度は、【避難の方法（順序）について】（以下、文章中では【避難順序】という。）「知っている」（44.6%）は4割半ばとなっている。また、【自分がどこの「一時集合場所」へ集まるか】（以下、文章中では【一時集合場所】という。）「知っている」（56.1%）は5割半ば、【自分がどこの「避難所」に避難するか】（以下、文章中では【避難所】という。）「知っている」（45.1%）は4割半ば、【自分がどこの「避難場所」に避難するか】（以下、文章中では【避難場所】という。）「知っている」（49.2%）はほぼ5割となっている。（図6-1-1）

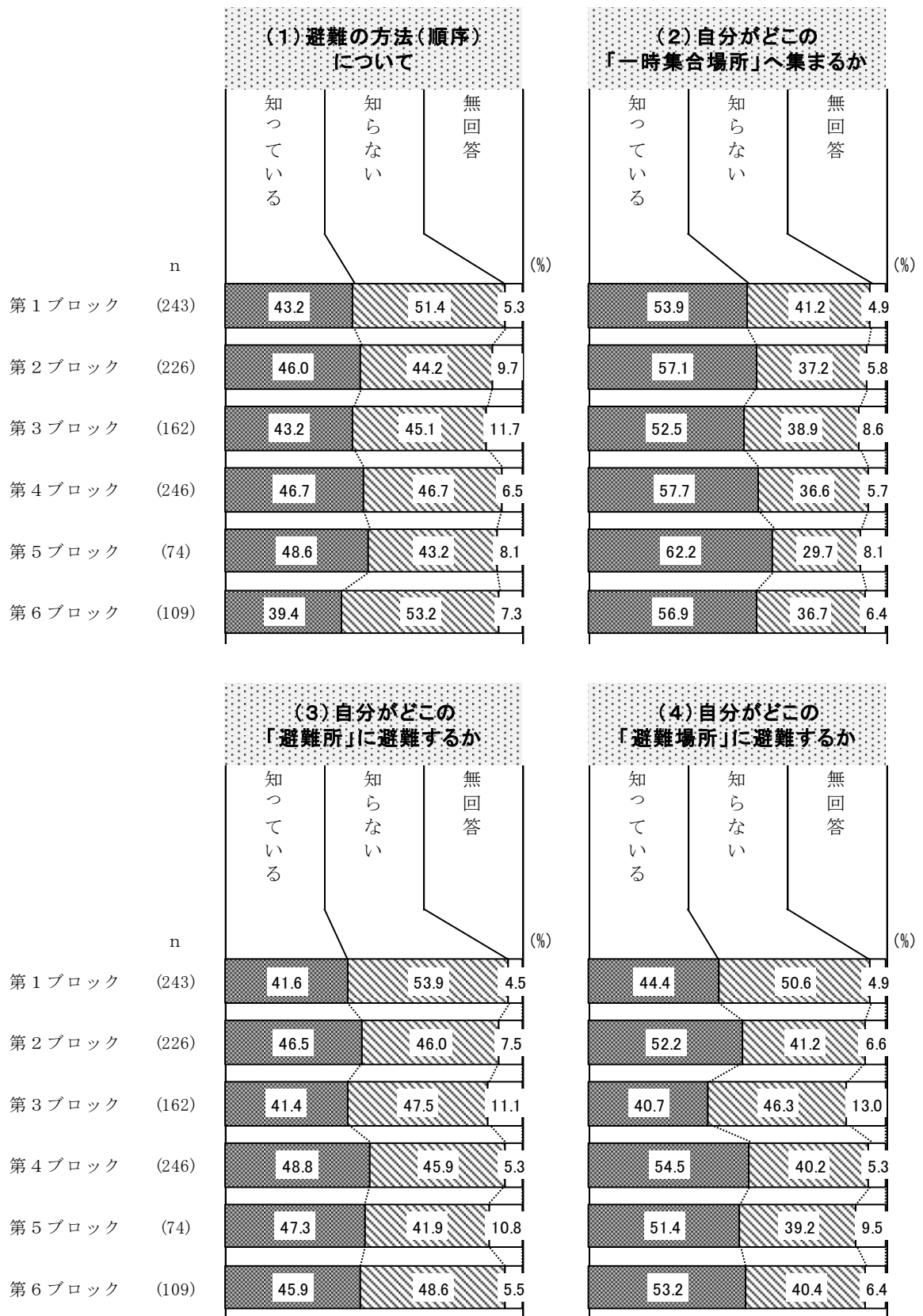
避難の方法の認知度の推移をみると、「知っている」は【避難順序】は3.0ポイント、【一時集合場所】は4.7ポイント、【避難所】は4.9ポイント、【避難場所】は3.7ポイント、平成27年度から各項目とも高くなっている。(図6-1-2)

図6-1-2 避難の方法の認知度－推移



地区別でみると、各項目の「知っている」は、【避難順序】と【一時集合場所】は第5ブロックが最も多く、【避難所】と【避難場所】は第4ブロックが最も多くなっている。(図6-1-3)

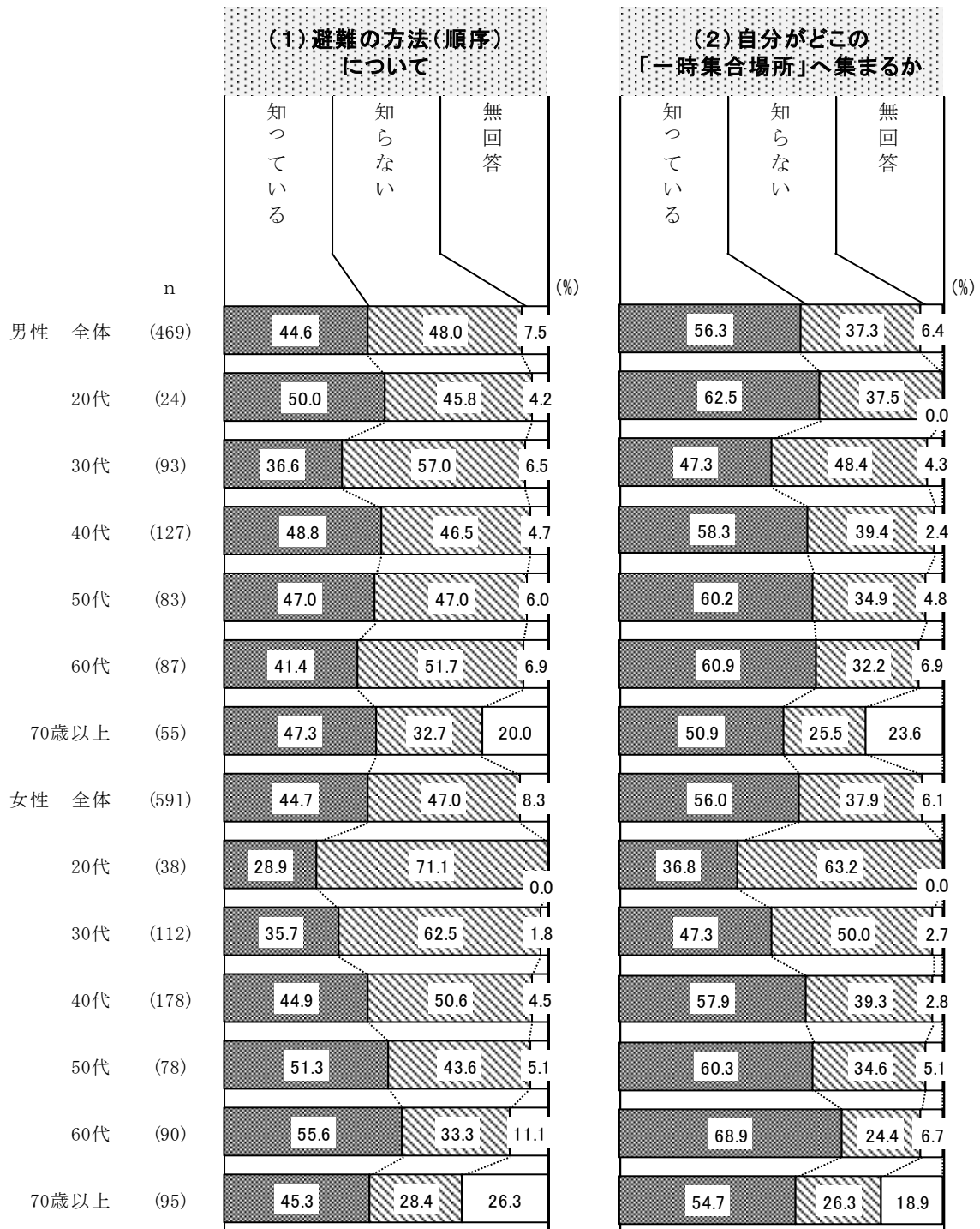
図6-1-3 避難の方法の認知度—地区別



性別で見ると、【避難順序】と【一時集合場所】の「知っている」について、大きな男女差は見られない。

性・年代別で見ると、「知っている」は【避難順序】では女性60代（55.6%）で5割半ばと最も多く、女性20代（28.9%）で3割近くと最も少なくなっている。【一時集合場所】でも同様に、女性60代（68.9%）で7割近くと最も多く、女性20代（36.8%）で4割近くと最も少なくなっている。（図6-1-4）

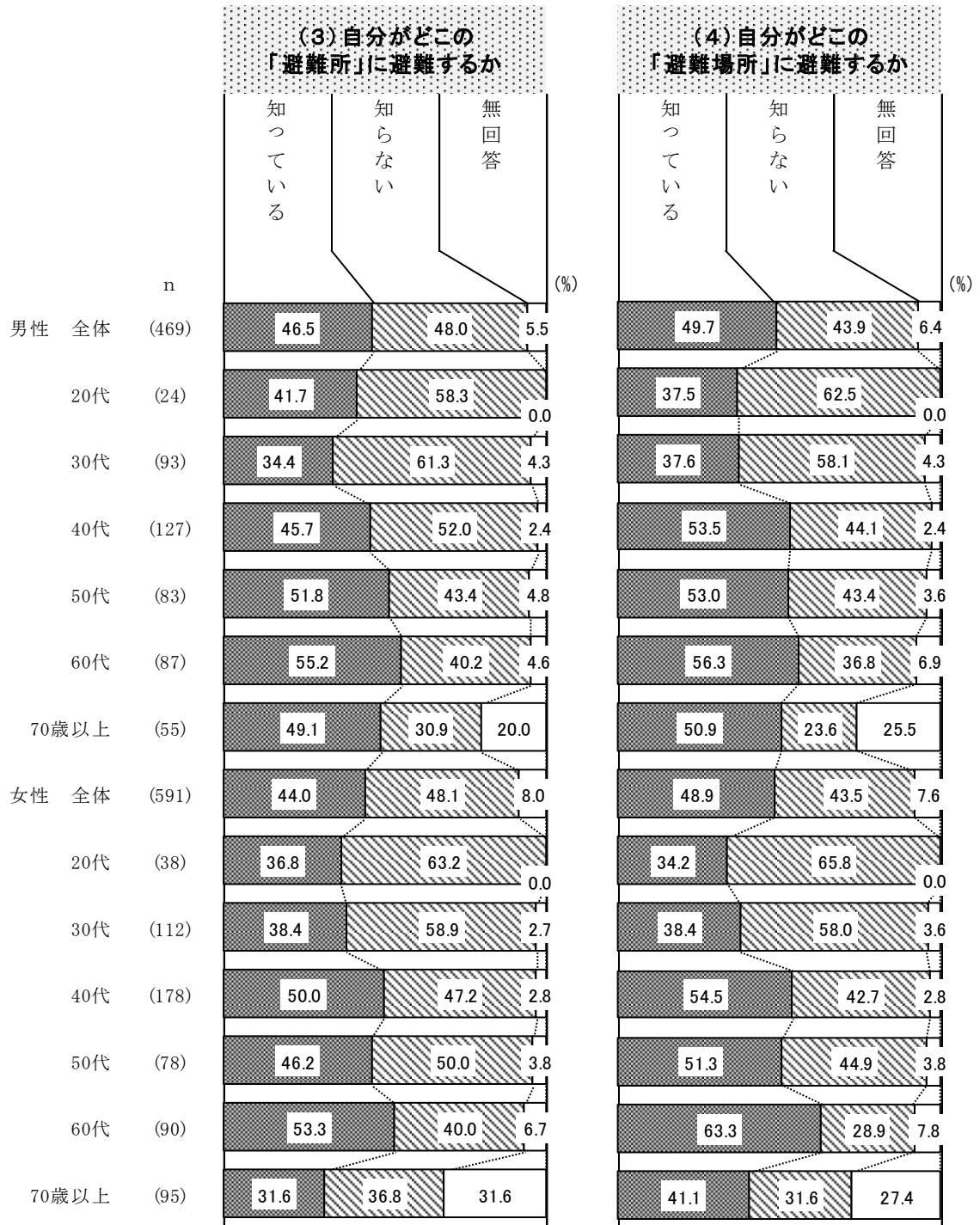
図6-1-4 避難の方法の認知度【避難順序】【一時集合場所】-性別、性・年代別



性別で見ると、【避難所】と【避難場所】の「知っている」について、大きな男女差は見られない。

性・年代別で見ると、「知っている」は【避難所】では男性60代（55.2%）が5割半ばと最も多くなっている。一方、最も少ないのは女性70歳以上（31.6%）となっている。【避難場所】では女性60代（63.3%）が6割を超えて最も多く、女性20代（34.2%）は3割半ばと最も少なくなっている。（図6-1-5）

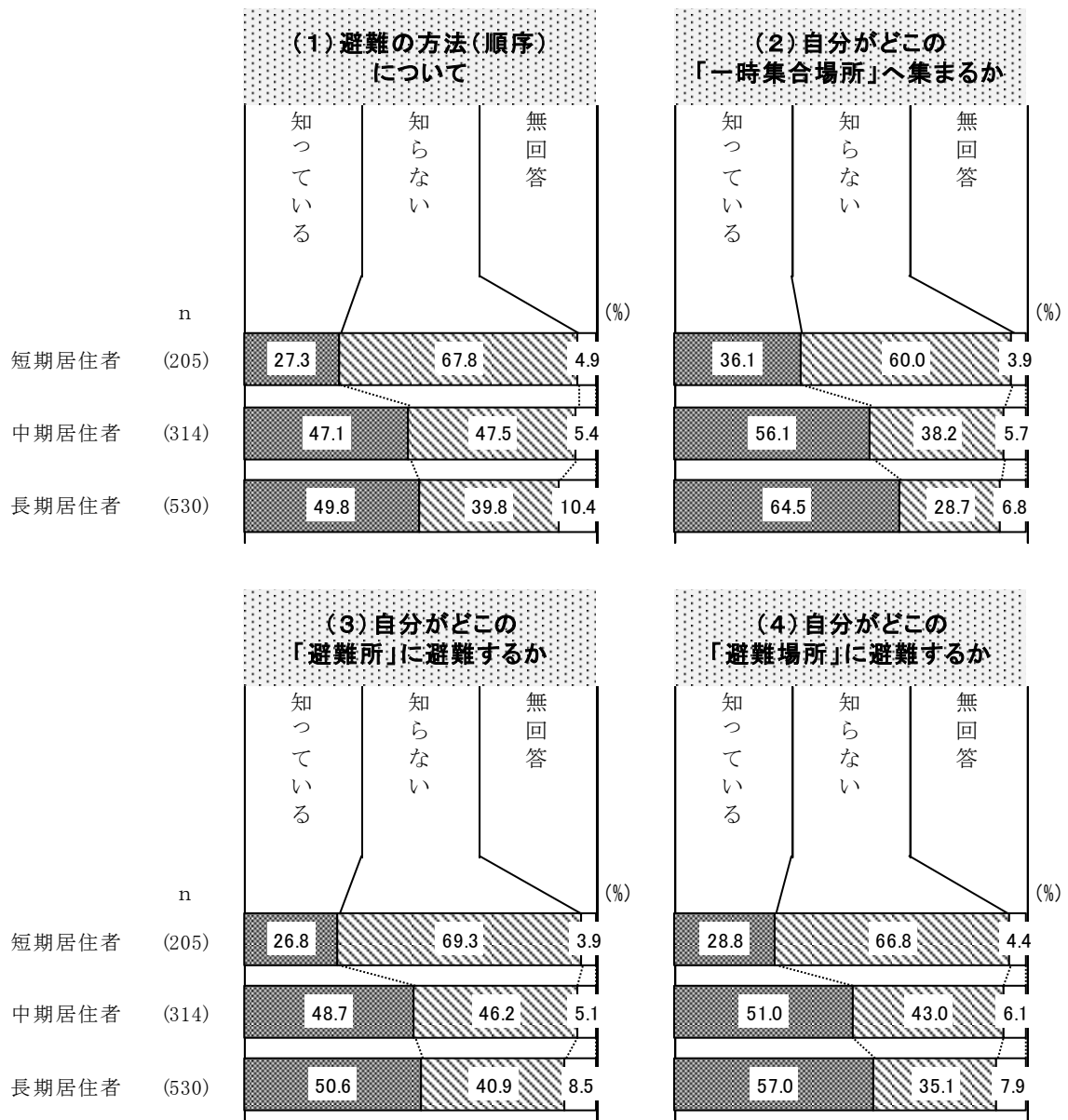
図6-1-5 避難の方法の認知度【避難所】【避難場所】—性別、性・年代別





居住年数別でみると、【避難順序】では「知っている」は長期居住者（49.8%）で5割となっているが、短期居住者（27.3%）で3割近くとなっている。【一時集合場所】では「知っている」は長期居住者（64.5%）で6割半ばとなっているが、短期居住者（36.1%）で3割半ばとなっている。【避難所】では「知っている」は長期居住者（50.6%）でほぼ5割となっているが、短期居住者（26.8%）で3割近くとなっている。【避難場所】では「知っている」は長期居住者（57.0%）で6割近くとなっているが、短期居住者（28.8%）で3割近くとなっている。（図6-1-6）

図6-1-6 避難の方法の認知度－居住年数別

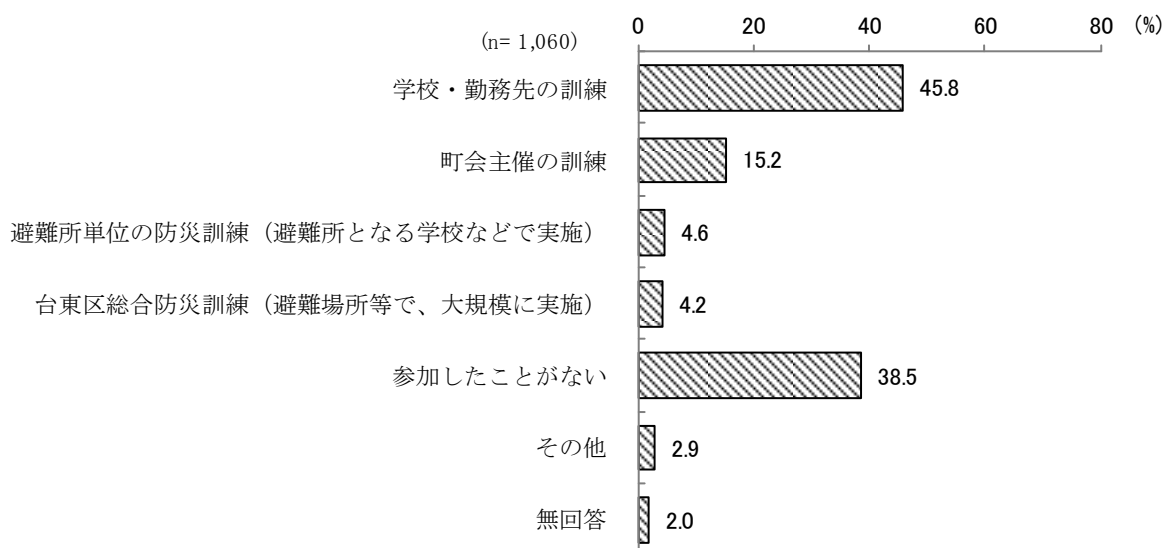


## 6-2 参加したことがある防災訓練

「学校・勤務先の訓練」が4割半ば、一方「参加したことがない」が4割近く

問19 今までに参加したことがある防災訓練は何ですか。(〇はいくつでも)

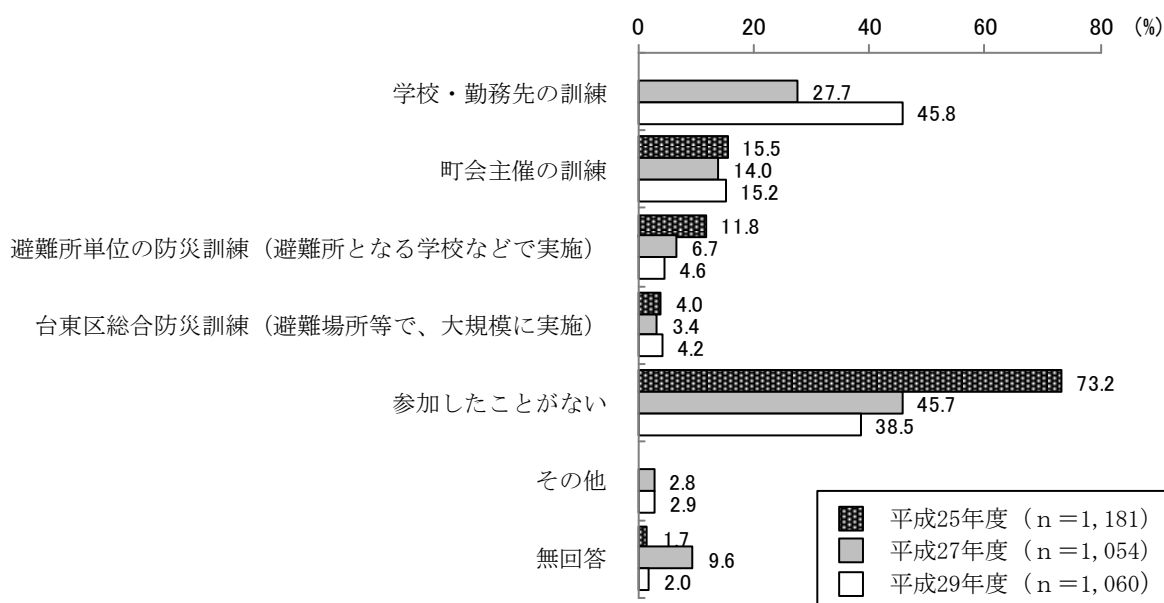
図6-2-1



参加したことがある防災訓練は、「学校・勤務先の訓練」(45.8%)が4割半ばで最も多く、次いで「町会主催の訓練」(15.2%)、「避難所単位の防災訓練(避難所となる学校などで実施)」(4.6%)となっている。一方、「参加したことがない」(38.5%)は4割近くとなっている。(図6-2-1)

推移をみると、平成27年度から「学校・勤務先の訓練」が18.1ポイント高く、「参加したことがない」が7.2ポイント低くなっている。(図6-2-2)

図6-2-2 参加したことがある防災訓練—推移

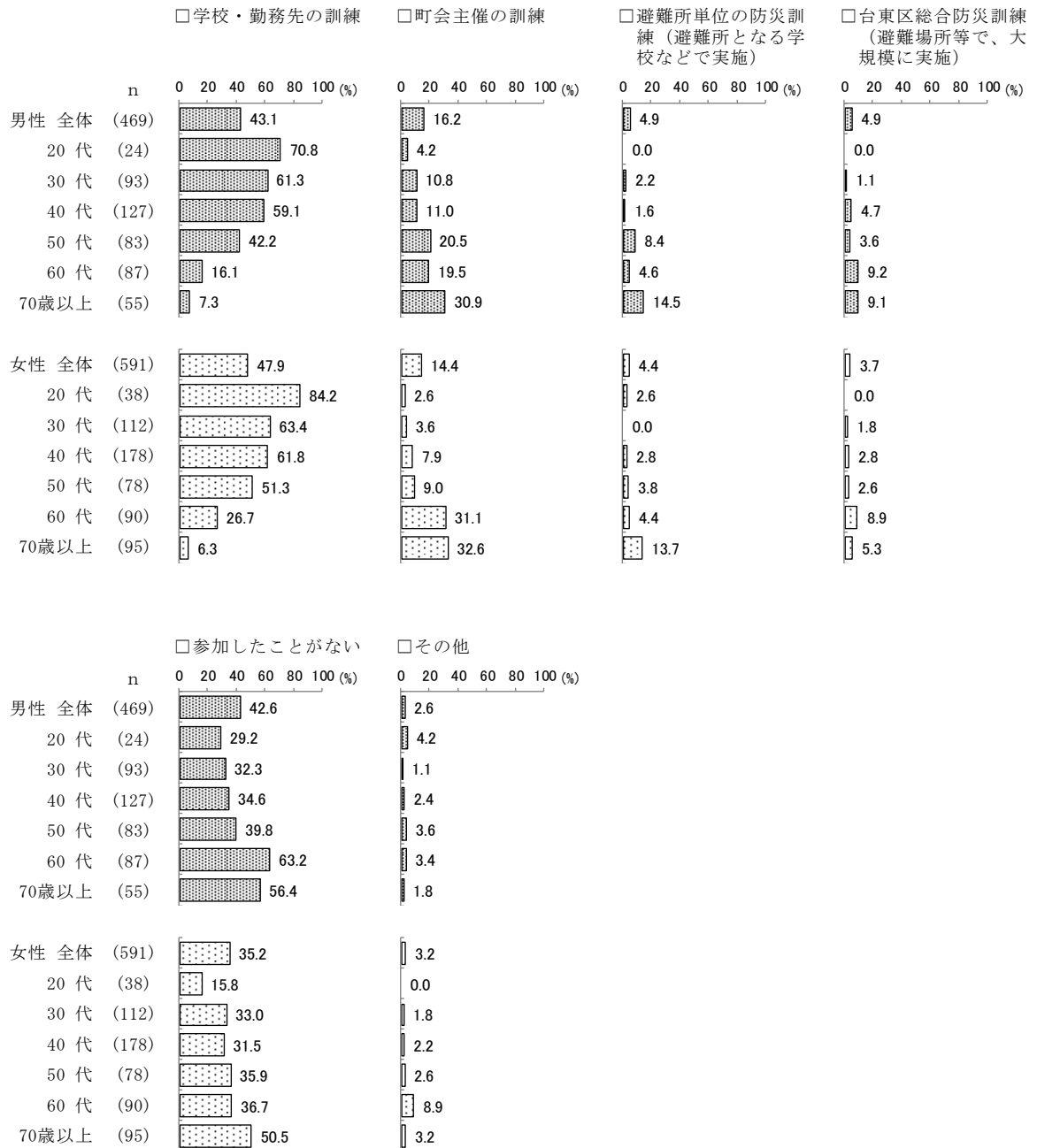


※「学校・勤務先の訓練」は平成25年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「学校・勤務先の訓練」は女性（47.9%）が男性（43.1%）より4.8ポイント高くなっている。「参加したことがない」は男性（42.6%）が女性（35.2%）より7.4ポイント高くなっている。

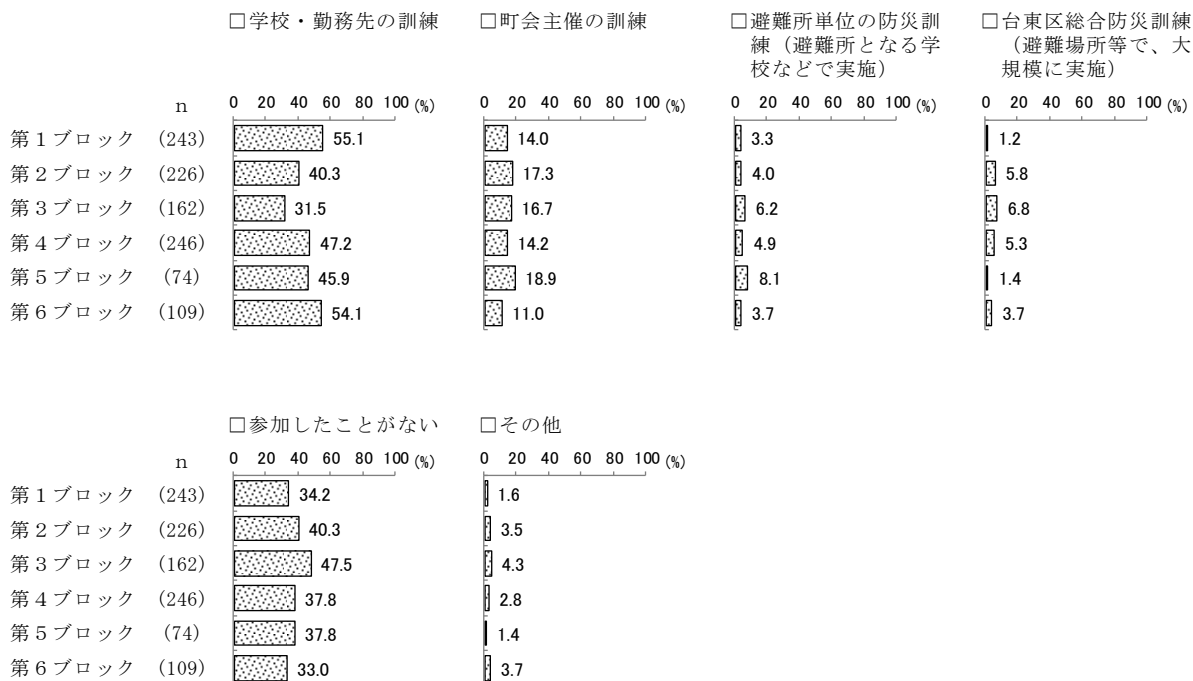
性・年代別で見ると、「学校・勤務先の訓練」は男女ともに年代が高くなるほど少なくなっており、「町会主催の訓練」は男女ともに年代が高くなるほど多くなっている。「参加したことがない」は男性60代（63.2%）で6割を超えて最も多く、次いで男性70歳以上（56.4%）、女性70歳以上（50.5%）となっている。（図6-2-3）

図6-2-3 参加したことがある防災訓練—性別、性・年代別



地区別でみると、「学校・勤務先の訓練」は第1ブロック（55.1%）で5割半ばと最も多く、次いで第6ブロック（54.1%）となっている。また、「町会主催の訓練」は第5ブロック（18.9%）で2割近くと最も多くなっている。一方、「参加したことがない」は第3ブロック（47.5%）で5割近くと最も多く、最も少ないのは、第6ブロック（33.0%）となっている。（図6-2-4）

図6-2-4 参加したことがある防災訓練—地区別

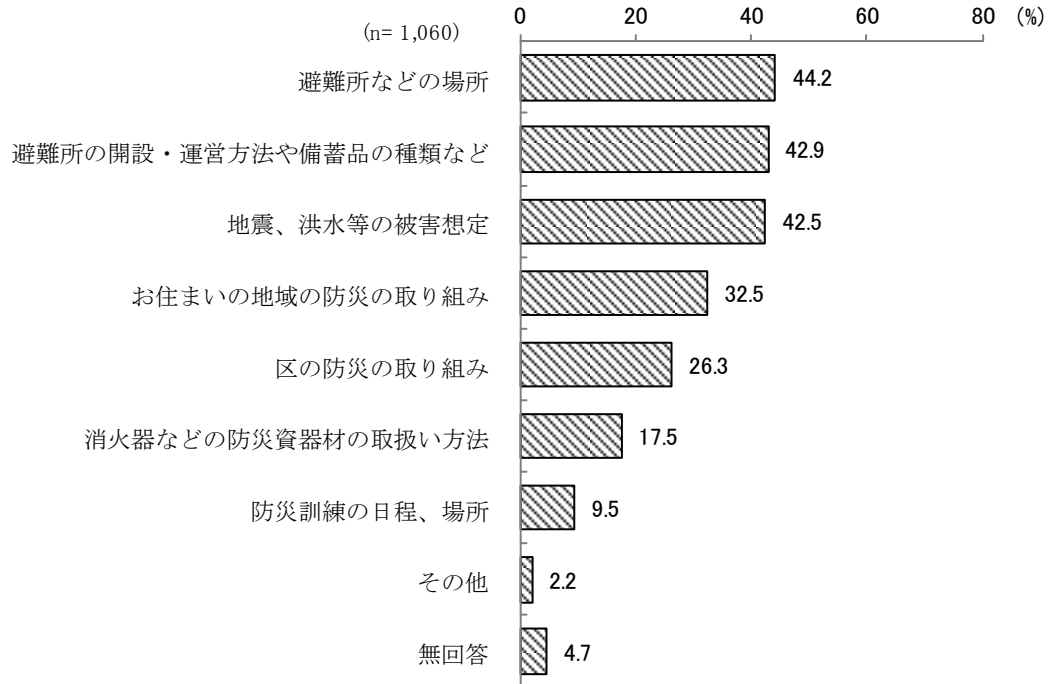


### 6-3 防災に対して知りたい情報

「避難所などの場所」が4割半ば

問 20 日頃、防災に対して、どのような情報を知りたいですか。(〇はいくつでも)

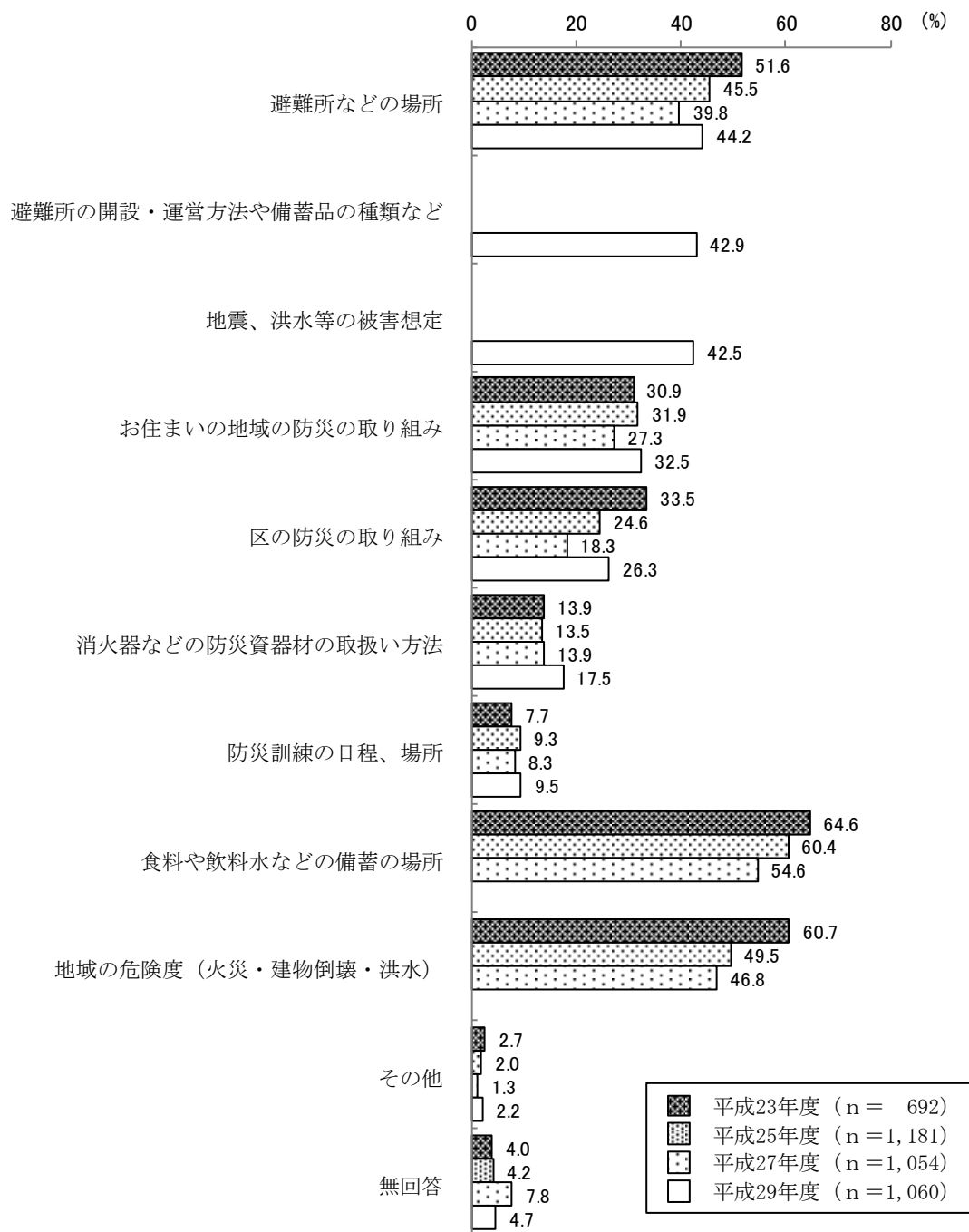
図 6-3-1



防災に対して知りたい情報は、「避難所などの場所」(44.2%)が4割半ばと最も多く、次いで「避難所の開設・運営方法や備蓄品の種類など」(42.9%)、「地震、洪水等の被害想定」(42.5%)、「お住まいの地域の防災の取り組み」(32.5%)となっている。(図6-3-1)

推移をみると、過年度調査とは選択肢が異なるため単純に比較することができないが、平成 27 年度から「避難所などの場所」が 4.4 ポイント、「お住まいの地域の防災の取り組み」が 5.2 ポイント、「区の防災の取り組み」が 8.0 ポイント、「消火器などの防災資器材の取扱い方法」が 3.6 ポイント、それぞれ高くなっている。(図 6-3-2)

図 6-3-2 防災に対して知りたい情報—推移



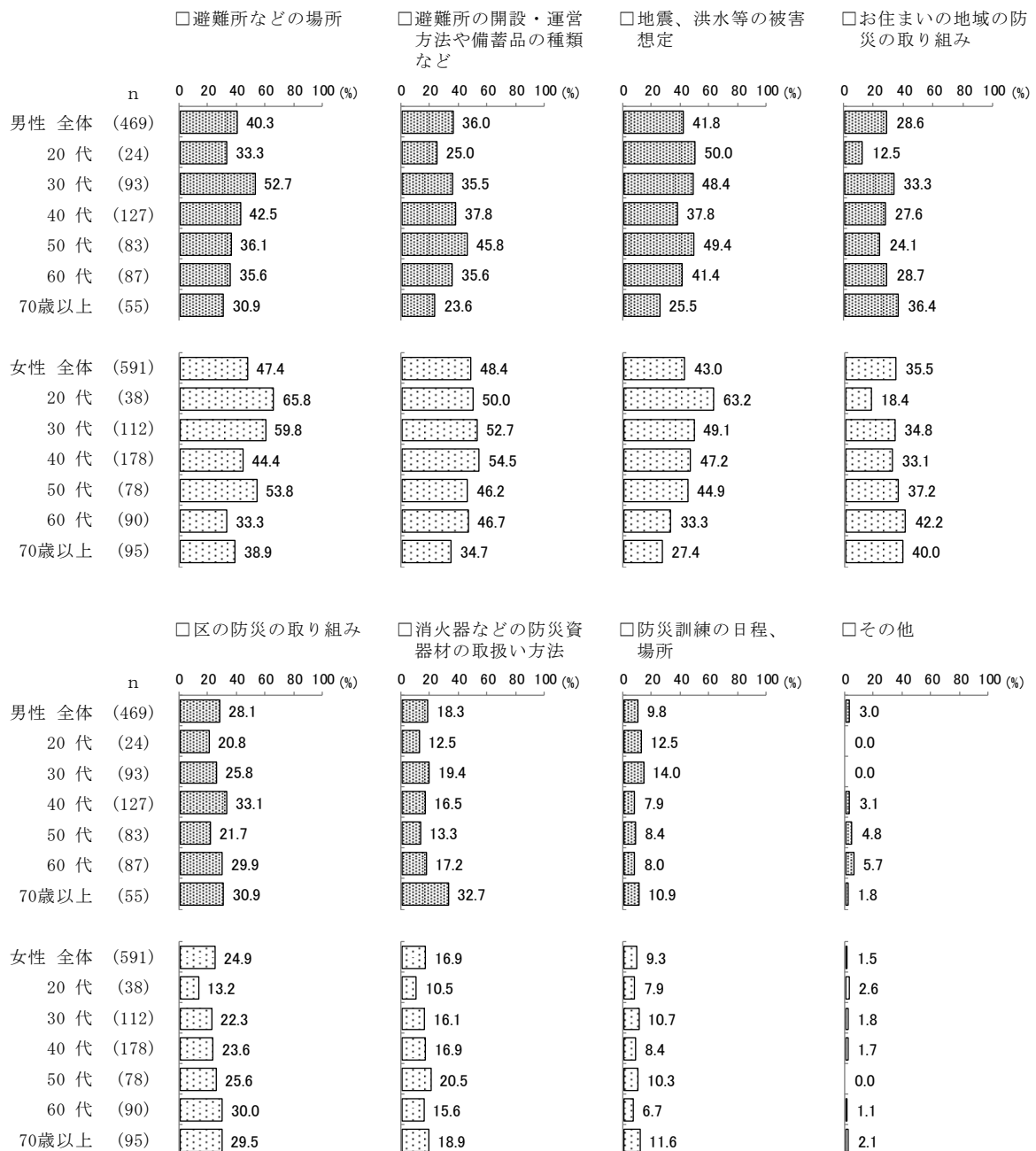
※「避難所の開設・運営方法や備蓄品の種類など」、「地震、洪水等の被害想定」は平成 23, 25, 27 年度調査には無い選択肢である。

※「食料や飲料水などの備蓄の場所」、「地域の危険度（火災・建物倒壊・洪水）」は平成 29 年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「避難所の開設・運営方法や備蓄品の種類など」は女性（48.4%）が男性（36.0%）より12.4ポイント高くなっている。「避難所などの場所」は女性（47.4%）が男性（40.3%）より7.1ポイント、「お住まいの地域の防災の取り組み」は女性（35.5%）が男性（28.6%）より6.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、「避難所などの場所」は女性20代（65.8%）で6割半ばと最も多くなっている。「避難所の開設・運営方法や備蓄品の種類など」は女性20代（50.0%）、女性30代（52.7%）、女性40代（54.5%）で5割台、「地震、洪水等の被害想定」は女性20代（63.2%）で6割を超えて多くなっている。（図6-3-3）

図6-3-3 防災に対して知りたい情報－性別、性・年代別

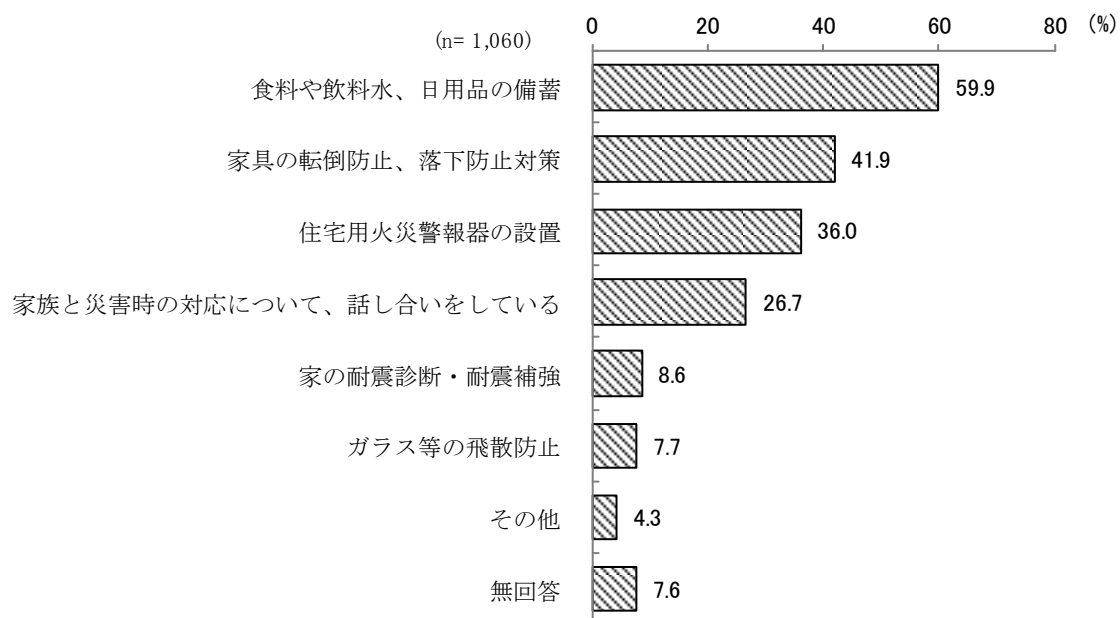


## 6-4 災害等に対する備え

「食料や飲料水、日用品の備蓄」が6割

問21 日頃、災害等に備えて、どのような対策をしていますか。(〇はいくつでも)

図6-4-1

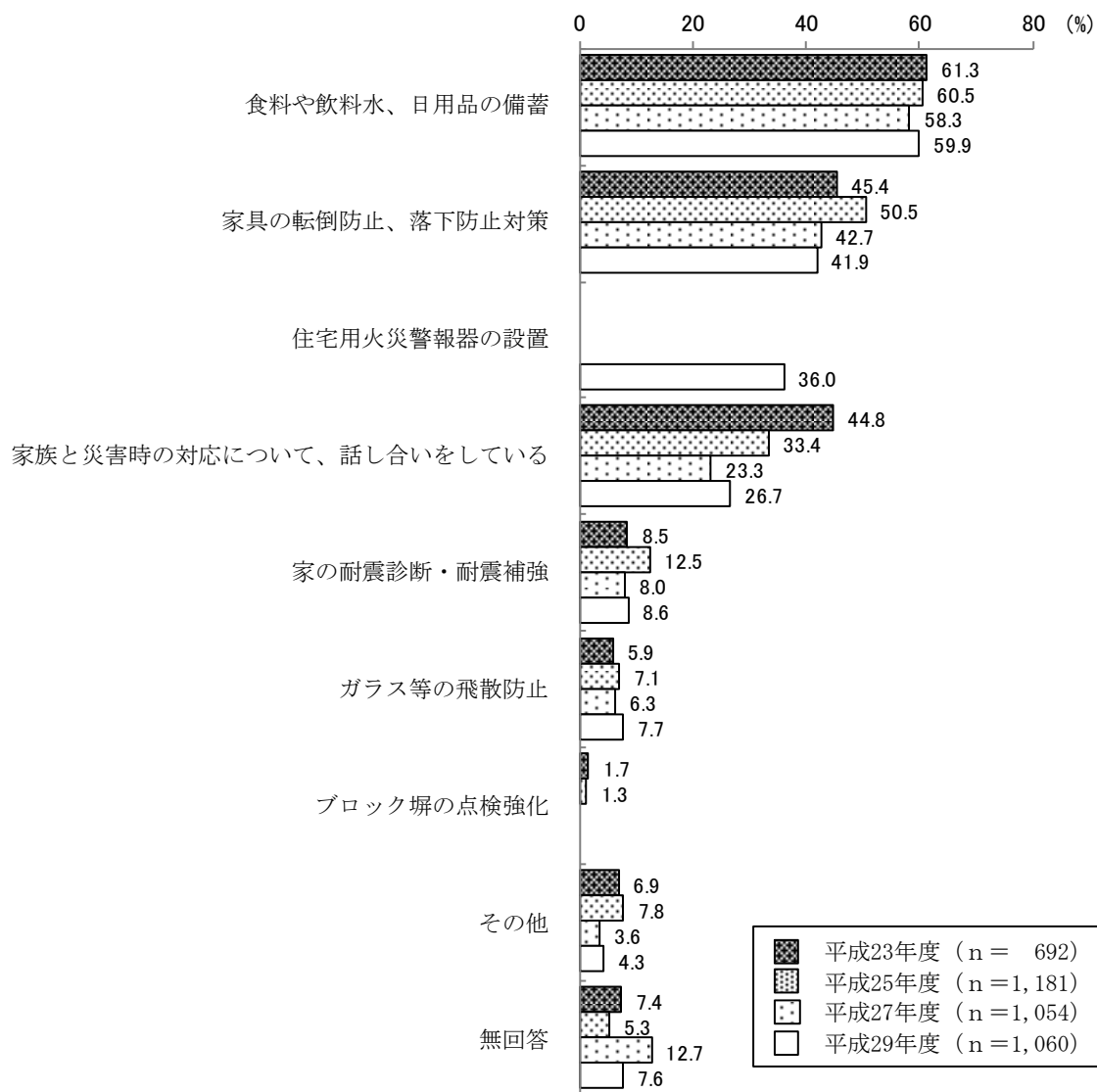


災害等に対する備えは、「食料や飲料水、日用品の備蓄」(59.9%)が6割と最も多く、次いで「家具の転倒防止、落下防止対策」(41.9%)、「住宅用火災警報器の設置」(36.0%)、「家族と災害時の対応について、話し合いをしている」(26.7%)となっている。(図6-4-1)



推移をみると、過年度調査とは選択肢が異なるため単純に比較することができないが、平成 27 年度から「食料や飲料水、日用品の備蓄」が 1.6 ポイント、「家族と災害時の対応について、話し合いをしている」が 3.4 ポイント、それぞれ高くなっている。(図 6-4-2)

図 6-4-2 災害等に対する備え—推移



※ 「住宅用火災警報器の設置」は平成 23, 25, 27 年度調査には無い選択肢である。

※ 「ブロック塀の点検強化」は平成 27, 29 年度調査には無い選択肢である。

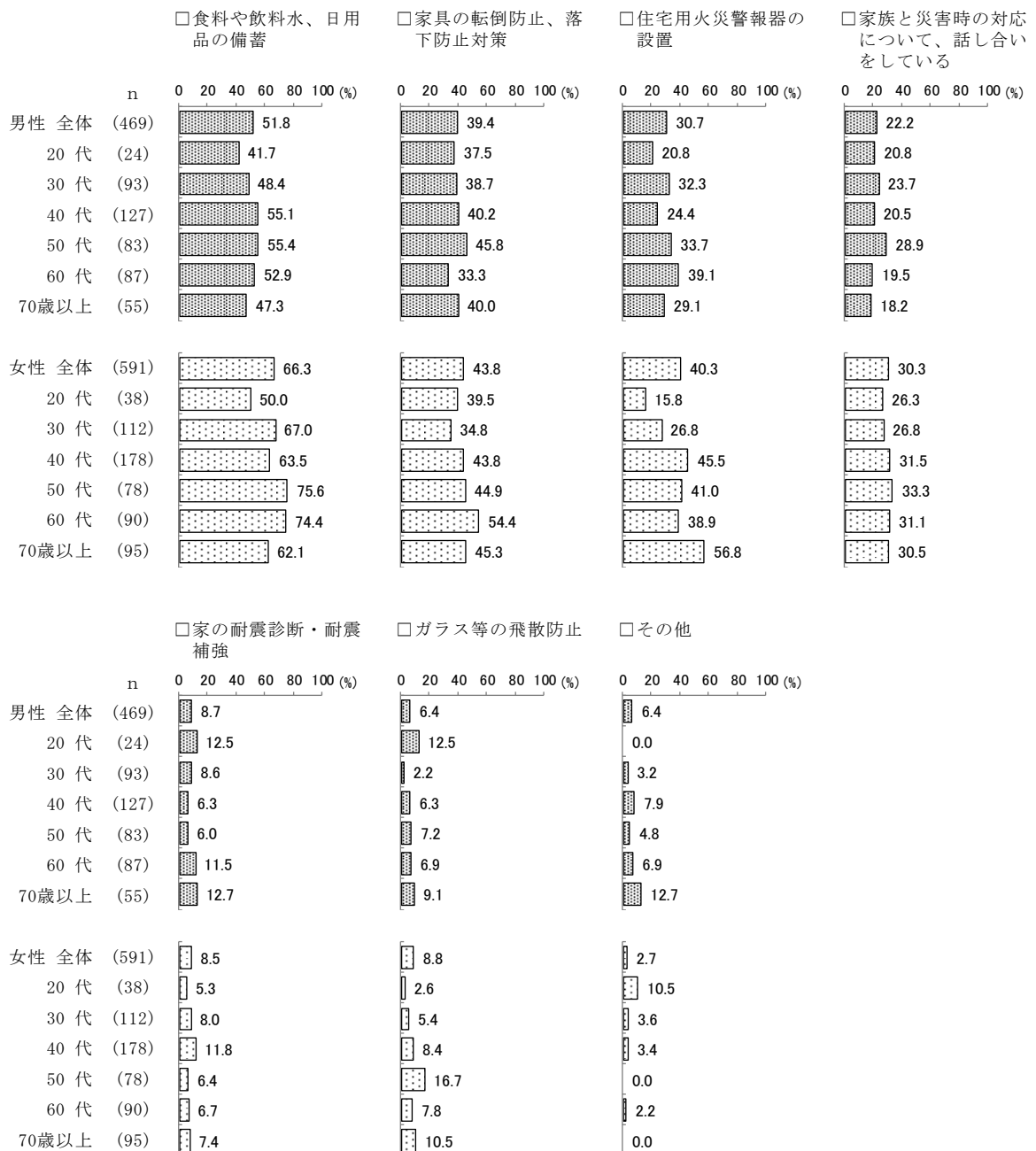
※ 「家の耐震診断・耐震補強」は平成 25 年度調査では「家の耐震診断」と「家の耐震補強」に分かれていたため、合算値とした。

性別で見ると、「食料や飲料水、日用品の備蓄」は女性（66.3%）が男性（51.8%）より14.5ポイント、「住宅用火災警報器の設置」は女性（40.3%）が男性（30.7%）より9.6ポイント、「家族と災害時の対応について、話し合いをしている」は女性（30.3%）が男性（22.2%）より8.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると「食料や飲料水、日用品の備蓄」は女性50代（75.6%）と女性60代（74.4%）で7割半ばと最も多くなっている。「家具の転倒防止、落下防止対策」は女性60代（54.4%）で5割半ば、「住宅用火災警報器の設置」は女性70歳以上（56.8%）で6割近くとなっている。

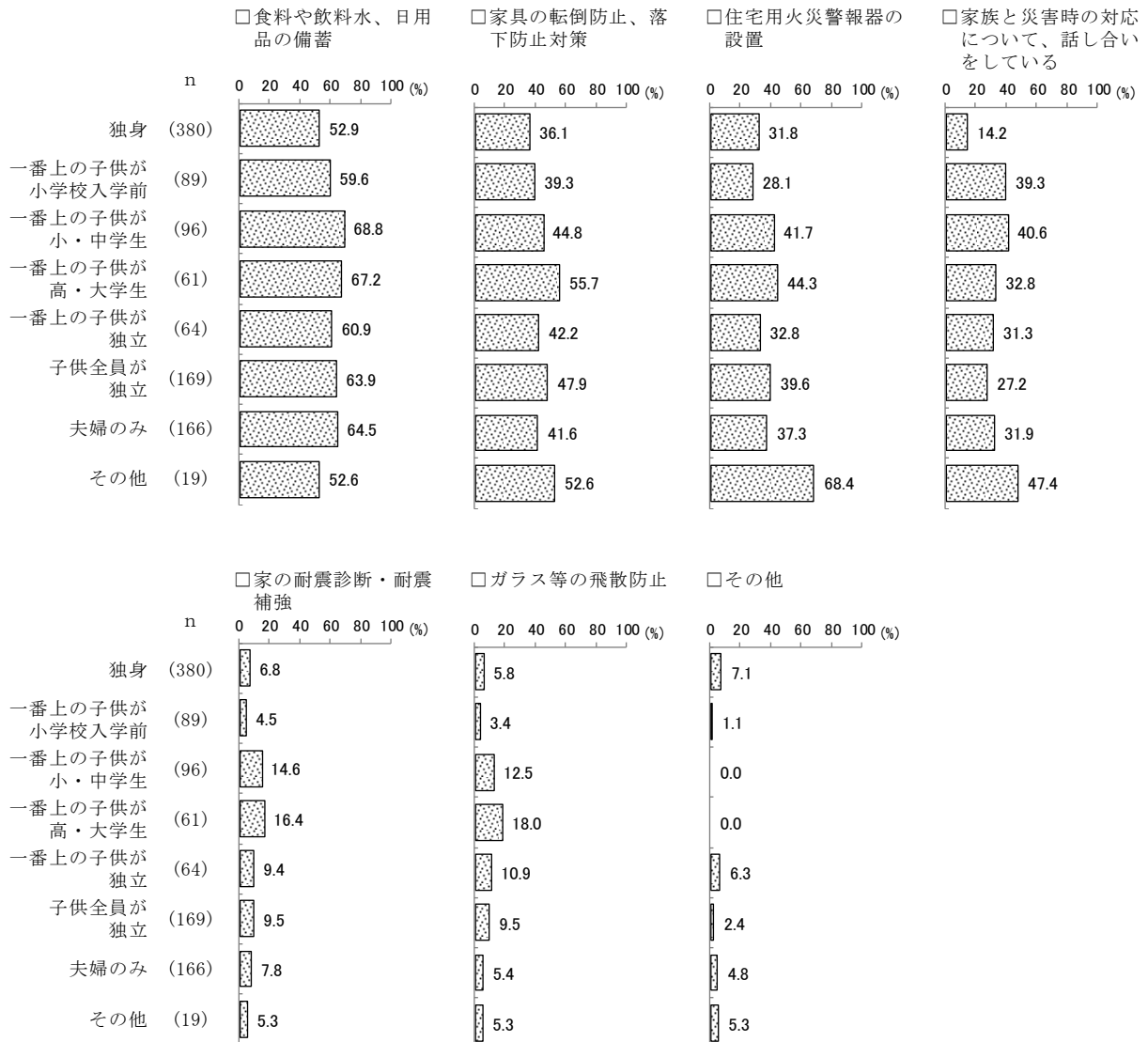
(図6-4-3)

図6-4-3 災害等に対する備え—性別、性・年代別



家族構成別でみると、「食料や飲料水、日用品の備蓄」が一番上の子供が小・中学生（68.8%）で7割近くと最も多く、次いで一番上の子供が高・大学生（67.2%）、夫婦のみ（64.5%）となっている。「家具の転倒防止、落下防止対策」が一番上の子供が高・大学生（55.7%）で5割半ばと最も多くなっている。（図6-4-4）

図6-4-4 災害等に対する備え—家族構成別



## 7. 生活安全

今回の調査では、「日常生活で犯罪に巻き込まれそうな不安を感じているか」の問いについては、半数以上の52.4%の方が『不安を感じない』と回答している一方で、『不安を感じる』と回答されている方が46.7%います。平成17年調査時の72.4%が『不安を感じる』との回答からは大きく減少していますが、昨年の45.3%からは約1%増加しています。

また、台東区内の刑法犯の認知件数は過去最も犯罪件数の多かった平成12年の8,847件から、平成28年は3,903件と、半数以下に減少しており、区内の治安状況の改善が進んでいますが、振り込め詐欺や自転車の盗難などの身近な犯罪は依然として発生しています。

今回の調査結果を参考に、警察等の関係機関との連携を深め、区民の皆様の防犯活動への参加、情報提供を一層進めながら、治安のさらなる向上に努めてまいります。

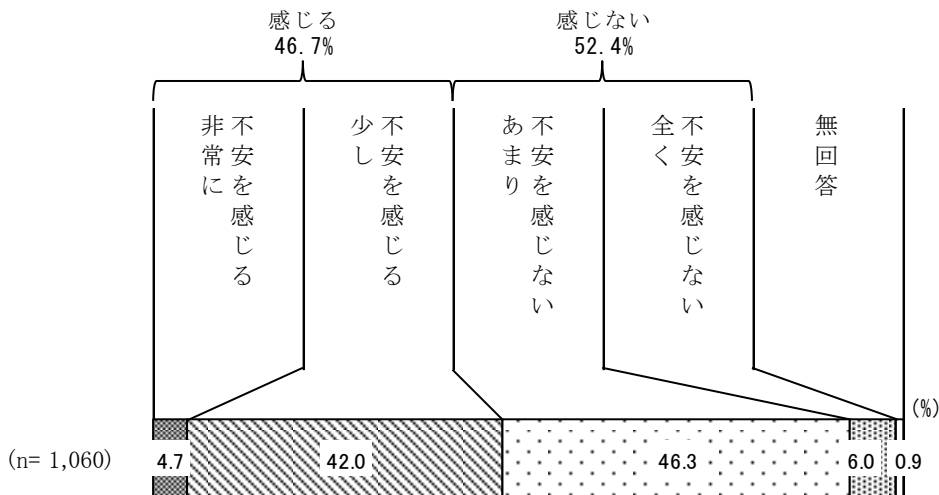
(危機管理室 生活安全推進課)

## 7-1 日常生活での治安の状況

不安を『感じない』が5割を超える

問 22 日常生活において、犯罪に巻き込まれそうな不安を感じていますか。(○は1つだけ)

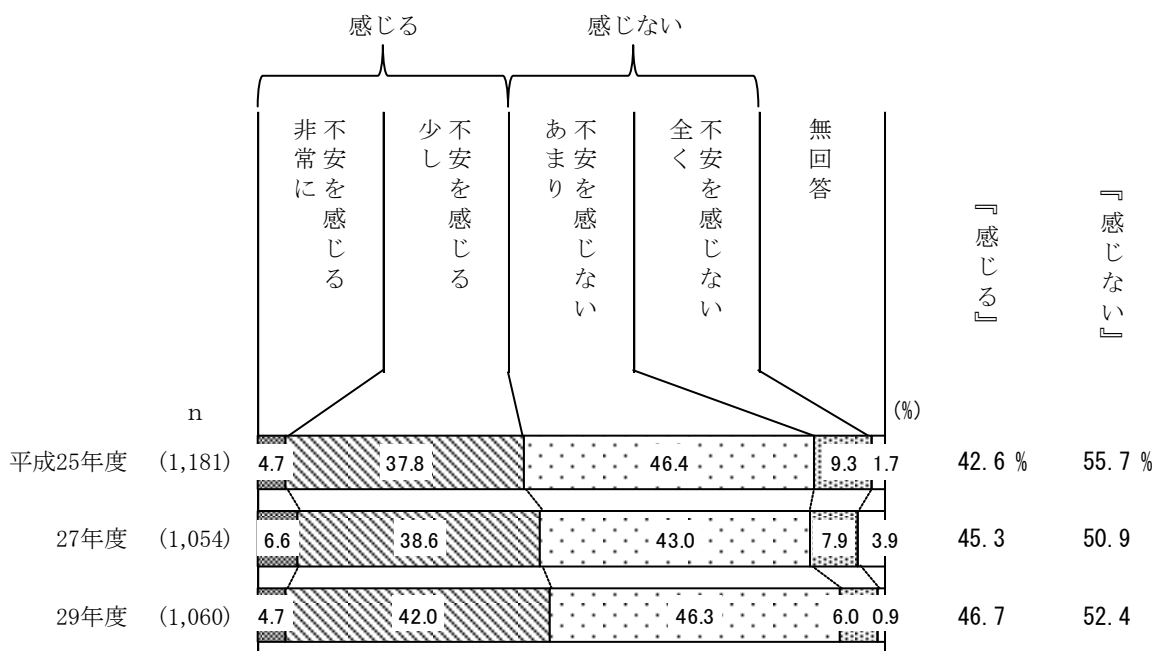
図 7-1-1



日常生活での治安の状況については、「あまり不安を感じない」(46.3%)が4割半ばと最も多く、「全く不安を感じない」(6.0%)と合わせた『感じない』(52.4%)が5割を超えている。一方、「非常に不安を感じる」(4.7%)と「少し不安を感じる」(42.0%)を合わせた『感じる』(46.7%)は5割近くとなっている。(図7-1-1)

推移をみると、「非常に不安を感じる」は平成27年度から1.9ポイント低く、「少し不安を感じる」は3.4ポイント高くなっている。一方、「あまり不安を感じない」は3.3ポイント高く、「全く不安を感じない」は1.9ポイント低くなっている。(図7-1-2)

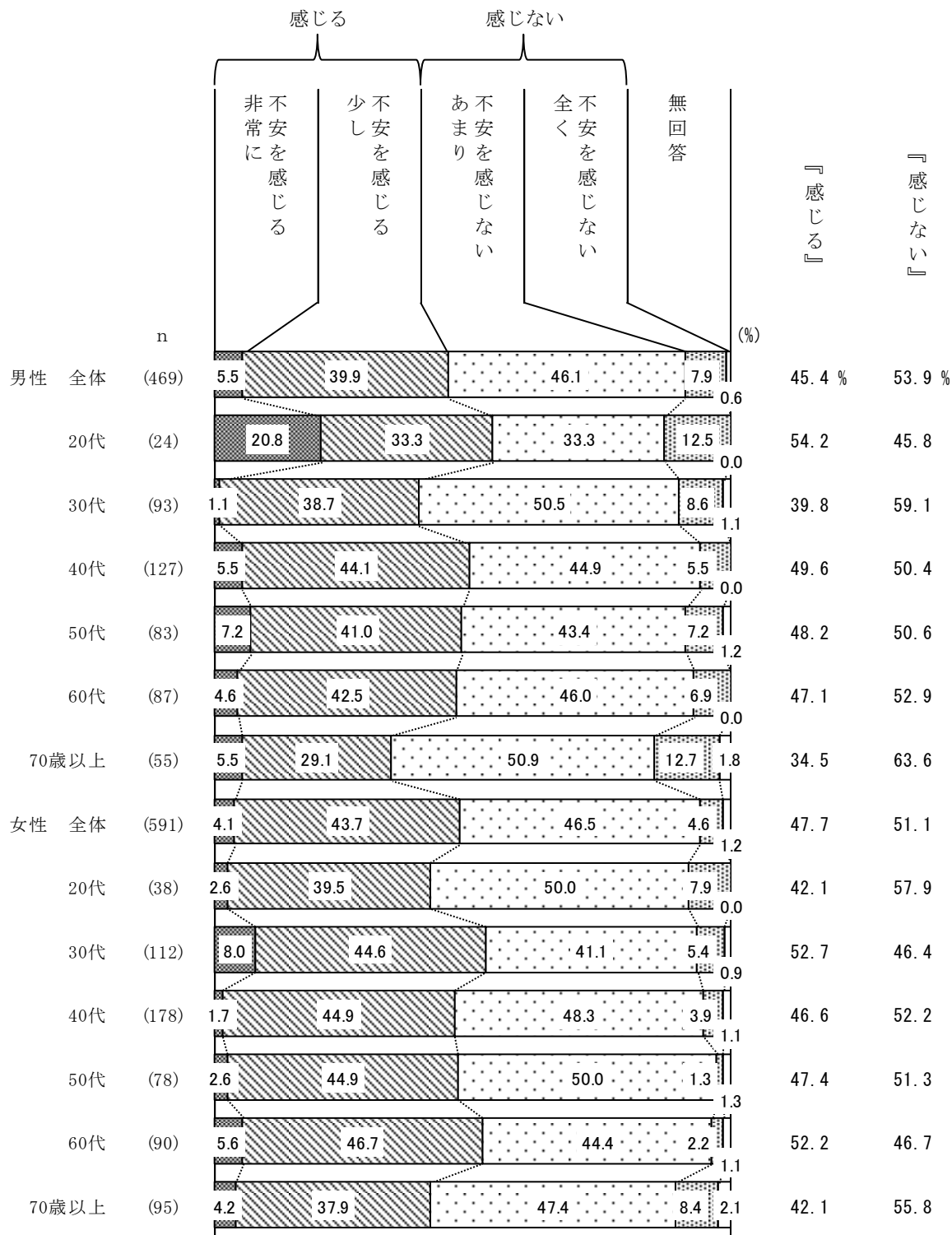
図 7-1-2 日常生活での治安の状況—推移



性別で見ると、日常生活での治安について「非常に不安を感じる」と「少し不安を感じる」を合わせた不安を『感じる』は女性（47.7%）が男性（45.4%）より2.3ポイント高くなっている。

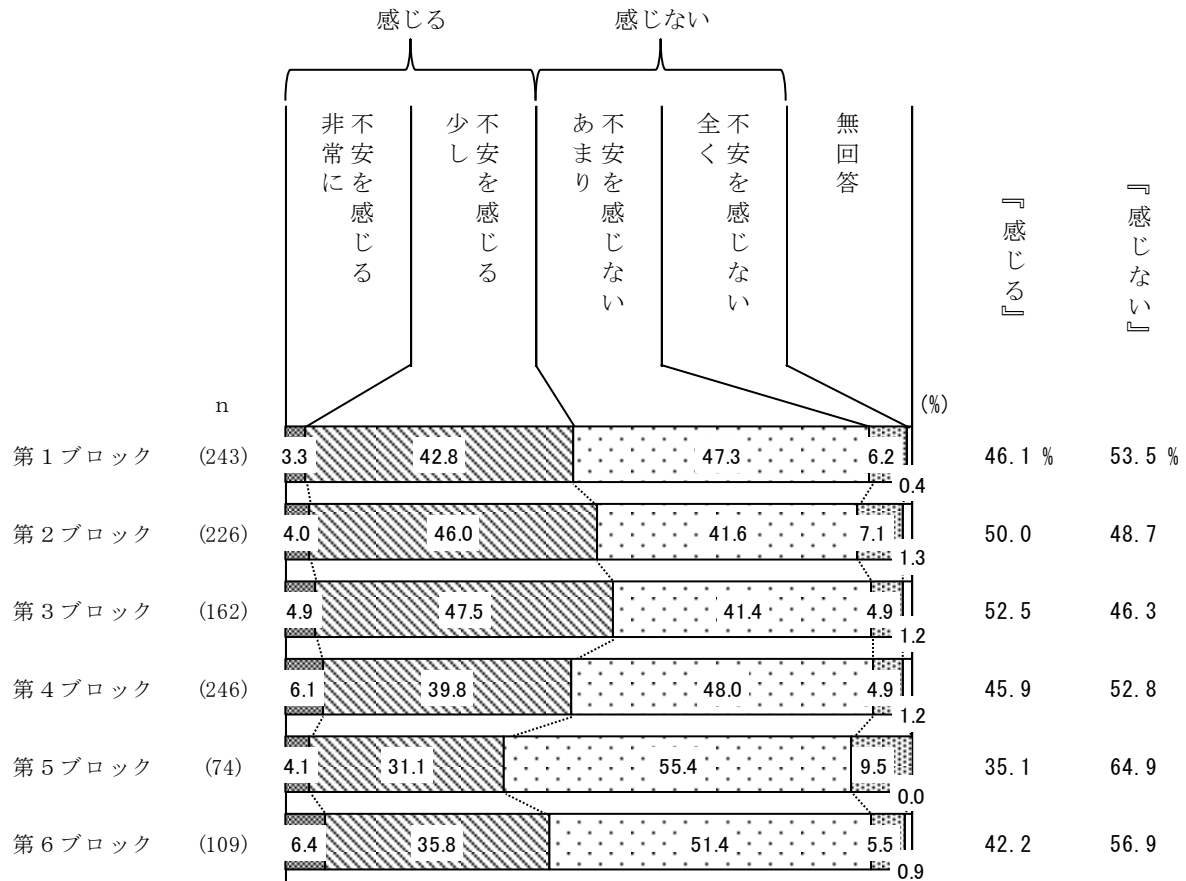
性・年代別で見ると、「非常に不安を感じる」と「少し不安を感じる」を合わせた『感じる』は男性20代（54.2%）で5割半ばと最も多く、次いで女性30代（52.7%）、女性60代（52.2%）となっている。一方、「あまり不安を感じない」と「全く不安を感じない」を合わせた『感じない』は男性70歳以上（63.6%）で6割を超えて最も多く、次いで男性30代（59.1%）、女性20代（57.9%）となっている。（図7-1-3）

図7-1-3 日常生活での治安の状況－性別、性・年代別



地区別でみると、「非常に不安を感じる」と「少し不安を感じる」を合わせた『感じる』は第3ブロック（52.5%）で5割を超え最も多く、次いで第2ブロック（50.0%）となっている。一方、「あまり不安を感じない」と「全く不安を感じない」を合わせた『感じない』は第5ブロック（64.9%）で6割半ばと最も多く、次いで第6ブロック（56.9%）となっている。（図7-1-4）

図7-1-4 日常生活での治安の状況—地区別

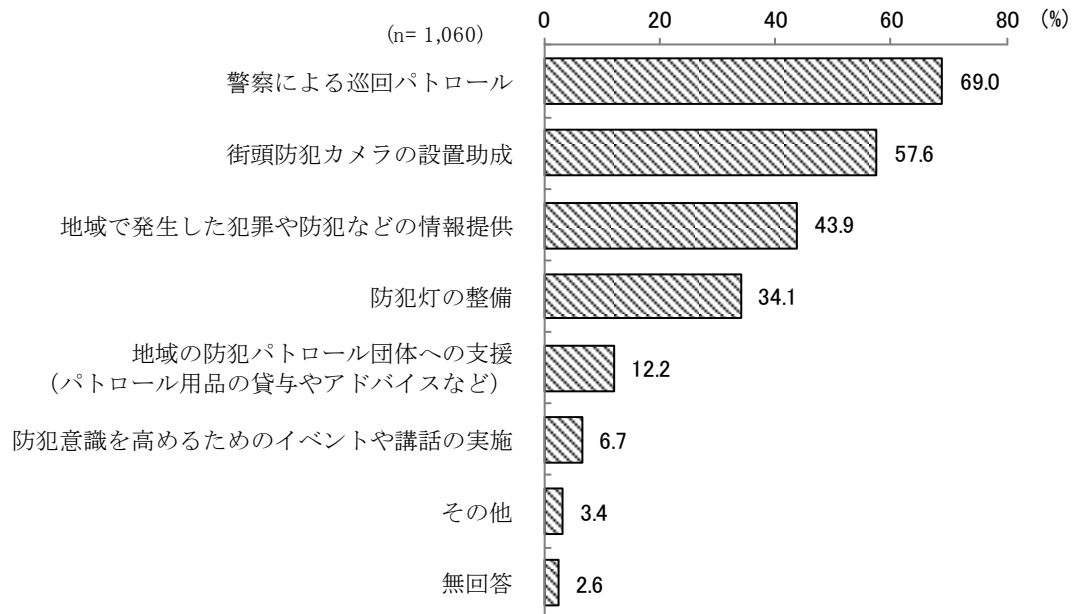


## 7-2 地域の防犯活動に対する取り組み強化の要望

「警察による巡回パトロール」がほぼ7割

問 23 地域の防犯活動に対して、区や警察など行政機関に取り組みを強化してほしいことは何ですか。(〇はいくつでも)

図 7-2-1

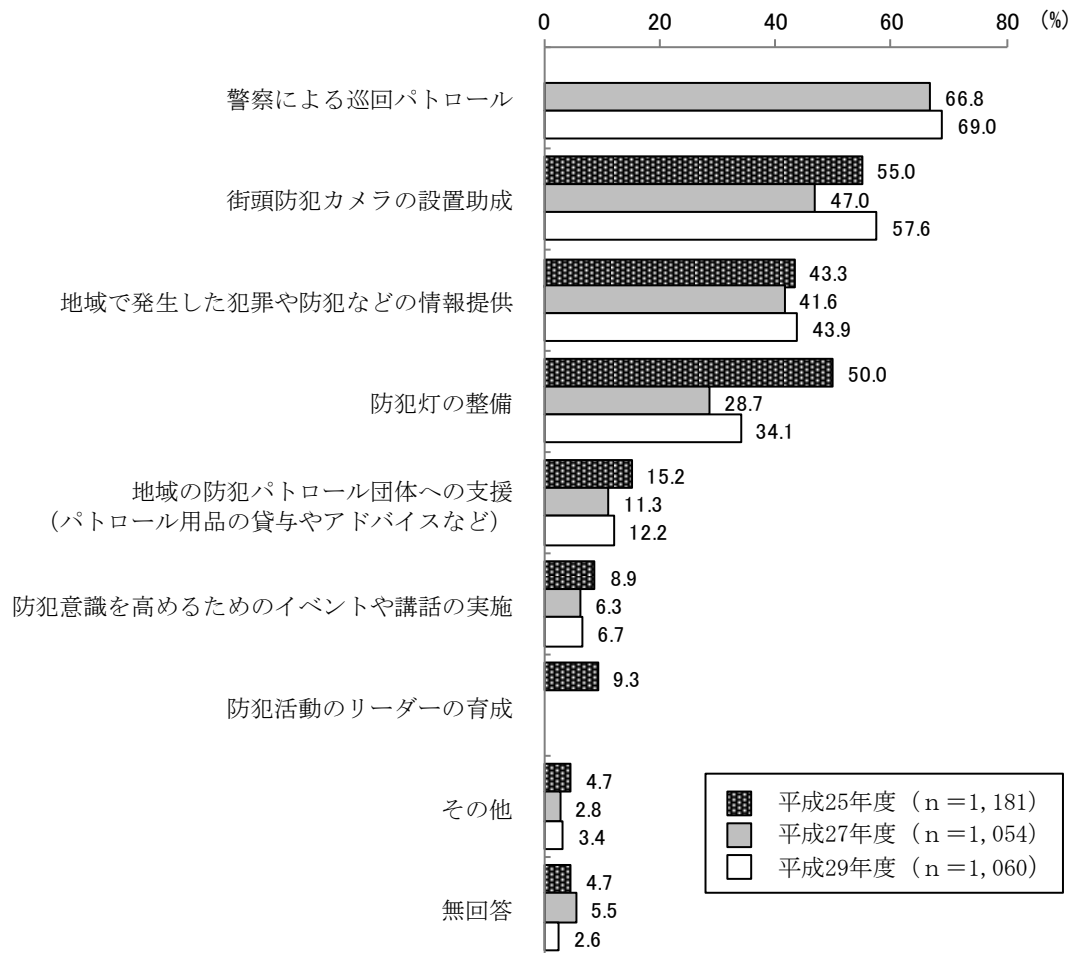


地域の防犯活動に対する取り組み強化の要望は、「警察による巡回パトロール」(69.0%)がほぼ7割と最も多く、次いで「街頭防犯カメラの設置助成」(57.6%)、「地域で発生した犯罪や防犯などの情報提供」(43.9%)、「防犯灯の整備」(34.1%)となっている。(図7-2-1)



推移をみると、過年度調査とは選択肢が異なるため単純に比較することができないが、上位項目の順位に変動はなく、平成 27 年度から「街頭防犯カメラの設置助成」が 10.6 ポイント、「防犯灯の整備」が 5.4 ポイント、それぞれ高くなっている。(図 7-2-2)

図 7-2-2 地域の防犯活動に対する取り組み強化の要望－推移



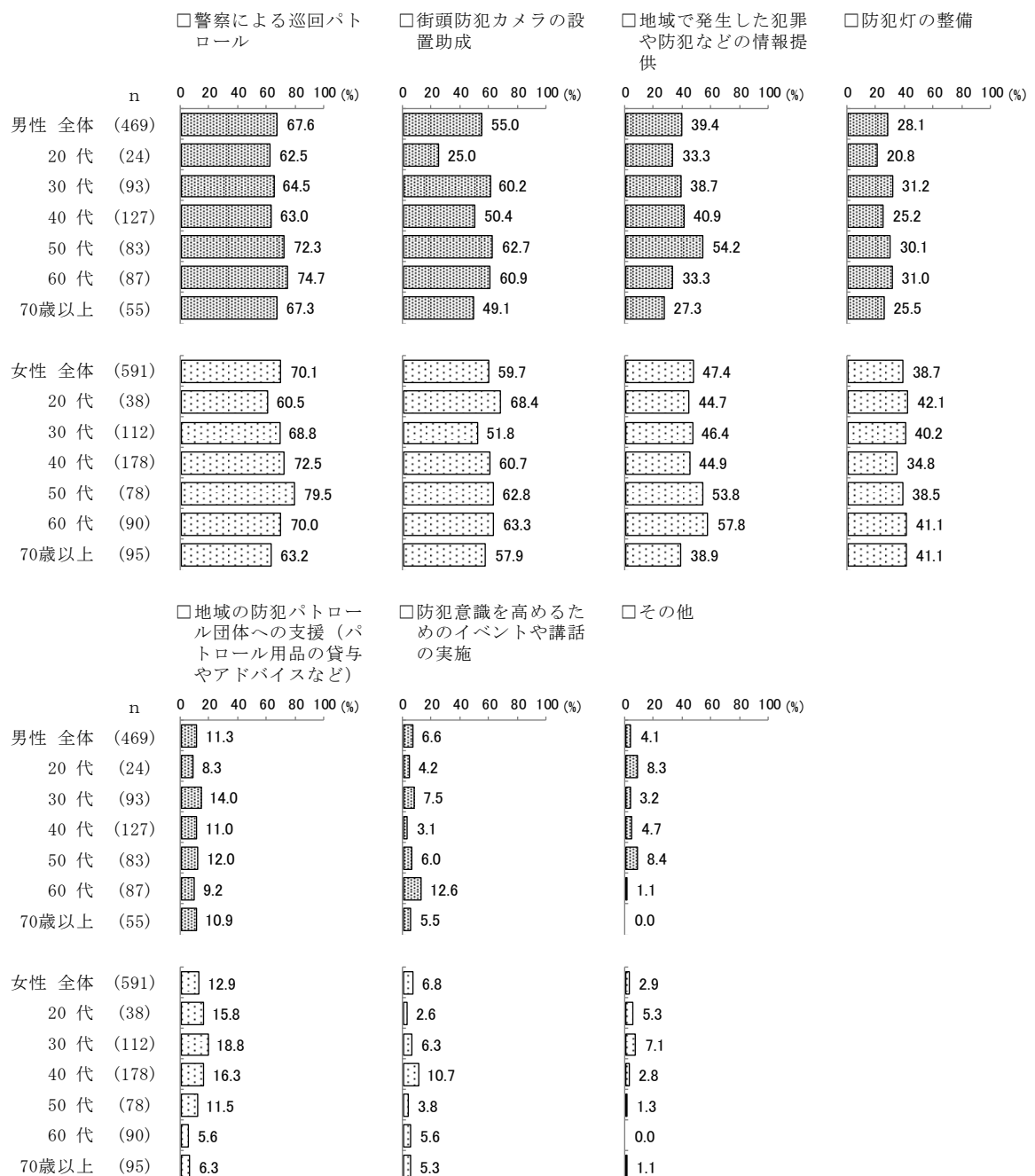
※「警察による巡回パトロール」は平成 25 年度調査には無い選択肢である。

※「防犯活動のリーダーの育成」は平成 27, 29 年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「警察による巡回パトロール」は女性（70.1%）が男性（67.6%）より2.5ポイント高くなっている。また、「防犯灯の整備」は女性（38.7%）が男性（28.1%）より10.6ポイント、「地域で発生した犯罪や防犯などの情報提供」は女性（47.4%）が男性（39.4%）より8.0ポイント、それぞれ高くなっている。

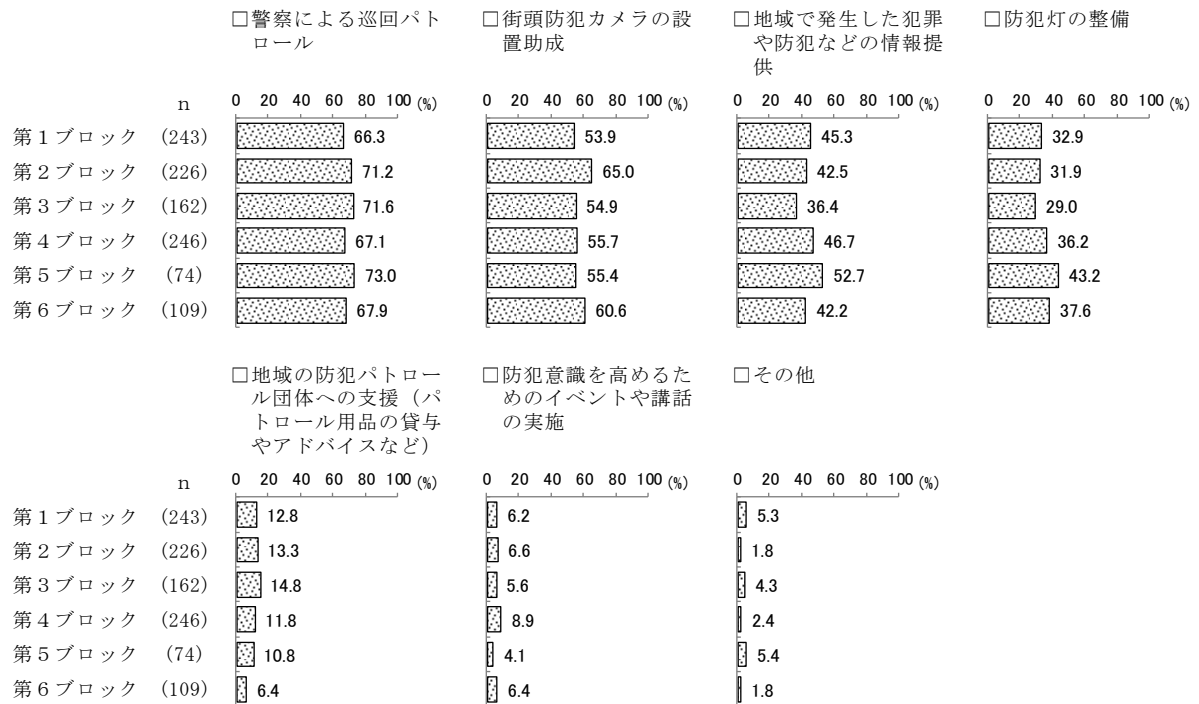
性・年代別で見ると、「警察による巡回パトロール」は女性50代（79.5%）で8割と最も多く、次いで男性60代（74.7%）、女性40代（72.5%）となっている。「街頭防犯カメラの設置助成」は女性20代（68.4%）で7割近く、「地域で発生した犯罪や防犯などの情報提供」は女性60代（57.8%）で6割近くとなっている。（図7-2-3）

図7-2-3 地域の防犯活動に対する取り組み強化の要望—性別、性・年代別



地区別にみると、「警察による巡回パトロール」は第2ブロック(71.2%)、第3ブロック(71.6%)、第5ブロック(73.0%)が7割を超えて多くなっている。「街頭防犯カメラの設置助成」は第2ブロック(65.0%)と第6ブロック(60.6%)で6割台、「地域で発生した犯罪や防犯などの情報提供」は第5ブロック(52.7%)で5割を超えている。(図7-2-4)

図7-2-4 地域の防犯活動に対する取り組み強化の要望—地区別

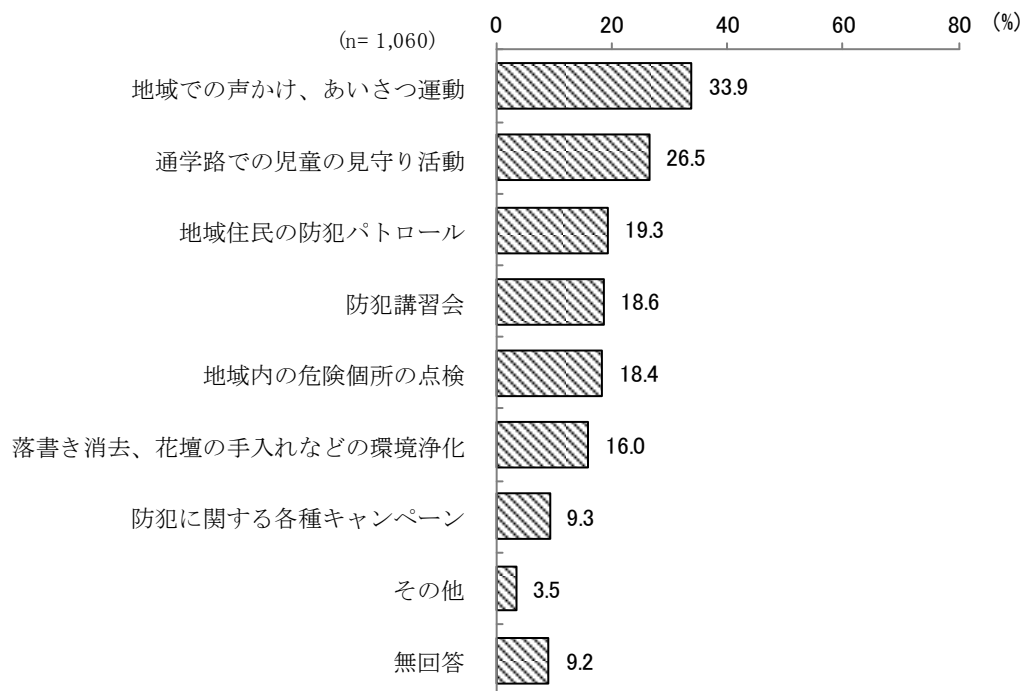


### 7-3 参加したい防犯活動

「地域での声かけ、あいさつ運動」が3割を超える

問 24 防犯活動であなたが参加するとしたら、次のどの活動ですか。(〇はいくつでも)

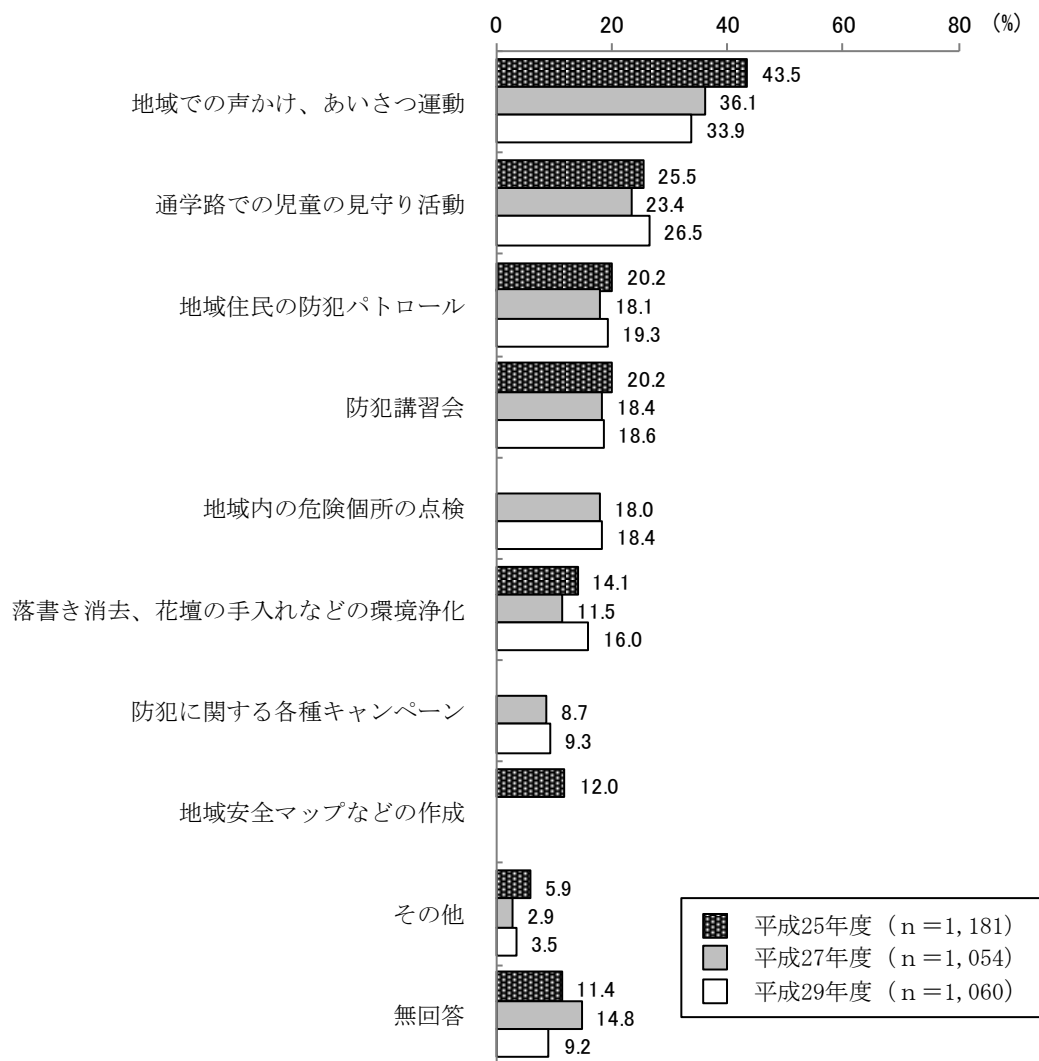
図 7-3-1



参加したい防犯活動は、「地域での声かけ、あいさつ運動」(33.9%)が3割を超えて最も多く、次いで「通学路での児童の見守り活動」(26.5%)、「地域住民の防犯パトロール」(19.3%)、「防犯講習会」(18.6%)、「地域内の危険個所の点検」(18.4%)、「落書き消去、花壇の手入れなどの環境浄化」(16.0%)となっている。(図7-3-1)

推移をみると、過年度調査とは選択肢が異なるため単純に比較することができないが、平成 27 年度から「落書き消去、花壇の手入れなどの環境浄化」が 4.5 ポイント、「通学路での児童の見守り活動」が 3.1 ポイント、それぞれ高くなっており、「地域での声かけ、あいさつ運動」が 2.2 ポイント低くなっている。(図 7-3-2)

図 7-3-2 参加したい防犯活動－推移



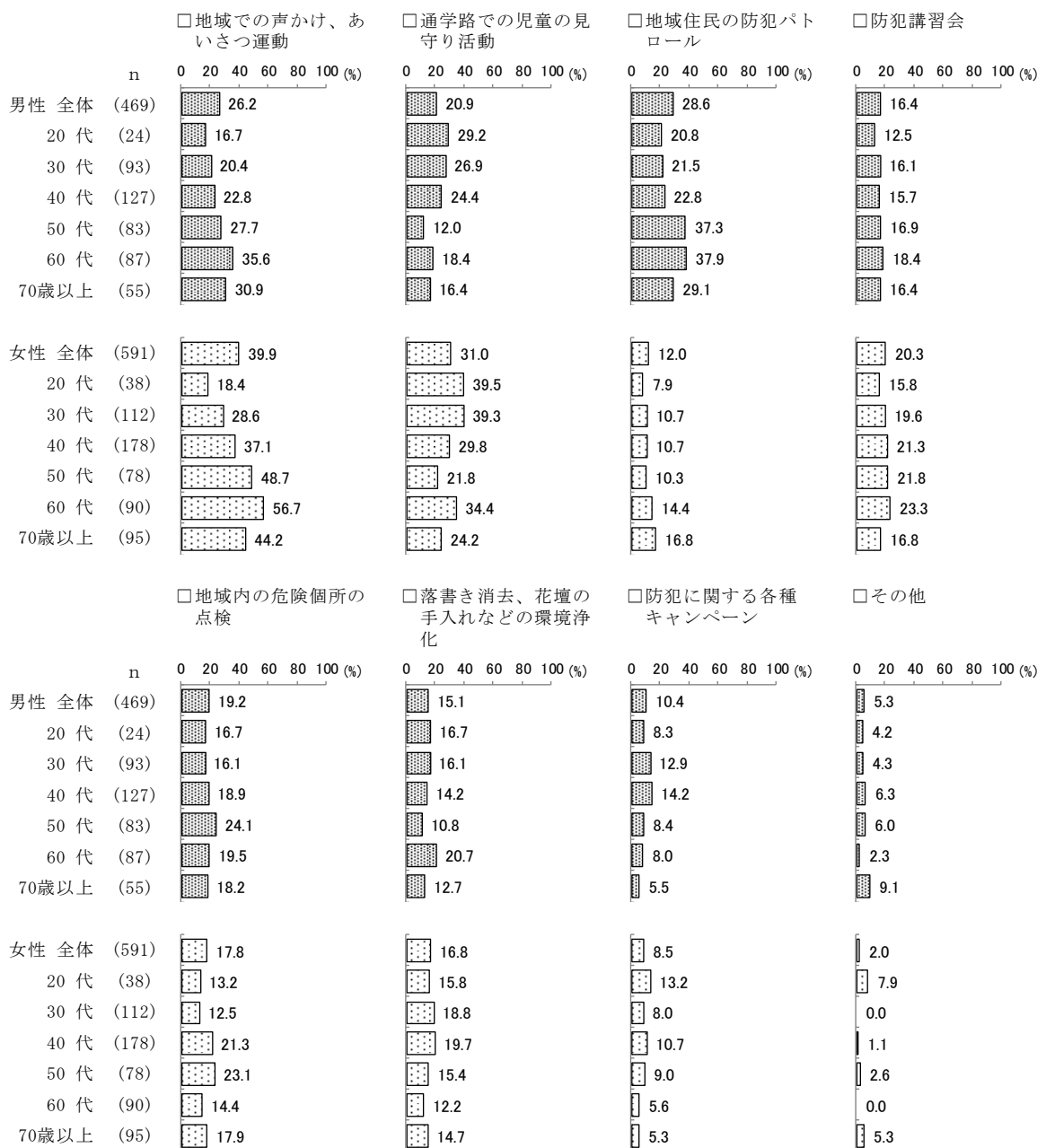
※「地域内の危険個所の点検」、「防犯に関する各種キャンペーン」は平成 25 年度調査には無い選択肢である。

※「地域安全マップなどの作成」は平成 27, 29 年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「地域での声かけ、あいさつ運動」は女性（39.9%）が男性（26.2%）より13.7ポイント、「通学路での児童の見守り活動」は女性（31.0%）が男性（20.9%）より10.1ポイント、それぞれ高くなっている。「地域住民の防犯パトロール」は男性（28.6%）が女性（12.0%）より16.6ポイント高くなっている。

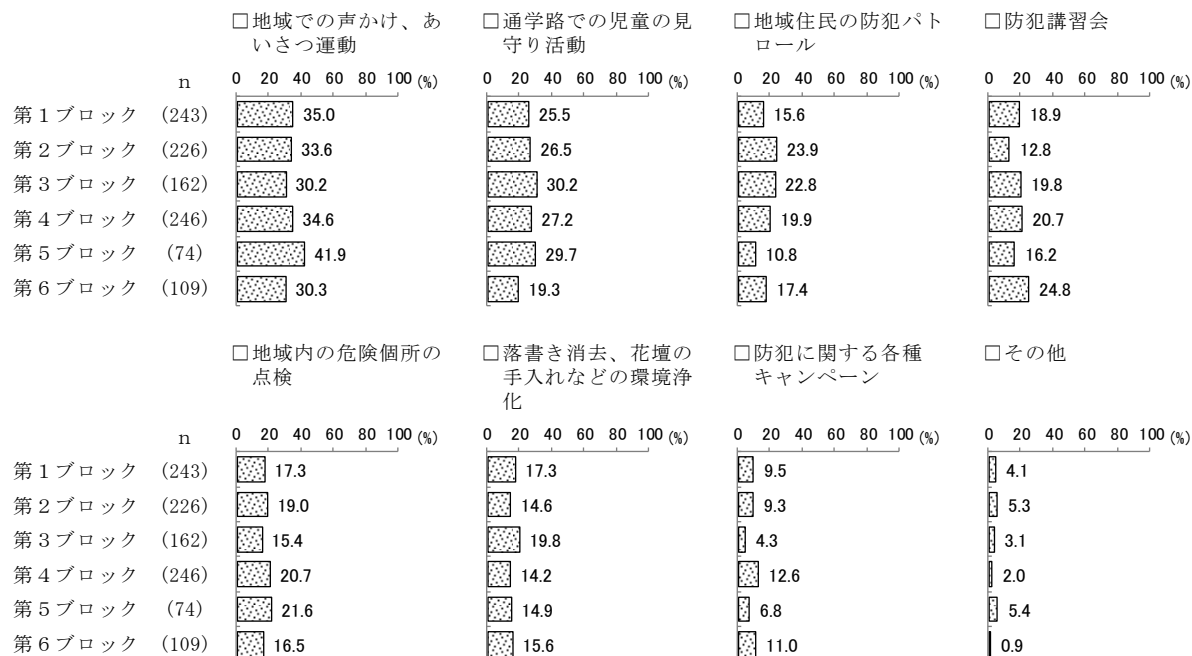
性・年代別で見ると、「地域での声かけ、あいさつ運動」は女性60代（56.7%）」で6割近くと最も多く、次いで女性50代（48.7%）、女性70歳以上（44.2%）となっている。「通学路での児童の見守り活動」は女性20代（39.5%）、女性30代（39.3%）が多くなっている。一方、「地域住民の防犯パトロール」は男性50代（37.3%）と男性60代（37.9%）は4割近くと、他の性・年代に比べて多くなっている。（図7-3-3）

図7-3-3 参加したい防犯活動—性別、性・年代別



地区別にみると、「地域での声かけ、あいさつ運動」は第5ブロック（41.9%）で4割を超えている。「通学路での児童の見守り活動」は第3ブロック（30.2%）で3割、「地域住民の防犯パトロール」は第2ブロック（23.9%）と第3ブロック（22.8%）で2割を超えている。（図7-3-4）

図7-3-4 参加したい防犯活動—地区別



## 8. まちづくり

「まちづくり協議会」への参加の考えは、「参加したいが時間がない」という回答が38.7%であり、参加意欲としては増加傾向にあります。

区では、まちづくりへの区民参加を進めており、区民の方が主体となってまちづくりを検討するために活動をする「まちづくり協議会」への支援を行っています。

今回の結果を踏まえ、区民の方がまちづくり協議会に参加しやすくなるような仕組みづくりについて検討を進めてまいります。

(都市づくり部 まちづくり推進課)



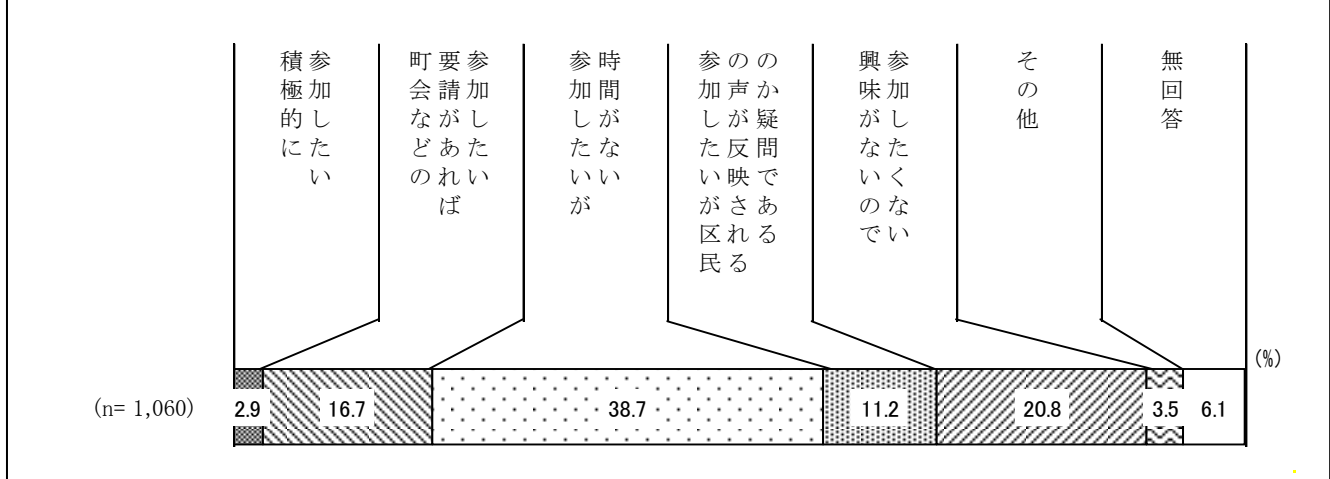
## 8-1 「まちづくり協議会」への参加の考え

「参加したいが時間がない」が4割近く

問 25 区では、まちづくりへの区民参加を進めています。区民の方が主体となって、まちづくり活動をする「まちづくり協議会」への参加について、どのようにお考えになりますか。

(○は1つだけ)

図8-1-1

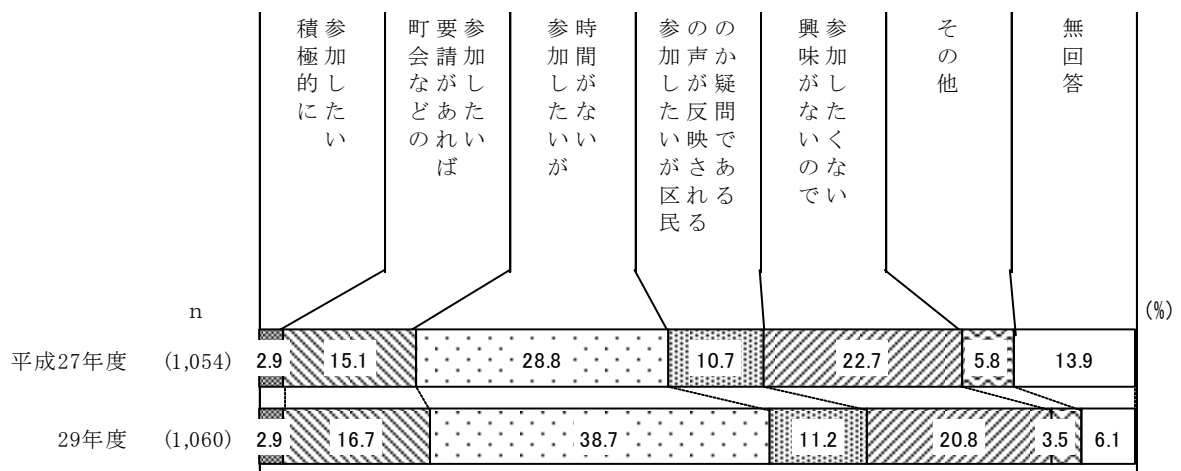


「まちづくり協議会」への参加の考えは、「参加したいが時間がない」(38.7%)が4割近くと最も多く、次いで「興味がないので参加したくない」(20.8%)、「町会などの要請があれば参加したい」(16.7%)、「参加したいが区民の声が反映されるのか疑問である」(11.2%)となっている。

(図8-1-1)

推移をみると、平成27年度から「参加したいが時間がない」が9.9ポイント、「町会などの要請があれば参加したい」が1.6ポイント、それぞれ高くなっており、「興味がないので参加したくない」が1.9ポイント低くなっている。(図8-1-2)

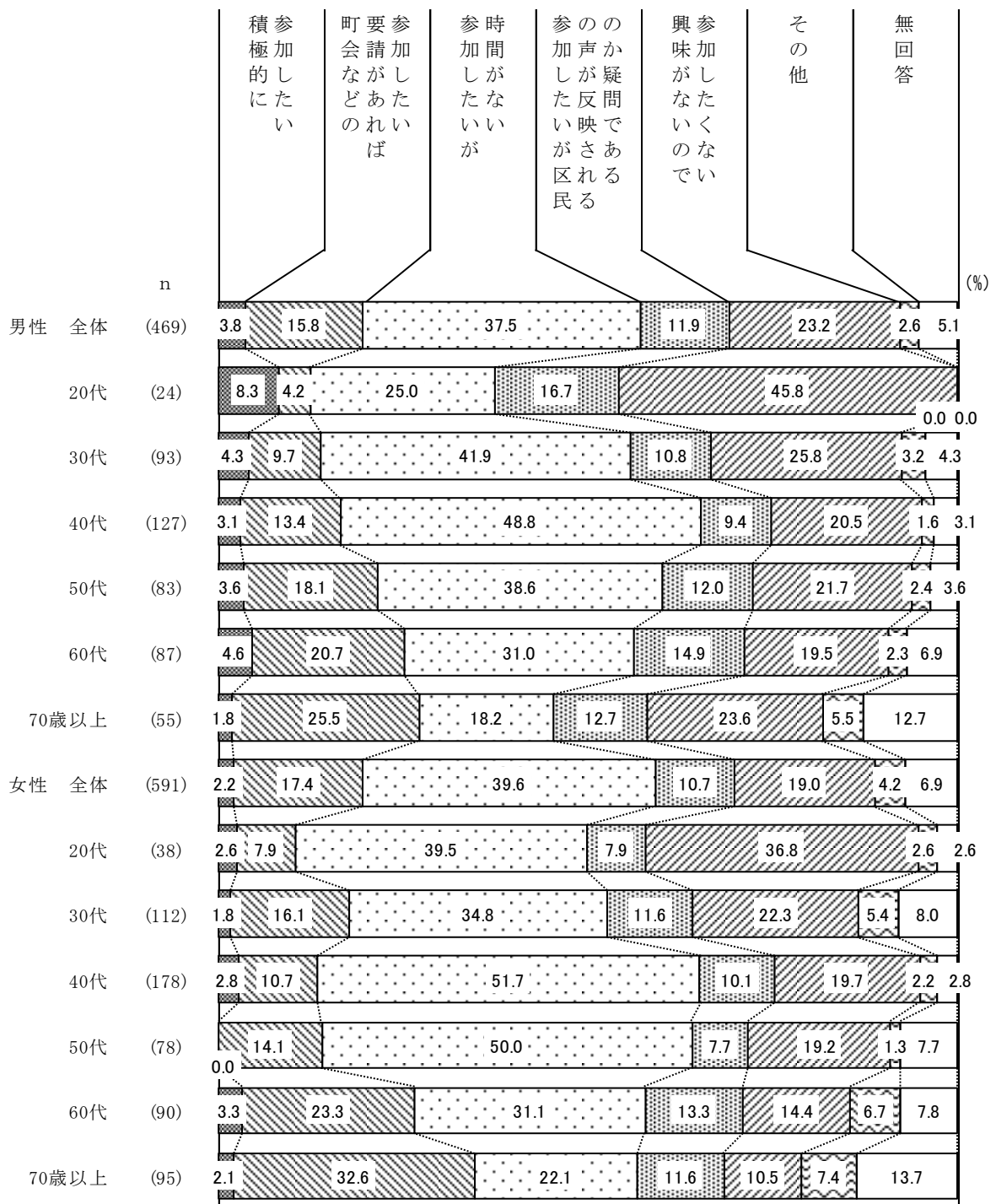
図8-1-2 「まちづくり協議会」への参加の考え－推移



性別で見ると、「興味がないので参加したくない」は男性（23.2%）が女性（19.0%）より4.2ポイント高くなっている。

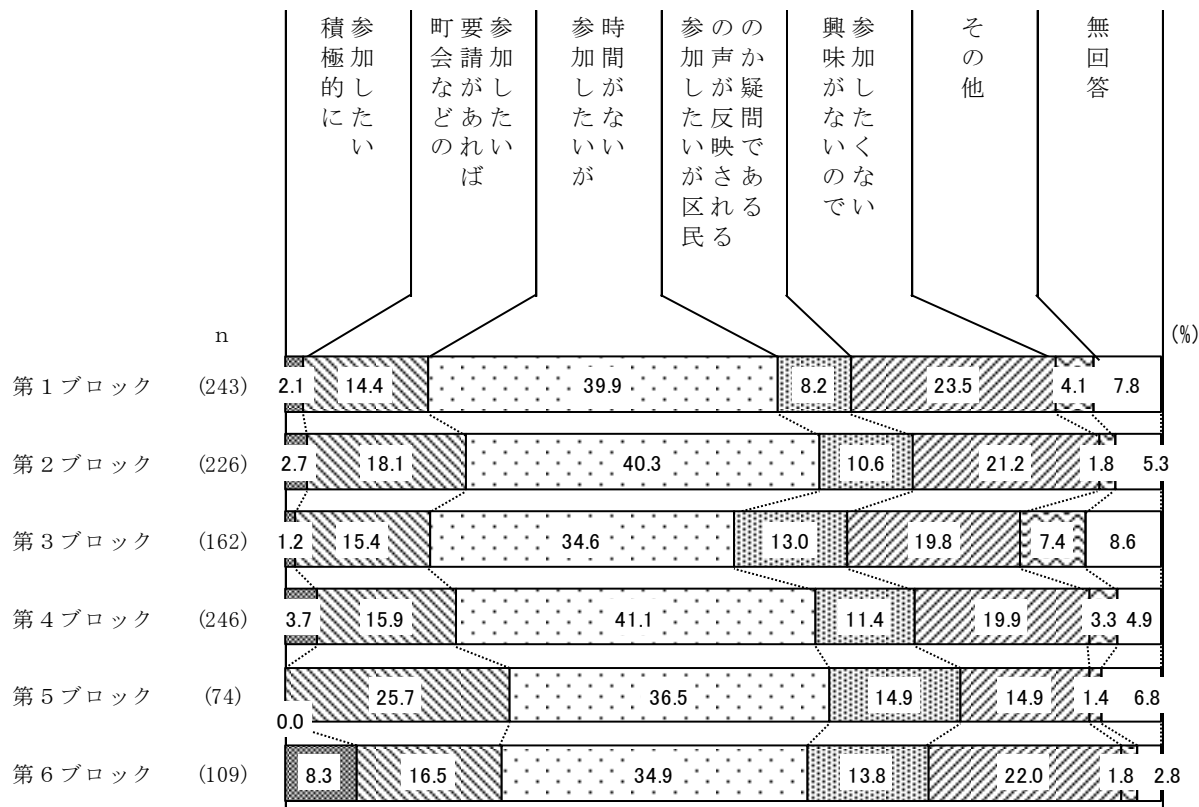
性・年代別で見ると、「町会などの要請があれば参加したい」は男性の年代が高くなるほど多くなり、「興味がないので参加したくない」は女性の年代が高くなるほど少なくなっている。「積極的に参加したい」は男性20代（8.3%）で1割近く、「町会などの要請があれば参加したい」は女性70歳以上（32.6%）で3割を超え、「参加したいが時間がない」は女性40代（51.7%）で5割を超え、「参加したいが区民の声が反映されるのか疑問である」は男性20代（16.7%）で2割近く、「興味がないので参加したくない」は男性20代（45.8%）で4割半ばとなっている。（図8-1-3）

図8-1-3 「まちづくり協議会」への参加の考え—性別、性・年代別



地区別にみると、「積極的に参加したい」は第6ブロック（8.3%）で1割近く、「町会などの要請があれば参加したい」は第5ブロック（25.7%）で2割半ば、「参加したいが時間がない」は第4ブロック（41.1%）で4割を超え、「参加したいが区民の声が反映されるのか疑問である」は第5ブロック（14.9%）で1割半ば、「興味がないので参加したくない」は第1ブロック（23.5%）で2割を超えている。（図8-1-4）

図8-1-4 「まちづくり協議会」への参加の考え—地区別



## 9. 協働による地域力の向上

今回の調査では、地域活動への『参加意向』が、前回調査より3.0ポイント増加しており、地域活動への関心が増している状況が伺えます。

また、地域活動に対して区はどのような支援をしたらよいかお伺いしたところ、「地域活動に役立つ情報の提供」、「地域活動を体験できる場や機会の提供」、「地域活動への理解や参加を促すための広報・普及活動」への回答が上位にあり、地域活動に関する情報や地域活動体験の機会を充実していく必要があることがわかりました。

区では、平成28年4月に「台東ボランティア・地域活動サポートセンター」を社会福祉法人台東区社会福祉協議会内に開設し、地域活動に関する相談や地域で活動する団体の支援活動など行っております。また、「地域活動支援サイト」では地域で活動する団体情報やボランティア募集情報などを発信しています。

今回の結果を踏まえ、台東ボランティア・地域活動サポートセンターをより一層PRするとともに、センターと連携して地域活動に関する情報の発信や機会の提供を行うなど、地域活動への参加を促進してまいります。

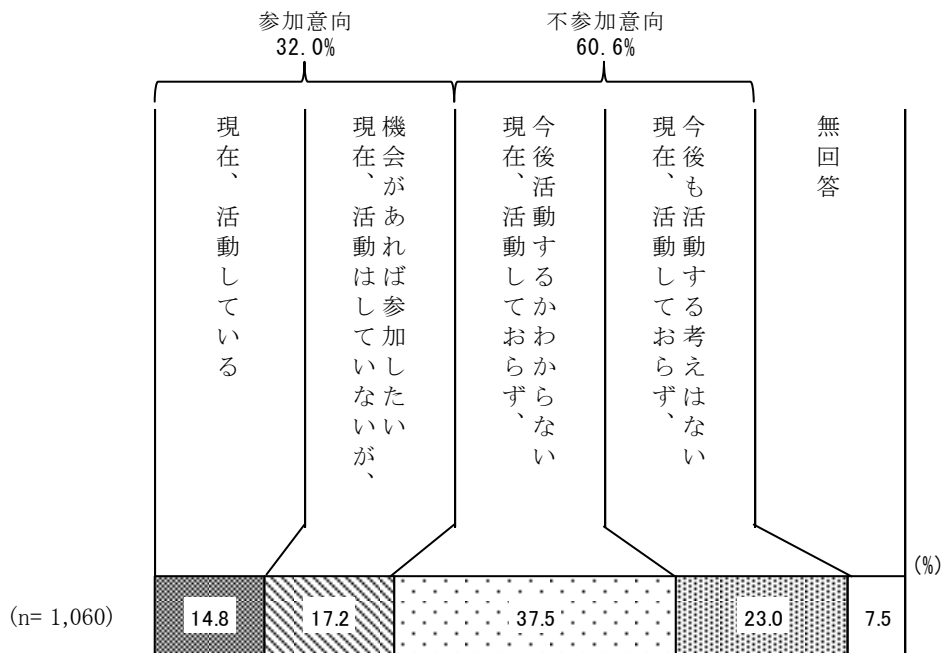
(区民部 区民課)

9-1 地域活動への参加状況

「現在、活動しておらず、今後活動するかわからない」が4割近く

問26 あなたは、町会、サークルやクラブ、ボランティアなどの地域活動をしていますか。または、今後、活動したいと思いますか。(○は1つだけ)

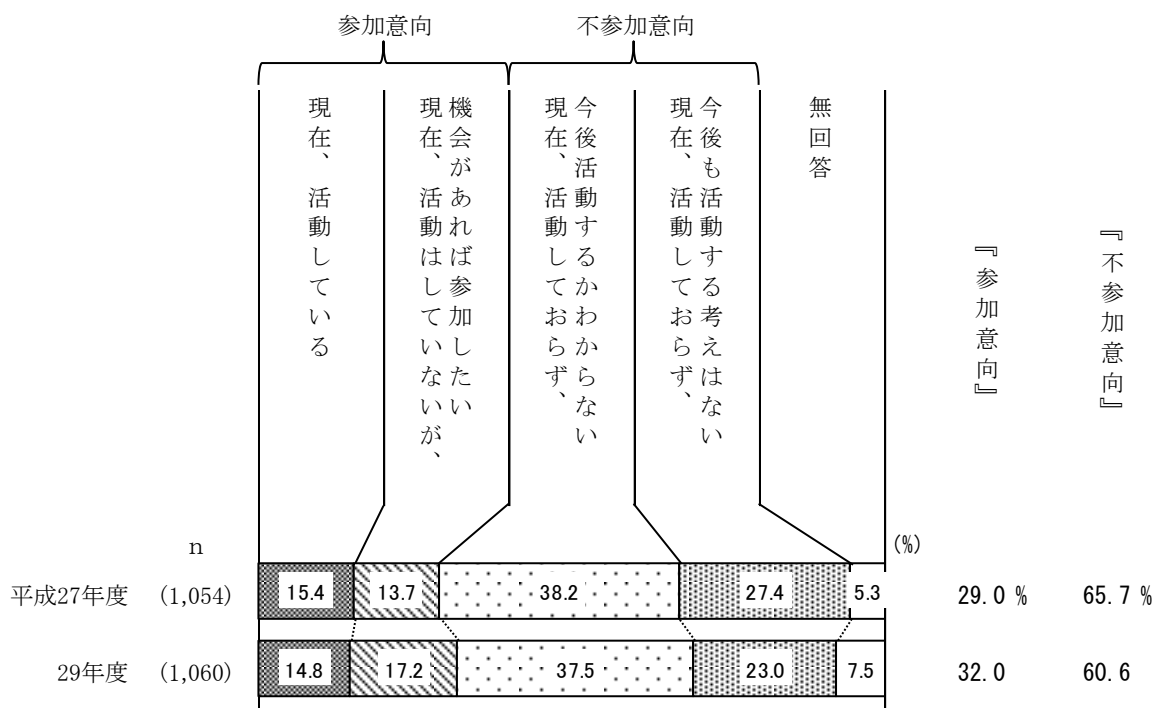
図9-1-1



地域活動への参加状況は、「現在、活動しておらず、今後活動するかわからない」(37.5%)が4割近くと最も多く、「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」(23.0%)と合わせた『不参加意向』はほぼ6割となっている。一方、「現在、活動している」(14.8%)と「現在、活動はしていないが、機会があれば参加したい」(17.2%)を合わせた『参加意向』(32.0%)は3割を超えている。(図9-1-1)

推移をみると、平成27年度から「現在、活動はしていないが、機会があれば参加したい」は3.5ポイント、「現在、活動している」と「現在、活動はしていないが、機会があれば参加したい」を合わせた『参加意向』は3.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」は4.4ポイント、「現在、活動しておらず、今後活動するかわからない」と「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」を合わせた『不参加意向』は5.1ポイント、それぞれ低くなっている。(図9-1-2)

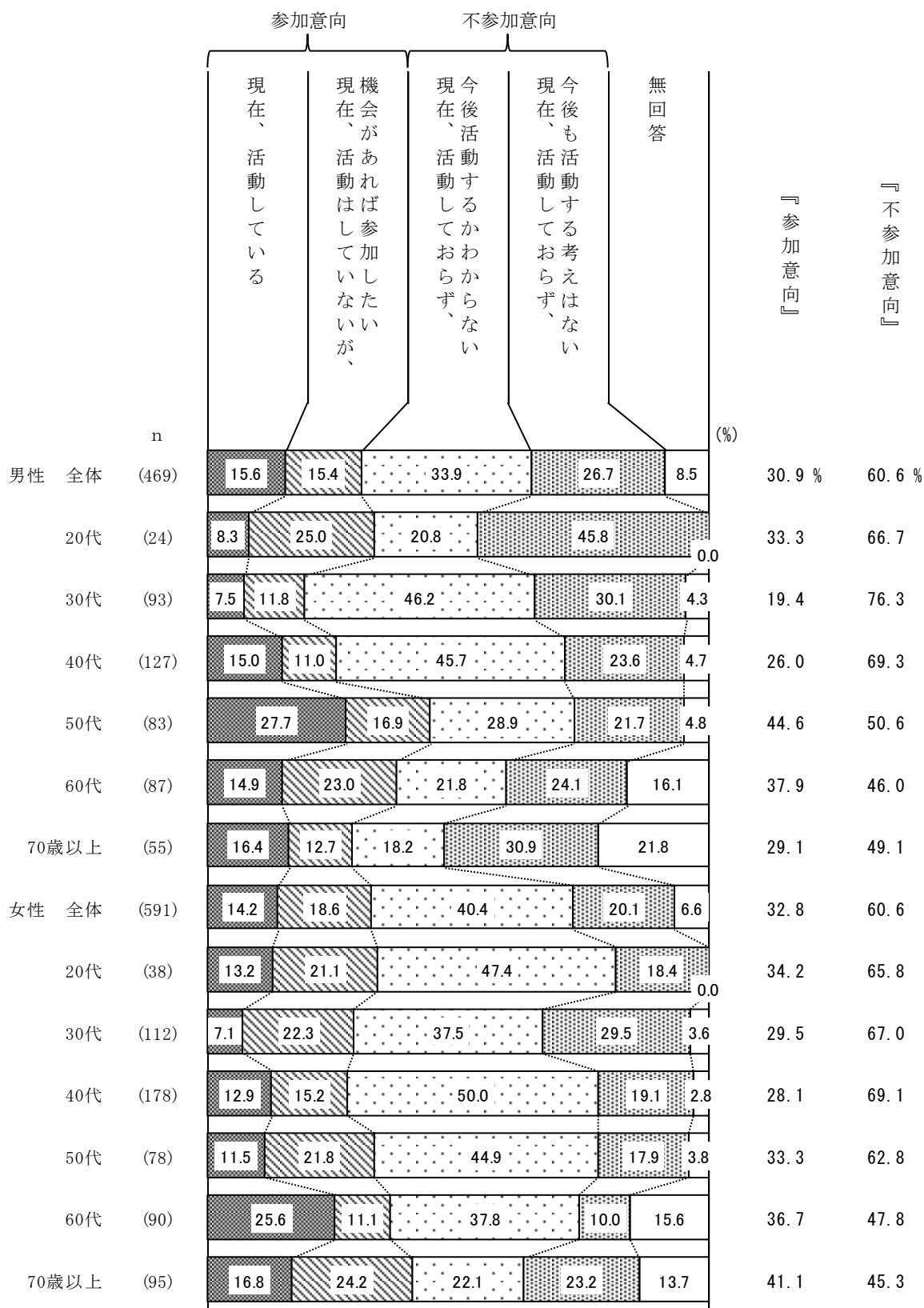
図9-1-2 地域活動への参加状況－推移



性別でみると、「現在、活動している」と「現在、活動はしていないが、機会があれば参加したい」を合わせた『参加意向』は女性(32.8%)が男性(30.9%)より1.9ポイント高くなっている。一方、「現在、活動しておらず、今後活動するかわからない」と「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」を合わせた『不参加意向』は男性(60.6%)と女性(60.6%)に差は見られない。

性・年代別でみると、「現在、活動している」と「現在、活動はしていないが、機会があれば参加したい」を合わせた『参加意向』は男性50代(44.6%)で4割半ば、女性70歳以上(41.1%)で4割を超え、他の性・年代と比べて多くなっている。一方、「現在、活動しておらず、今後活動するかわからない」と「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」を合わせた『不参加意向』は男性30代(76.3%)で7割半ばと最も多くなっている。(図9-1-3)

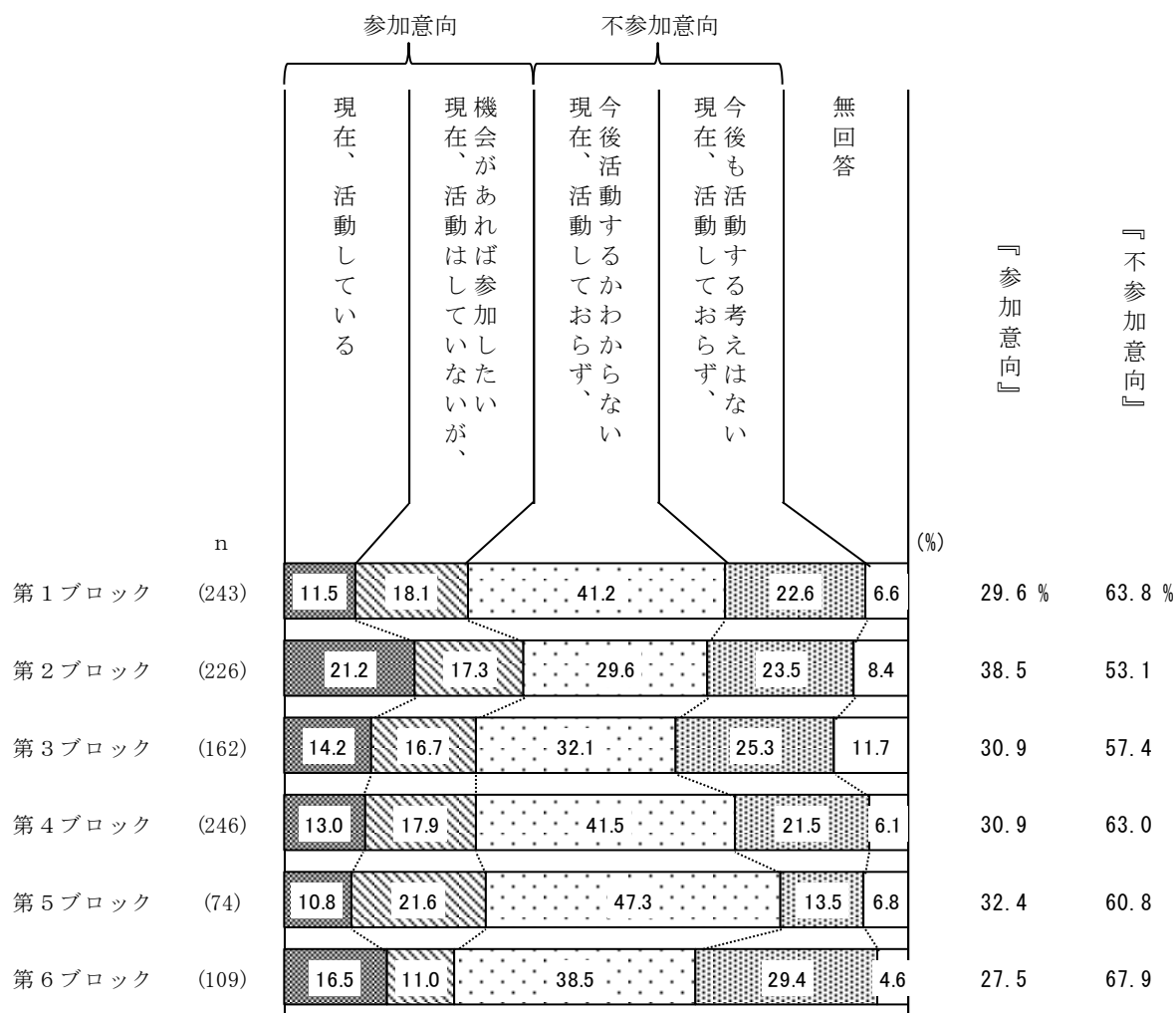
図9-1-3 地域活動への参加状況—性別、性・年代別



地区別にみると、「現在、活動している」と「現在、活動はしていないが、機会があれば参加したい」を合わせた『参加意向』は第2ブロック（38.5%）で4割近くと最も多く、次いで第5ブロック（32.4%）となっている。一方、「現在、活動しておらず、今後活動するかわからない」と「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」を合わせた『不参加意向』は第6ブロック（67.9%）で7割近くと最も多く、次いで第1ブロック（63.8%）、第4ブロック（63.0%）となっている。

(図9-1-4)

図9-1-4 地域活動への参加状況—地区別



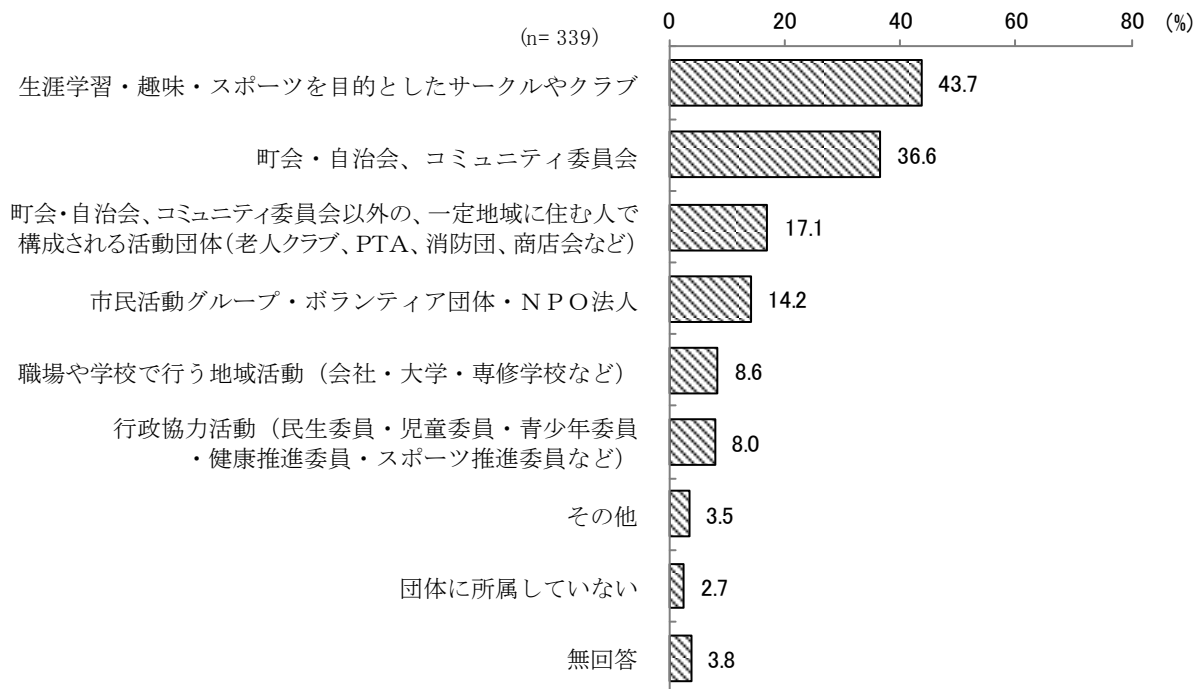


9-2 活動・参加している（参加したい）地域活動の団体

「生涯学習・趣味・スポーツを目的としたサークルやクラブ」が4割を超える

（問26で、「1. 現在、活動している」または  
 「2. 現在、活動はしていないが、機会があれば参加したい」とお答えの方に）  
 問26-1 あなたが活動・参加している（参加したい）地域活動の団体はどれですか。  
 （〇はいくつでも）

図9-2-1

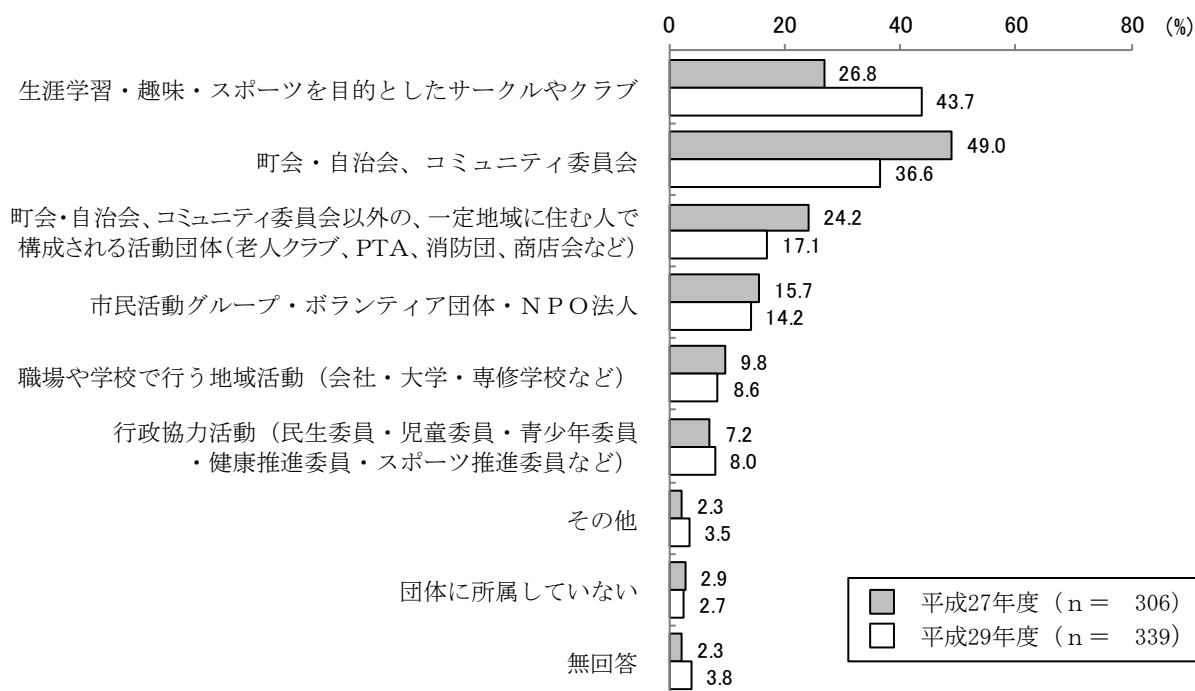


活動・参加している（参加したい）地域活動の団体は、「生涯学習・趣味・スポーツを目的としたサークルやクラブ」（43.7%）が4割を超えて最も多く、次いで「町会・自治会、コミュニティ委員会」（36.6%）、「町会・自治会、コミュニティ委員会以外の、一定地域に住む人で構成される活動団体（老人クラブ、PTA、消防団、商店会など）」（17.1%）、「市民活動グループ・ボランティア団体・NPO法人」（14.2%）となっている。（図9-2-1）

推移をみると、「生涯学習・趣味・スポーツを目的としたサークルやクラブ」が平成27年度から16.9ポイント高くなっている。一方、「町会・自治会、コミュニティ委員会」が12.4ポイント、「町会・自治会、コミュニティ委員会以外の、一定地域に住む人で構成される活動団体（老人クラブ、PTA、消防団、商店会など）」は7.1ポイント、平成27年度からそれぞれ低くなっている。

(図9-2-2)

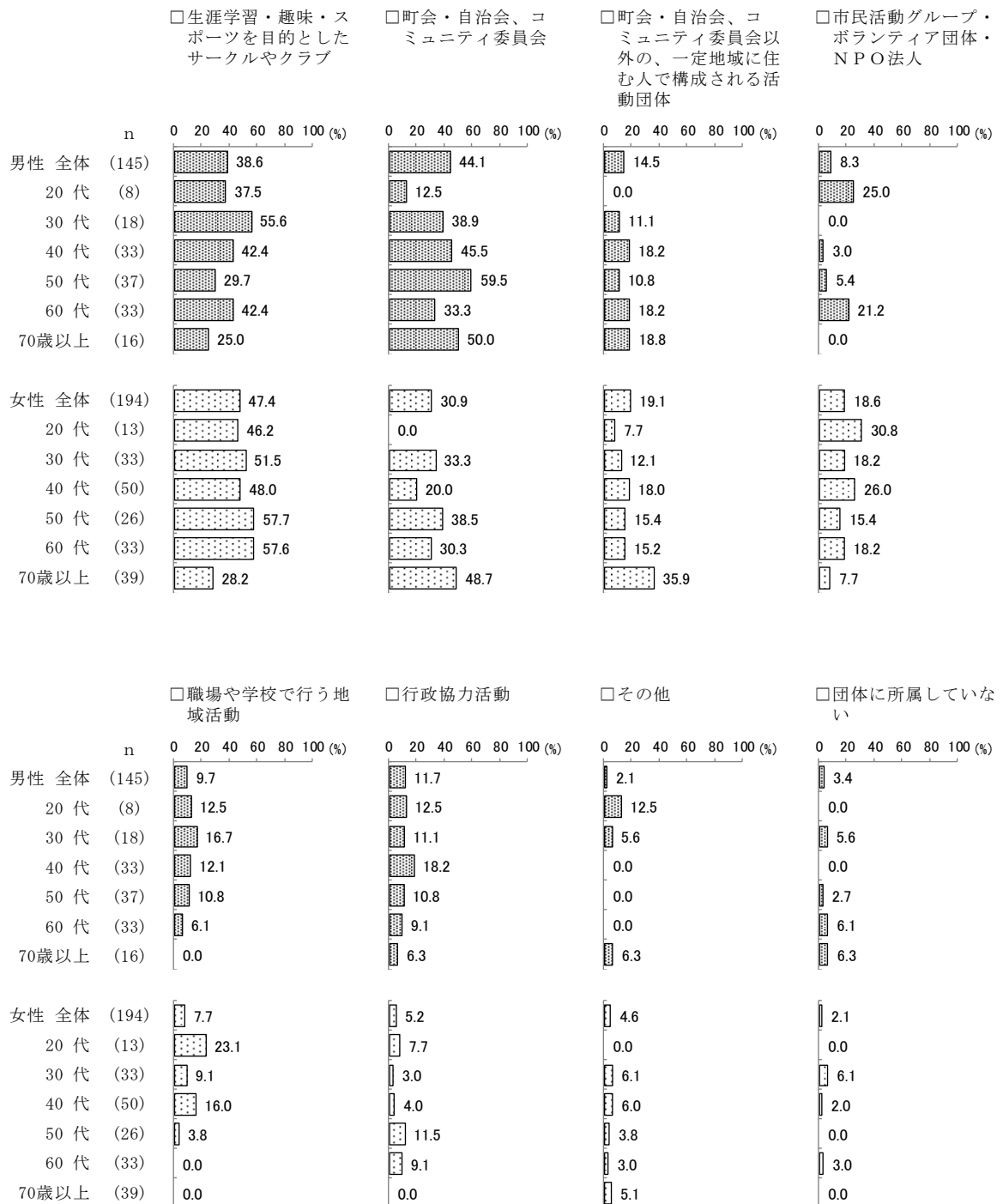
図9-2-2 活動・参加している（参加したい）地域活動の団体－推移



性別で見ると、「町会・自治会、コミュニティ委員会」は男性（44.1%）が女性（30.9%）より13.2ポイント高くなっている。「市民活動グループ・ボランティア団体・NPO法人」は女性（18.6%）が男性（8.3%）より10.3ポイント高くなっている。

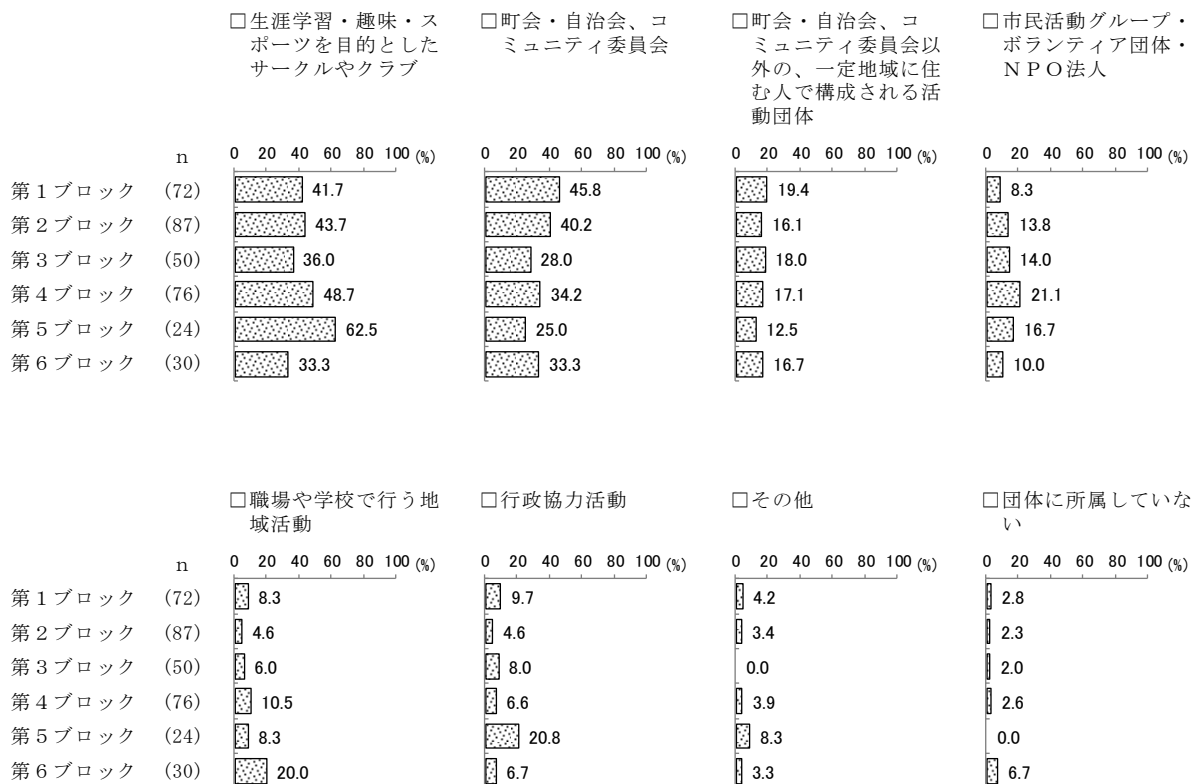
性・年代別で見ると、「生涯学習・趣味・スポーツを目的としたサークルやクラブ」は男性30代（55.6%）、女性50代（57.7%）、女性60代（57.6%）で5割台と多くなっている。「町会・自治会、コミュニティ委員会」は男性50代（59.5%）で6割と、「町会・自治会、コミュニティ委員会以外の、一定地域に住む人で構成される活動団体（老人クラブ、PTA、消防団、商店会など）」は女性70歳以上（35.9%）で3割半ばと多くなっている。（図9-2-3）

図9-2-3 活動・参加している（参加したい）地域活動の団体—性別、性・年代別



地区別にみると、「生涯学習・趣味・スポーツを目的としたサークルやクラブ」は第5ブロック（62.5%）で6割を超えて最も多くなっている。「町会・自治会、コミュニティ委員会」は第1ブロック（45.8%）と第2ブロック（40.2%）で4割台、「町会・自治会、コミュニティ委員会以外の、一定地域に住む人で構成される活動団体（老人クラブ、PTA、消防団、商店会など）」は全てのブロックで1割台となっている。（図9-2-4）

図9-2-4 活動・参加している（参加したい）地域活動の団体—地区別

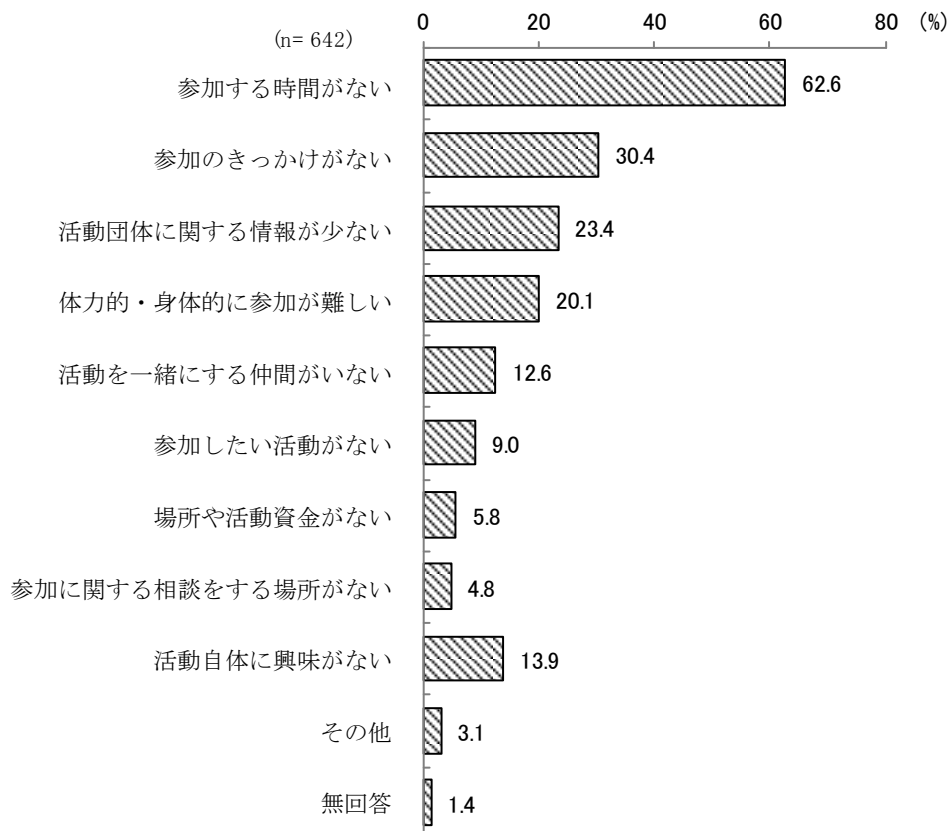


### 9-3 地域活動に参加していない理由

「参加する時間がない」が6割を超える

(問26で、「3. 現在、活動しておらず、今後活動するかわからない」  
または「4. 現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」とお答えの方に)  
問26-2 これらの活動に参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

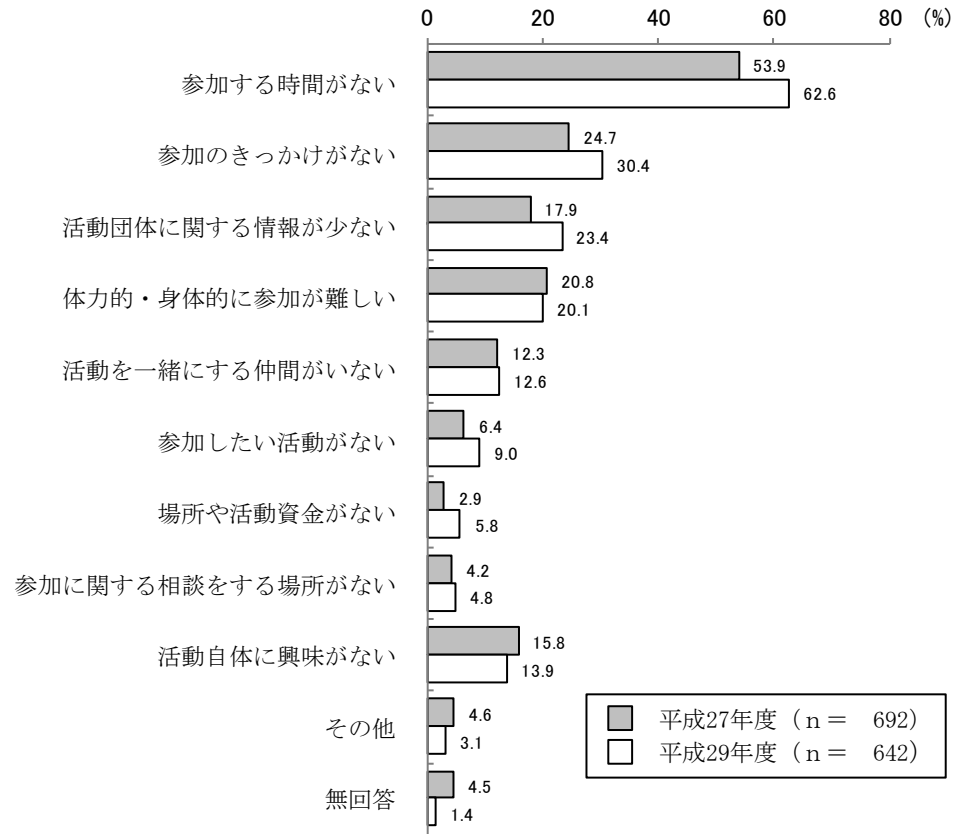
図9-3-1



地域活動に参加していない理由は、「参加する時間がない」(62.6%)が6割を超えて最も多く、次いで「参加のきっかけがない」(30.4%)、「活動団体に関する情報が少ない」(23.4%)、「体力的・身体的に参加が難しい」(20.1%)、「活動自体に興味がない」(13.9%)、「活動と一緒にする仲間がない」(12.6%)となっている。(図9-3-1)

推移をみると、平成27年度から「参加する時間がない」が8.7ポイント、「参加のきっかけがない」が5.7ポイント、「活動団体に関する情報が少ない」が5.5ポイント、それぞれ高くなっており、「活動自体に興味がない」は1.9ポイント低くなっている。(図9-3-2)

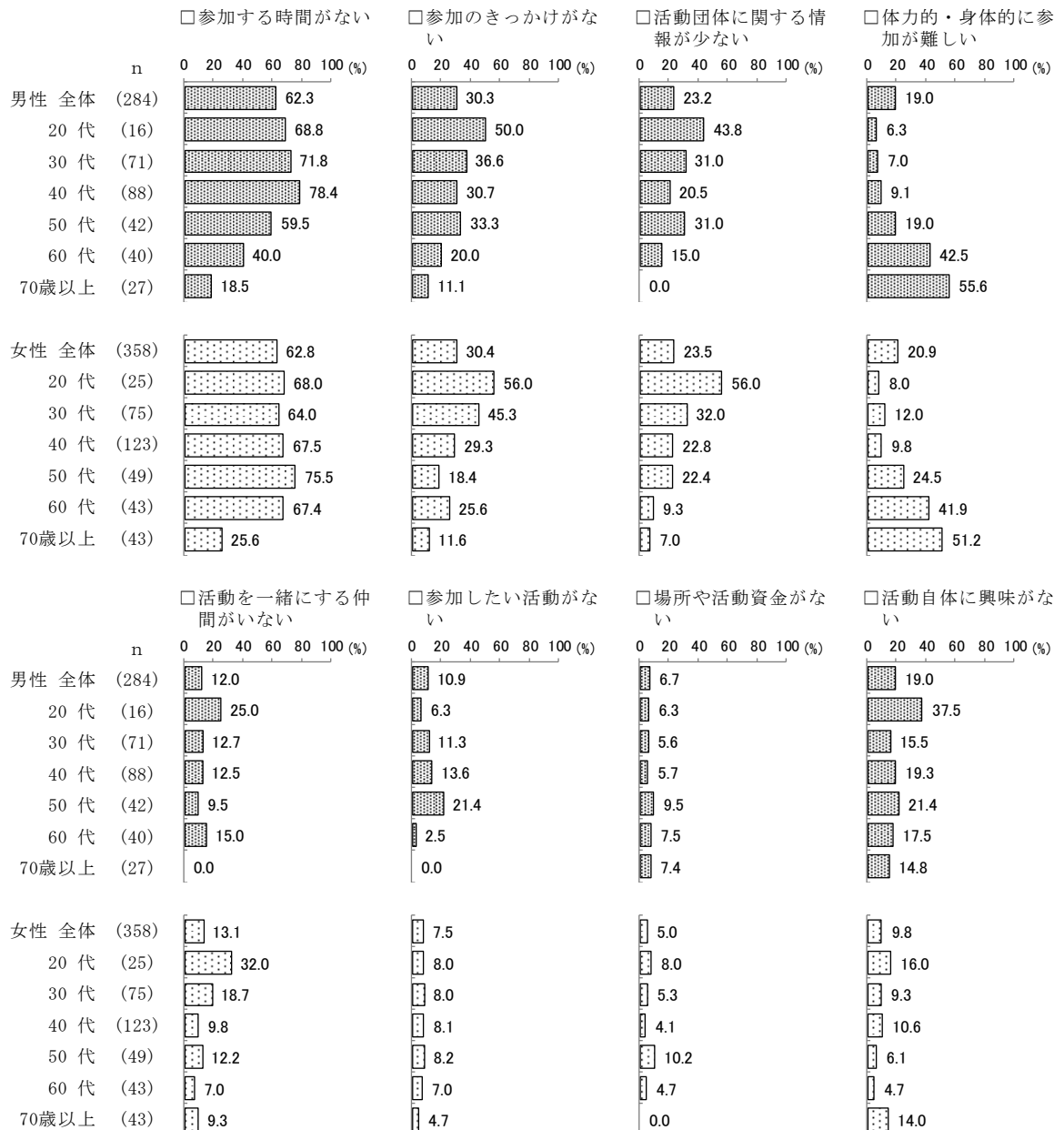
図9-3-2 地域活動に参加していない理由—推移



性別でみると、上位項目に男女差は見られない。「活動自体に興味がない」は男性（19.0%）が女性（9.8%）より9.2ポイント高くなっている。

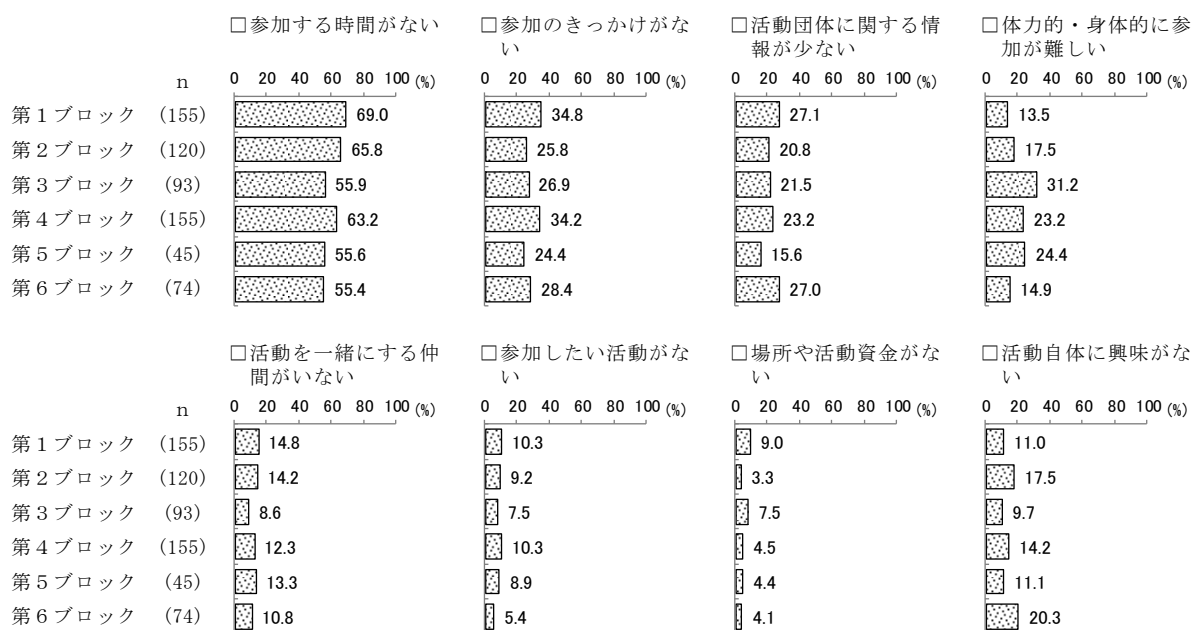
性・年代別でみると、「参加する時間がない」は男性40代（78.4%）、女性50代（75.5%）、男性30代（71.8%）で7割台と多くなっている。「参加のきっかけがない」は女性20代（56.0%）と男性20代（50.0%）で5割台、「活動団体に関する情報が少ない」は女性20代（56.0%）で5割半ばとなっている。（図9-3-3）

図9-3-3 地域活動に参加していない理由  
一性別、性・年代別（上位7位＋「活動自体に興味がない」）



地区別にみると、「参加する時間がない」は第1ブロック（69.0%）でほぼ7割と最も高く、次いで第2ブロック（65.8%）、第4ブロック（63.2%）となっている。「参加のきっかけがない」は第1ブロック（34.8%）と第4ブロック（34.2%）で3割半ば、「活動団体に関する情報が少ない」は第1ブロック（27.1%）と第6ブロック（27.0%）で3割近く、「体力的・身体的に参加が難しい」は第3ブロック（31.2%）で3割を超えている。（図9-3-4）

図9-3-4 地域活動に参加していない理由  
—地区別（上位7位+「活動自体に興味がない」）



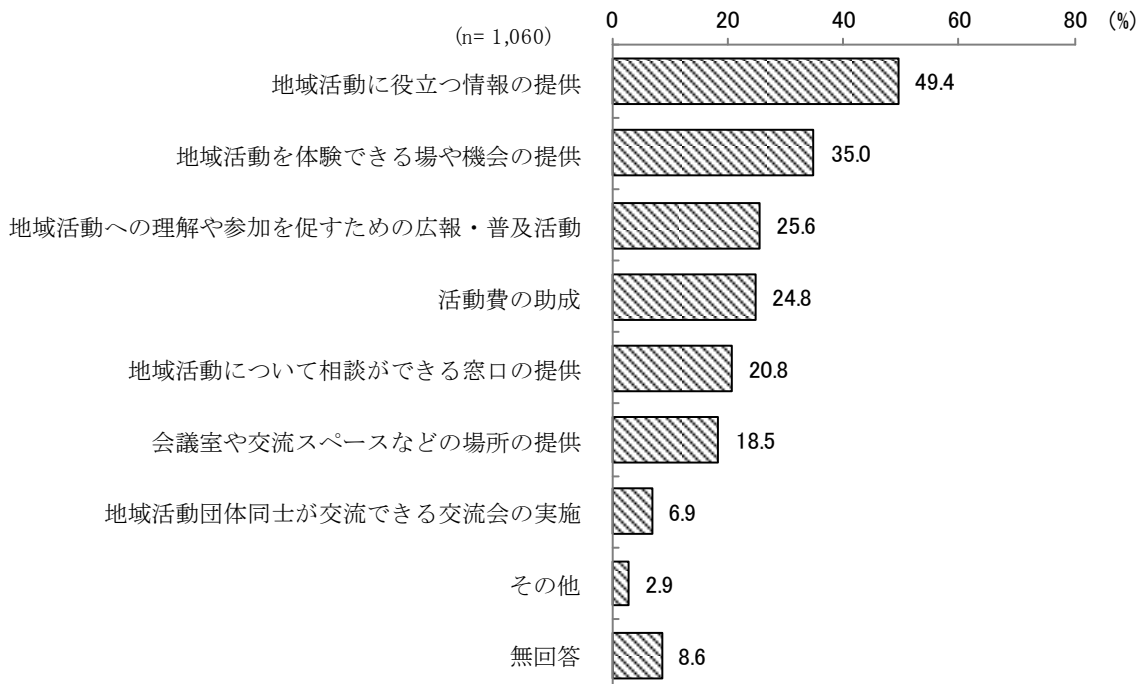


## 9-4 地域活動に対する区の支援

「地域活動に役立つ情報の提供」がほぼ5割

問27 区民が地域活動により参加しやすくなるために、また団体の地域活動がより活発になるためには、区はどのような支援をしたら良いと思いますか。(〇はいくつでも)

図9-4-1

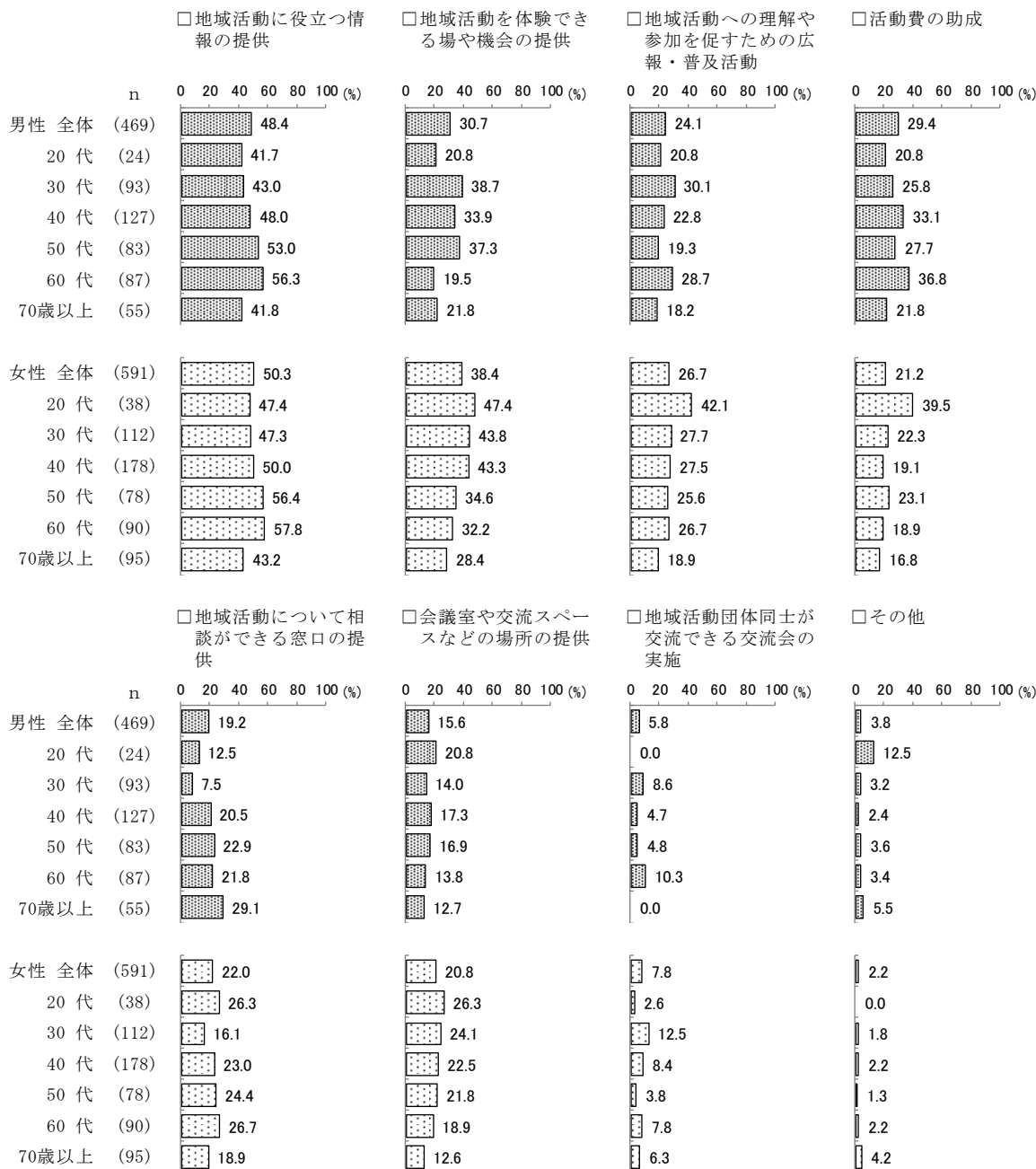


地域活動に対する区の支援は、「地域活動に役立つ情報の提供」(49.4%)がほぼ5割で最も多く、次いで「地域活動を体験できる場や機会の提供」(35.0%)、「地域活動への理解や参加を促すための広報・普及活動」(25.6%)、「活動費の助成」(24.8%)、「地域活動について相談ができる窓口の提供」(20.8%)となっている。(図9-4-1)

性別で見ると、「地域活動を体験できる場や機会の提供」は女性（38.4%）が男性（30.7%）より7.7ポイント高くなっている。「活動費の助成」は男性（29.4%）が女性（21.2%）より8.2ポイント高くなっている。

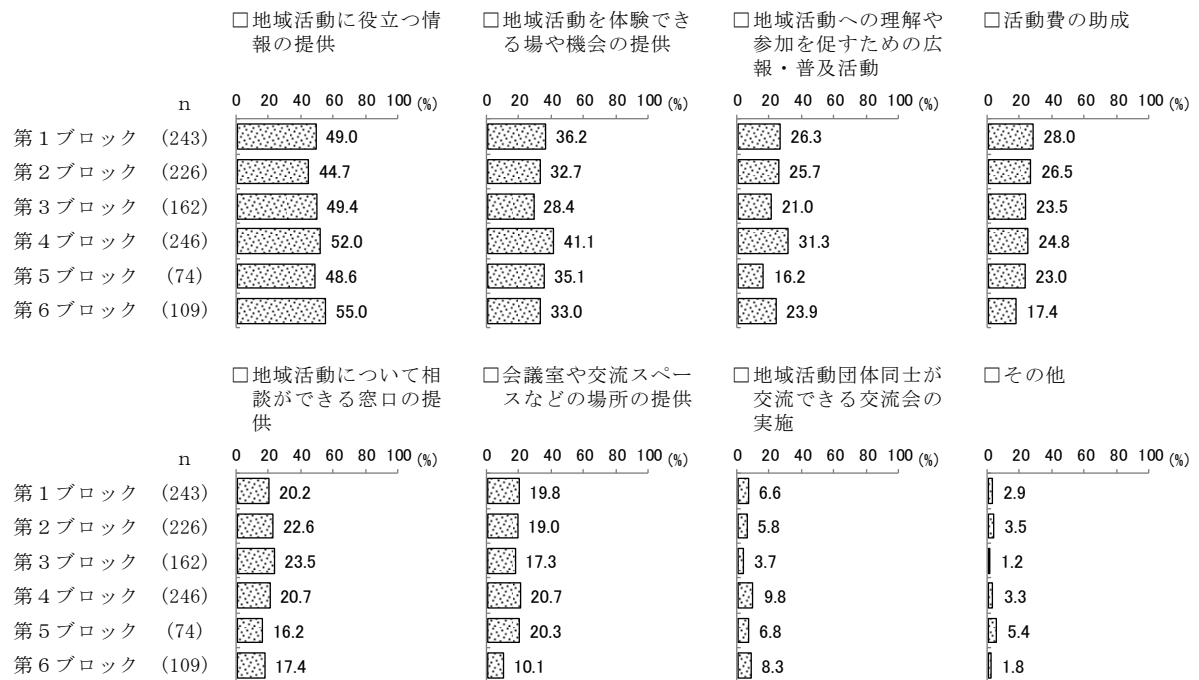
性・年代別で見ると、「地域活動に役立つ情報の提供」は女性60代（57.8%）で6割近くと最も多く、次いで女性50代（56.4%）、男性60代（56.3%）となっている。「地域活動を体験できる場や機会の提供」は女性20代（47.4%）で5割近く、「地域活動への理解や参加を促すための広報・普及活動」は女性20代（42.1%）で4割を超えている。（図9-4-2）

図9-4-2 地域活動に対する区の支援—性別、性・年代別



地区別にみると、「地域活動に役立つ情報の提供」は第4ブロック（52.0%）と第6ブロック（55.0%）で5割台となっている。「地域活動を体験できる場や機会の提供」は第4ブロック（41.1%）で4割を超え、「地域活動への理解や参加を促すための広報・普及活動」は第4ブロック（31.3%）で3割を超え、「活動費の助成」は第6ブロック（17.4%）を除く各ブロックで2割台となっている。（図9-4-3）

図9-4-3 地域活動に対する区の支援—地区別



## 10. 福祉のまちづくり

今回の調査では、「心のバリアフリー」という言葉を「以前から言葉も意味も知っていた」が47.5%、「ユニバーサルデザイン」という言葉を「以前から言葉も意味も知っていた」が39.9%となり、前回調査時からこれら2つの言葉の認知度が高くなっていることが分かりました。

区では、区内小学校の児童に対して、高齢者疑似体験・車いす体験を実施しているほか、車いす利用者をはじめ様々な人との接し方などを書いたパンフレットを作成・配布することで、周りの人との支え合いやちょっとした思いやりと心遣いを呼びかける「心のバリアフリー」の普及啓発を行っています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、今後も「心のバリアフリー」の意識の醸成を行うとともに、今あるバリア（障壁）を取り除く「バリアフリー」だけではなく、最初からバリアを作らない「ユニバーサルデザイン」の周知をより一層進めてまいります。

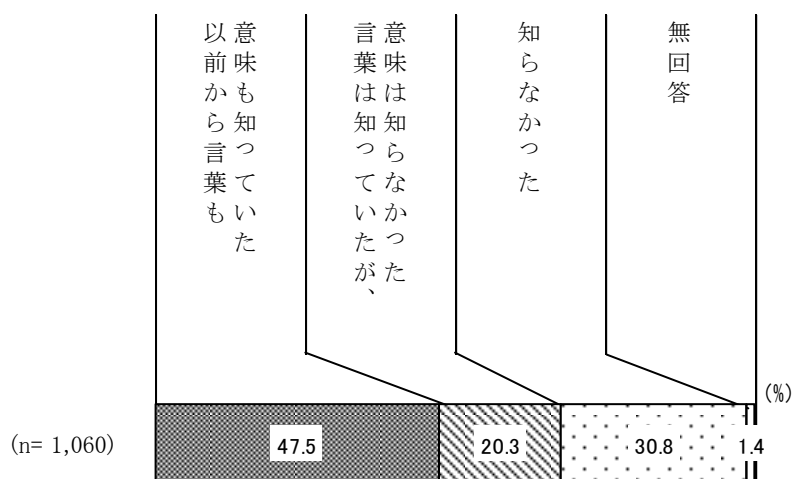
(福祉部 福祉課)

## 10-1 心のバリアフリーという言葉の認知度

「以前から言葉も意味も知っていた」が5割近く

問 28 あなたは、心のバリアフリーという言葉の意味を知っていましたか。(○は1つだけ)

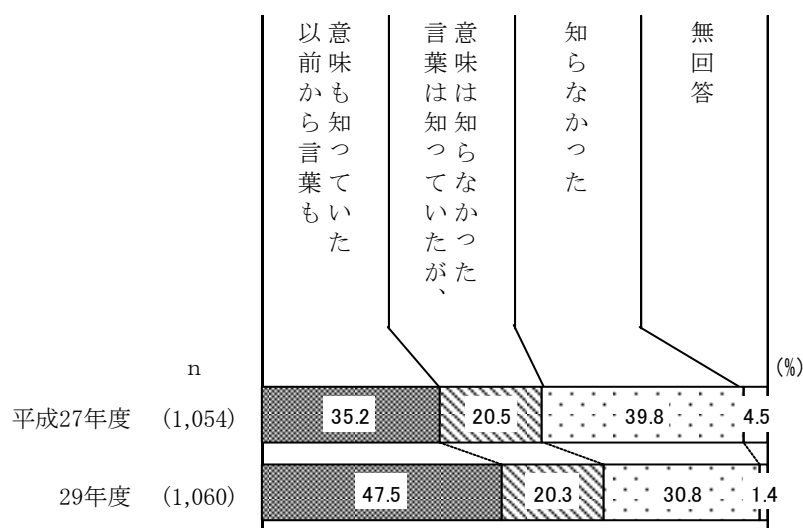
図 10-1-1



心のバリアフリーという言葉の認知度は、「以前から言葉も意味も知っていた」(47.5%)が5割近くと最も多く、次いで「知らなかった」(30.8%)、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」(20.3%)となっている。(図 10-1-1)

推移をみると、平成27年度から「以前から言葉も意味も知っていた」は12.3ポイント高く、「知らなかった」は9.0ポイント低くなっている。(図 10-1-2)

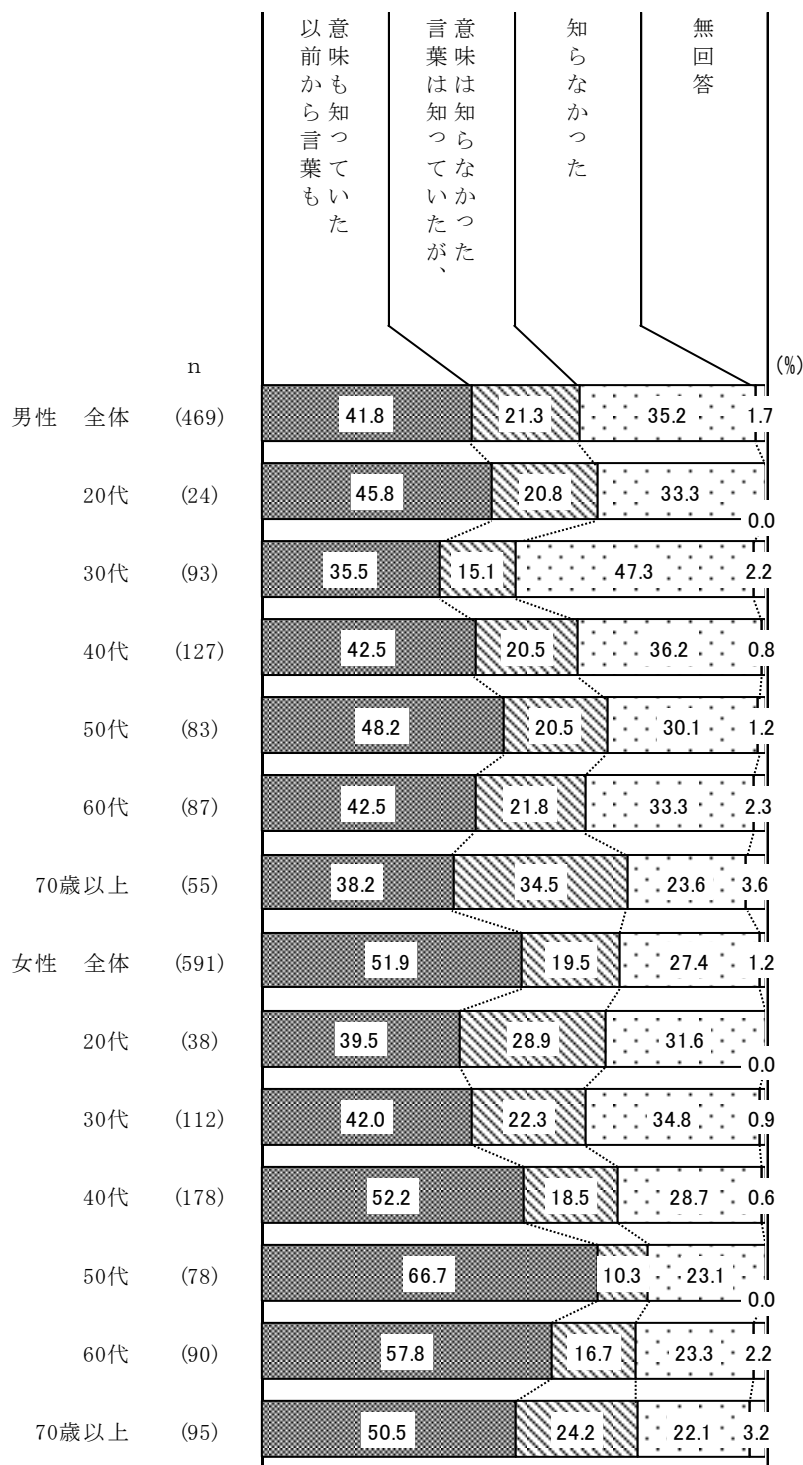
図 10-1-2 心のバリアフリーという言葉の認知度—推移



性別で見ると、「以前から言葉も意味も知っていた」は女性（51.9%）が男性（41.8%）より10.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「以前から言葉も意味も知っていた」は女性50代（66.7%）で7割近くと最も多く、次いで女性60代（57.8%）となっている。「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」は男性70歳以上（34.5%）で3割半ば、「知らなかった」は男性30代（47.3%）で5割近くとなっている。（図10-1-3）

図10-1-3 心のバリアフリーという言葉の認知度—性別、性・年代別

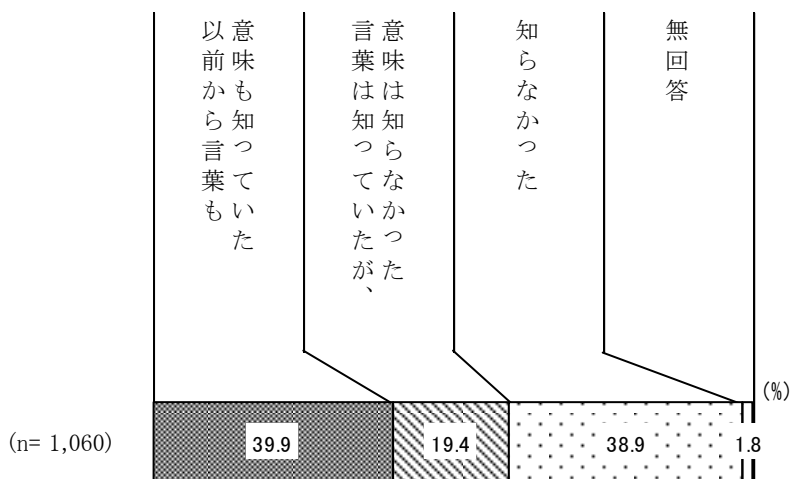


## 10-2 ユニバーサルデザインという言葉の認知度

「以前から言葉も意味も知っていた」が4割

問 29 あなたは、ユニバーサルデザインという言葉の意味を知っていましたか。(○は1つだけ)

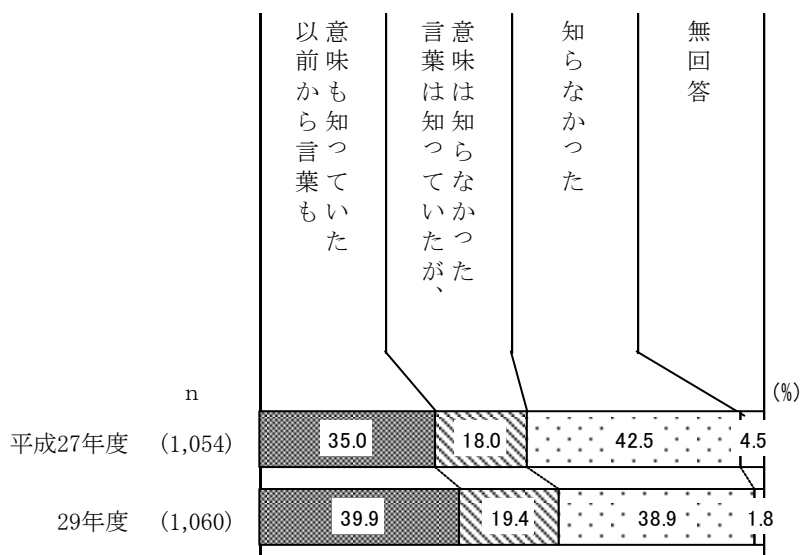
図 10-2-1



ユニバーサルデザインという言葉の認知度は、「以前から言葉も意味も知っていた」(39.9%)が4割で最も多く、次いで「知らなかった」(38.9%)、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」(19.4%)となっている。(図 10-2-1)

推移をみると、平成 27 年度から「以前から言葉も意味も知っていた」は 4.9 ポイント高く、「知らなかった」は 3.6 ポイント低くなっている。(図 10-2-2)

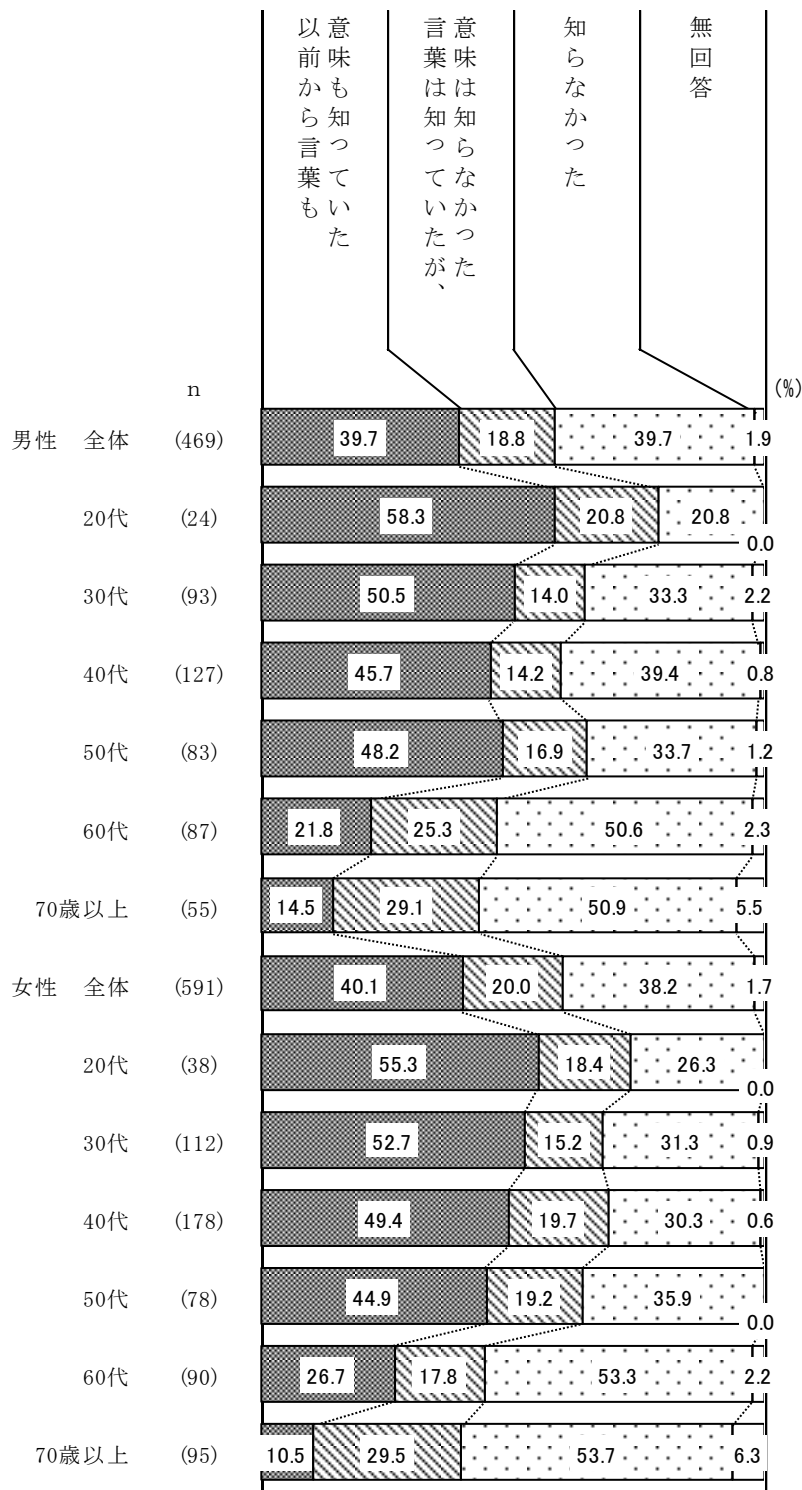
図 10-2-2 ユニバーサルデザインという言葉の認知度—推移



性別でみると、大きな男女差は見られない。

性・年代別でみると、「以前から言葉も意味も知っていた」は男女ともに年代が高くなるほど少なくなっている。男性20代（58.3%）で6割近くと最も多く、女性70歳以上（10.5%）でほぼ1割と最も少なくなっている。一方、「知らなかった」は女性70歳以上（53.7%）で5割を超えて最も多くなっている。（図10-2-3）

図10-2-3 ユニバーサルデザインという言葉の認知度—性別、性・年代別





## 11. スポーツ活動

この1年間に運動やスポーツを行ったと回答した人のうち、種類については「ウォーキング、散歩」が最も多く、場所については「近くの公園」及び「自宅」、だれと行ったかについては「一人」の割合が高いという結果になりました。また、週に1回以上運動やスポーツを行ったという回答は63.6%であり、27年度調査時より5.8ポイント増加しています。この1年間に運動やスポーツをしなかった理由としては、「仕事や家事・育児などが忙しい」という理由が最も多いという結果になりました。

今後も、生涯にわたってスポーツに親しむための様々な事業を実施し、区民の方がスポーツに触れる機会を提供することで、成人の週1回以上のスポーツ実施率を、台東区スポーツ振興基本計画に基づいて引き上げ、生涯スポーツ社会を実現できるよう努めてまいります。

障害者スポーツについては、障害者スポーツを実施した経験または関心があるという回答は52.5%、関心がないという回答は35.3%という結果になりました。

パラリンピック競技大会の開催をきっかけに、障害者スポーツに親しむ環境を整備し、障害者スポーツに関心を持つ人の割合を、台東区スポーツ振興基本計画に基づいて引き上げ、スポーツで障害のある方とない方の相互理解を進め、スポーツにより支え合う社会を実現できるよう努めてまいります。

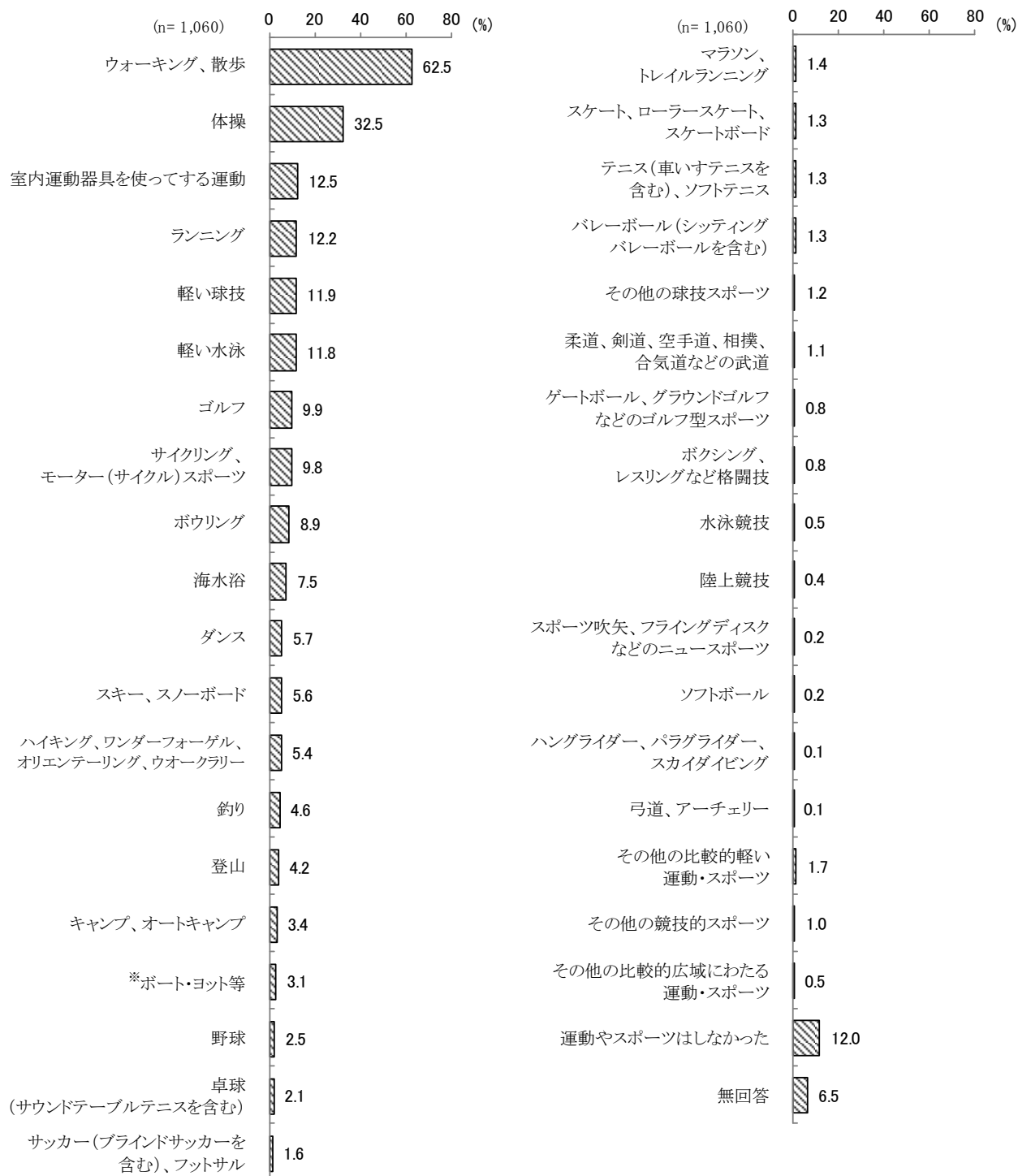
(教育委員会 スポーツ振興課)

# 11-1 この1年間に行った運動やスポーツ

「ウォーキング、散歩」が6割を超える

問 30 この中にあなたが、この1年間に行った運動やスポーツがあれば、すべてお選びください。  
(○はいくつでも)

図 11-1-1



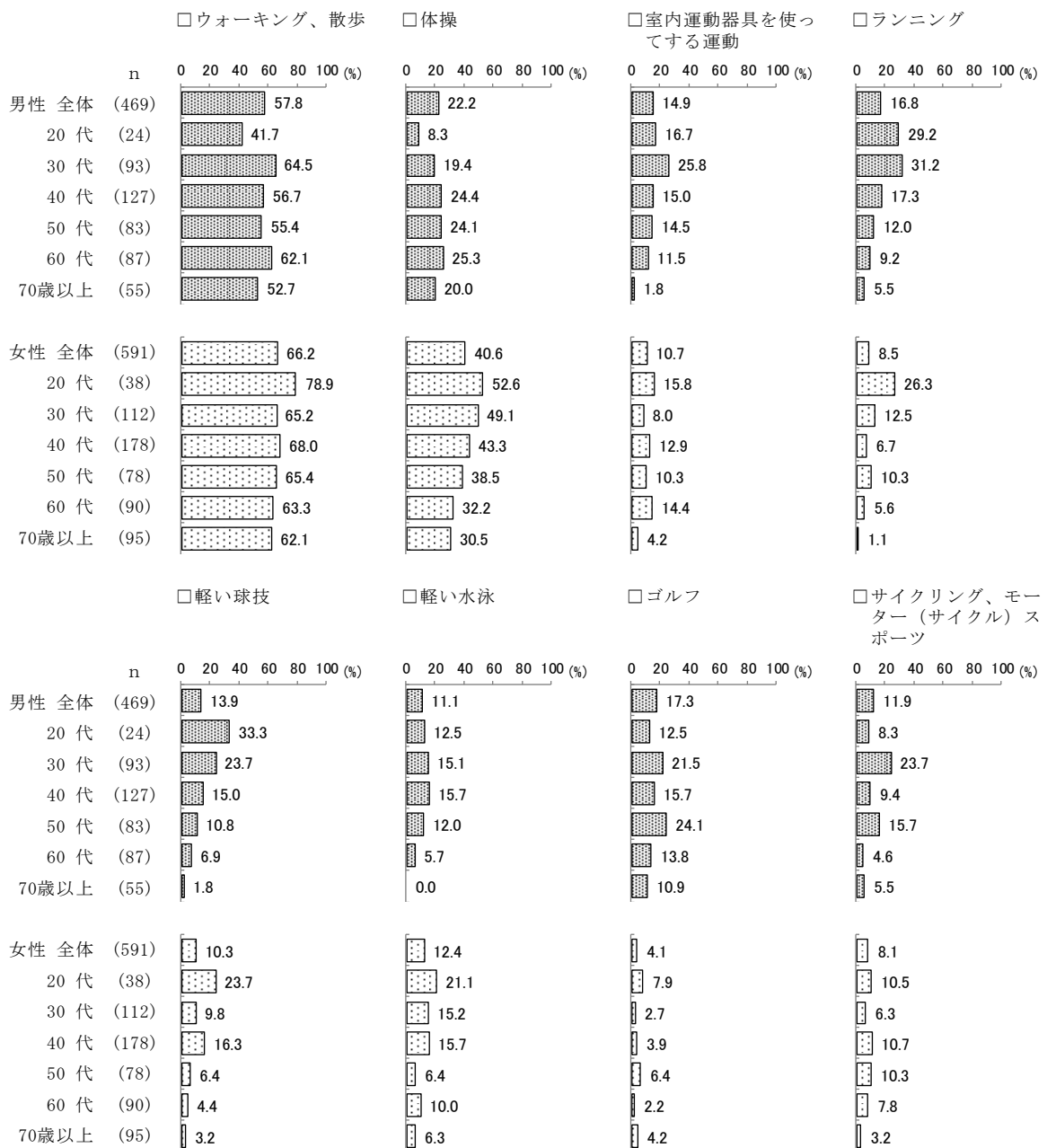
※「ボート・ヨット等」は「ボート、ヨット、スキンドайビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリング」を省略した。

この1年間に行った運動やスポーツは、「ウォーキング、散歩」(62.5%)が6割を超えて最も多く、次いで「体操」(32.5%)、「室内運動器具を使ってする運動」(12.5%)、「ランニング」(12.2%)、「軽い球技」(11.9%)、「軽い水泳」(11.8%)となっている。一方、「運動やスポーツはしなかった」(12.0%)は1割を超えている。(図11-1-1)

性別でみると、「ウォーキング、散歩」は女性(66.2%)が男性(57.8%)より8.4ポイント、「体操」は女性(40.6%)が男性(22.2%)より18.4ポイント、それぞれ高くなっている。「ランニング」は男性(16.8%)が女性(8.5%)より8.3ポイント、「ゴルフ」は男性(17.3%)が女性(4.1%)より13.2ポイント、それぞれ高くなっている。

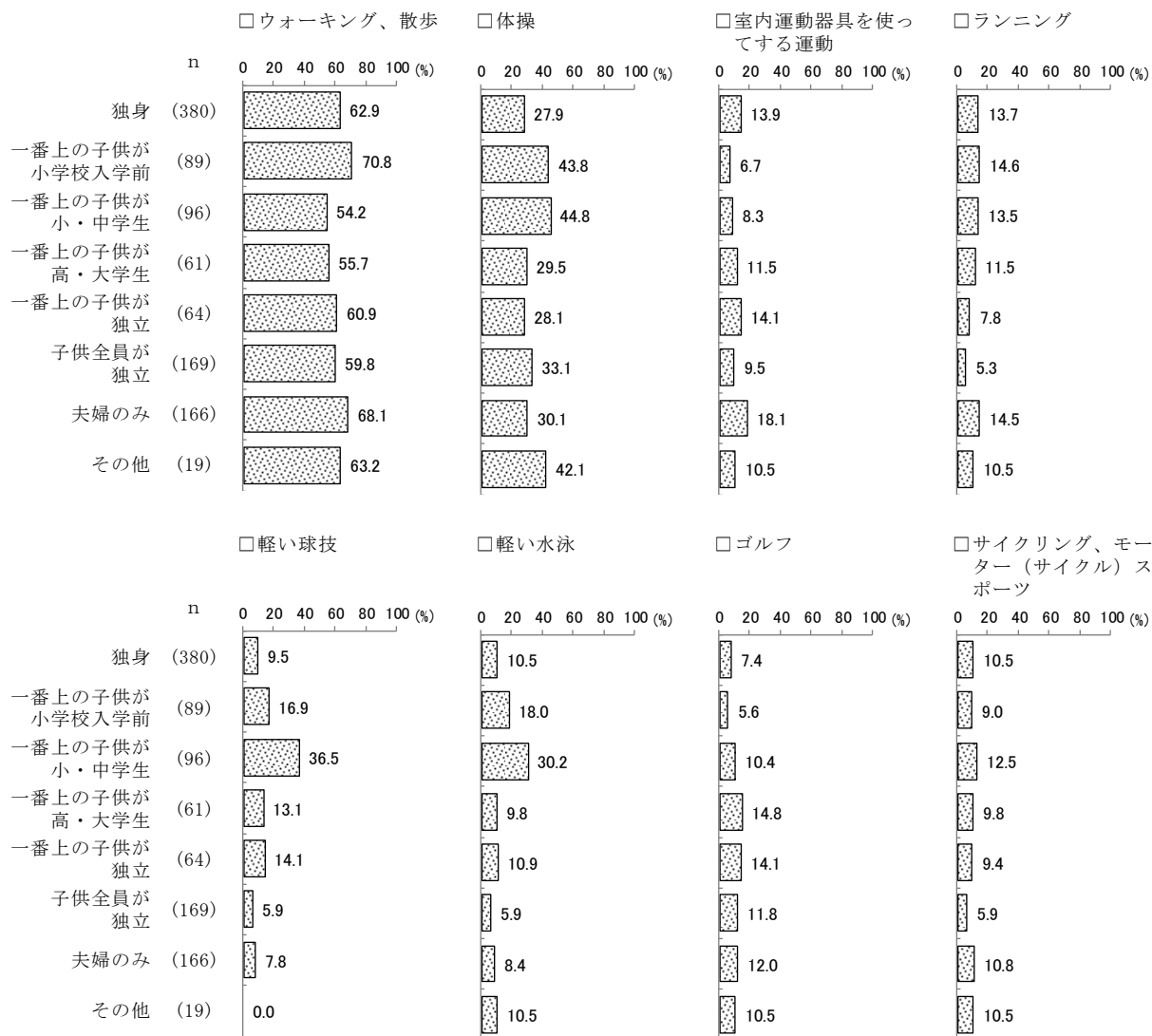
性・年代別でみると、「ウォーキング、散歩」は女性20代(78.9%)が8割近くで最も多く、女性の各年代で6割以上となっている。「体操」は女性20代(52.6%)で5割を超え、「室内運動器具を使ってする運動」は男性30代(25.8%)で2割半ばとなっている。(図11-1-2)

図11-1-2 この1年間に行った運動やスポーツ—性別、性・年代別(上位8位)



家族構成別でみると、「ウォーキング、散歩」が一番上の子供が小学校入学前（70.8%）でほぼ7割となっている。「体操」が一番上の子供が小学校入学前（43.8%）と一番上の子供が小・中学生（44.8%）で4割台、「室内運動器具を使ってする運動」は夫婦のみ（18.1%）で2割近くとなっている。「軽い球技」、「軽い水泳」、「サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ」が一番上の子供が小・中学生が最も多くなっている。（図11-1-3）

図11-1-3 この1年間に行った運動やスポーツ—家族構成別（上位8位）

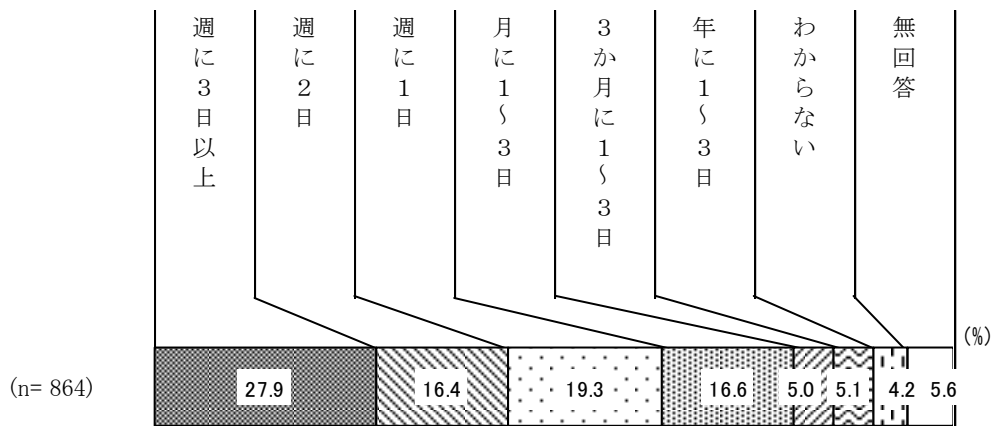


## 11-2 運動やスポーツを行った頻度

「週に3日以上」が3割近く

(問30で、「1. ウォーキング、散歩」から「37. その他の競技的スポーツ」の  
いずれかにお答えの方に)  
問30-1 あなたが運動やスポーツを行っている頻度はどれくらいですか。(○は1つだけ)

図11-2-1



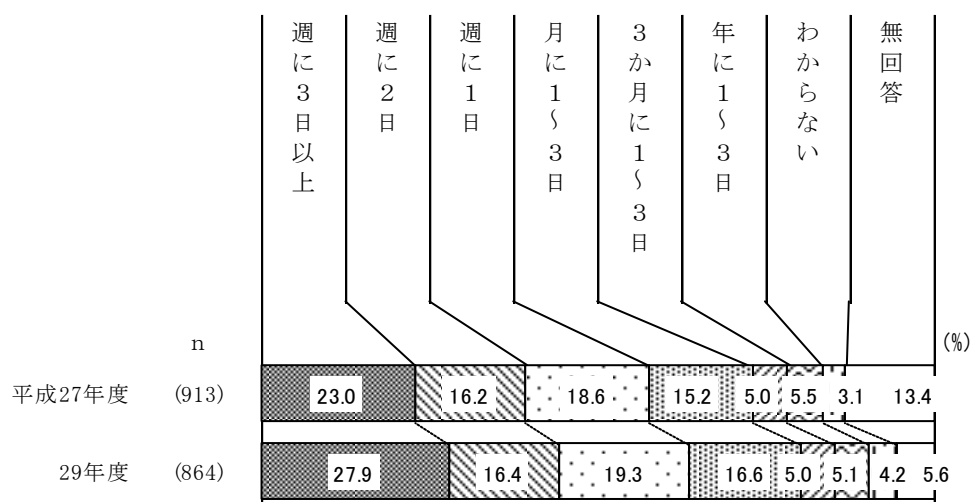
運動やスポーツを行った頻度は、「週に3日以上」(27.9%)が3割近くと最も多く、次いで「週に1日」(19.3%)、「月に1〜3日」(16.6%)、「週に2日」(16.4%)となっている。

(図11-2-1)

推移をみると、「週に3日以上」は平成27年度から4.9ポイント高くなっている。

(図11-2-2)

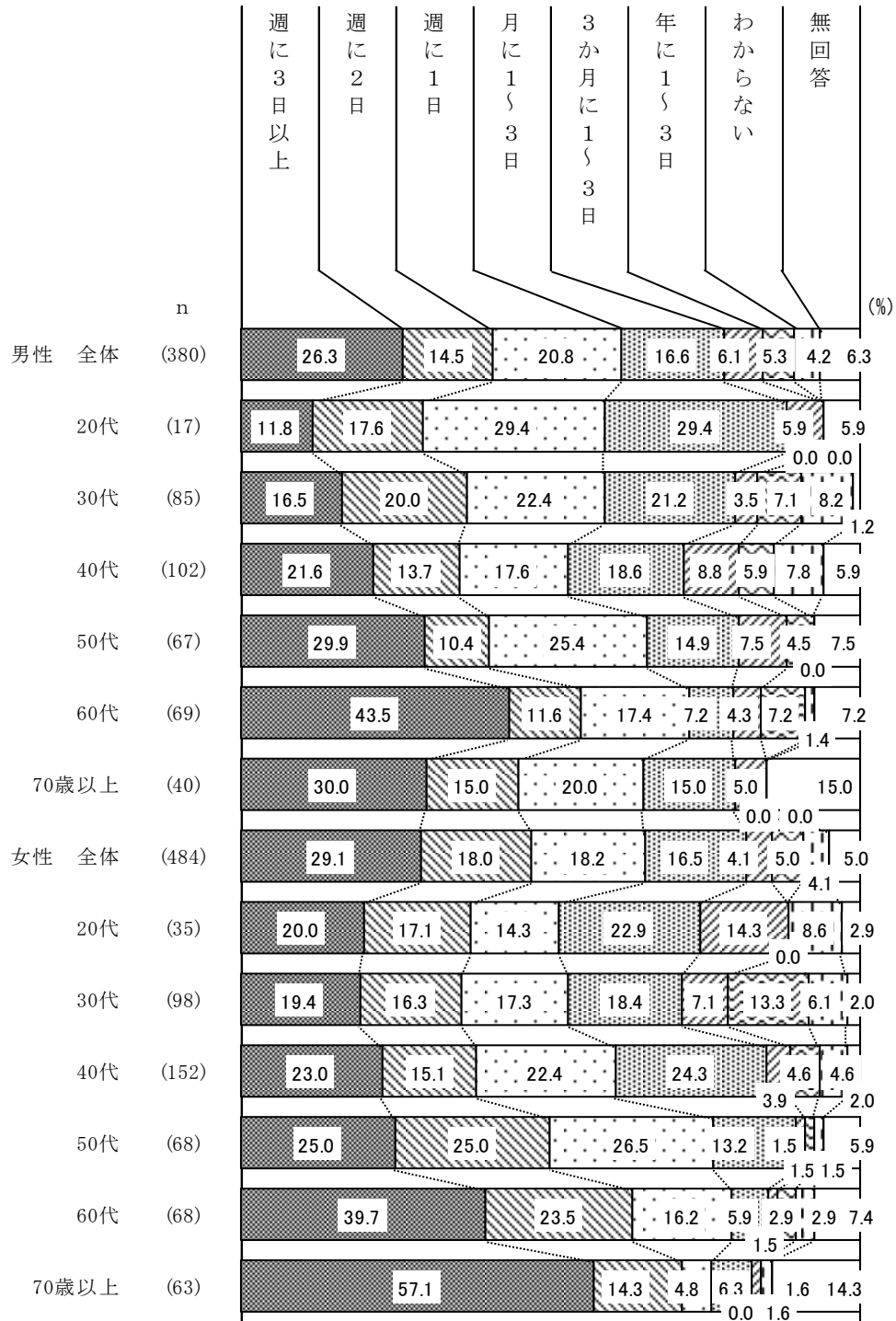
図11-2-2 運動やスポーツを行った頻度-推移



性別で見ると、「週に3日以上」は女性（29.1%）が男性（26.3%）より2.8ポイント高くなっている。「週に1日」は男性（20.8%）が女性（18.2%）より2.6ポイント高くなっている。

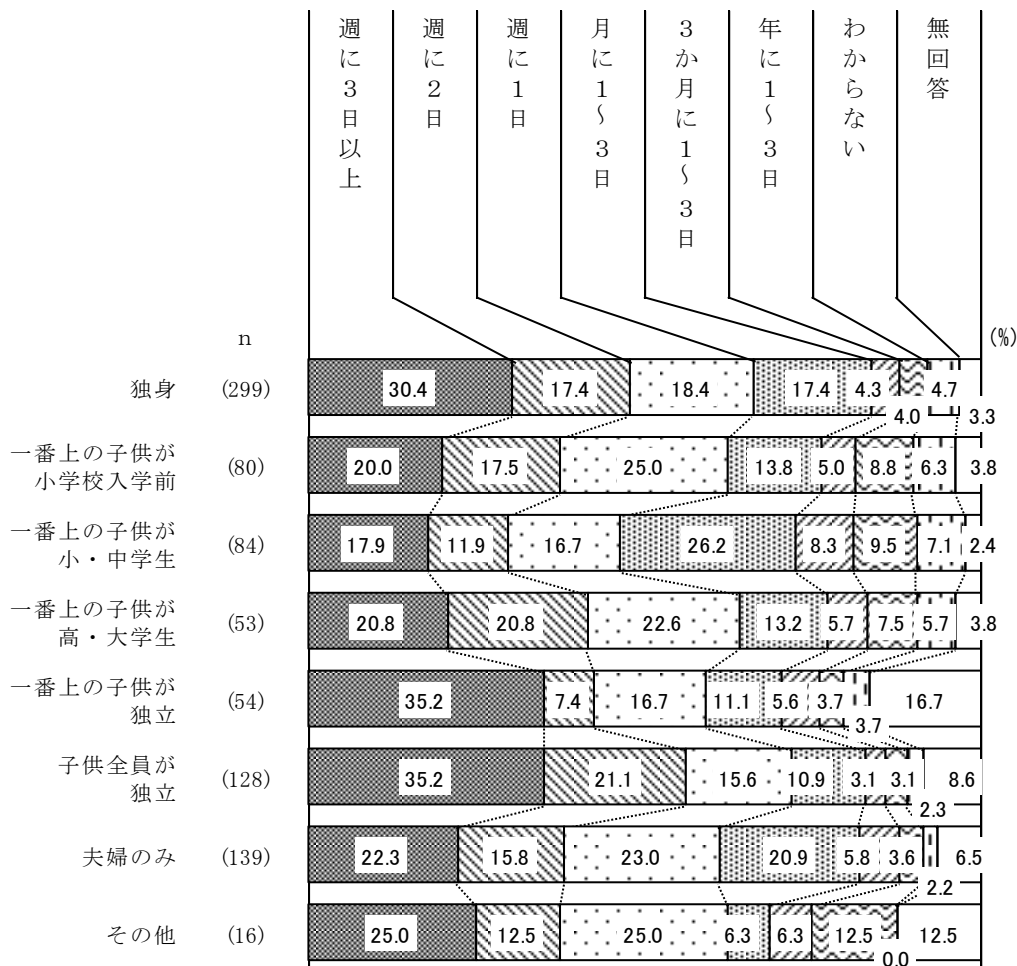
性・年代別で見ると、「週に3日以上」は女性70歳以上（57.1%）で6割近く、男性60代（43.5%）で4割を超えて、他の性・年代よりも多くなっている。「週に1日」は男性20代（29.4%）でほぼ3割と最も多く、次いで女性50代（26.5%）、男性50代（25.4%）となっている。（図11-2-3）

図11-2-3 運動やスポーツを行った頻度—性別、性・年代別



家族構成別にみると、「週に3日以上」は独身（30.4%）、一番上の子供が独立（35.2%）、子供全員が独立（35.2%）で3割台となっている。「週に1日」が一番上の子供が小学校入学前（25.0%）、夫婦のみ（23.0%）で2割台となっている。（図11-2-4）

図11-2-4 運動やスポーツを行った頻度—家族構成別

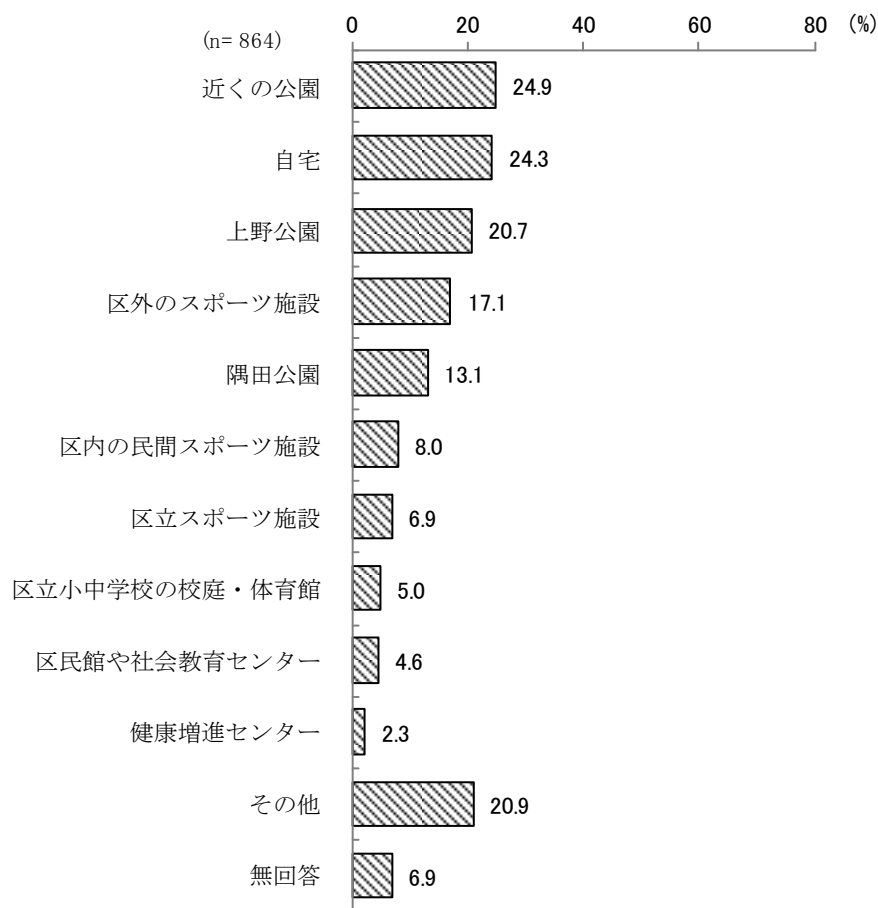


### 11-3 運動やスポーツをした場所

「近くの公園」が2割半ば

(問30で、「1. ウォーキング、散歩」から「37. その他の競技的スポーツ」の  
いずれかにお答えの方に)  
問30-2 その運動やスポーツを行った場所はどこですか。(〇はいくつでも)

図 11-3-1



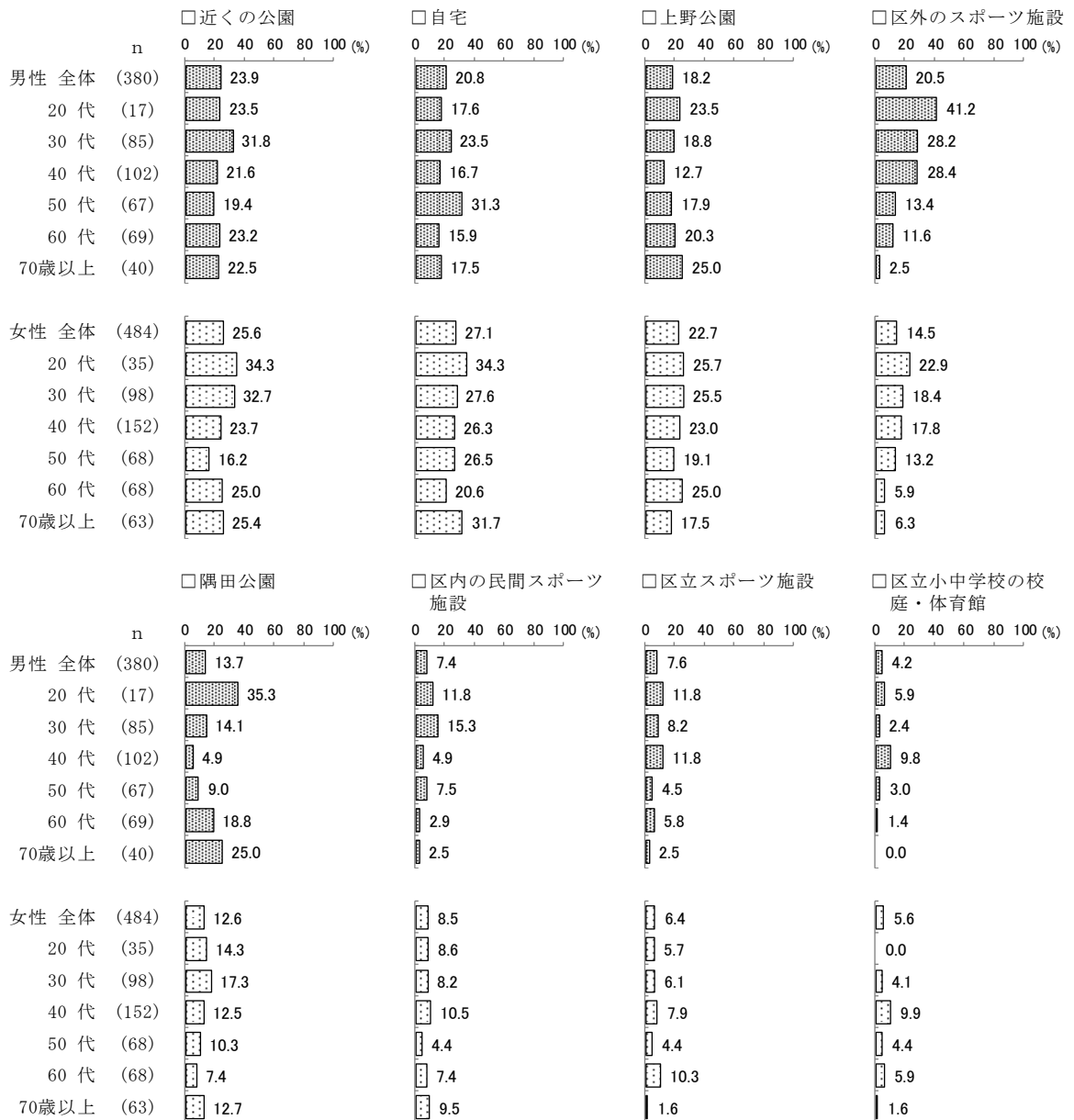
運動やスポーツをした場所は、「近くの公園」(24.9%)が2割半ばで最も多く、次いで「自宅」(24.3%)、「上野公園」(20.7%)、「区外のスポーツ施設」(17.1%)、「隅田公園」(13.1%)となっている。(図11-3-1)

性別で見ると、「自宅」は女性(27.1%)が男性(20.8%)より6.3ポイント高くなっている。「区外のスポーツ施設」は男性(20.5%)が女性(14.5%)より6.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「近くの公園」は女性20代(34.3%)で3割半ばと最も多く、次いで女性30代(32.7%)、男性30代(31.8%)となっている。「自宅」は女性20代(34.3%)で3割半ばと最も多く、次いで女性70歳以上(31.7%)、男性50代(31.3%)となっている。「区外のスポーツ施設」は男女ともに年代が高くなるほど少なくなっている。(図11-3-2)

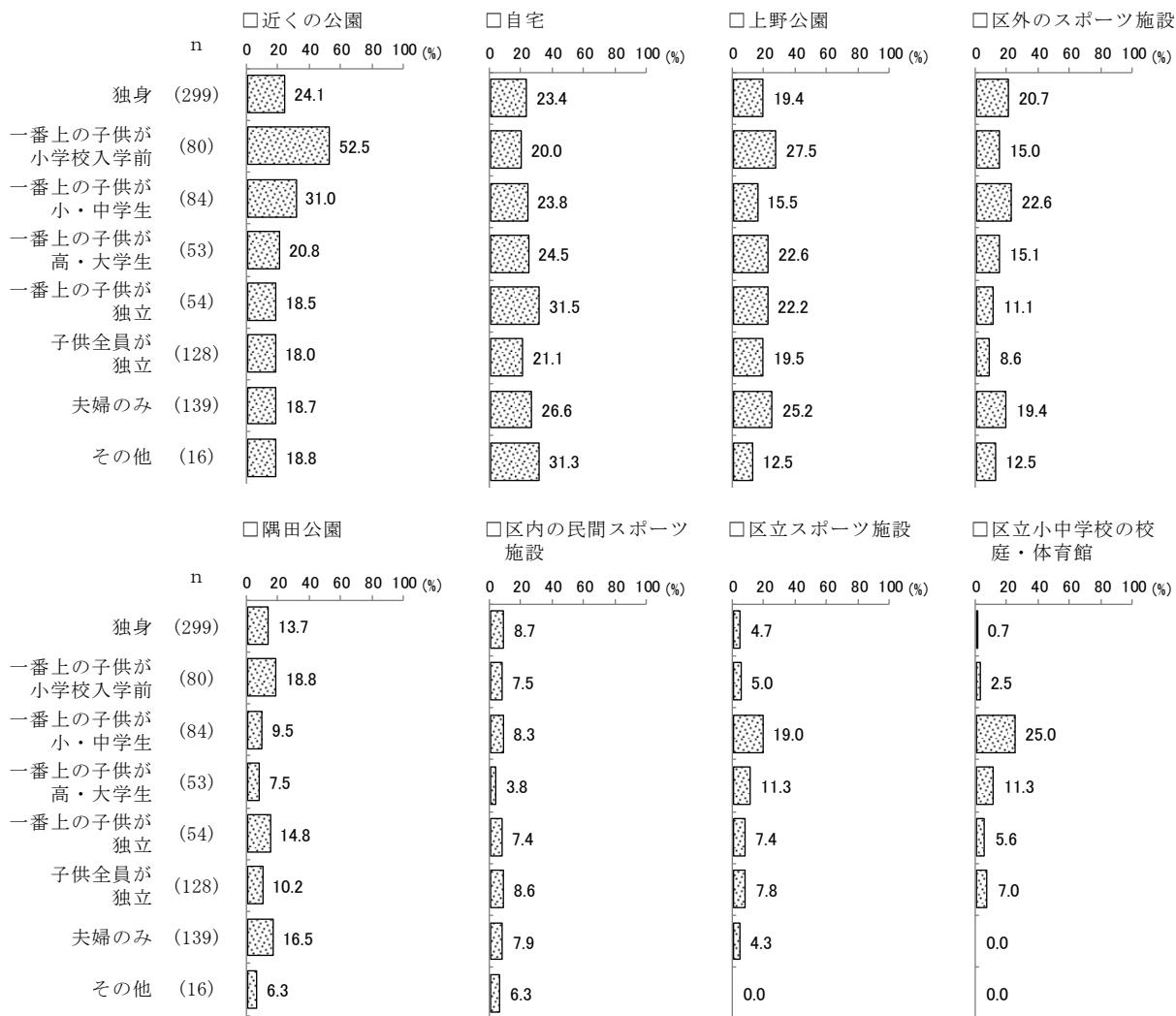


図 11-3-2 運動やスポーツをした場所—性別、性・年代別（上位 8 位）



家族構成別にみると、「近くの公園」が一番上の子供が小学校入学前（52.5%）で5割を超えて最も多くなっている。「自宅」が一番上の子供が独立（31.5%）で3割を超え、「上野公園」が一番上の子供が小学校入学前（27.5%）で3割近く、「区外のスポーツ施設」が一番上の子供が小・中学生（22.6%）で2割を超えている。（図11-3-3）

図11-3-3 運動やスポーツをした場所—家族構成別（上位8位）



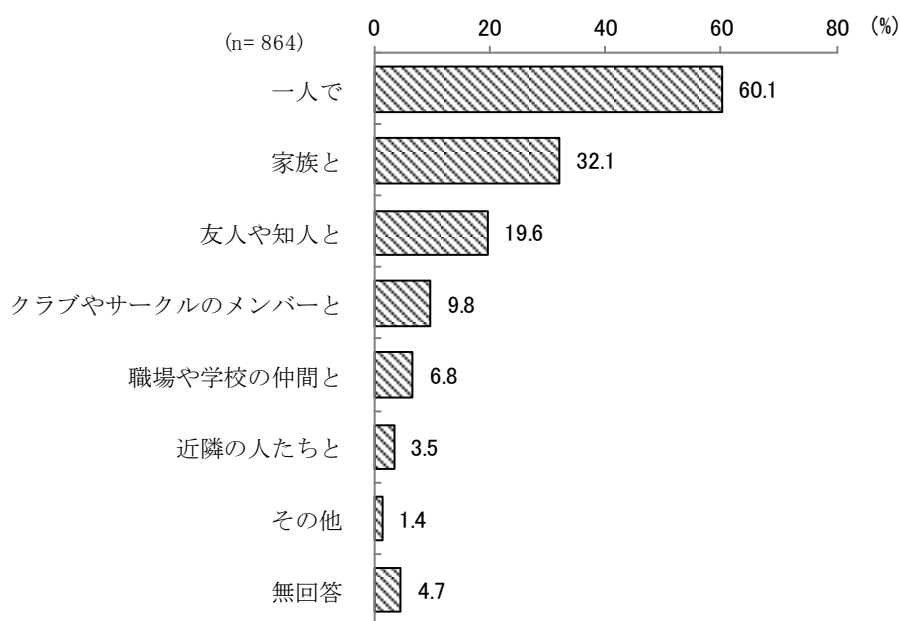
## 11-4 だれと運動やスポーツをしたか

「一人で」が6割

(問30で、「1. ウォーキング、散歩」から「37. その他の競技的スポーツ」の  
いずれかにお答えの方に)

問30-3 主に、だれと運動やスポーツをしていますか。(〇はいくつでも)

図11-4-1



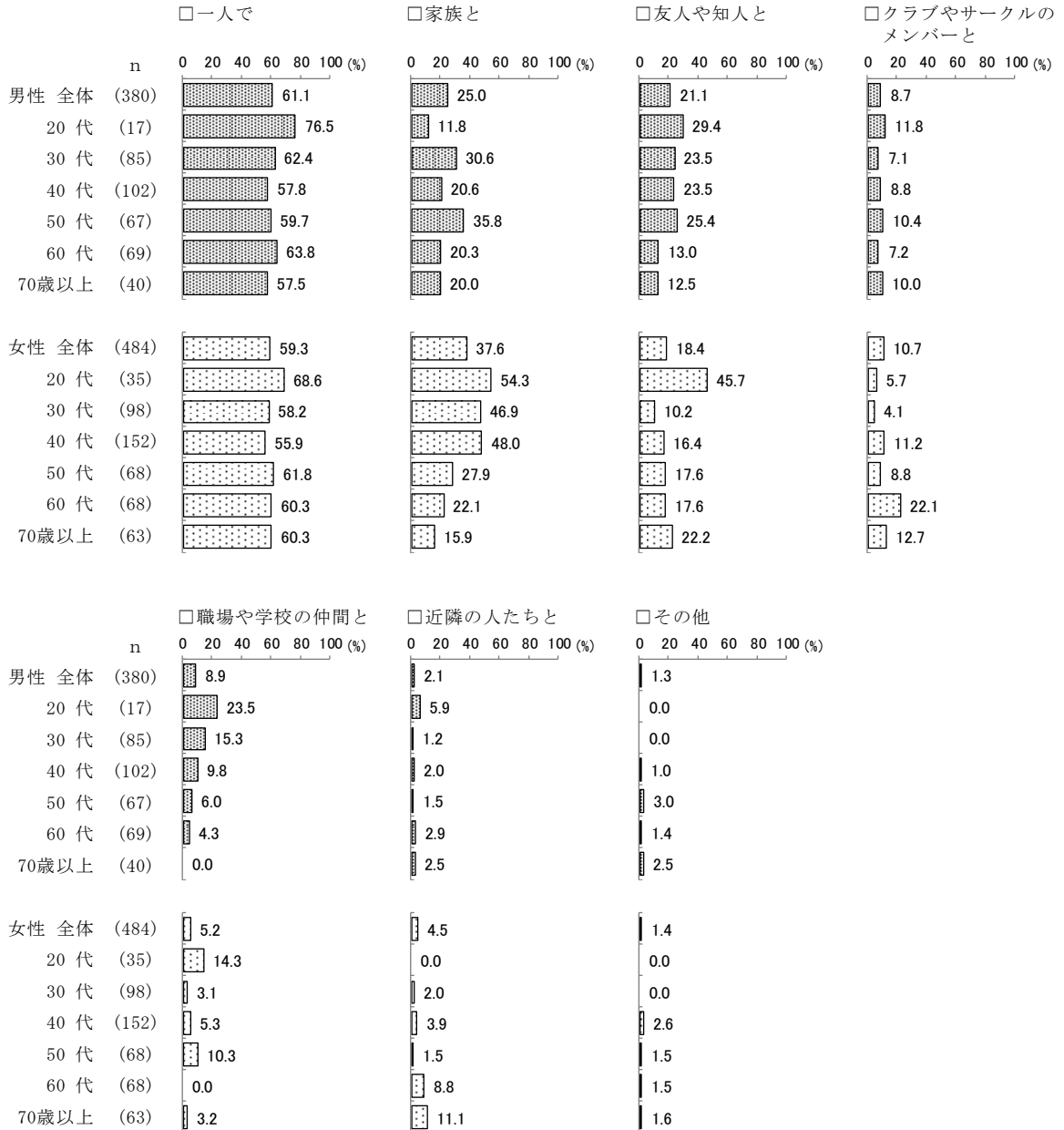
だれと運動やスポーツをしたかは、「一人で」(60.1%)が6割と最も多く、次いで「家族と」(32.1%)、「友人や知人と」(19.6%)となっている。(図11-4-1)

性別で見ると、「家族と」は女性(37.6%)が男性(25.0%)より12.6ポイント高くなっている。他の項目については、大きな男女差は見られない。

性・年代別で見ると、「一人で」は男性20代(76.5%)が8割近くと最も多く、次いで女性20代(68.6%)、男性60代(63.8%)となっている。「家族と」は女性20代(54.3%)で5割半ば、「友人や知人と」は女性20代(45.7%)で4割半ばと、他の性・年代に比べて多くなっている。

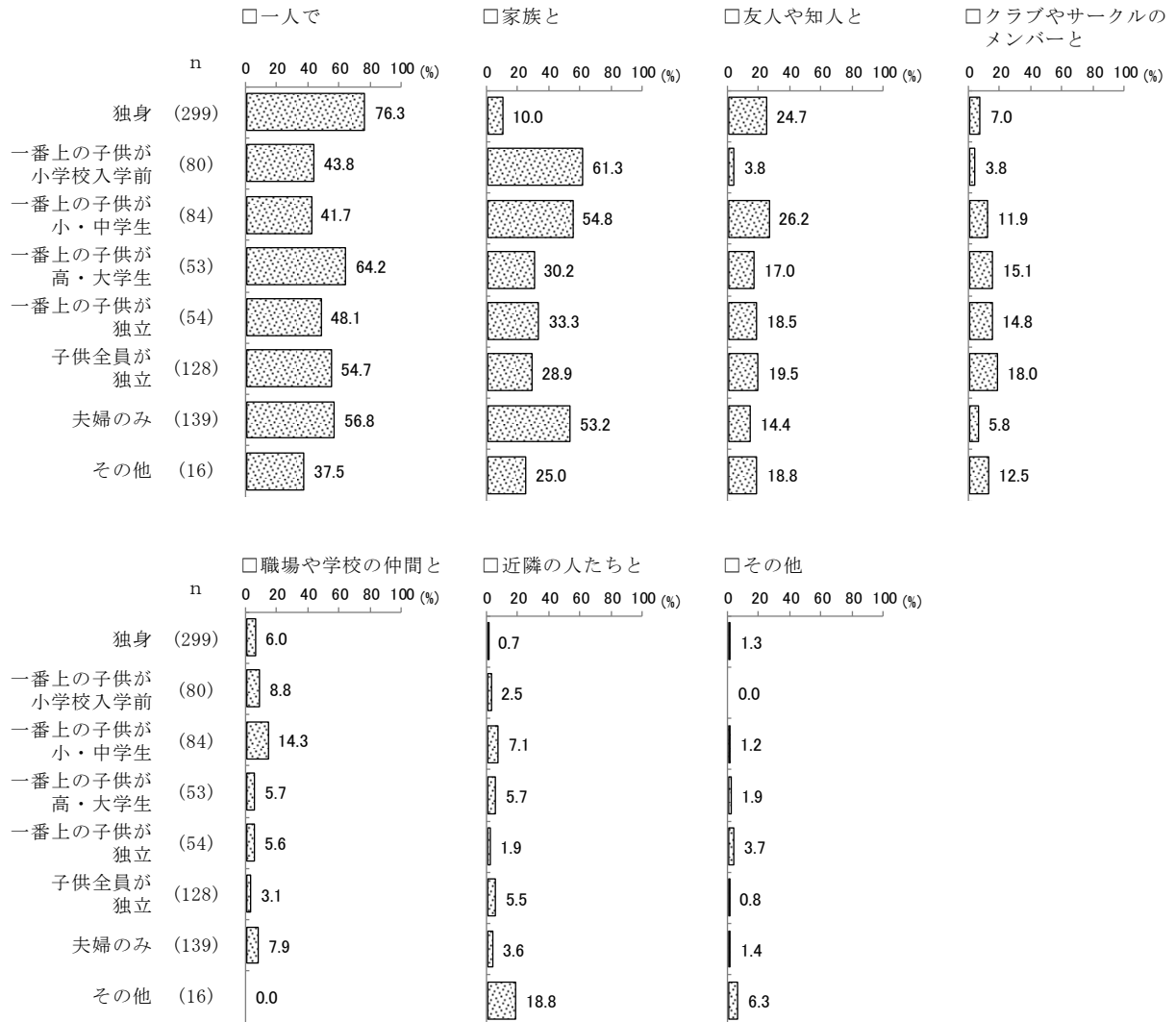
(図11-4-2)

図 11-4-2 だれと運動やスポーツをしたかー性別、性・年代別



家族構成別にみると、「一人で」は独身（76.3%）が7割半ばで最も多く、次いで一番上の子供が高・大学生（64.2%）となっている。「家族と」は一番上の子供が小学校入学前（61.3%）で6割を超え、次いで一番上の子供が小・中学生（54.8%）、「夫婦のみ」（53.2%）となっている。「友人や知人と」は独身（24.7%）と一番上の子供が小・中学生（26.2%）で2割半ばと、他の性・年代に比べて多くなっている。（図11-4-3）

図11-4-3 だれと運動やスポーツをしたか—家族構成別



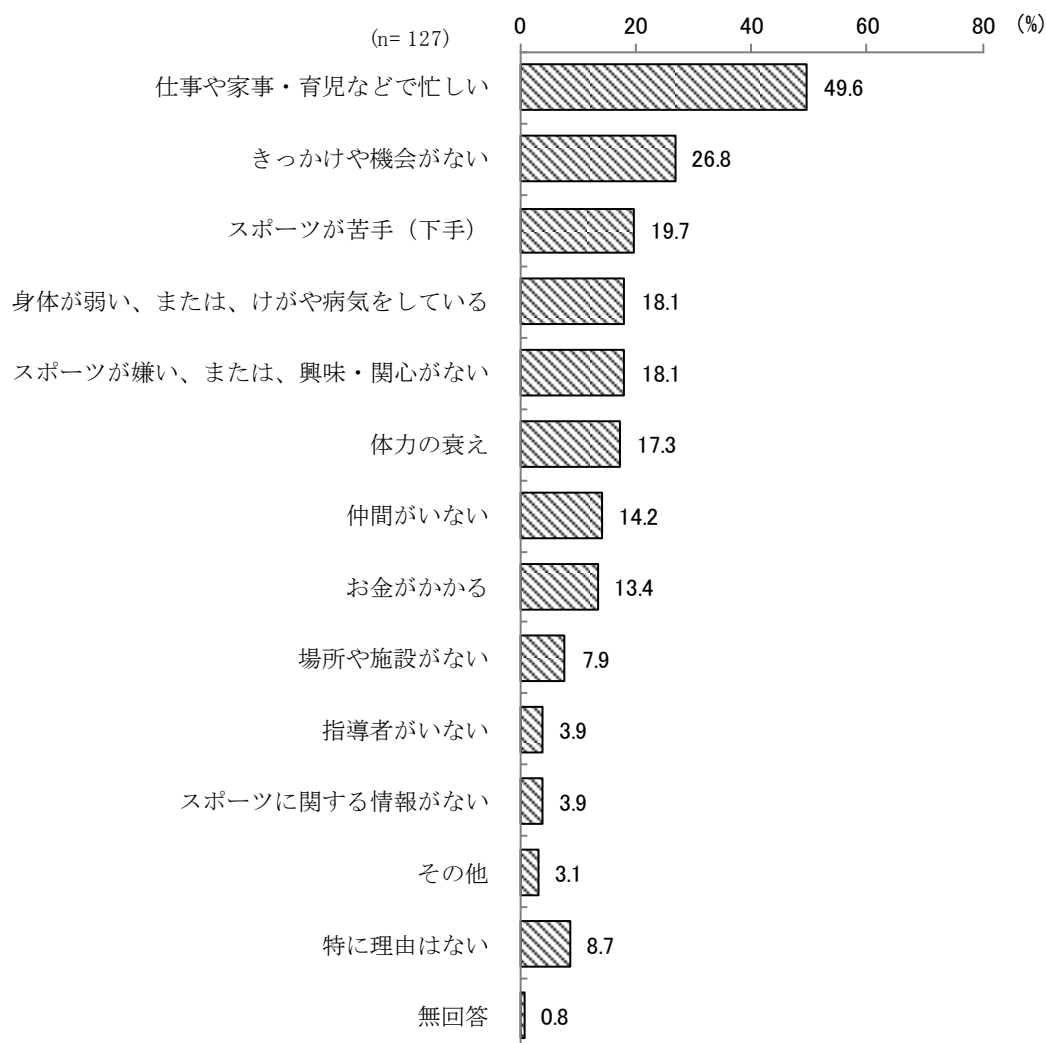
## 11-5 運動やスポーツをしなかった理由

「仕事や家事・育児などで忙しい」が5割

(問30で、「38. 運動やスポーツはしなかった」とお答えの方に)

問30-4 この1年間に、運動やスポーツをしなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図 11-5-1

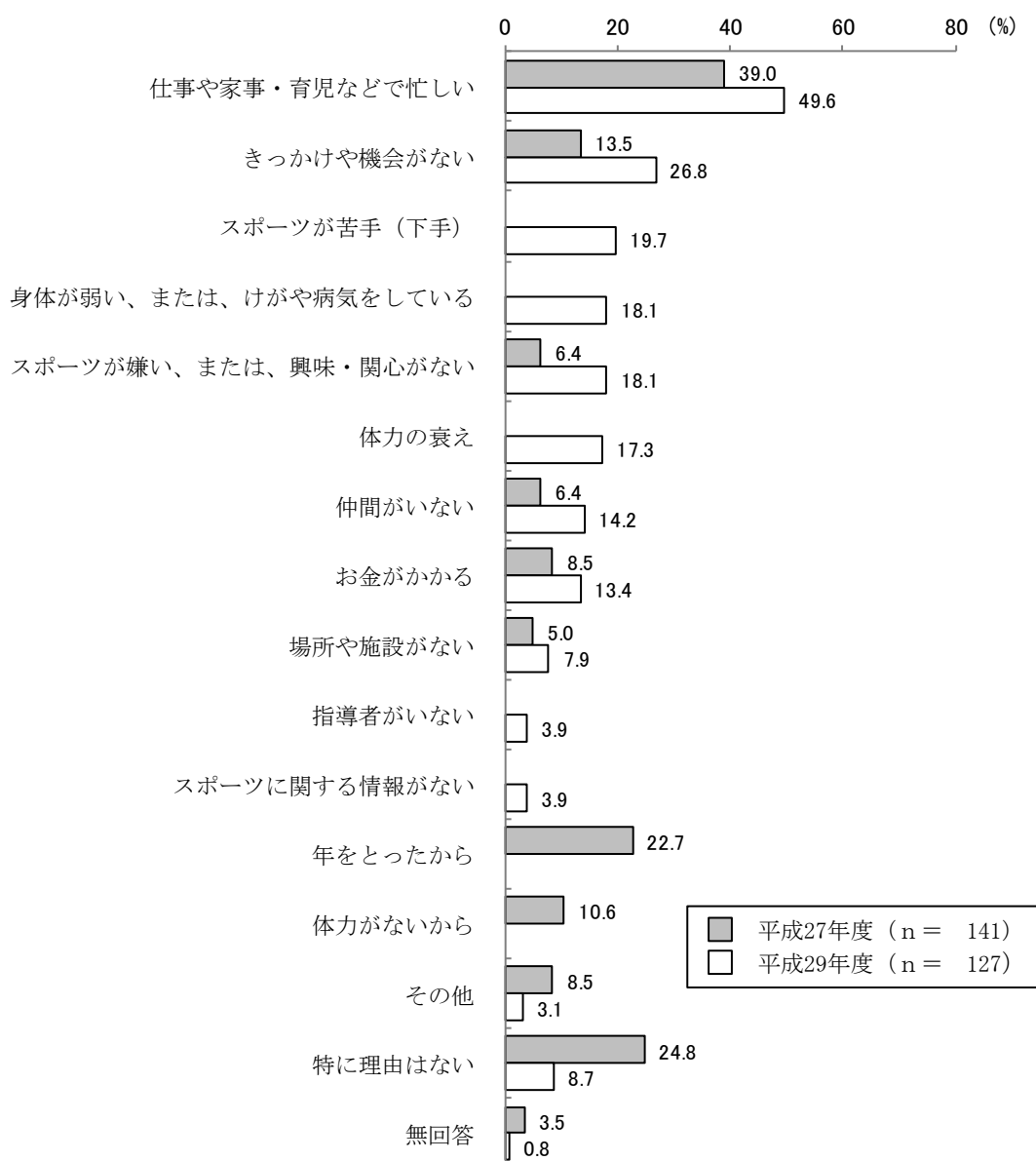


運動やスポーツをしなかった理由は、「仕事や家事・育児などで忙しい」(49.6%)が5割と最も多く、次いで「きっかけや機会がない」(26.8%)、「スポーツが苦手(下手)」(19.7%)、「身体が弱い、または、けがや病気をしている」(18.1%)、「スポーツが嫌い、または、興味・関心がない」(18.1%)となっている。一方、「特に理由はない」(8.7%)は1割近くとなっている。

(図 11-5-1)

推移をみると、過年度調査とは選択肢が異なるため単純に比較することができないが、各項目で増加している。平成27年度から「仕事や家事・育児などで忙しい」が10.6ポイント、「きっかけや機会がない」が13.3ポイント、「スポーツが嫌い、または、興味・関心がない」が11.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「特に理由はない」は平成27年度から16.1ポイント低くなっている。(図11-5-2)

図11-5-2 運動やスポーツをしなかった理由－推移



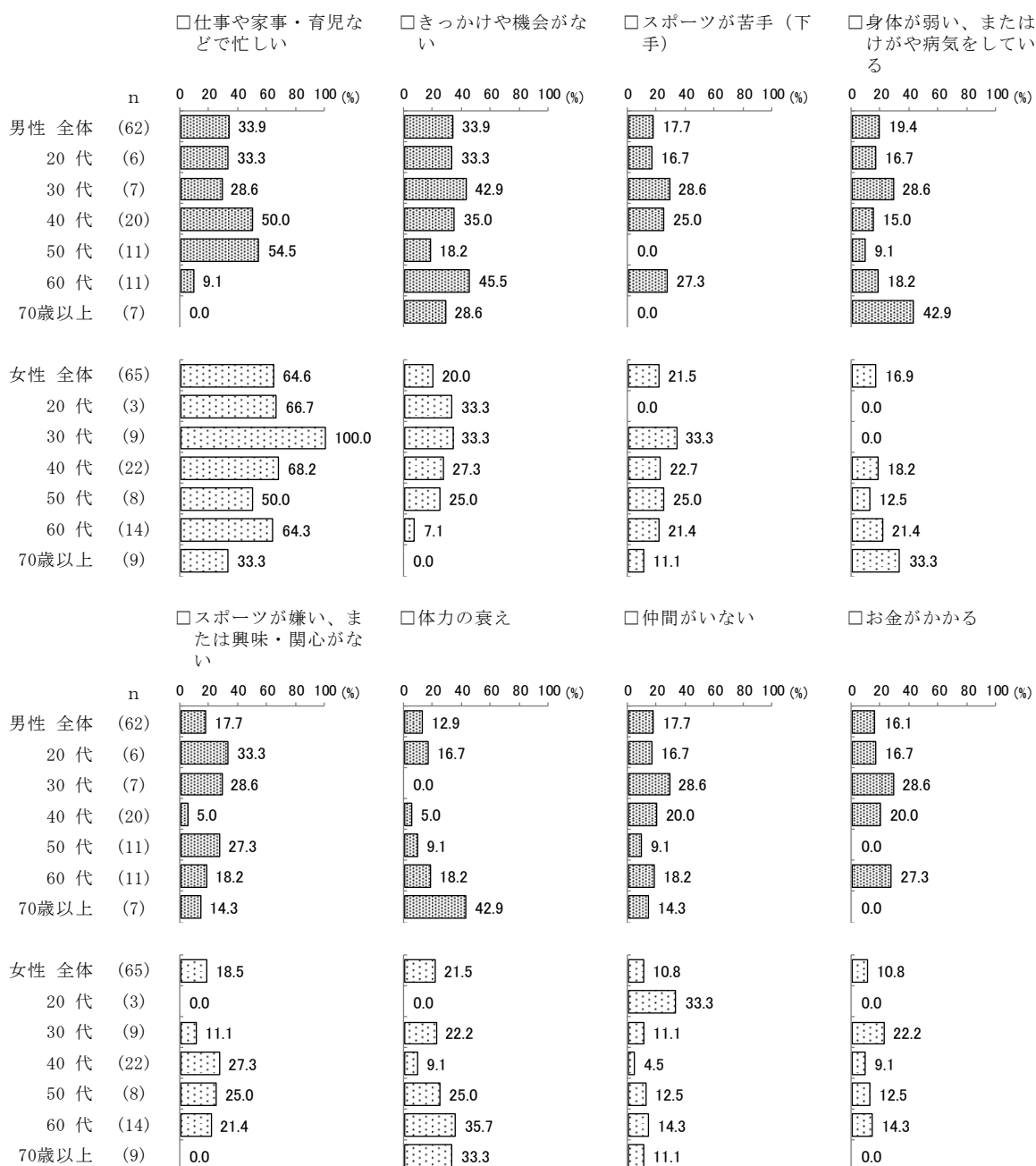
※「スポーツが苦手(下手)」、「指導者がいない」、「スポーツに関する情報がない」は平成27年度調査には無い選択肢である。

※「年をとったから」、「体力がないから」は平成29年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「仕事や家事・育児などで忙しい」は女性（64.6%）が男性（33.9%）より約30ポイント高くなっている。「きっかけや機会がない」は男性（33.9%）が女性（20.0%）より約14ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「仕事や家事・育児などで忙しい」は、男性は40代（50.0%）と50代（54.5%）、女性は70歳以上（33.3%）を除くすべての年代で5割以上となっている。「きっかけや機会がない」は男性30代（42.9%）と男性60代（45.5%）で4割台となっている。（図11-5-3）

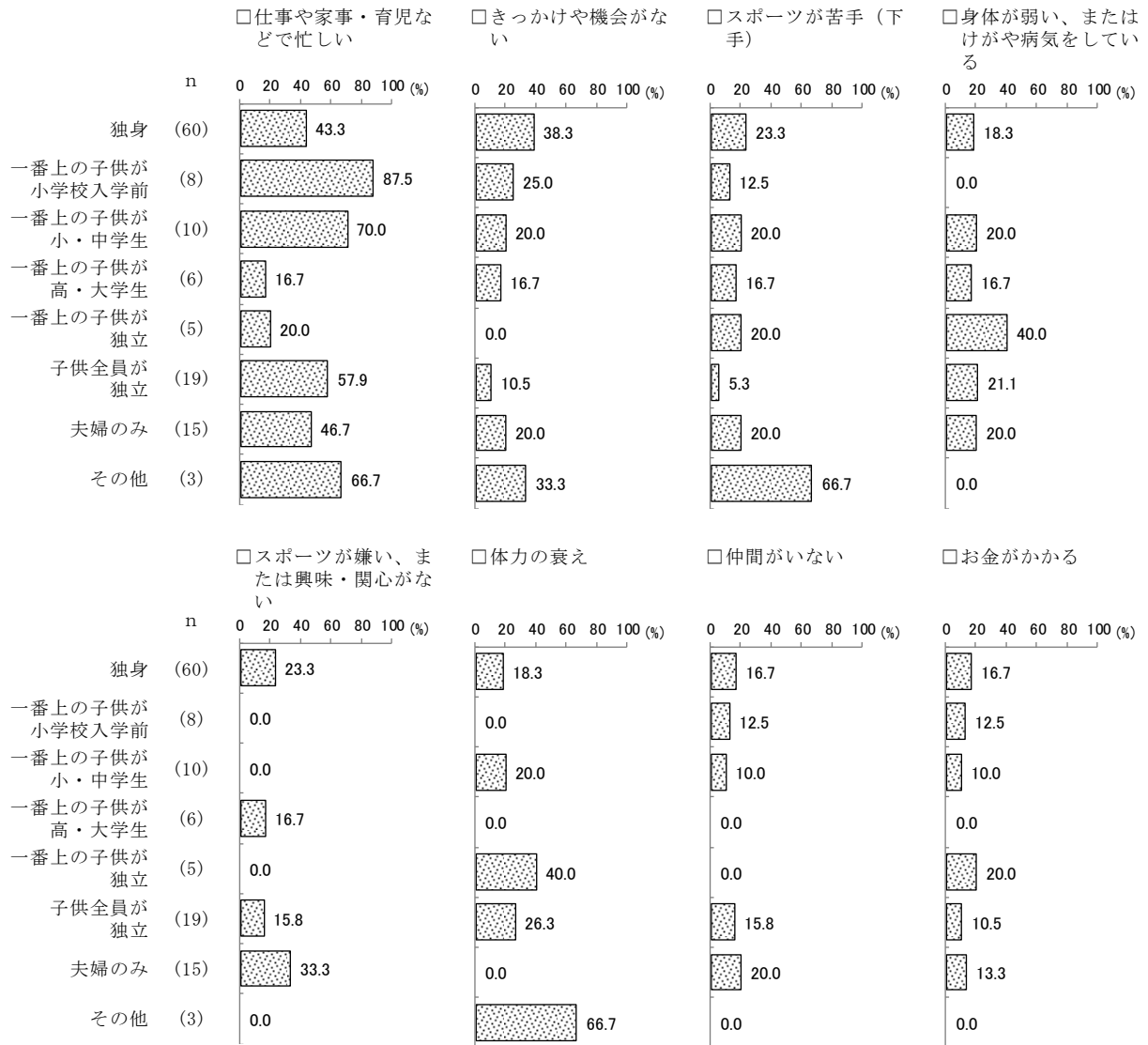
図11-5-3 運動やスポーツをしなかった理由—性別、性・年代別（上位8位）





家族構成別にみると、「仕事や家事・育児などで忙しい」が一番上の子供が小学校入学前(87.5%)で9割近くと最も多く、次いで一番上の子供が小・中学生(70.0%)となっている。「きっかけや機会がない」は独身(38.3%)が4割近くと最も多くなっている。(図11-5-4)

図11-5-4 運動やスポーツをしなかった理由—家族構成別(上位8位)



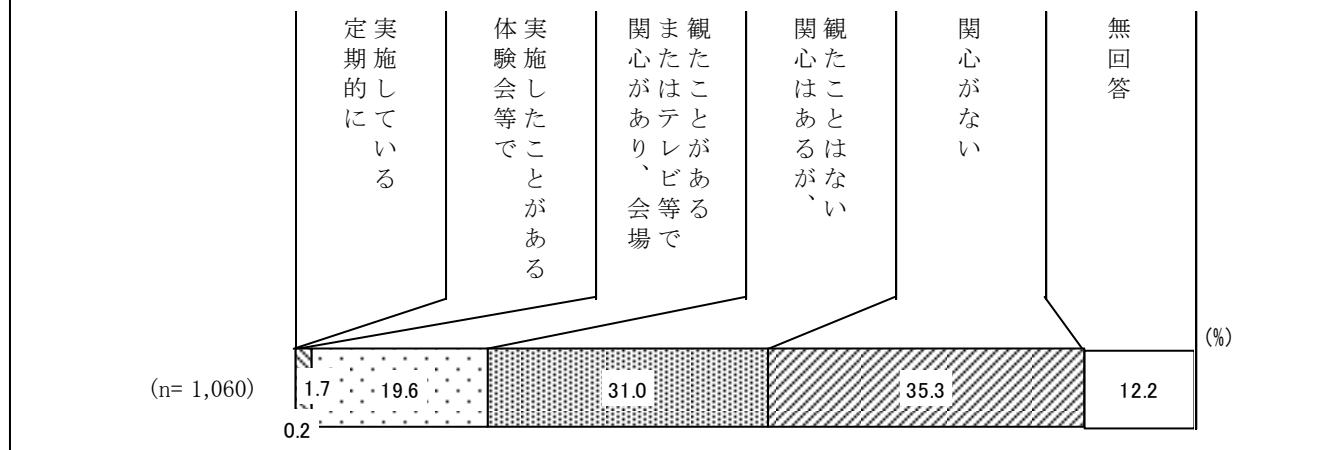
## 11-6 障害者スポーツの実施経験と関心度

「関心がない」が3割半ば

【障害者スポーツに関して】

問31 障害者スポーツを実施した経験または関心がありますか。(○は1つだけ)

図11-6-1

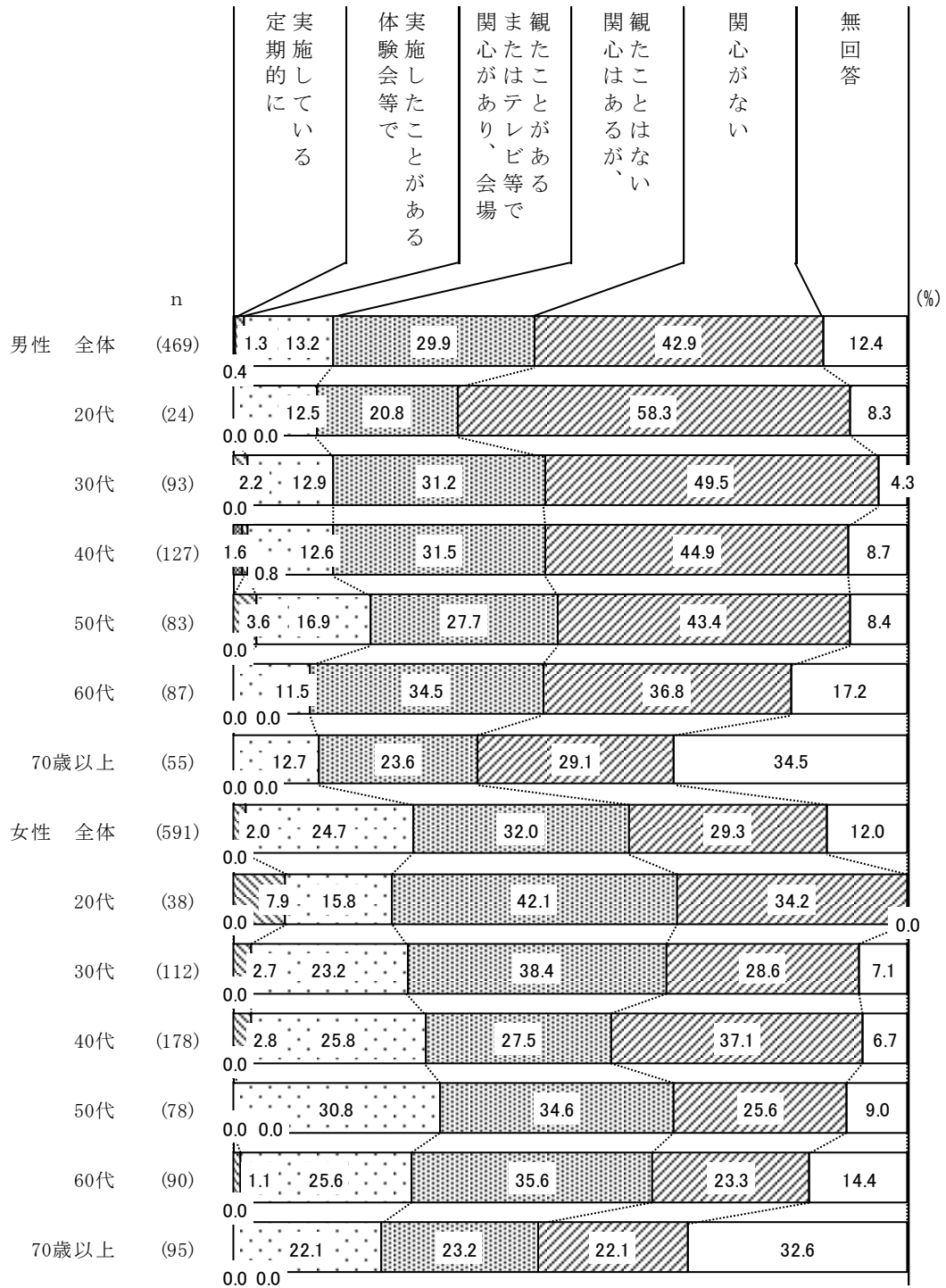


障害者スポーツの実施経験と関心度は、「関心がない」(35.3%)が3割半ばと最も多く、次いで「関心はあるが、観たことはない」(31.0%)、「関心があり、会場またはテレビ等で観たことがある」(19.6%)となっている。(図11-6-1)

性別でみると、「関心があり、会場またはテレビ等で観たことがある」は女性(24.7%)が男性(13.2%)より11.5ポイント高く、「関心がない」は男性(42.9%)が女性(29.3%)より13.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「関心があり、会場またはテレビ等で観たことがある」は女性50代(30.8%)がほぼ3割と最も多く、「関心はあるが、観たことはない」は女性20代(42.1%)が4割を超えて最も多い。一方、「関心がない」は男性では年代が高くなるにつれて少なくなっており、男性20代(58.3%)は6割近く、男性30代(49.5%)は5割となっている。(図11-6-2)

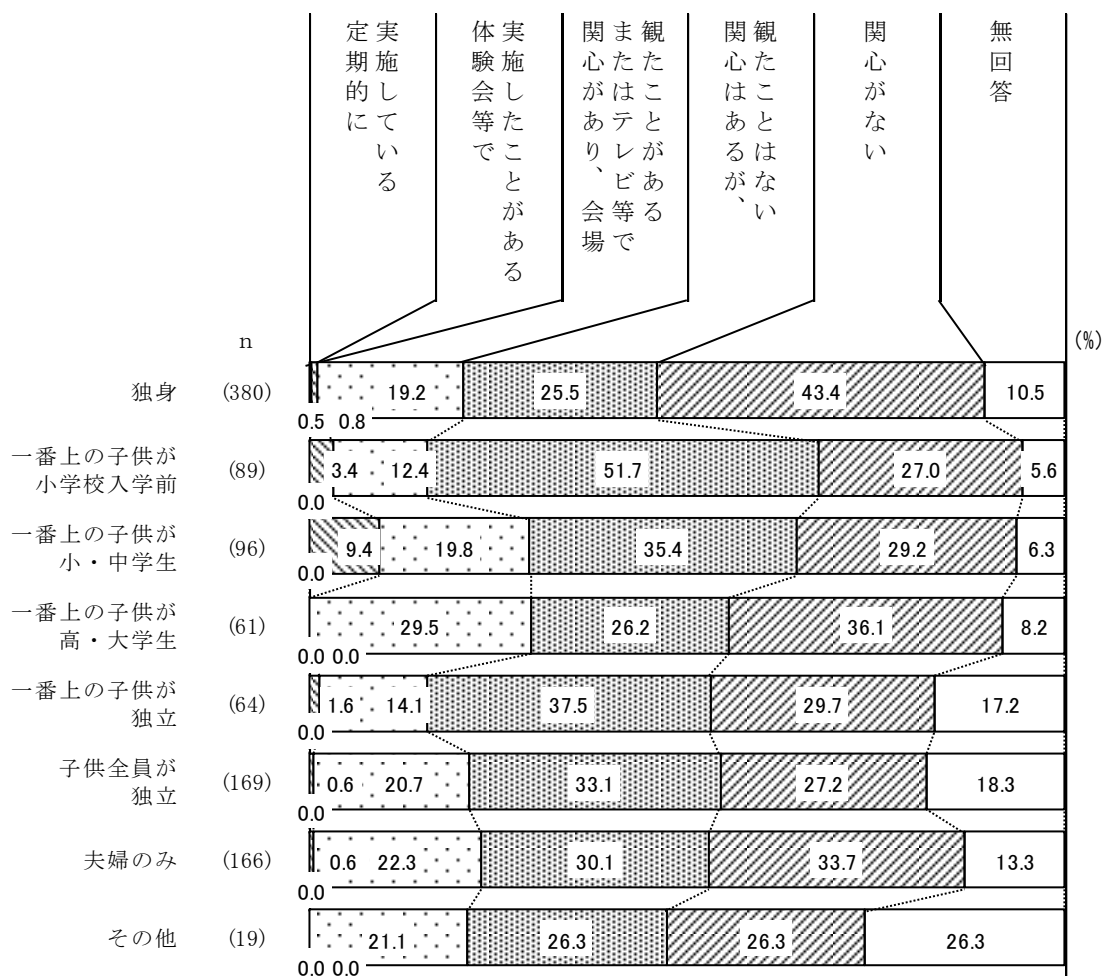
図 11-6-2 障害者スポーツの実施経験と関心度—性別、性・年代別



家族構成別にみると、「関心があり、会場またはテレビ等で観たことがある」が一番上の子供が高・大学生（29.5%）で3割と最も多く、次いで夫婦のみ（22.3%）、子供全員が独立（20.7%）となっている。「関心はあるが、観たことはない」が一番上の子供が小学校入学前（51.7%）で5割を超え、次いで一番上の子供が独立（37.5%）、一番上の子供が小・中学生（35.4%）となっている。一方、「関心がない」は独身（43.4%）と夫婦のみ（33.7%）で多くなっている。

(図 11-6-3)

図 11-6-3 障害者スポーツの実施経験と関心度—家族構成別



## 11-7 関心のある障害者スポーツ

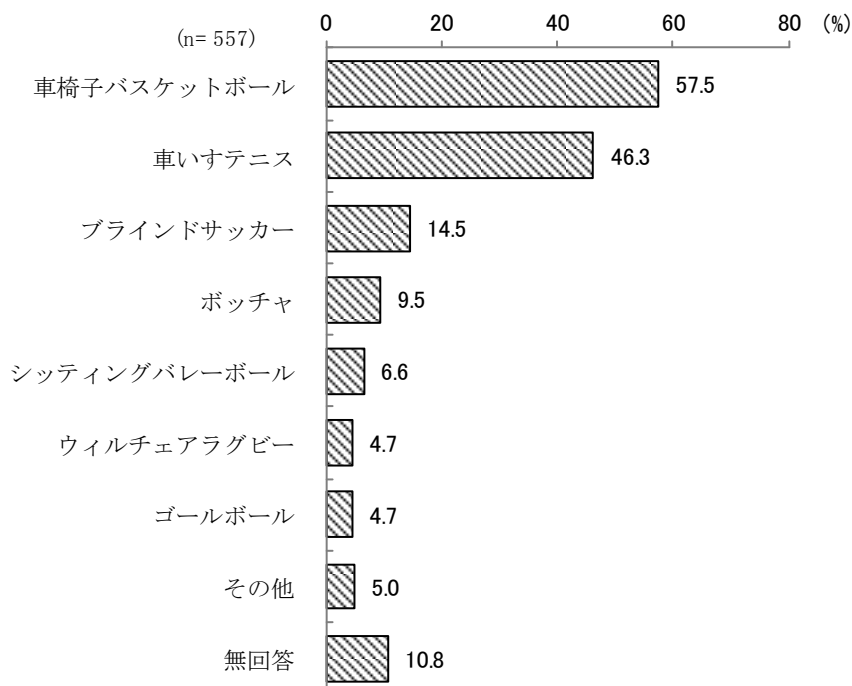
「車椅子バスケットボール」が6割近く

### 【障害者スポーツに関して】

(問31で、「1. 定期的実施している」から「4. 関心はあるが、観たことはない」のいずれかにお答えの方に)

問31-1 関心のある障害者スポーツの競技種目は何ですか。(〇はいくつでも)

図 11-7-1

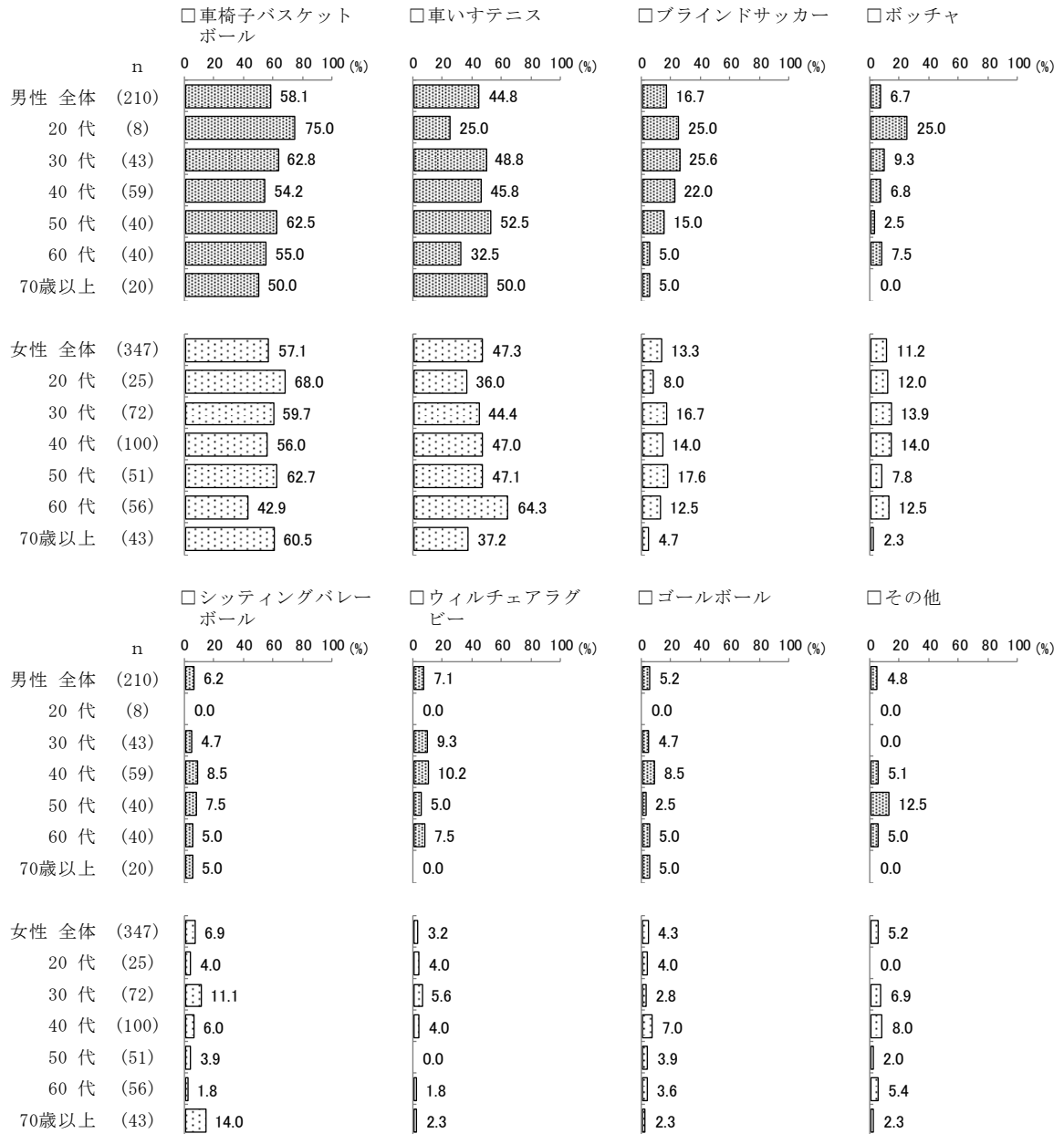


関心のある障害者スポーツは、「車椅子バスケットボール」(57.5%)が6割近くと最も多く、次いで「車いすテニス」(46.3%)、「ブラインドサッカー」(14.5%)、「ボッチャ」(9.5%)となっている。(図 11-7-1)

性別でみると、大きな男女差は見られない。

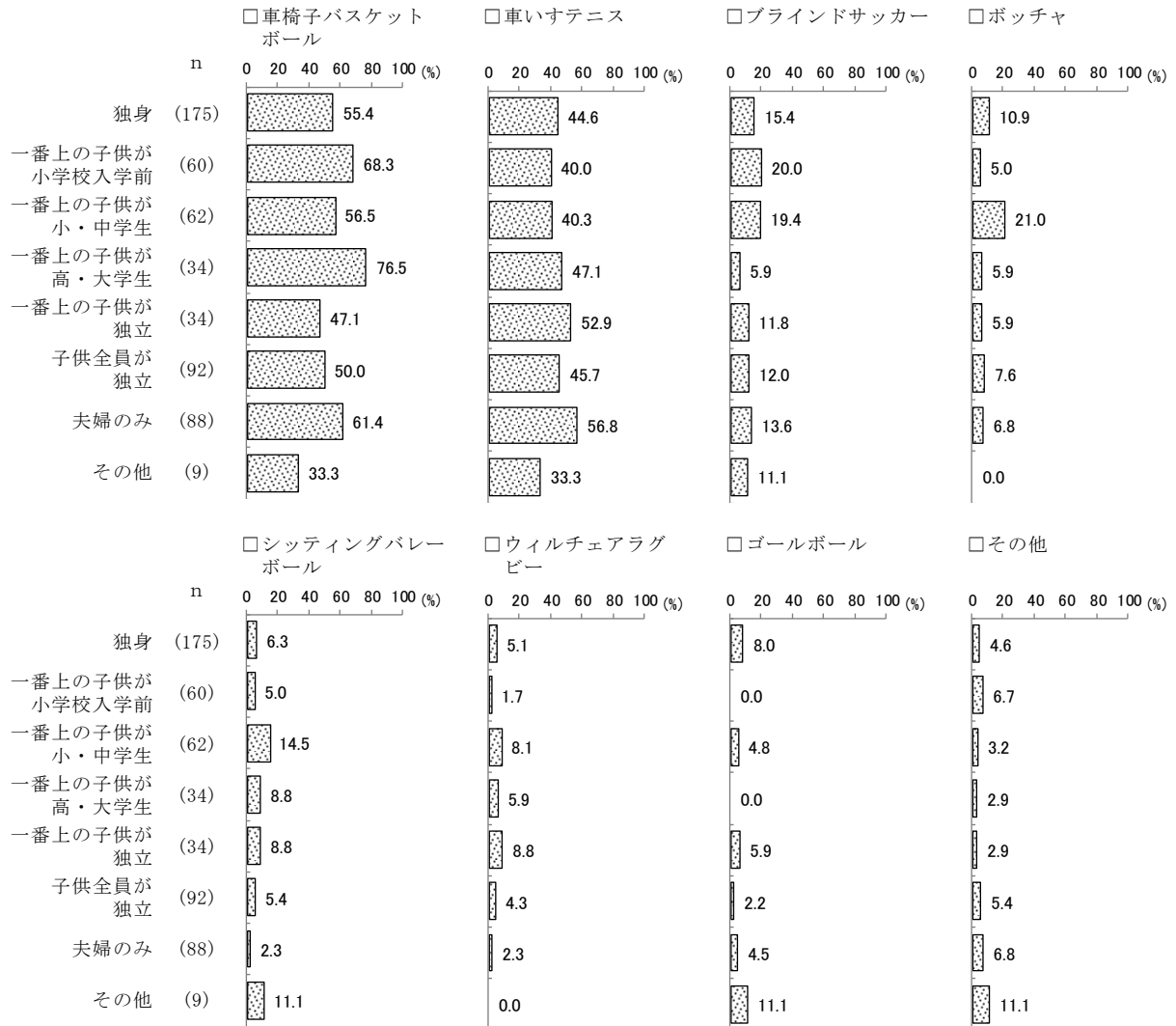
性・年代別でみると、「車椅子バスケットボール」は男性20代(75.0%)で7割半ばと最も多く、次いで女性20代(68.0%)となっている。「車いすテニス」は女性60代(64.3%)で6割半ばと最も多く、「ブラインドサッカー」は男性では年代が高くなるにつれて少なくなっており、男性20代(25.0%)、男性30代(25.6%)、男性40代(22.0%)で2割台となっている。「ボッチャ」は男性20代(25.0%)で2割半ばと最も多くなっている。(図 11-7-2)

図 11-7-2 関心のある障害者スポーツー性別、性・年代別



家族構成別にみると、「車椅子バスケットボール」が一番上の子供が高・大学生（76.5%）で7割近くと最も多く、次いで一番上の子供が小学校入学前（68.3%）、夫婦のみ（61.4%）となっている。「車いすテニス」は夫婦のみ（56.8%）と一番上の子供が高・大学生（52.9%）が5割台、「ブラインドサッカー」が一番上の子供が小学校入学前（20.0%）で2割、「ボッチャ」が一番上の子供が小・中学生（21.0%）で2割を超えている。（図11-7-3）

図11-7-3 関心のある障害者スポーツ—家族構成別



## 12. かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）

区民の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、身近な地域で適切な医療を受けられ、日頃から健康管理などについて相談できる「かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）」を持つことが大切です。

「かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）」は、日頃の受診だけでなく、介護予防や健康づくり、他の医療機関との連携、在宅療養等の推進において重要な役割を担っています。

今回の調査結果については、医療関係機関等で構成された会議や講演会等における資料として活用し、「かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）」のより一層の定着に努めてまいります。

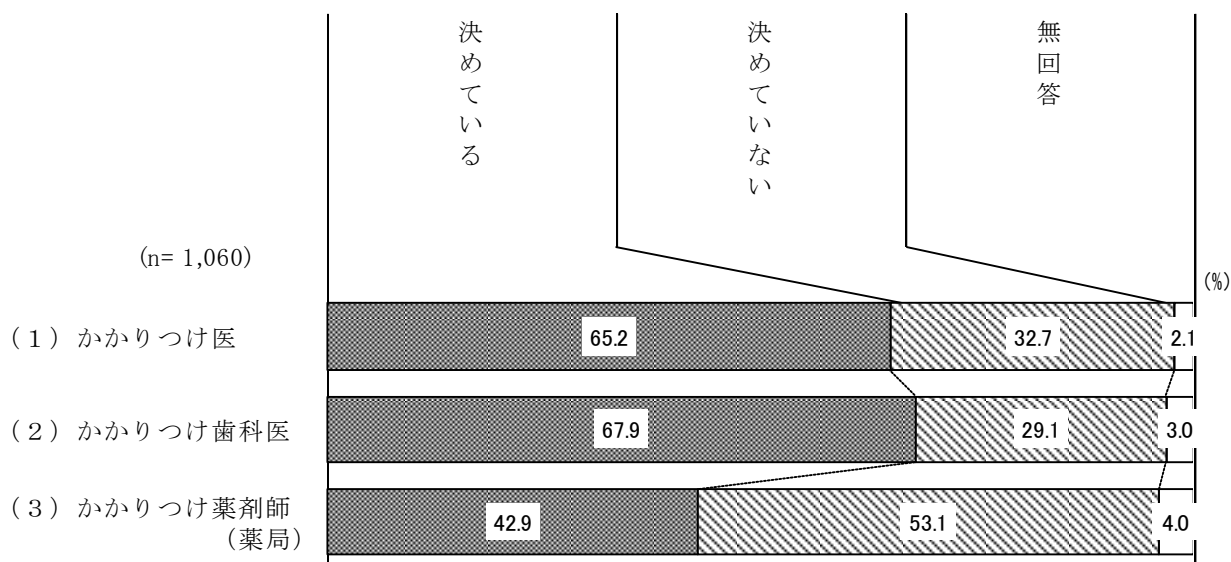
（健康部 健康課）

### 12-1 かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）を決めているか

「かかりつけ医」が6割半ば、「かかりつけ歯科医」が7割近い

問 32 あなたは、かかりつけのお医者さん、かかりつけの歯医者さん、かかりつけの薬剤師さん（薬局）を決めていますか。（○はそれぞれ1つずつ）

図 12-1-1



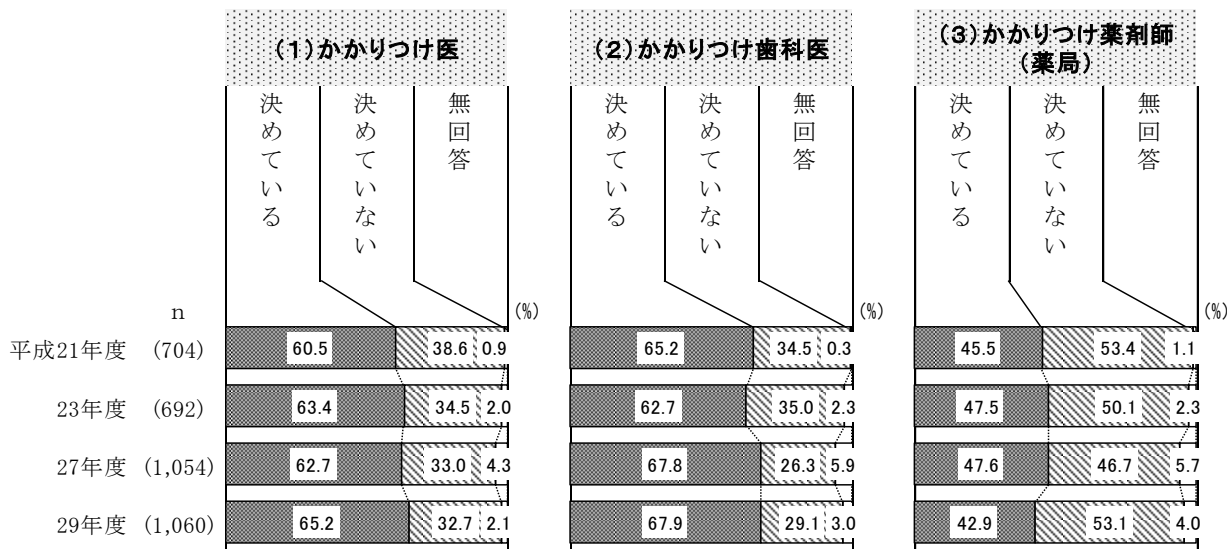
かかりつけを「決めている」割合は、「かかりつけ医」（65.2%）で6割半ば、「かかりつけ歯科医」（67.9%）で7割近く、「かかりつけ薬剤師（薬局）」（42.9%）で4割を超えている。

（図 12-1-1）



推移をみると、「決めている」は平成27年度より「かかりつけ医」は2.5ポイント、「かかりつけ歯科医」は0.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「かかりつけ薬剤師（薬局）」は平成27年度から4.7ポイント低くなっている。（図12-1-2）

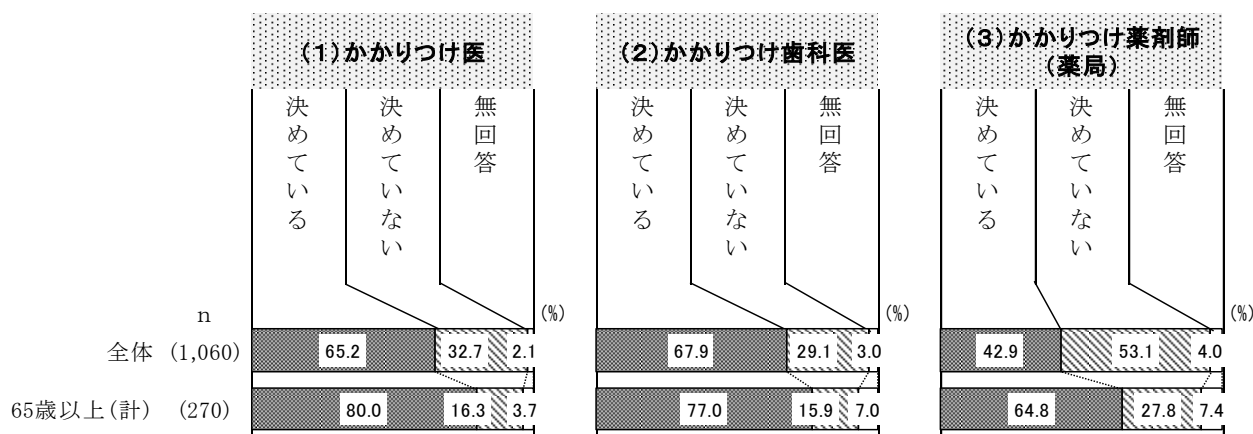
図12-1-2 かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）を決めているかー推移



全体と65歳以上の方の結果を比較すると、「決めている」は3項目とも65歳以上（計）が全体よりも多く、「かかりつけ医」は14.8ポイント、「かかりつけ歯科医」は9.1ポイント、「かかりつけ薬剤師（薬局）」は21.9ポイント高くなっている。

65歳以上の方がかかりつけを「決めている」割合としては、「かかりつけ医」（80.0%）が8割、「かかりつけ歯科医」（77.0%）は8割近く、「かかりつけ薬剤師（薬局）」（64.8%）が6割半ばとなっている。（図12-1-3）

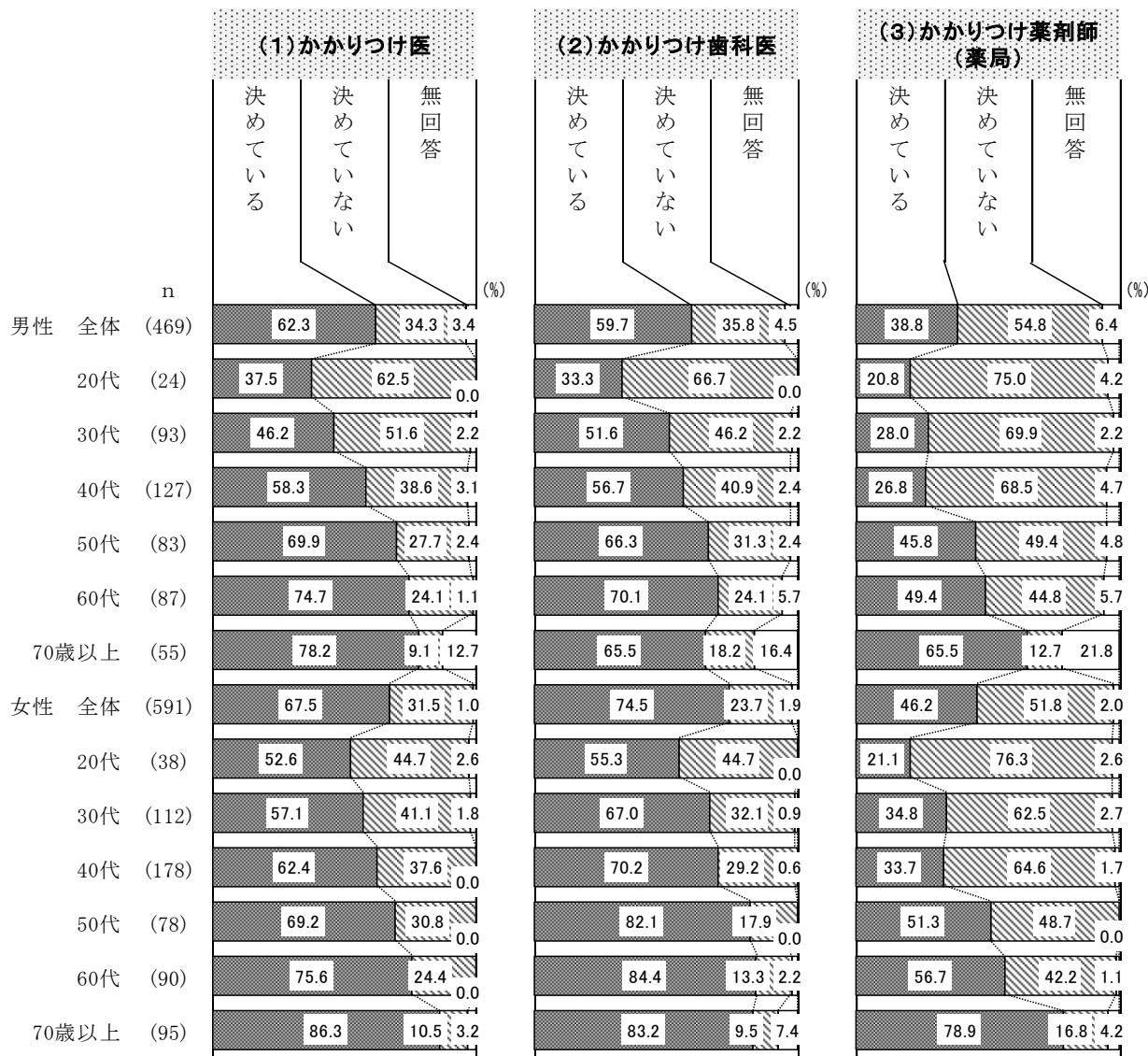
図12-1-3 かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）を決めているかー全体と65歳以上の比較



性別で見ると、「決めている」割合は3項目とも女性が男性を上回り、「かかりつけ医」は5.2ポイント、「かかりつけ歯科医」は14.8ポイント、「かかりつけ薬剤師（薬局）」は7.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、「決めている」割合は3項目とも年代が高くなるほど多くなる傾向が見られ、女性70歳以上が「かかりつけ医」と「かかりつけ歯科医」で8割台、「かかりつけ薬剤師（薬局）」が8割近くと多くなっている。（図12-1-4）

図12-1-4 かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）を決めているか  
—性別、性・年代別



### 13. 食品ロスの削減

食品ロスという言葉の認知度は74.1%、削減のための取り組みを実践している方が66.8%と、ともに高い傾向にありました。しかしながら、年代別にみると若い世代で、認知度や実践している方の割合が低い傾向がうかがえました。

日本で発生する食品ロスのおよそ半分が家庭から発生していると推計されており、一人一人がわずかな取り組みを行うだけでも、大きな削減につなげることができる身近な課題です。

今年度から、食品ロス削減講座を実施し、啓発リーフレットを作成、配布することで意識啓発に努めています。今後も継続して情報の発信や啓発を行い、今回の調査で認知度や実践している方の割合が低かった世代の方に、身近な問題であるとの認識を深めてもらい、削減の行動につなげてもらえるよう、また、世代を問わずさらに削減に取り組んでももらえるよう、事業を実施してまいります。

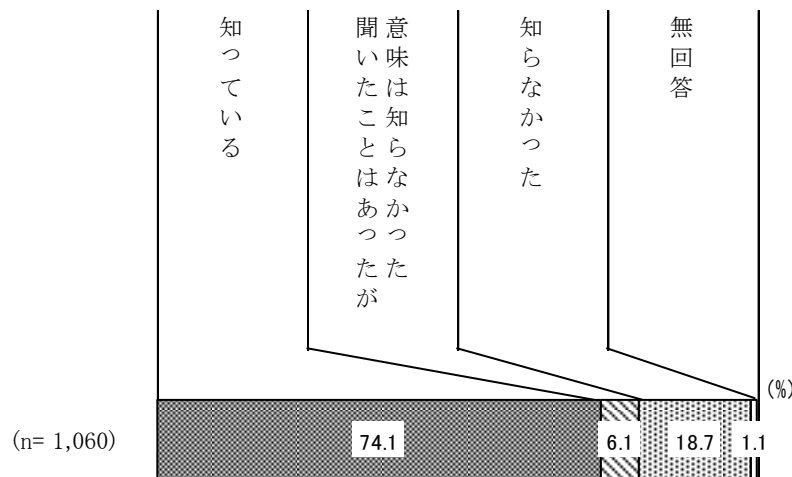
(環境清掃部 清掃リサイクル課)

#### 13-1 食品ロスという言葉の認知度

「知っている」が7割半ば

問 33 「食品ロス」という言葉を知っていましたか。(○は1つだけ)

図 13-1-1



食品ロスという言葉の認知度は、「知っている」(74.1%)が7割半ばと最も多く、次いで「知らなかった」(18.7%)、「聞いたことはあったが意味は知らなかった」(6.1%)となっている。

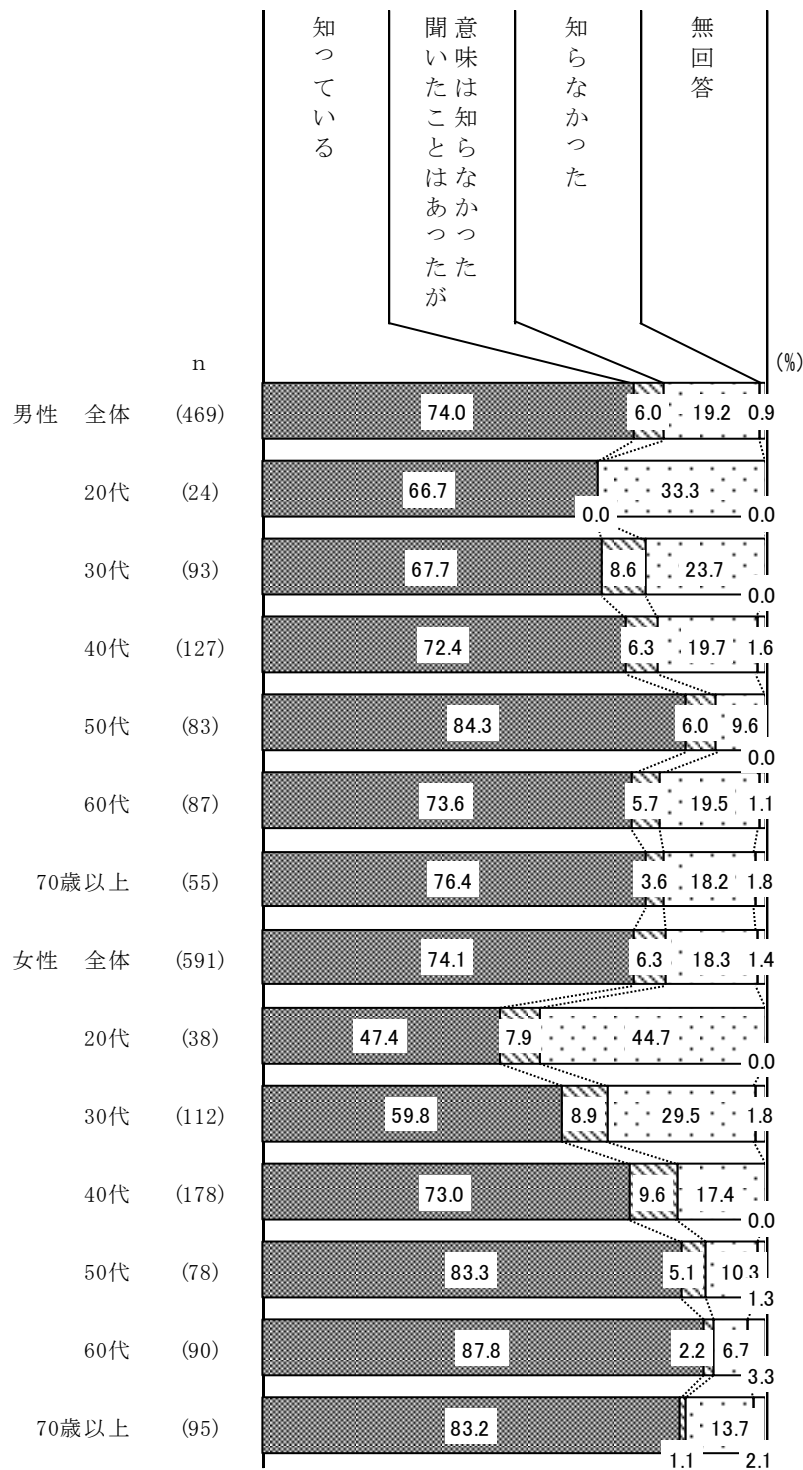
(図 13-1-1)

性別で見ると、大きな男女差は見られない。

性・年代別で見ると、「知っている」は女性60代（87.8%）で9割近くと最も多く、次いで男性50代（84.3%）、女性50代（83.3%）、女性70歳以上（83.2%）となっている。一方、「知らなかった」は女性20代（44.7%）で4割半ばと最も多く、次いで男性20代（33.3%）となっている。

（図13-1-2）

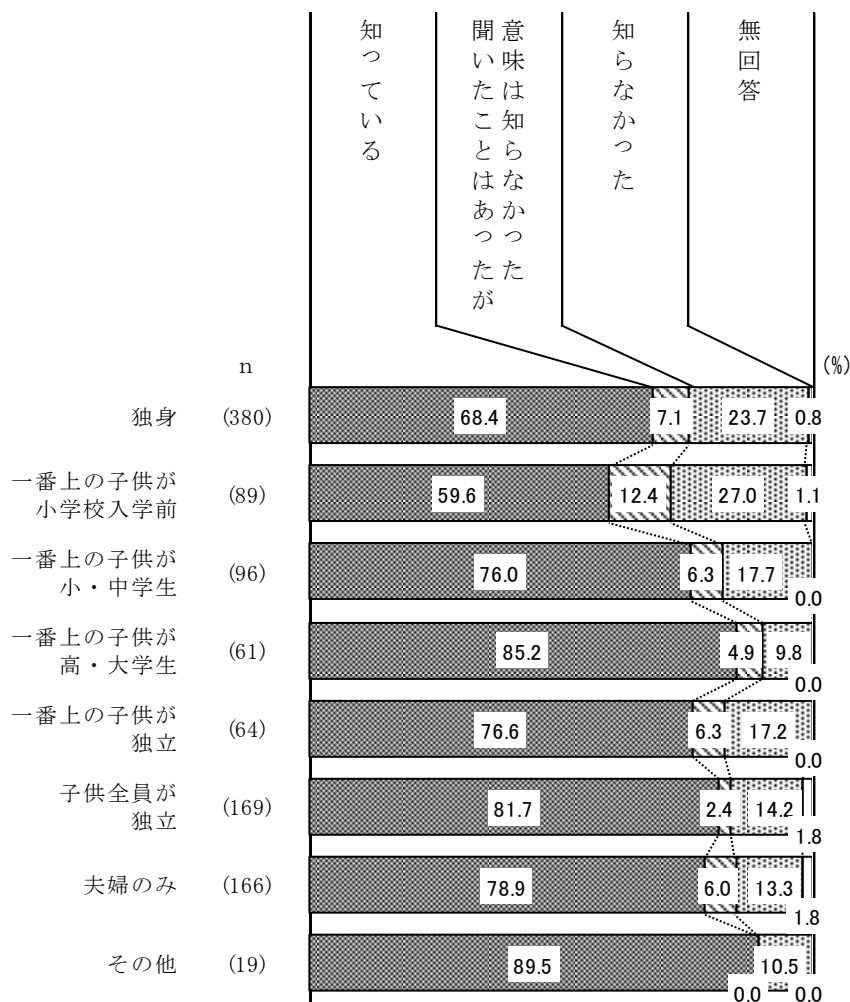
図13-1-2 食品ロスという言葉の認知度—性別、性・年代別



家族構成別にみると、「知っている」が一番上の子供が高・大学生（85.2%）で8割半ばと最も多く、次いで子供全員が独立（81.7%）となっている。一方、「知らなかった」が一番上の子供が小学校入学前（27.0%）で3割近くと最も多く、次いで独身（23.7%）となっている。

(図 13-1-3)

図 13-1-3 食品ロスという言葉の認知度—家族構成別

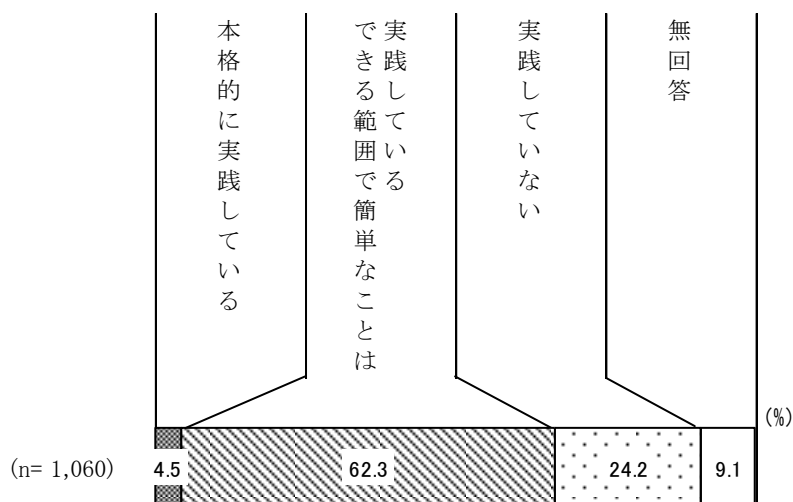


## 13-2 食品ロス削減のための取り組み

「できる範囲で簡単なことは実践している」が6割を超える

問34 食品ロスの削減のための取り組みをしていますか。(○は1つだけ)

図13-2-1

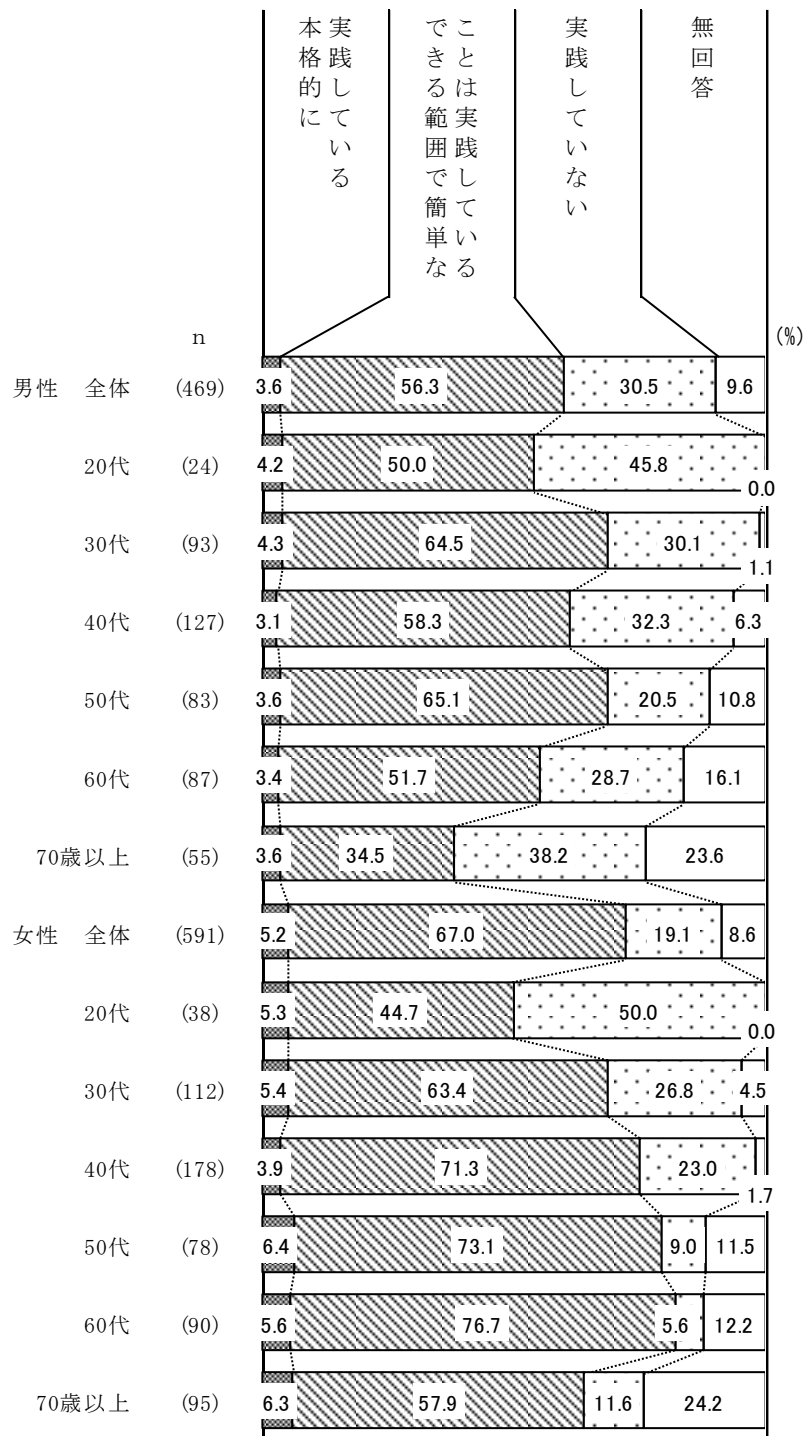


食品ロス削減のための取り組みは、「できる範囲で簡単なことは実践している」(62.3%)が6割を超えて最も多く、次いで「実践していない」(24.2%)、「本格的に実践している」(4.5%)となっている。(図13-2-1)

性別で見ると、「できる範囲で簡単なことは実践している」は女性（67.0%）が男性（56.3%）より10.7ポイント、「実践していない」は男性（30.5%）が女性（19.1%）より11.4ポイント、それぞれ高くなっている。

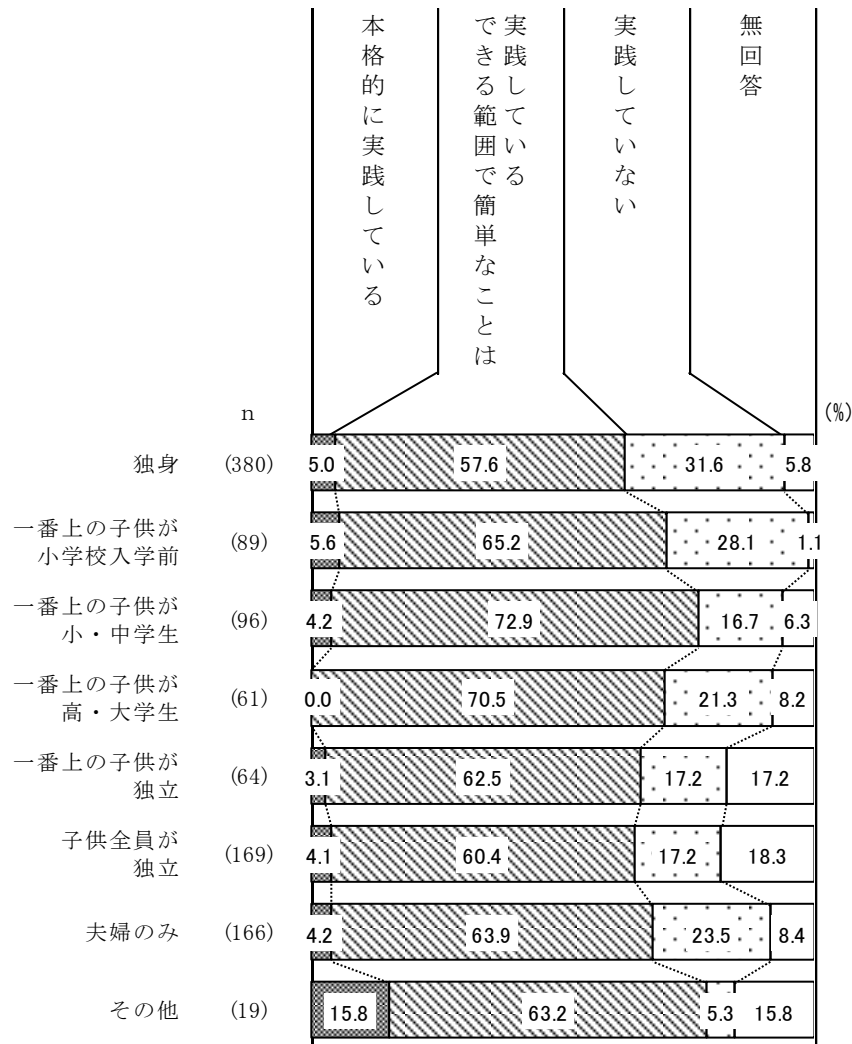
性・年代別で見ると「本格的に実践している」は女性50代（6.4%）が最も多く、「できる範囲で簡単なことは実践している」は女性40代（71.3%）、女性50代（73.1%）、女性60代（76.7%）で7割台となっている。一方、「実践していない」は女性20代（50.0%）で5割、男性20代（45.8%）で4割半ばと多くなっている。（図13-2-2）

図13-2-2 食品ロス削減のための取り組み—性別、性・年代別



家族構成別でみると、「できる範囲で簡単なことは実践している」は独身（57.6%）を除いた各家族構成で6割を超え、一番上の子供が小・中学生（72.9%）が7割を超えて最も多くなっている。「実践していない」は独身（31.6%）が3割を超えて最も多くなっている。（図13-2-3）

図13-2-3 食品ロス削減のための取り組み—家族構成別





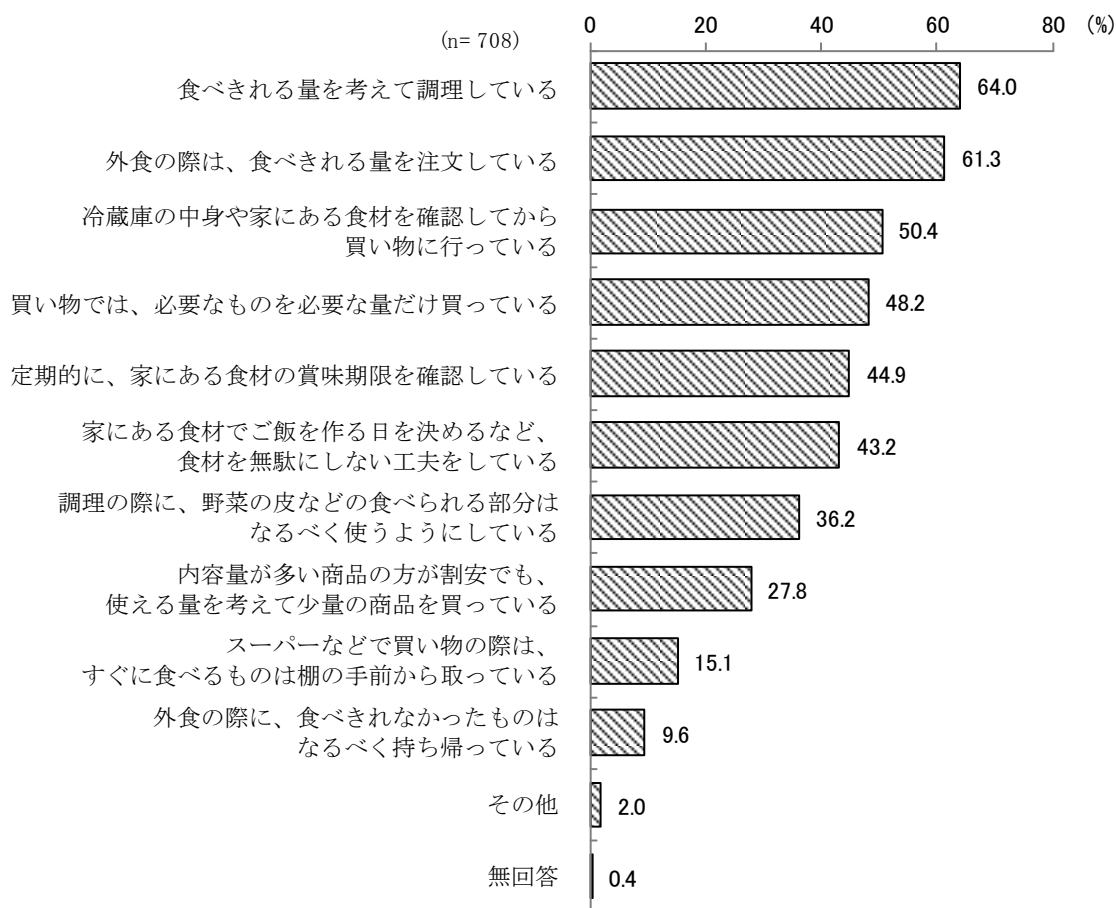
### 13-3 食品ロス削減のために実践していること

「食べきれる量を考えて調理している」が6割半ば

(問34で、「1. 本格的に実践している」または「2. できる範囲で簡単なことは実践している」とお答えの方に)

問34-1 食品ロスの削減のために、どのようなことを実践していますか。(〇はいくつでも)

図13-3-1

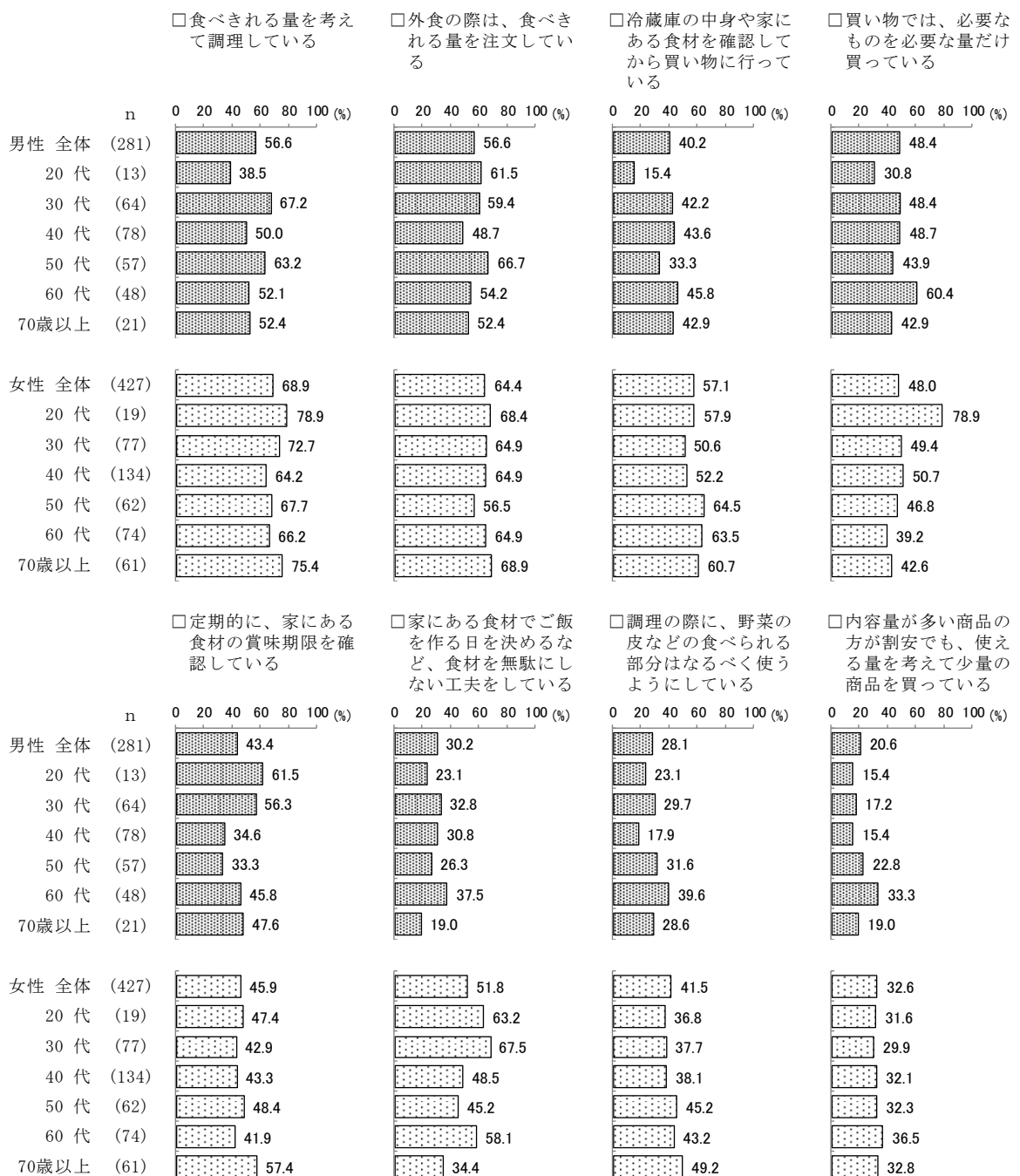


食品ロス削減のために実践していることは、「食べきれる量を考えて調理している」(64.0%)が6割半ばと最も多く、次いで「外食の際は、食べきれる量を注文している」(61.3%)、「冷蔵庫の中身や家にある食材を確認してから買い物に行っている」(50.4%)、「買い物では、必要なものを必要な量だけ買っている」(48.2%)、「定期的に、家にある食材の賞味期限を確認している」(44.9%)、「家にある食材でご飯を作る日を決めるなど、食材を無駄にしない工夫をしている」(43.2%)となっている。(図13-3-1)

性別で見ると、「食べきれる量を考えて調理している」は女性（68.9%）が男性（56.6%）より12.3ポイント、「冷蔵庫の中身や家にある食材を確認してから買い物に行っている」は女性（57.1%）が男性（40.2%）より16.9ポイント、「家にある食材でご飯を作る日を決めるなど、食材を無駄にしない工夫をしている」は女性（51.8%）が男性（30.2%）より21.6ポイント、「調理の際に、野菜の皮などの食べられる部分はなるべく使うようにしている」は女性（41.5%）が男性（28.1%）より13.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると「食べきれる量を考えて調理している」は女性20代（78.9%）で8割近く、「外食の際は、食べきれる量を注文している」は女性70歳以上（68.9%）で7割近く、「冷蔵庫の中身や家にある食材を確認してから買い物に行っている」は女性50代（64.5%）で6割半ばと、それぞれ最も多くなっている。（図13-3-2）

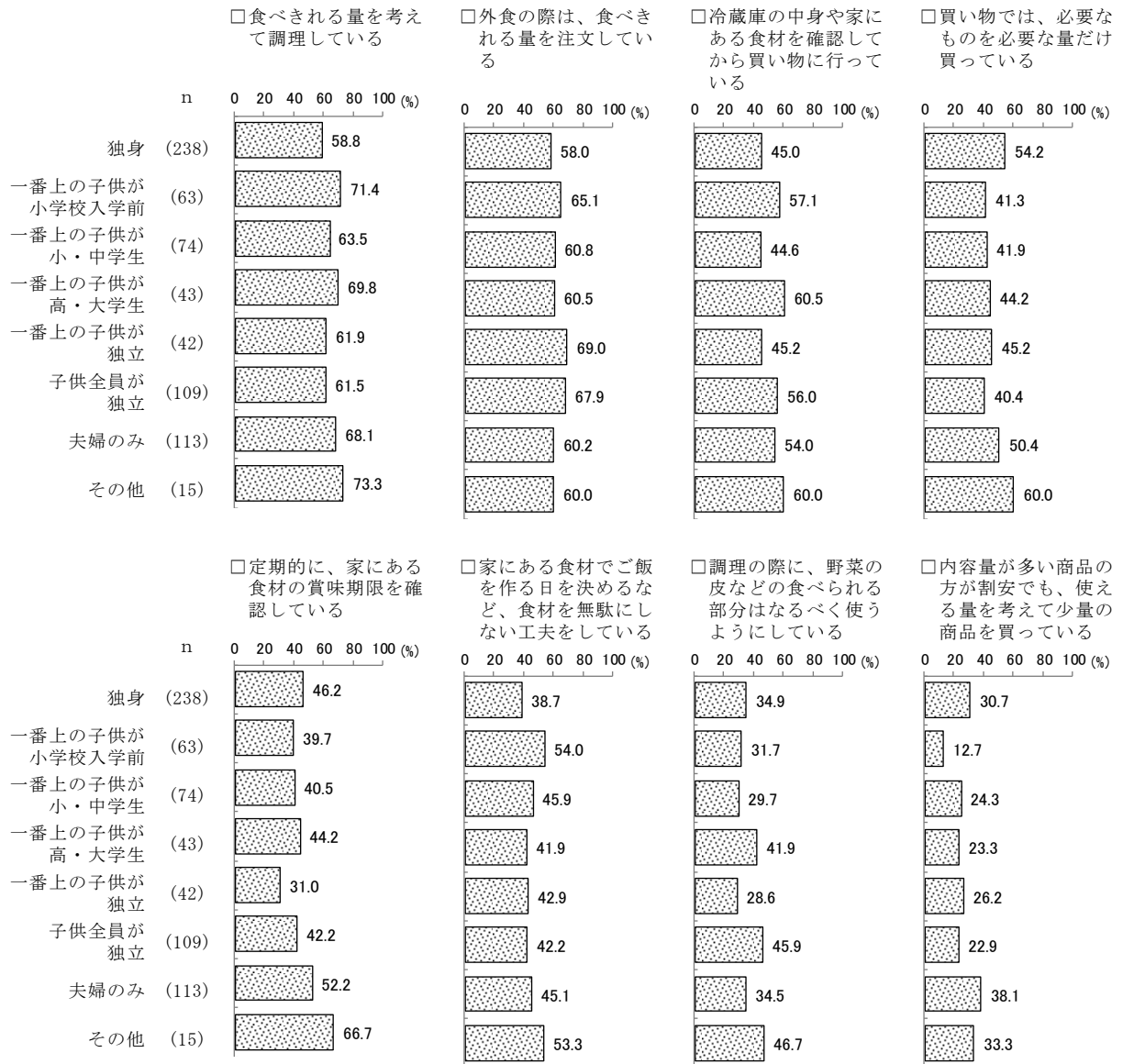
図13-3-2 食品ロス削減のために実践していること一性別、性・年代別（上位8位）



家族構成別でみると、「食べきれる量を考えて調理している」と「外食の際は、食べきれる量を注文している」は独身を除く各家族構成で6割以上となっている。一方、「買い物では、必要なものを必要な量だけ買っている」は独身（54.2%）が5割半ばと最も多くなっている。

(図 13-3-3)

図 13-3-3 食品ロス削減のために実践していること—家族構成別（上位8位）

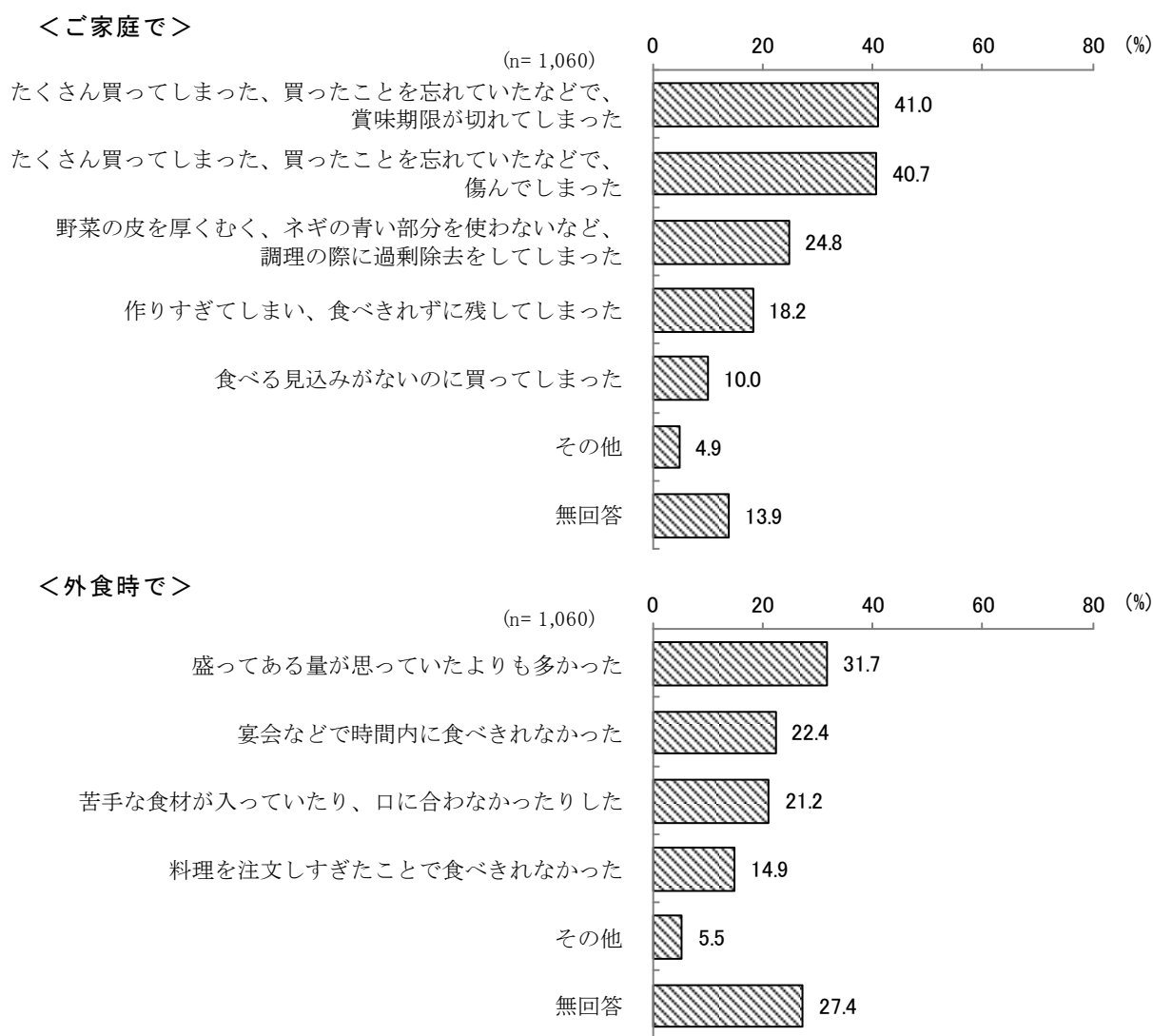


### 13-4 食品ロスの経験

<ご家庭で>は「たくさん買ってしまった、買ったことを忘れていたなどで、賞味期限が切れてしまった」が4割を超え、<外食時で>は「盛ってある量が思っていたよりも多かった」が3割を超える

問 35 食品ロスを出してしまうのはどんなときですか。(○はいくつでも)

図 13-4-1



食品ロスの経験は、<ご家庭で>は「たくさん買ってしまった、買ったことを忘れていたなどで、賞味期限が切れてしまった」(41.0%)が4割を超えて最も多く、次いで「たくさん買ってしまっ、買ったことを忘れていたなどで、傷んでしまった」(40.7%)となっている。<外食時で>は「盛ってある量が思っていたよりも多かった」(31.7%)で3割を超え、次いで「宴会などで時間内に食べきれなかつ」(22.4%)となっている。(図 13-4-1)

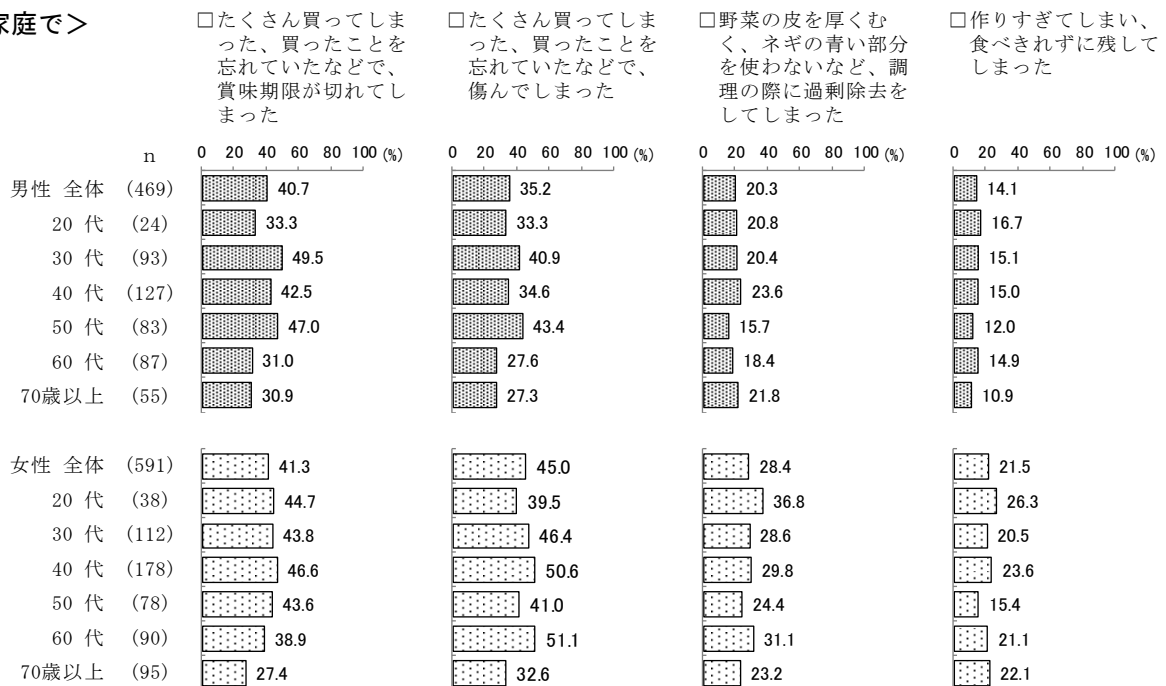
性別で見ると、＜ご家庭で＞は「たくさん買ってしまった、買ったことを忘れていたなどで、傷んでしまった」は女性（45.0%）が男性（35.2%）より9.8ポイント高くなっている。＜外食時で＞は「盛ってある量が思っていたよりも多かった」は女性（35.9%）が男性（26.4%）より9.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、＜ご家庭で＞は「たくさん買ってしまった、買ったことを忘れていたなどで、傷んでしまった」は女性60代（51.1%）で5割を超え、＜外食時で＞は「盛ってある量が思っていたよりも多かった」も女性60代（40.0%）で4割と、性・年代別の中で最も多くなっている。（図13-4-2）

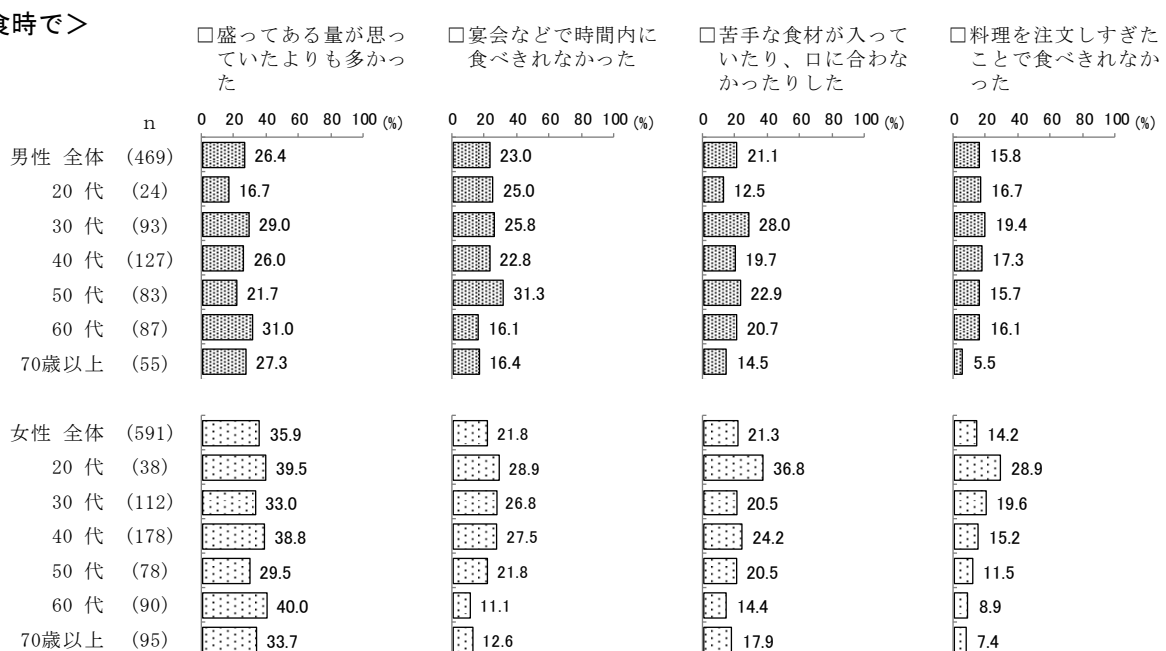
図13-4-2 食品ロスの経験

一性別、性・年代別（＜ご家庭で＞の上位4位＋＜外食時で＞の上位4位）

＜ご家庭で＞



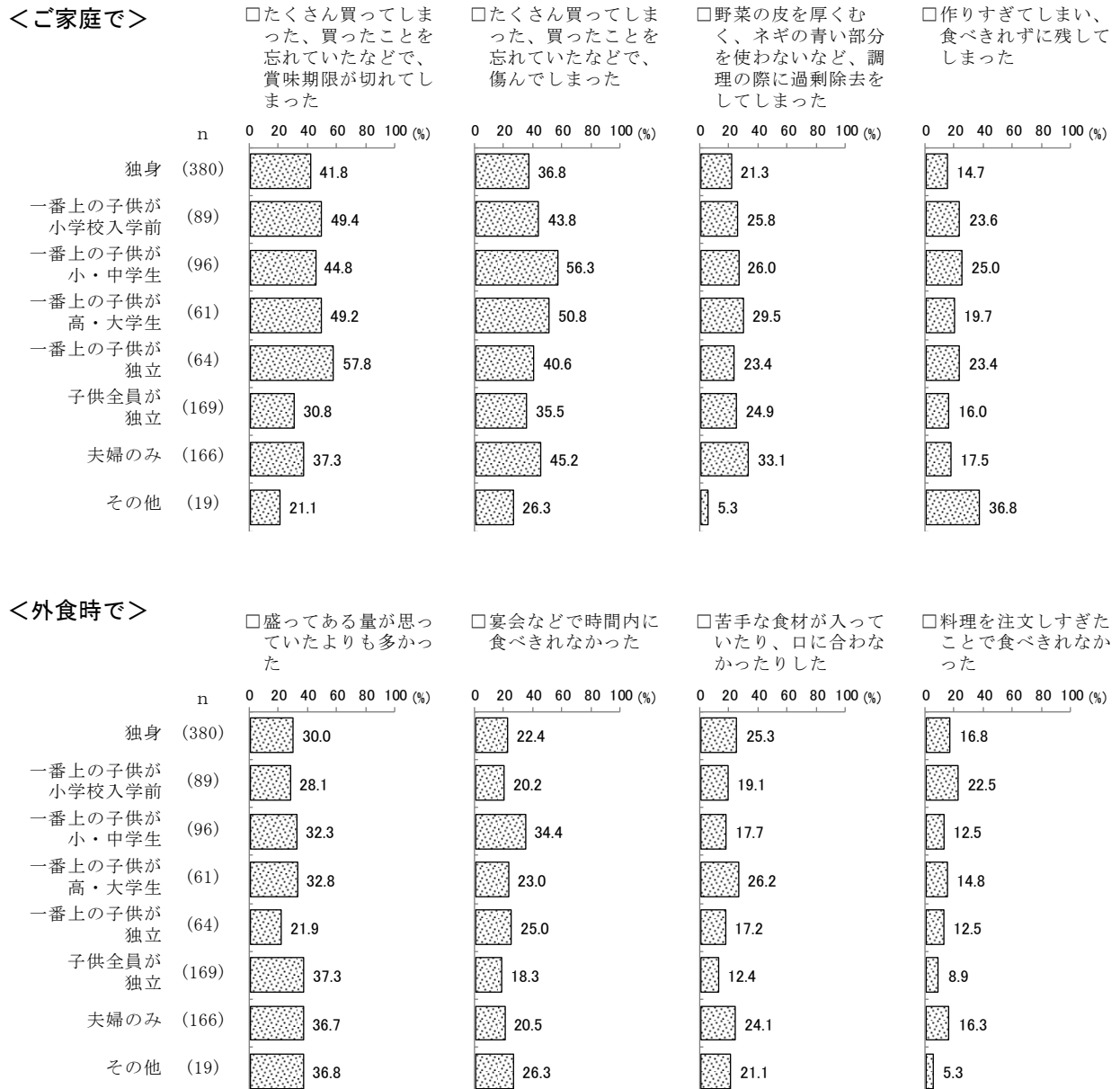
＜外食時で＞



家族構成別でみると、〈ご家庭で〉は「たくさん買ってしまった、買ったことを忘れていたなどで、賞味期限が切れてしまった」が一番上の子供が独立（57.8%）で6割近くと、「たくさん買ってしまった、買ったことを忘れていたなどで、傷んでしまった」が一番上の子供が小・中学生（56.3%）で5割半ばと、それぞれ最も多くなっている。〈外食時で〉は「盛ってある量が思っていたよりも多かった」は子供全員が独立（37.3%）で4割近く、「宴会などで時間内に食べきれなかった」は一番上の子供が小・中学生（34.4%）で3割半ばと、それぞれ最も多くなっている。

(図 13-4-3)

図 13-4-3 食品ロスの経験—家族構成別

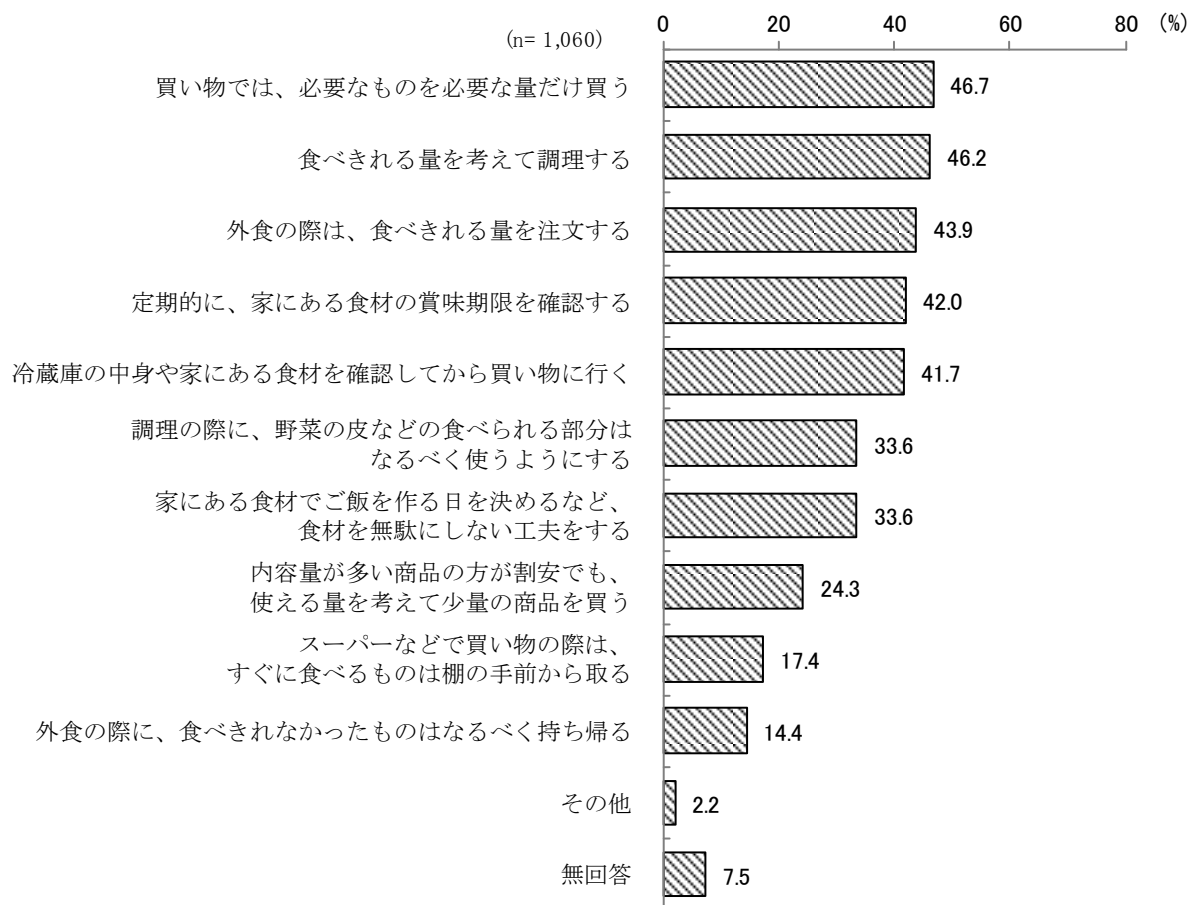


### 13-5 食品ロス削減のために実践できること

「買い物では、必要なものを必要な量だけ買う」が5割近く

問36 今後、実践出来そうなことはありますか。(〇はいくつでも)

図 13-5-1



食品ロス削減のために実践できることは、「買い物では、必要なものを必要な量だけ買う」(46.7%) が5割近くと最も多く、次いで「食べきれぬ量を考えて調理する」(46.2%)、「外食の際は、食べきれぬ量を注文する」(43.9%)、「定期的に、家にある食材の賞味期限を確認する」(42.0%)、「冷蔵庫の中身や家にある食材を確認してから買い物に行く」(41.7%) となっている。

(図 13-5-1)

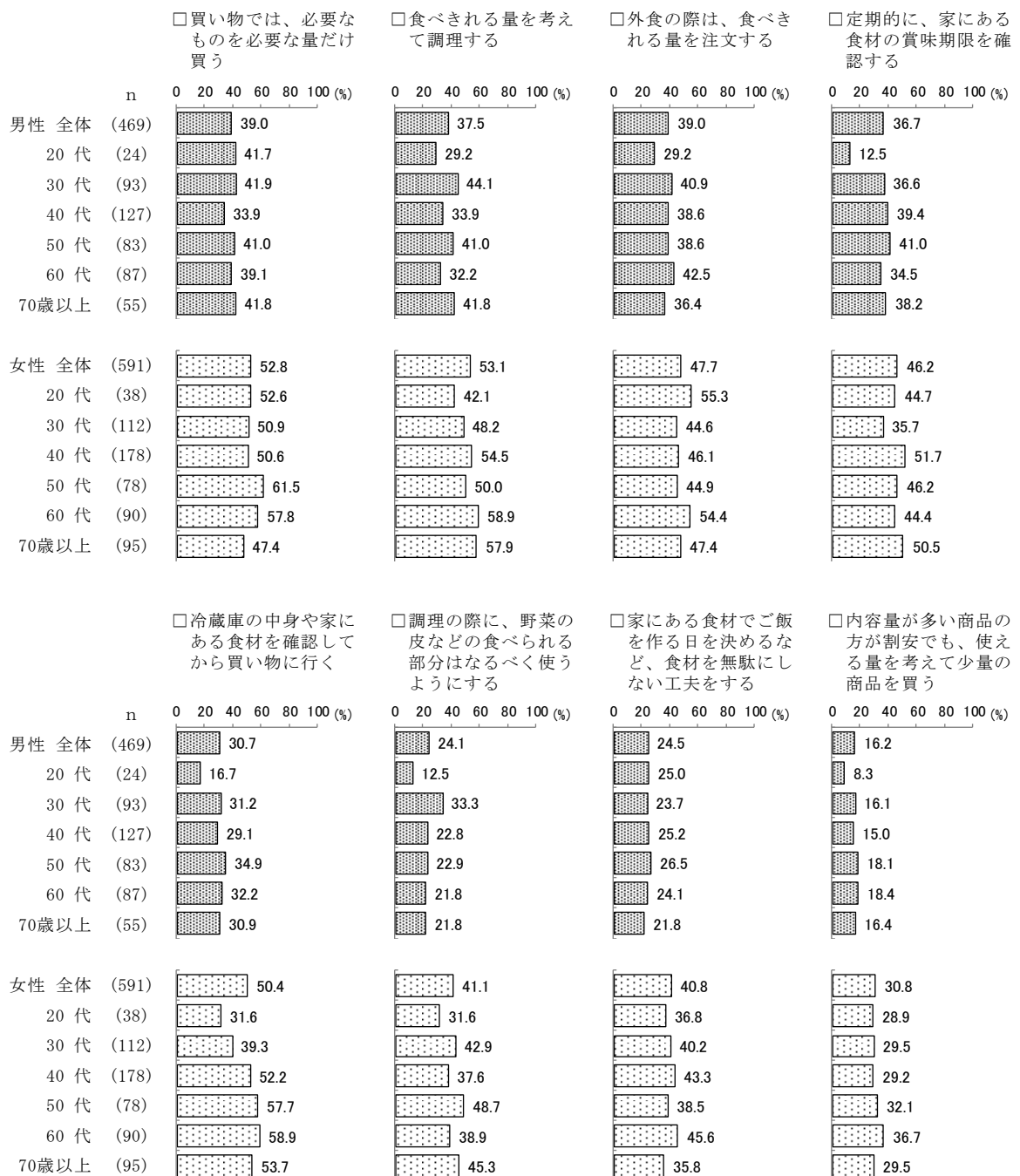


性別で見ると、「冷蔵庫の中身や家にある食材を確認してから買い物に行く」は女性（50.4%）が男性（30.7%）より19.7ポイント、「調理の際に、野菜の皮などの食べられる部分はなるべく使うようにする」は女性（41.1%）が男性（24.1%）より17.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると「買い物では、必要なものを必要な量だけ買う」は女性50代（61.5%）で6割を超え、「食べきれない量を考えて調理する」は女性60代（58.9%）で6割近く、「外食の際は、食べきれない量を注文する」は女性20代（55.3%）で5割半ば、「定期的に、家にある食材の賞味期限を確認する」は女性40代（51.7%）で5割を超え、それぞれ最も多くなっている。

(図13-5-2)

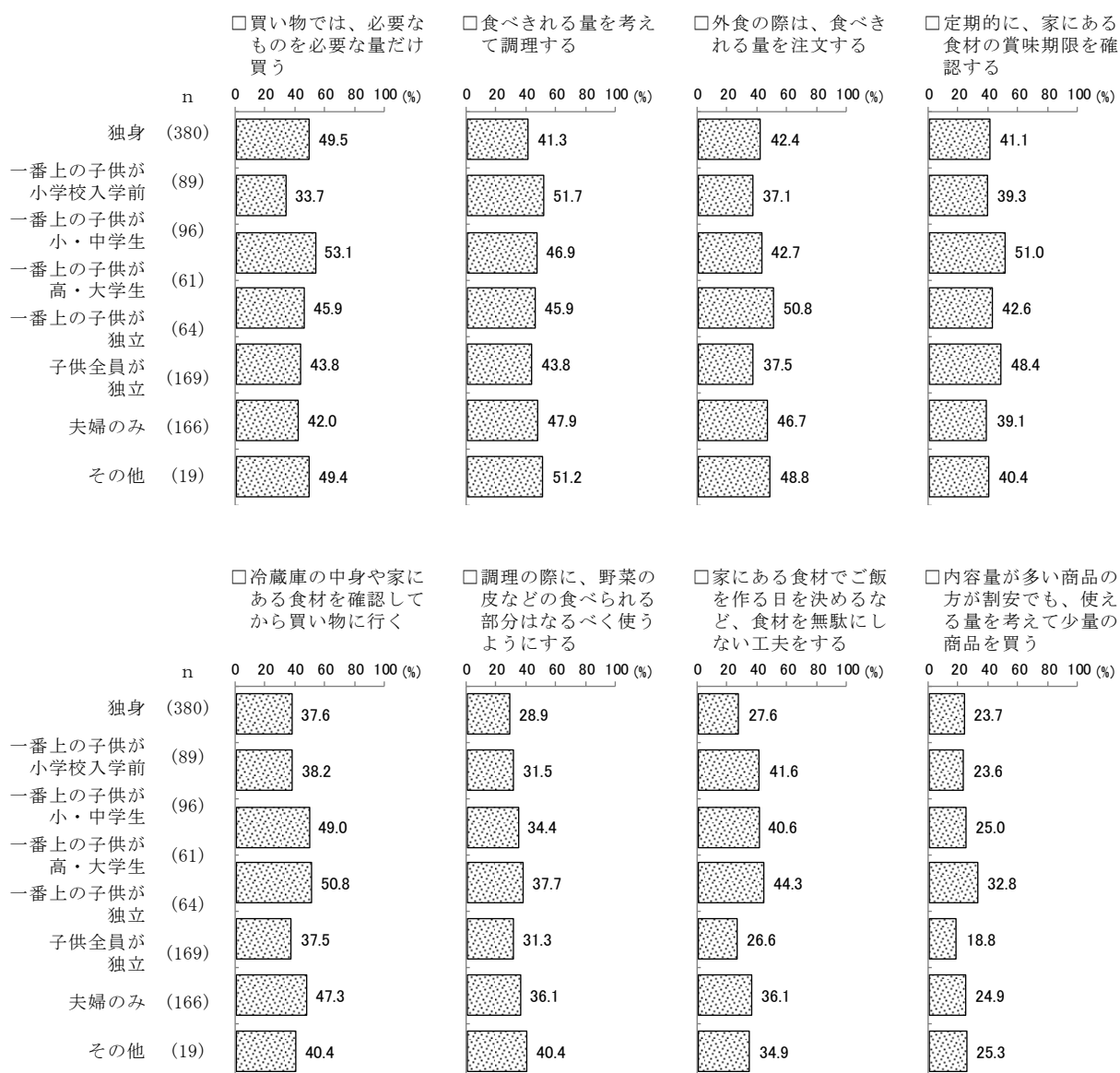
図13-5-2 食品ロス削減のために実践できること一性別、性・年代別





家族構成別でみると、「買い物では、必要なものを必要な量だけ買う」が一番上の子供が小・中学生（53.1%）で、「食べきれる量を考えて調理する」が一番上の子供が小学校入学前（51.7%）と夫婦のみ（51.2%）で、「外食の際は、食べきれる量を注文する」が一番上の子供が高・大学生（50.8%）で、「定期的に、家にある食材の賞味期限を確認する」が一番上の子供が小・中学生（51.0%）で、「冷蔵庫の中身や家にある食材を確認してから買い物に行く」は、一番上の子供が高・大学生（50.8%）でそれぞれ5割台となっている。（図13-5-3）

図13-5-3 食品ロス削減のために実践できること—家族構成別



## 14. 人権・男女共同参画社会

人権が尊重される社会の実現を目指し、「人権のつどい」や「男女平等推進フォーラム」等、人権、男女共同参画のための事業を進めています。

今回の調査では、人権が「十分守られている」と「十分とはいえないが、守られている」を合わせた『守られている』と回答した方が前回調査から増加した一方、「あまり守られていない」と「全然守られていない」を合わせた『守られていない』と回答した方も増加したことから、今後も人権についての理解を進める事業により一層取り組んでいく必要があります。

このほか、「日常生活での人権侵害」や、「『はばたき21』で力を入れていくべき事業」の回答結果をふまえ、人権施策、男女平等推進プラザ「はばたき21」での各種事業について、引き続き推進してまいります。

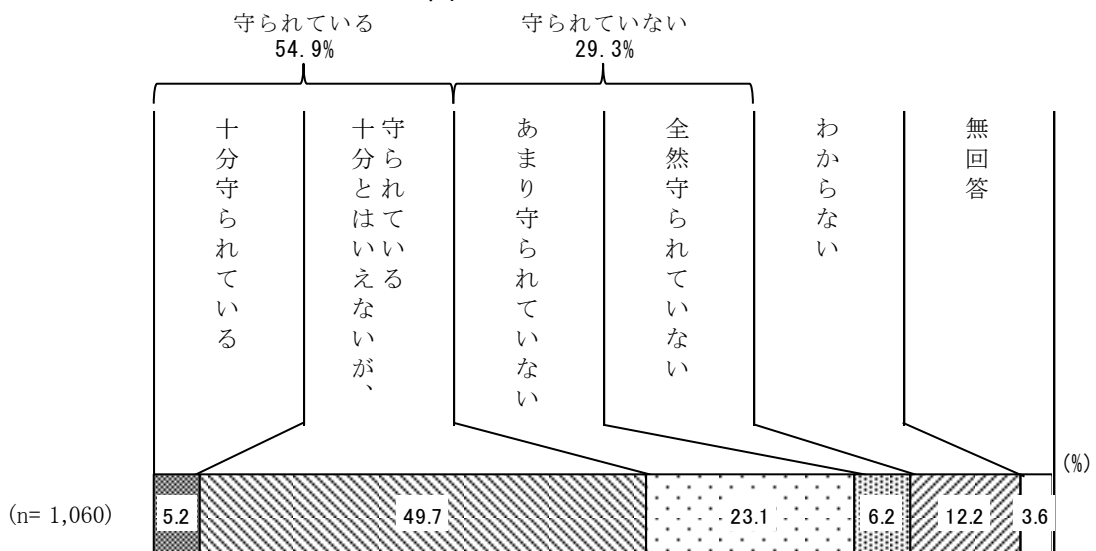
(総務部 人権・男女共同参画課)

### 14-1 すべての人の「人権」が守られているか

『守られている』が5割半ば

問37 現在わが国では、すべての人の「人権」が守られていると思いますか。(○は1つだけ)

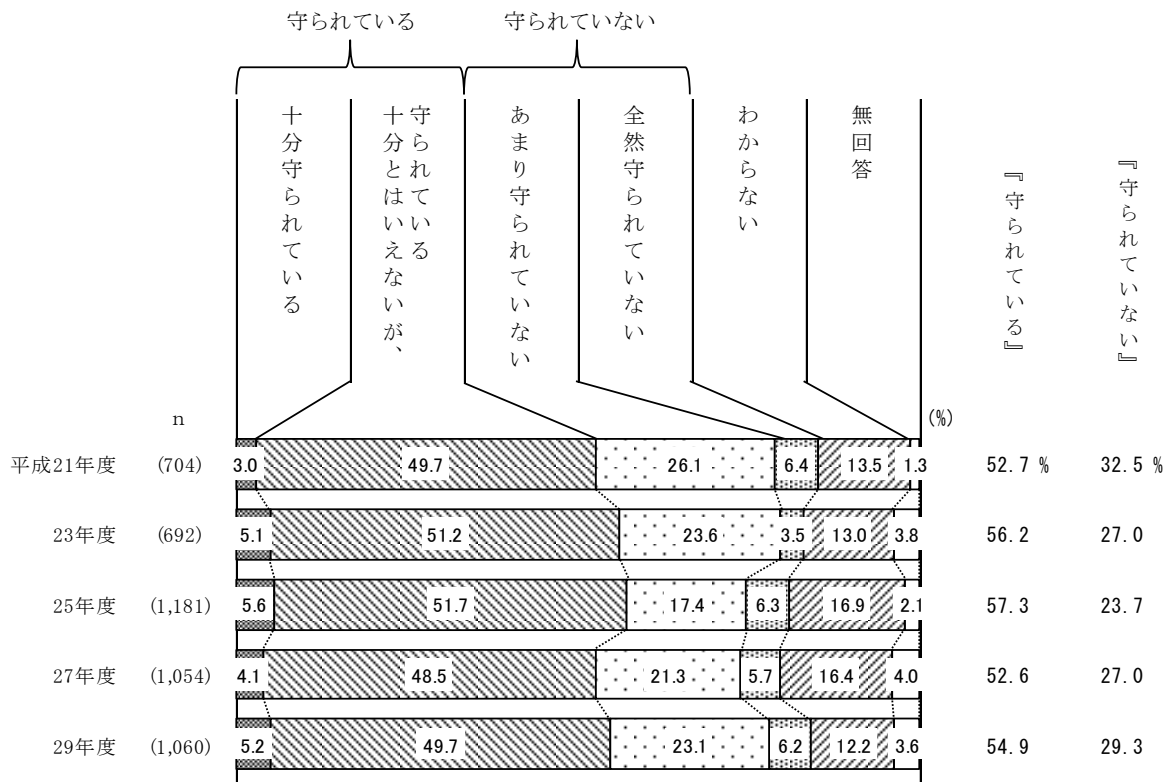
図 14-1-1



すべての人の「人権」が守られているかは、「十分とはいえないが、守られている」(49.7%)が5割と最も多く、「十分守られている」(5.2%)と合わせた『守られている』(54.9%)が5割半ばとなっている。一方、「あまり守られていない」(23.1%)と「全然守られていない」(6.2%)を合わせた『守られていない』(29.3%)はほぼ3割となっている。(図 14-1-1)

推移をみると、「十分守られている」と「十分とはいえないが、守られている」を合わせた『守られている』と「あまり守られていない」と「全然守られていない」を合わせた『守られていない』とともに、平成27年度から2.3ポイント高くなっている。(図14-1-2)

図14-1-2 すべての人の「人権」が守られているか—推移

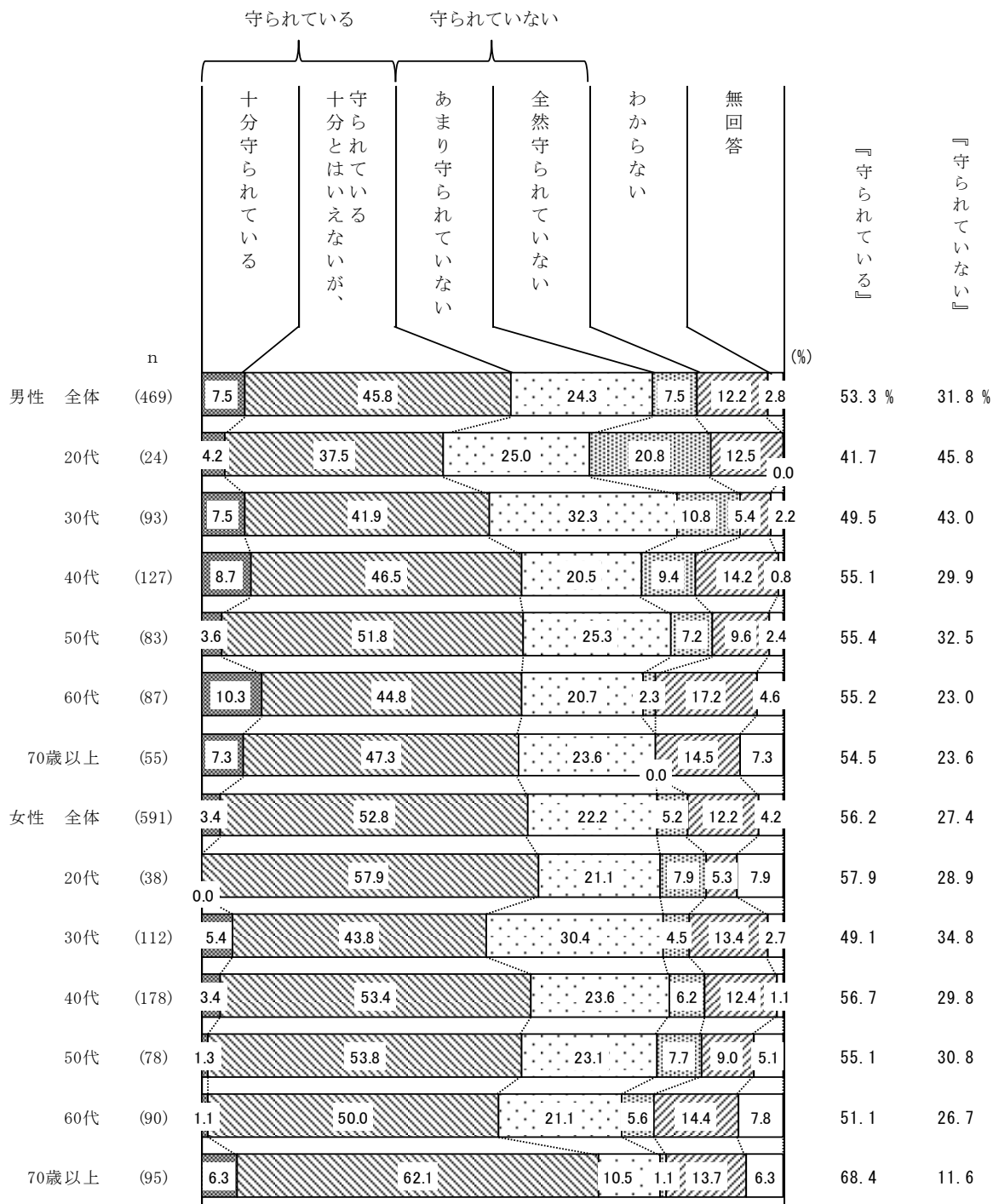


性別で見ると、「十分守られている」と「十分とはいえないが、守られている」を合わせた『守られている』は女性（56.2%）が男性（53.3%）よりも2.9ポイント、「あまり守られていない」と「全然守られていない」を合わせた『守られていない』は男性（31.8%）が女性（27.4%）よりも4.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、「十分守られている」と「十分とはいえないが、守られている」を合わせた『守られている』は女性70歳以上（68.4%）で7割近くと最も多く、女性は30代（49.1%）を除く各年代で5割以上となっている。「あまり守られていない」と「全然守られていない」を合わせた『守られていない』は男性20代（45.8%）と男性30代（43.0%）で4割台となっている。

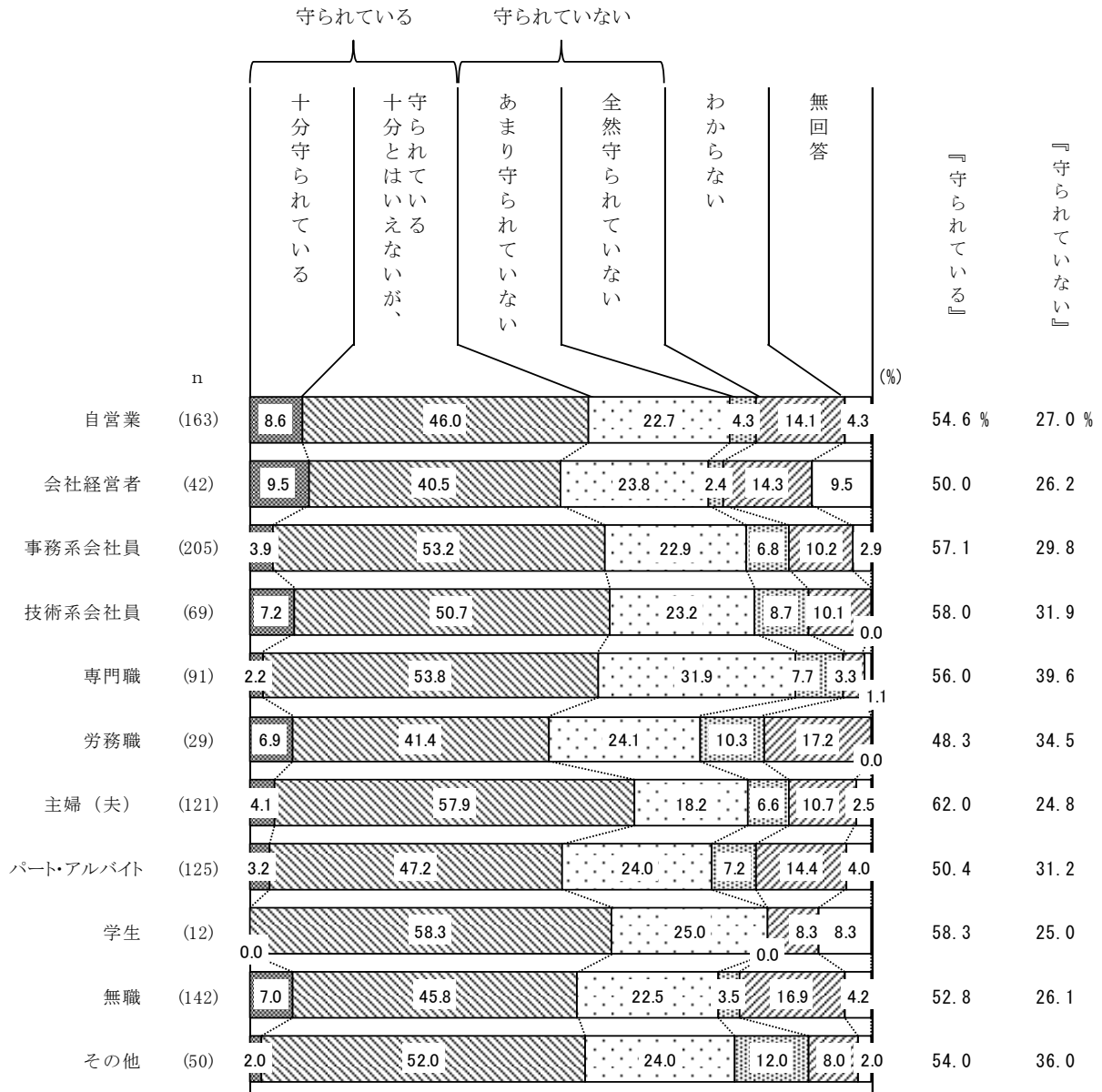
(図14-1-3)

図14-1-3 すべての人の「人権」が守られているかー性別、性・年代別



職業別でみると、「十分守られている」と「十分とはいえないが、守られている」を合わせた『守られている』は主婦（夫）（62.0%）で6割を超えて最も多く、次いで学生（58.3%）、技術系会社員（58.0%）となっている。「あまり守られていない」と「全然守られていない」を合わせた『守られていない』は専門職（39.6%）で4割と最も多く、次いで労務職（34.5%）、技術系会社員（31.9%）となっている。（図14-1-4）

図14-1-4 すべての人の「人権」が守られているか—職業別

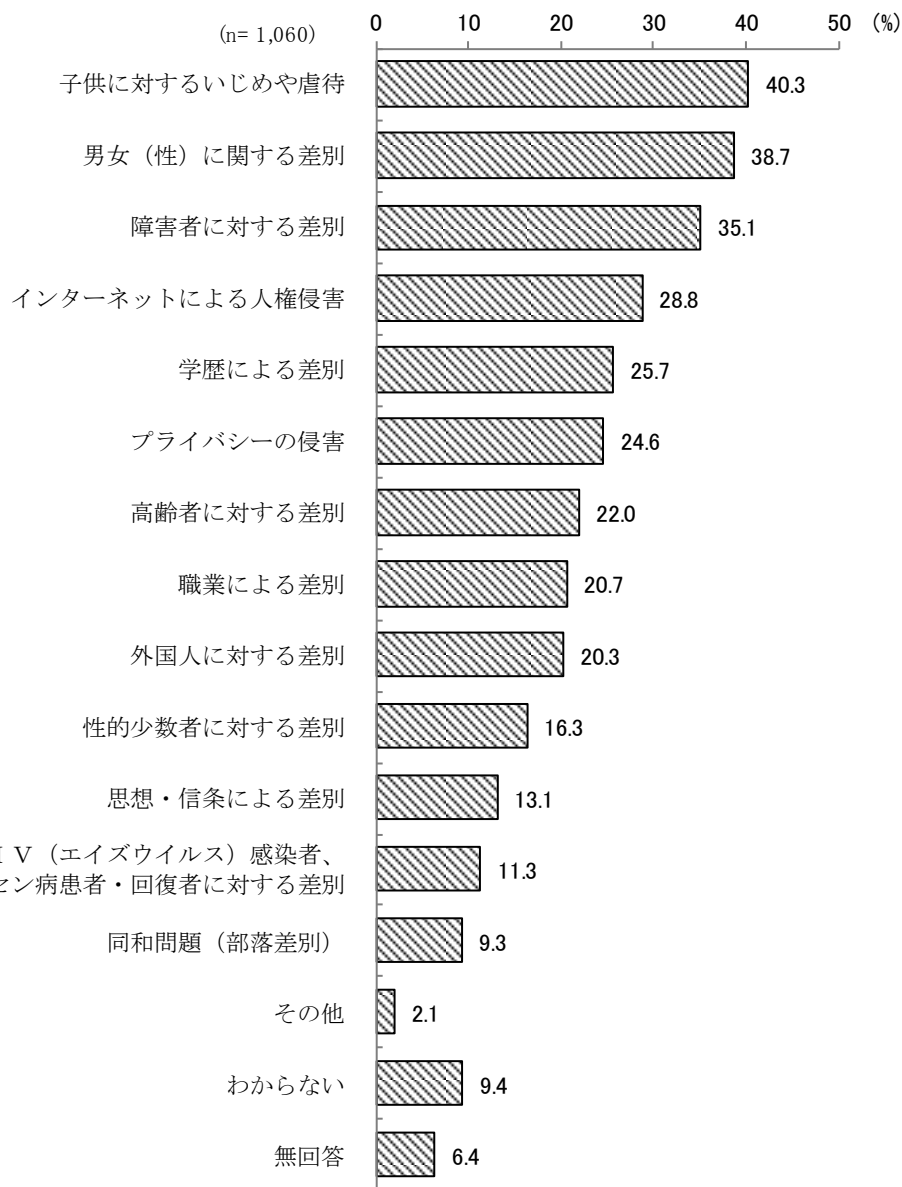


## 14-2 日常生活の中での人権侵害

「子供に対するいじめや虐待」が4割

問 38 日常生活の中で、どのような人権侵害があると思いますか。(〇はいくつでも)

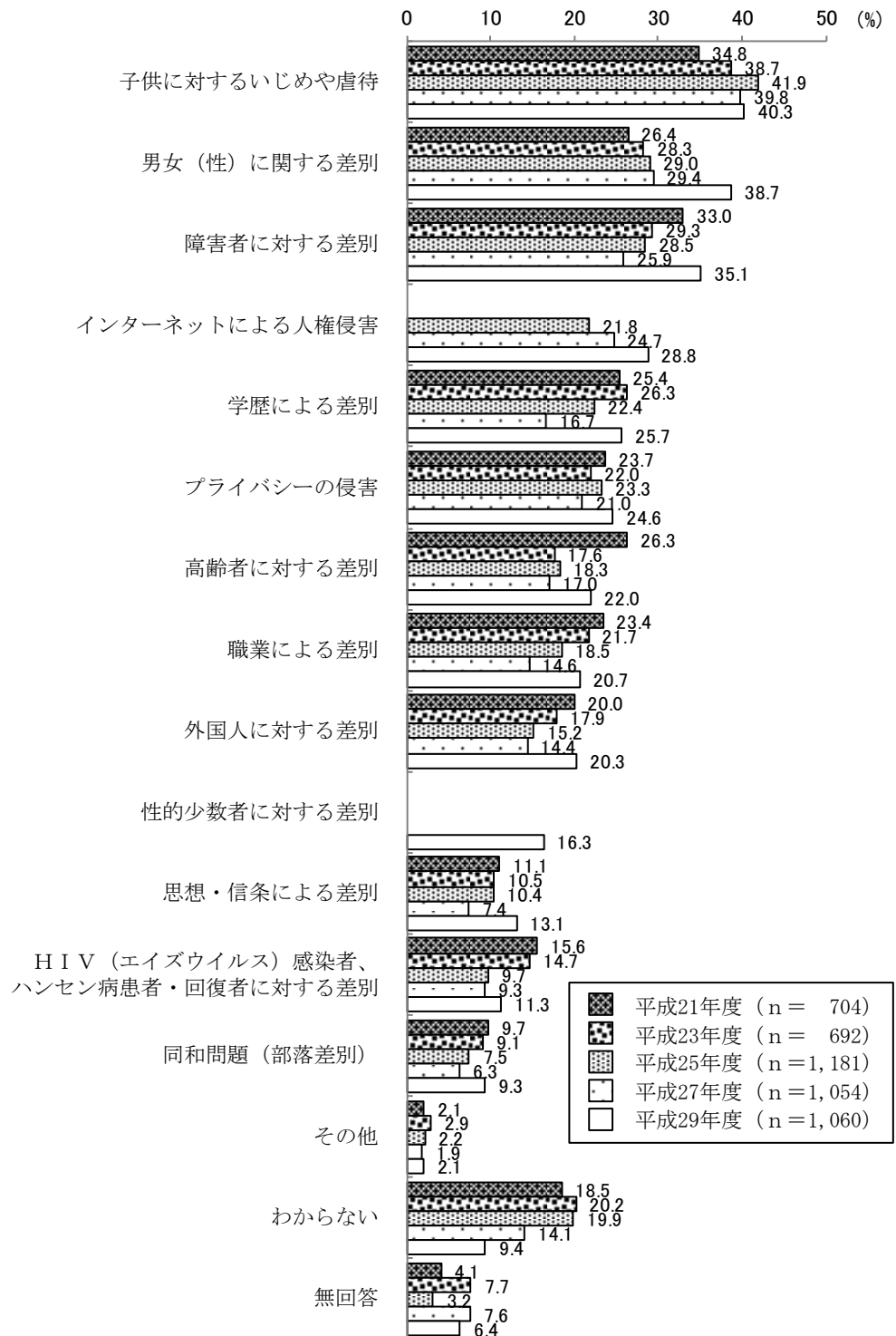
図 14-2-1



日常生活の中での人権侵害は、「子供に対するいじめや虐待」(40.3%)が4割と最も多く、次いで「男女(性)に関する差別」(38.7%)、「障害者に対する差別」(35.1%)、「インターネットによる人権侵害」(28.8%)、「学歴による差別」(25.7%)となっている。(図 14-2-1)

推移をみると、「子供に対するいじめや虐待」は過去の調査から連続して1位となっており、平成27年度から0.5ポイント高くなっている。その他の上位項目では、「男女（性）に関する差別」が9.3ポイント、「障害者に対する差別」が9.2ポイント、「学歴による差別」が9.0ポイント、それぞれ平成27年度から高くなっている。（図14-2-2）

図14-2-2 日常生活の中での人権侵害－推移



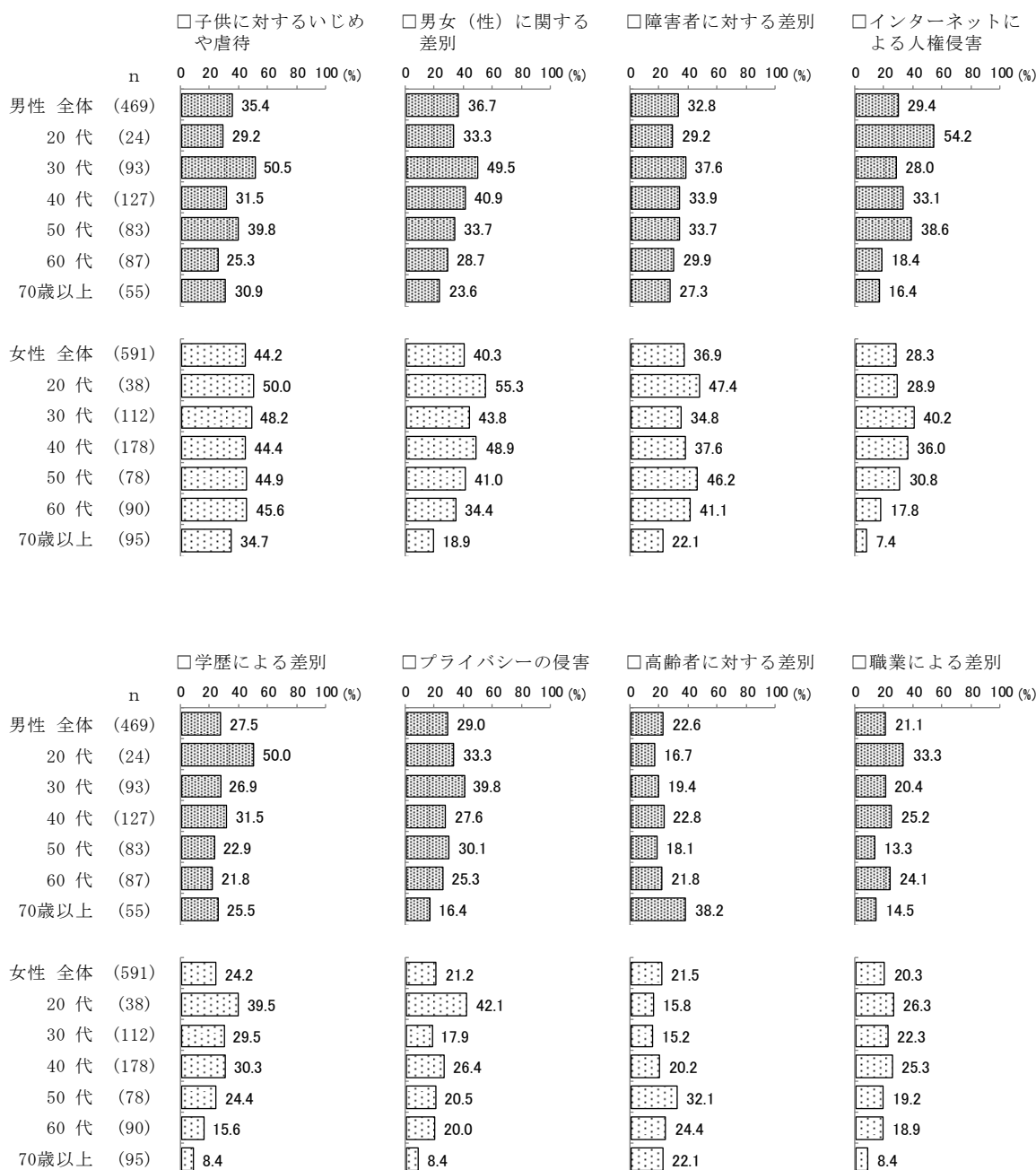
※ 「インターネットによる人権侵害」は平成21, 23, 25, 27年度調査には無い選択肢である。

※ 「性的少数者に対する差別」は平成21, 23, 25, 27年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「男女（性）に関する差別」は女性（40.3%）が男性（36.7%）より3.6ポイント高くなっている。また「子供に対するいじめや虐待」は女性（44.2%）が男性（35.4%）より8.8ポイント、「プライバシーの侵害」は男性（29.0%）が女性（21.2%）より7.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、「男女（性）に関する差別」は女性20代（55.3%）で5割半ばと最も多くなっている。「子供に対するいじめや虐待」は男性30代（50.5%）と女性20代（50.0%）で5割台となっている。「障害者に対する差別」は女性20代（47.4%）、女性50代（46.2%）、女性60代（41.1%）で4割台と最も多くなっている。（図14-2-3）

図14-2-3 日常生活の中での人権侵害－性別、性・年代別（上位8位）



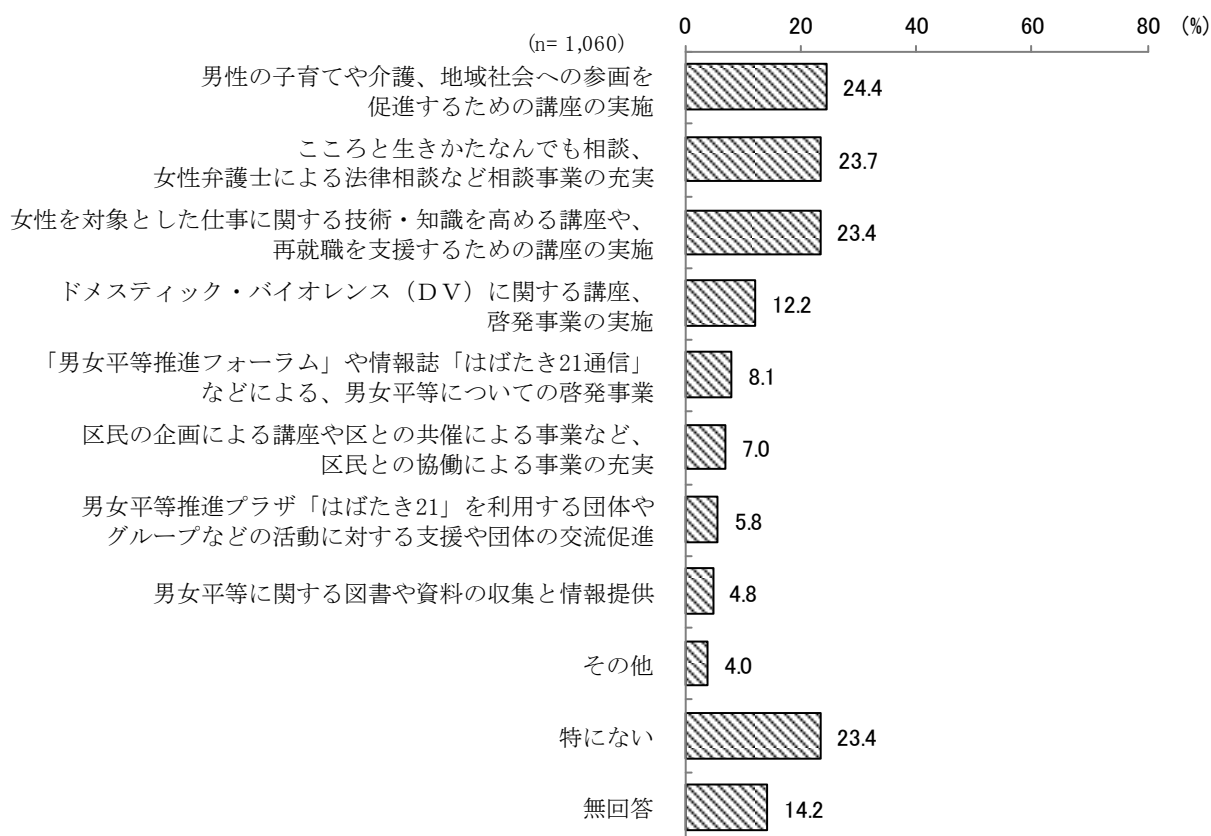


### 14-3 「はばたき21」で力を入れていくべき事業

「男性の子育てや介護、地域社会への参画を促進するための講座の実施」が2割半ば

問 39 あなたは、男女平等参画社会の実現を目指す区民活動の拠点である男女平等推進プラザ「はばたき21」で今後どのような事業に力を入れて実施していく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

図 14-3-1

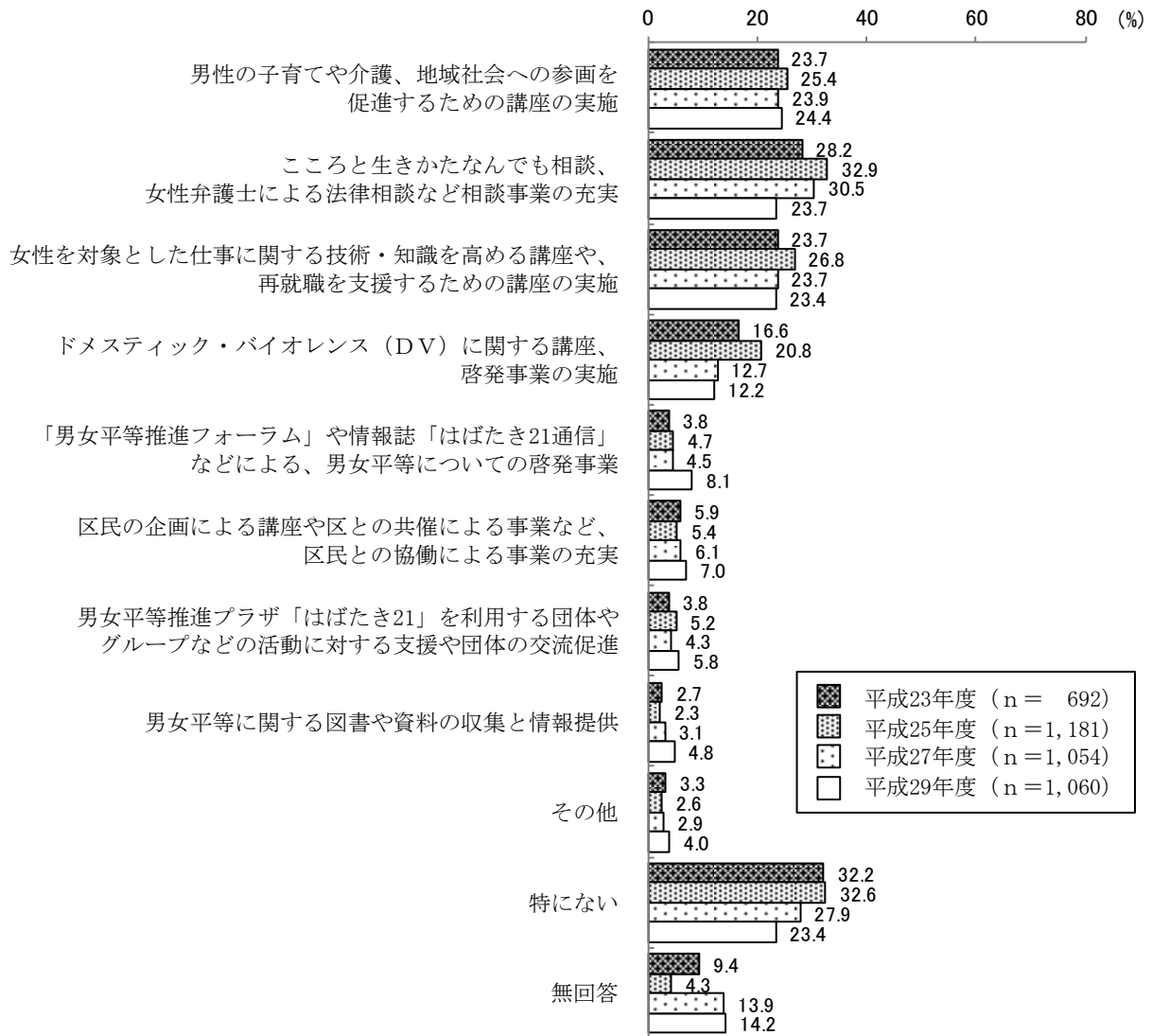


「はばたき21」で力を入れていくべき事業は、「男性の子育てや介護、地域社会への参画を促進するための講座の実施」(24.4%)が2割半ばで最も多く、次いで「こころと生きかたなんでも相談、女性弁護士による法律相談など相談事業の充実」(23.7%)、「女性を対象とした仕事に関する技術・知識を高める講座や、再就職を支援するための講座の実施」(23.4%)、「ドメスティック・バイオレンス (DV) に関する講座、啓発事業の実施」(12.2%)となっている。

(図 14-3-1)

推移をみると、平成27年度に第1位であった「こころと生きかたなんでも相談、女性弁護士による法律相談など相談事業の充実」が平成27年度から6.8ポイント低く、「男性の子育てや介護、地域社会への参画を促進するための講座の実施」が第1位となっている。他の項目においては平成27年度と大きな差は見られない。(図14-3-2)

図14-3-2 「はばたき21」で力を入れていくべき事業—推移

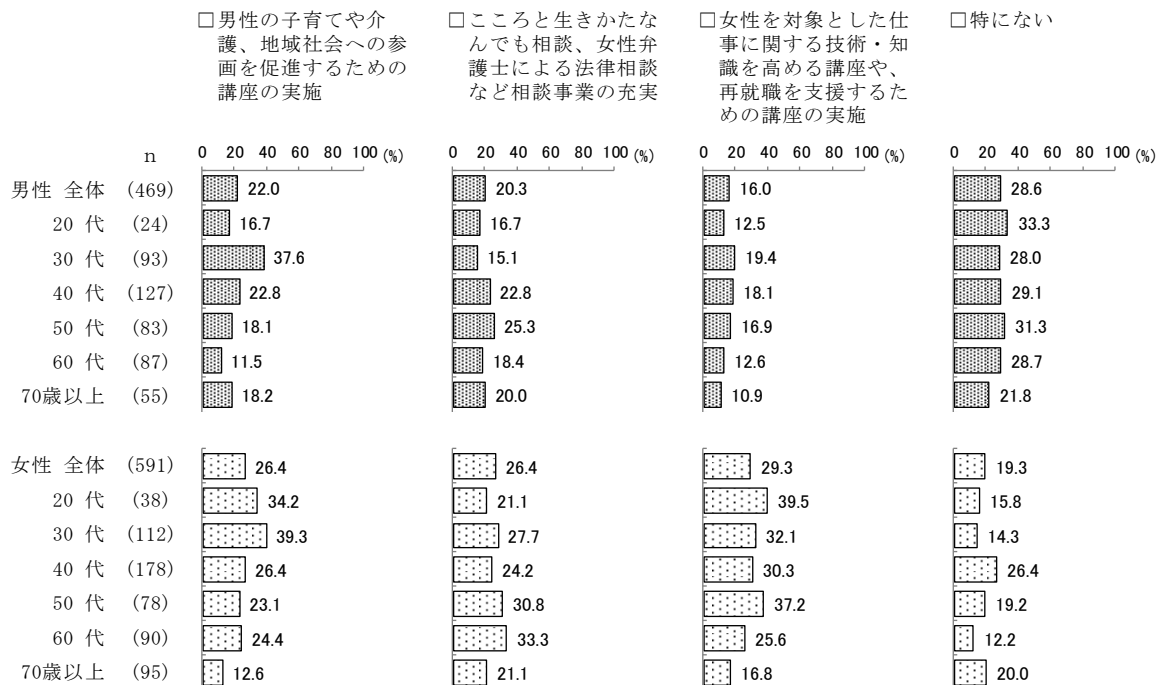


性別で見ると、「女性を対象とした仕事に関する技術・知識を高める講座や、再就職を支援するための講座の実施」は女性（29.3%）が男性（16.0%）より13.3ポイント高くなっている。一方、「特にない」は男性（28.6%）が女性（19.3%）より9.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「男性の子育てや介護、地域社会への参画を促進するための講座の実施」は女性30代（39.3%）でほぼ4割と最も多く、次いで男性30代（37.6%）となっている。「こころと生きかたなんでも相談、女性弁護士による法律相談など相談事業の充実」は女性50代（30.8%）と女性60代（33.3%）で3割台、「女性を対象とした仕事に関する技術・知識を高める講座や、再就職を支援するための講座の実施」は女性20代（39.5%）で4割と、それぞれ最も多くなっている。一方、「特にない」は男性20代（33.3%）で3割を超えて最も多くなっている。

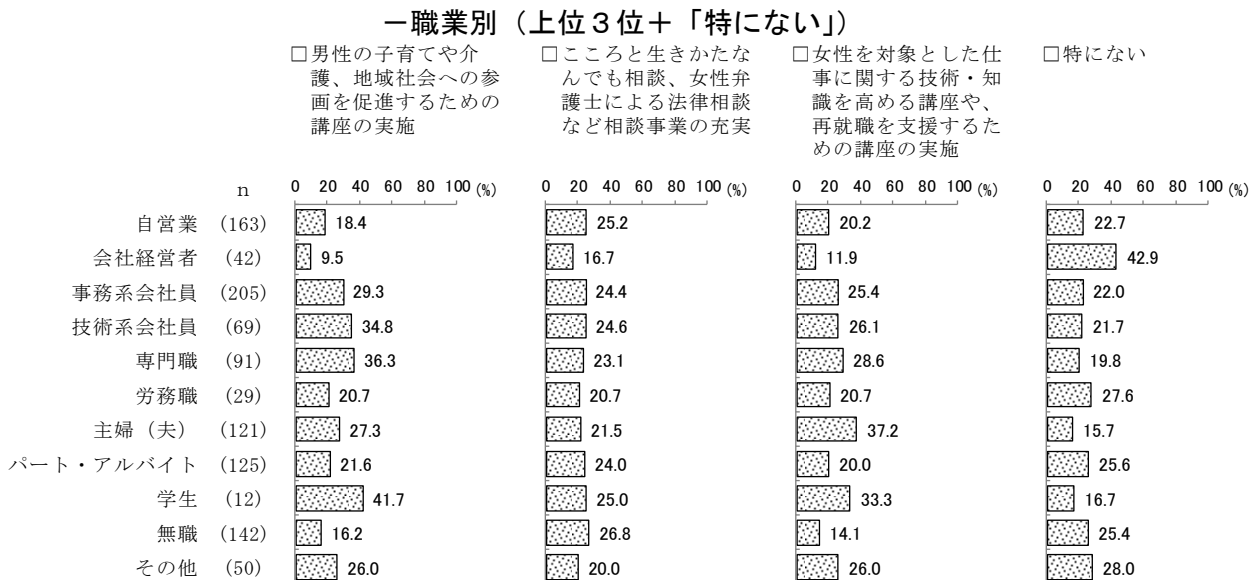
(図14-3-3)

図14-3-3 「はばたき21」で力を入れていくべき事業  
一性別、性・年代別（上位3位+「特にない」）



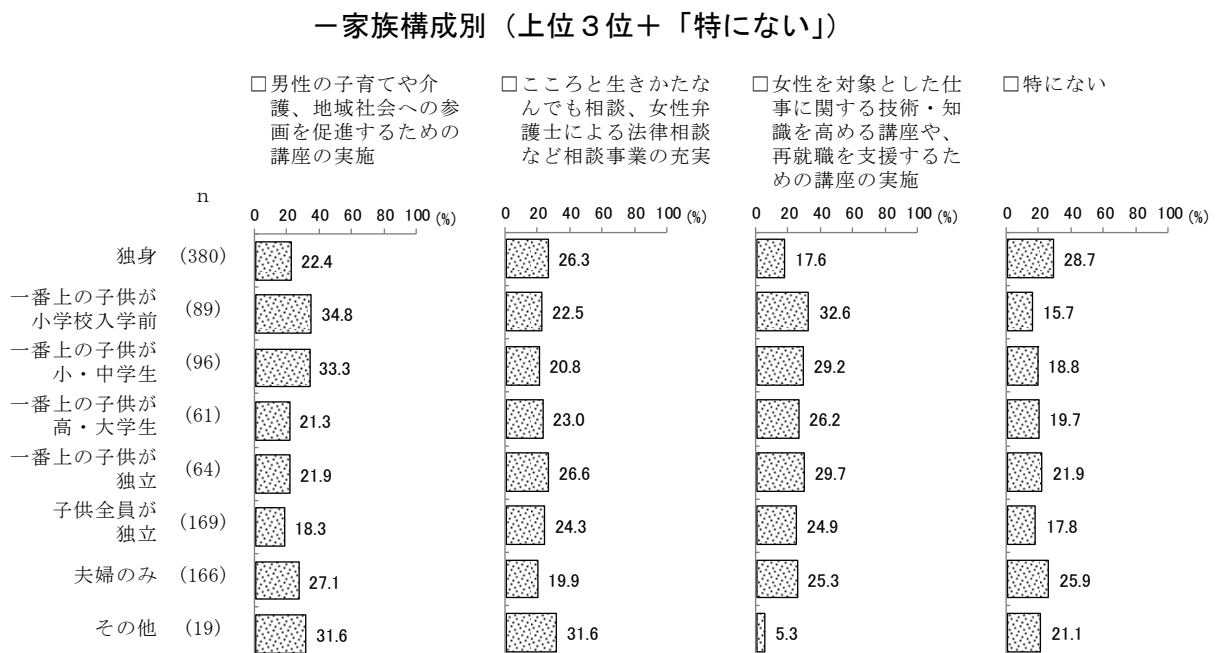
職業別にみると、「男性の子育てや介護、地域社会への参画を促進するための講座の実施」は学生（41.7%）で4割を超えて最も多くなっている。「こころと生きかたなんでも相談、女性弁護士による法律相談など相談事業の充実」は会社経営者（16.7%）以外の職業で2割台、「女性を対象とした仕事に関する技術・知識を高める講座や、再就職を支援するための講座の実施」は主婦（夫）（37.2%）と学生（33.3%）が3割台となっている。一方、「特にない」は会社経営者（42.9%）が最も多くなっている。（図14-3-4）

図14-3-4 「はばたき21」で力を入れていくべき事業



家族構成別にみると、「男性の子育てや介護、地域社会への参画を促進するための講座の実施」は一番上の子供が小学校入学前（34.8%）と一番上の子供が小・中学生（33.3%）で3割台と、他の性・年代に比べて多くなっている。（図14-3-5）

図14-3-5 「はばたき21」で力を入れていくべき事業



## 15. 広報

広報「たいとう」の「くわしく読んでいる」と「興味のある記事だけ読んでいる」を合わせた『閲読率』は65.6%であり、平成27年度と同水準という結果になりました。

広報「たいとう」は、区政情報を提供する区の主要な広報媒体として、多くの方に読まれ、親しまれる紙面となるようその作成・発行に努めています。今後も、見やすさや読みやすさを意識し、記事の配置やレイアウト等を工夫することで、多くの方に手に取っていただける広報紙となるよう取り組んでまいります。

また、区ホームページの「よく見ている」と「たまに見ている」を合わせた『閲覧経験』は、56.7%であり、平成27年度と比較して12.0ポイント高くなっています。区ホームページは、平成27年12月に、トップページのリニューアルやツイッターとの連携機能など、様々な面で機能強化を行いました。今後も、より利用しやすいよう検討・改善を重ねながら、情報発信に努めてまいります。

広報「たいとう」、区ホームページをはじめ、ツイッター、メールマガジンなど、各種広報媒体の特性を活かしながら、複合的・有機的に活用することで、より一層効果的な情報発信を行ってまいります。

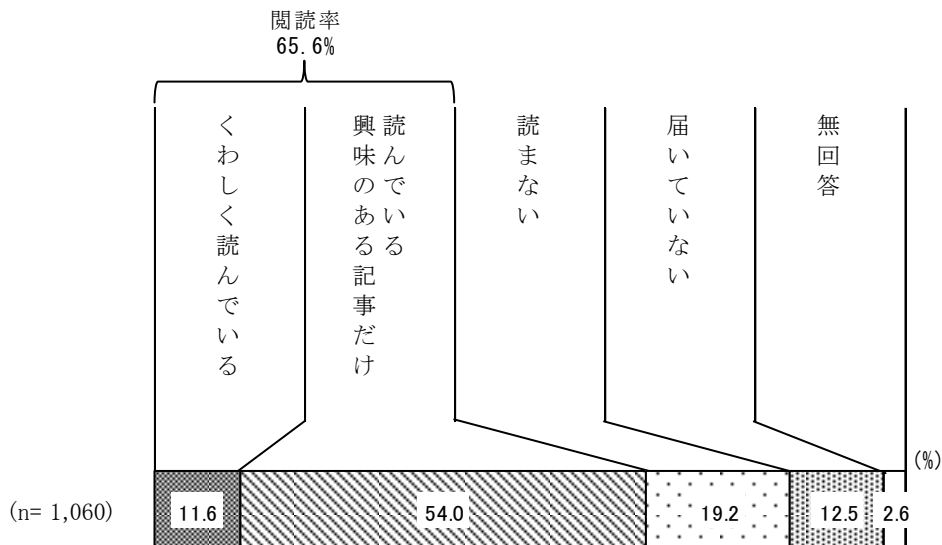
(総務部 広報課)

### 15-1 広報「たいとう」の閲読状況

広報「たいとう」の『閲読率』は6割半ば

問 40 現在、広報「たいとう」は毎月5日と20日に発行していますが、  
どの程度読んでいますか。(○は1つだけ)

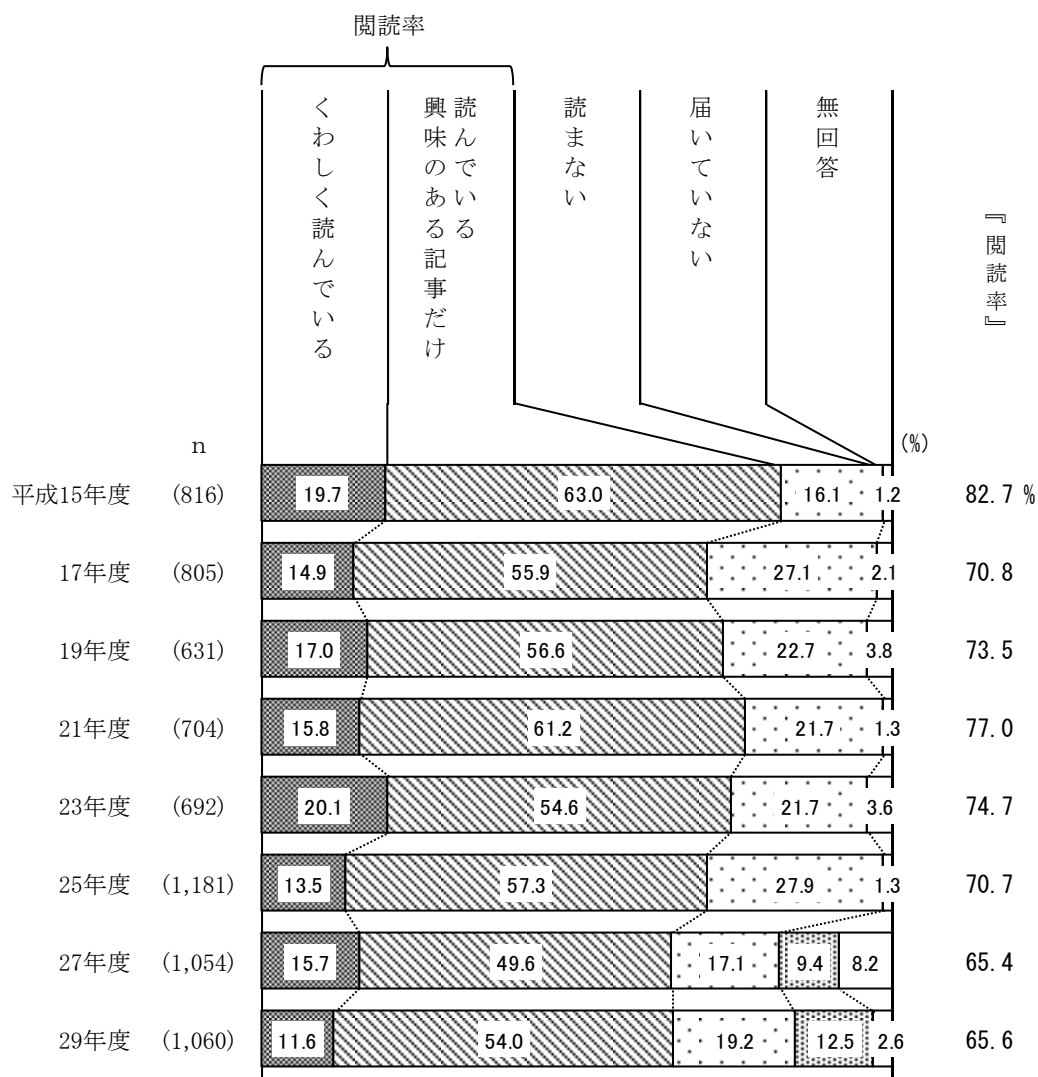
図 15-1-1



広報「たいとう」の閲読状況は、「興味のある記事だけ読んでいる」(54.0%)が5割半ばと最も多く、「くわしく読んでいる」(11.6%)と合わせた『閲読率』(65.6%)が6割半ばとなっている。一方、「読まない」(19.2%)はほぼ2割となっている。(図15-1-1)

推移をみると、平成27年度から「興味のある記事だけ読んでいる」は4.4ポイント高くなっているが、「くわしく読んでいる」は4.1ポイント低くなっている。(図15-1-2)

図15-1-2 広報「たいとう」の閲読状況—推移

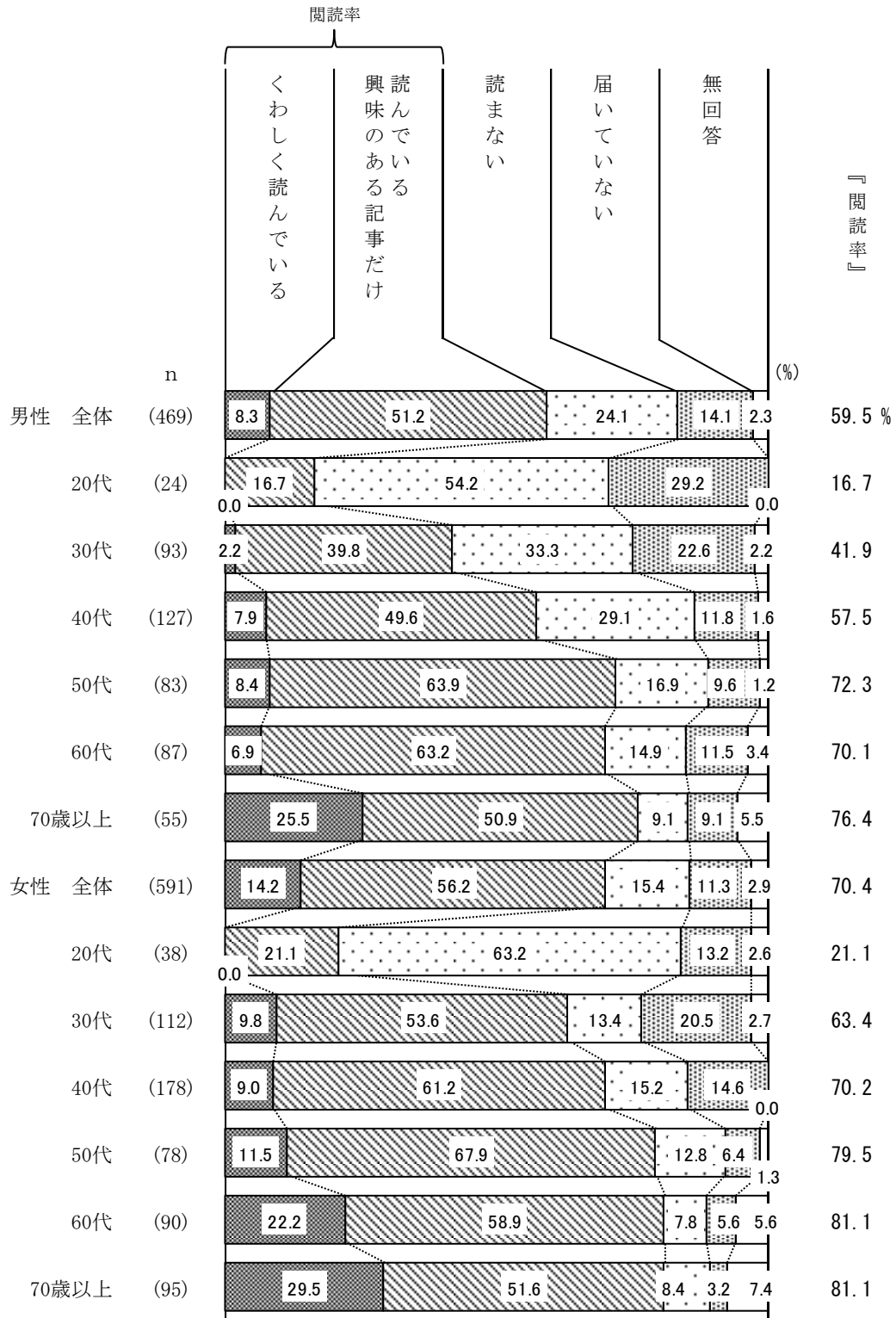


※「届いていない」は平成15、17、19、21、23、25年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「くわしく読んでいる」と「興味のある記事だけ読んでいる」を合わせた『閲読率』は女性（70.4%）が男性（59.5%）より10.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「くわしく読んでいる」は女性70歳以上（29.5%）で3割と最も多く、次いで男性70歳以上（25.5%）となっており、男女ともに年代が高くなるほど多くなる傾向にある。「くわしく読んでいる」と「興味のある記事だけ読んでいる」を合わせた『閲読率』は女性60代（81.1%）と女性70歳以上（81.1%）が最も多くなっている。（図15-1-3）

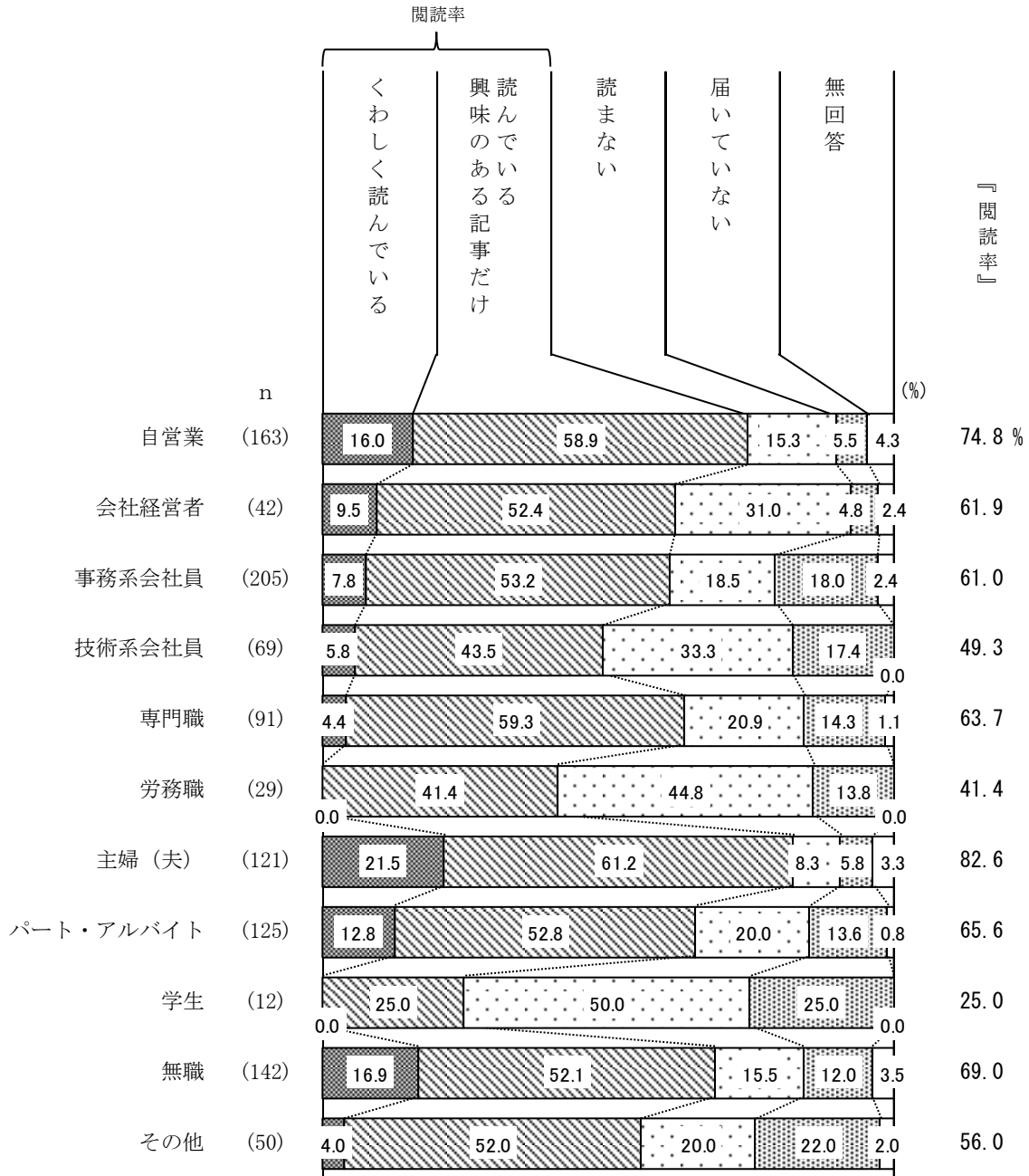
図15-1-3 広報「たいとう」の閲読状況—性別、性・年代別





職業別でみると、「くわしく読んでいる」と「興味のある記事だけ読んでいる」を合わせた『閲読率』は主婦（夫）（82.6%）で8割を超えて最も多く、次いで自営業（74.8%）、無職（69.0%）となっている。「読まない」は学生（50.0%）で5割と最も多く、次いで労務職（44.8%）となっている。（図 15-1-4）

図 15-1-4 広報「たいとう」の閲読状況－職業別





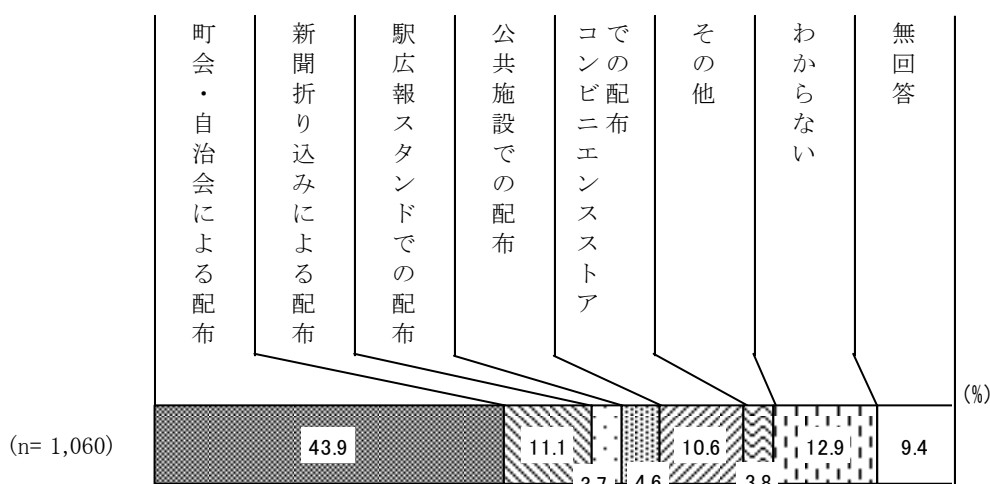
## 15-2 広報「たいとう」の希望する配布方法

「町会・自治会による配布」が4割を超える

問 41 現在、広報「たいとう」は、町会・自治会を通じて各ご家庭に配布する方法をとっていますが、どの方法が良いと思いますか。もっとも良いと思うものを選んでください。

(○は1つだけ)

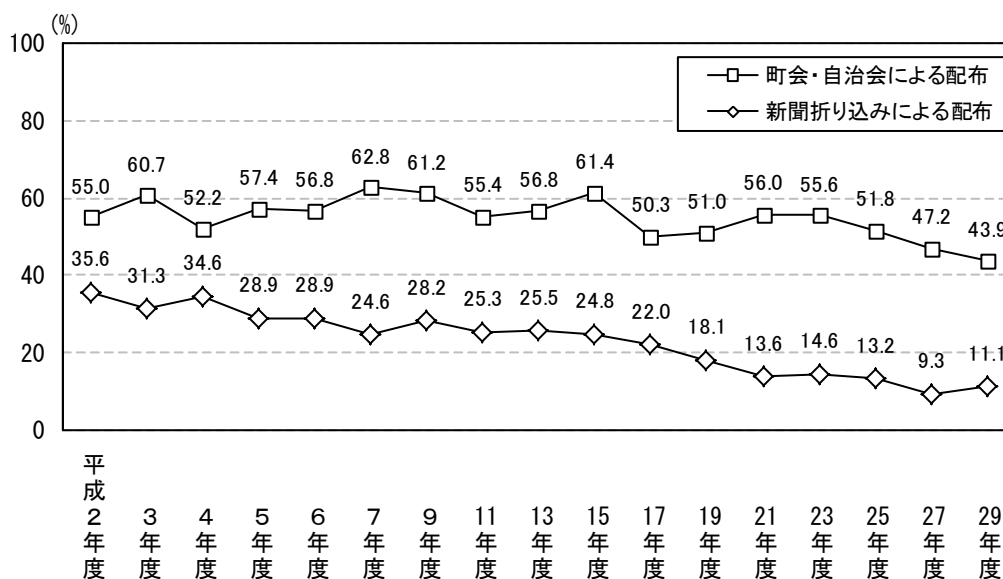
図 15-2-1



広報「たいとう」の希望する配布方法は、「町会・自治会による配布」(43.9%)が4割を超えて最も多く、次いで「新聞折り込みによる配布」(11.1%)、「コンビニエンスストアでの配布」(10.6%)となっている。(図 15-2-1)

平成 27 年度から「町会・自治会による配布」は 3.3 ポイント低く、「新聞折り込みによる配布」は 1.8 ポイント高くなっているが、推移をみると、「町会・自治会による配布」、「新聞折り込みによる配布」とともに減少傾向である。(図 15-2-2)

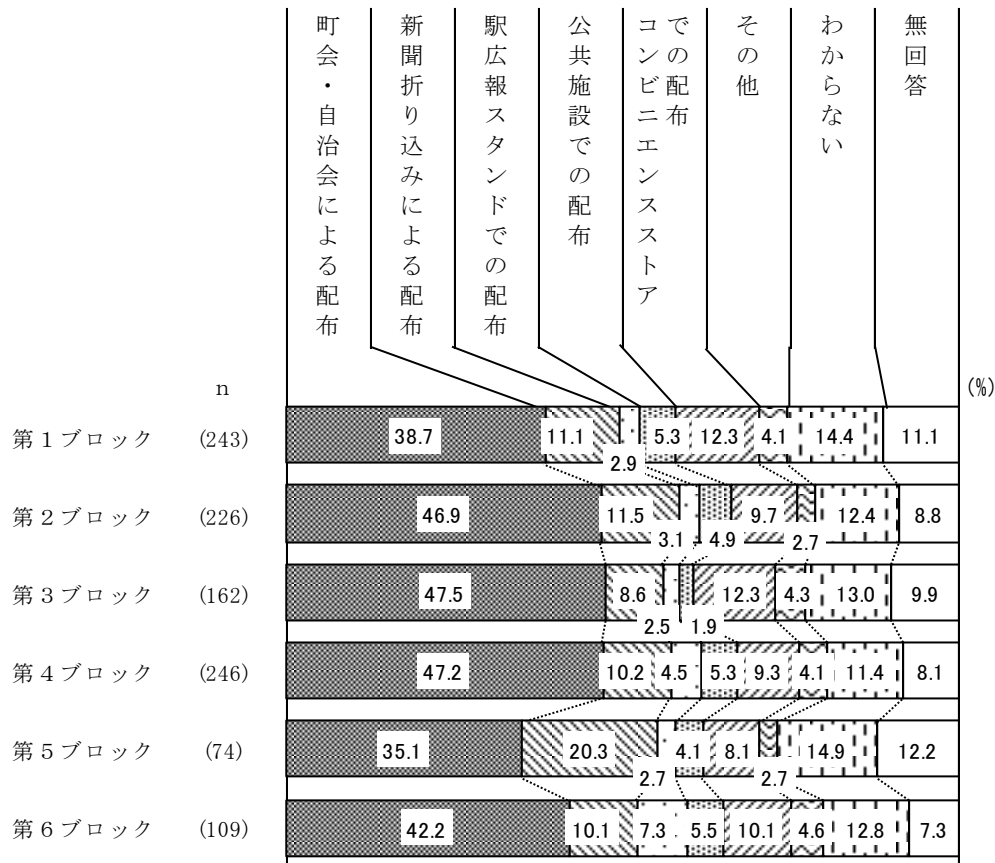
図 15-2-2 広報「たいとう」の希望する配布方法—推移



地区別でみると、「町会・自治会による配布」は第3ブロック（47.5%）で5割近くと最も多くなっている。「新聞折り込みによる配布」は第5ブロック（20.3%）で2割と最も多くなっている。

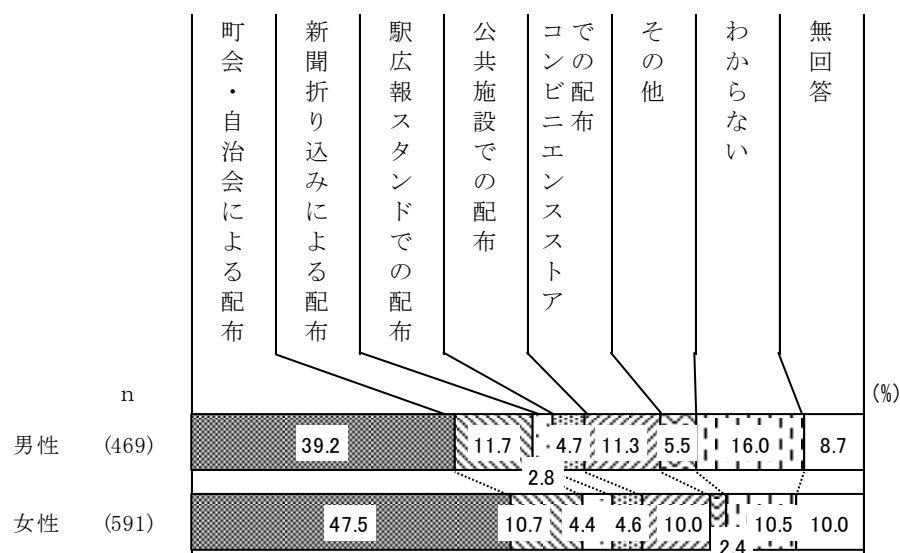
（図 15-2-3）

図 15-2-3 広報「たいとう」の希望する配布方法—地区別



性別でみると、「町会・自治会による配布」は女性（47.5%）が男性（39.2%）より8.3ポイント高くなっている。「新聞折り込みによる配布」は男性（11.7%）が女性（10.7%）より1.0ポイント高くなっている。（図 15-2-4）

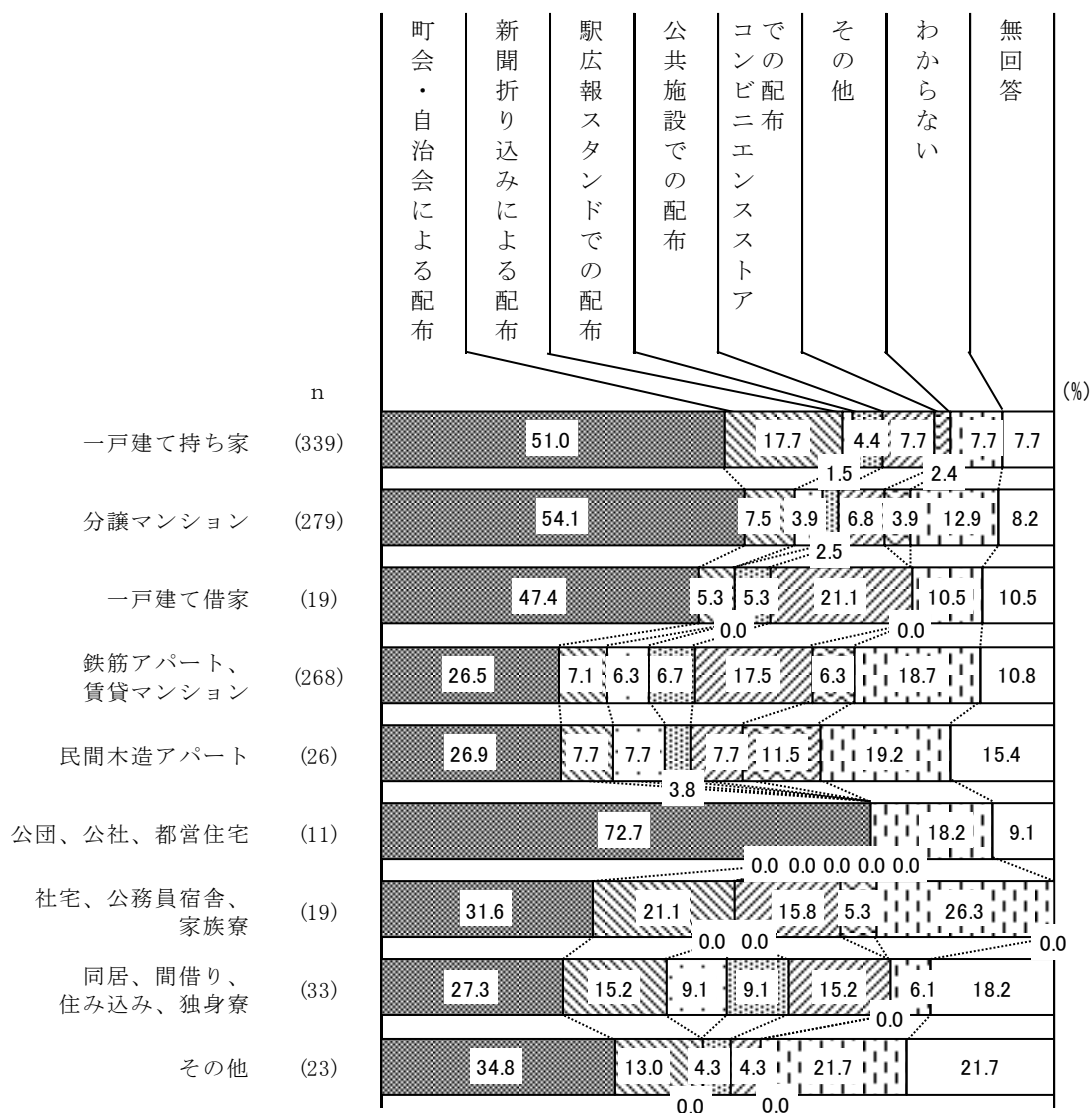
図 15-2-4 広報「たいとう」の希望する配布方法—性別



住居形態別でみると、「町会・自治会による配布」は公団、公社、都営住宅（72.7%）で7割を超えて最も多く、次いで分譲マンション（54.1%）、1戸建て持ち家（51.0%）となっている。「新聞折り込みによる配布」は社宅、公務員宿舎、家族寮（21.1%）で2割を超えて最も多く、次いで1戸建て持ち家（17.7%）、同居、間借り、住み込み、独身寮（15.2%）となっている。

(図 15-2-5)

図 15-2-5 広報「たいとう」の希望する配布方法—住居形態別

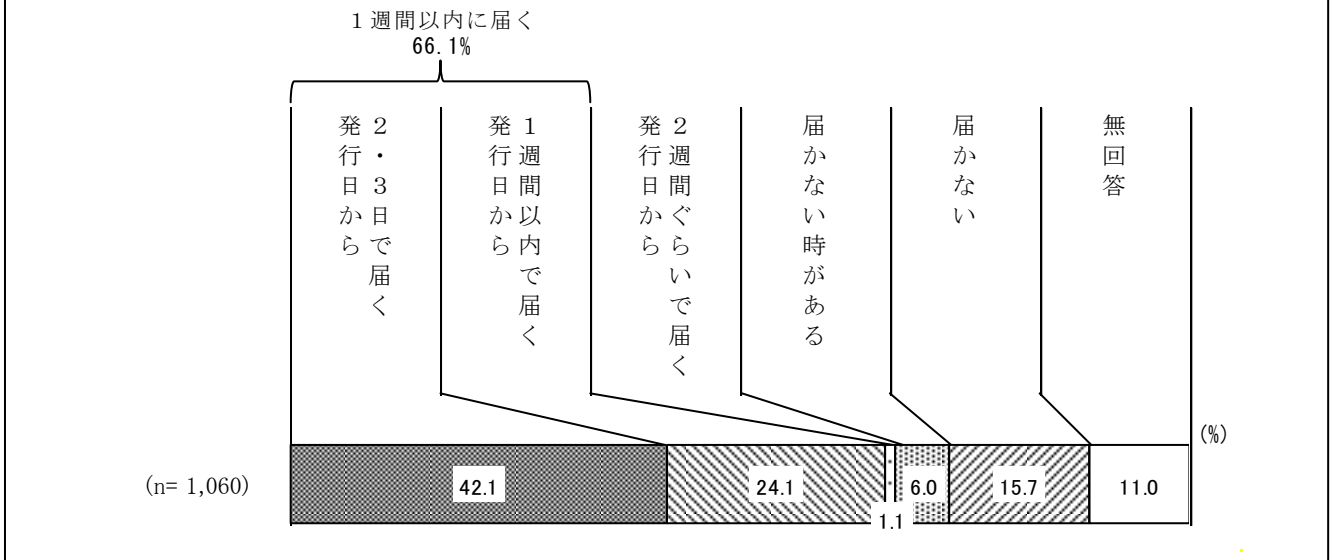


### 15-3 広報「たいとう」の配布状況

『一週間以内に届く』が6割半ば

問 42 広報「たいとう」は、毎月5日と20日に発行していますが、配布状況はいかがですか。  
(○は1つだけ)

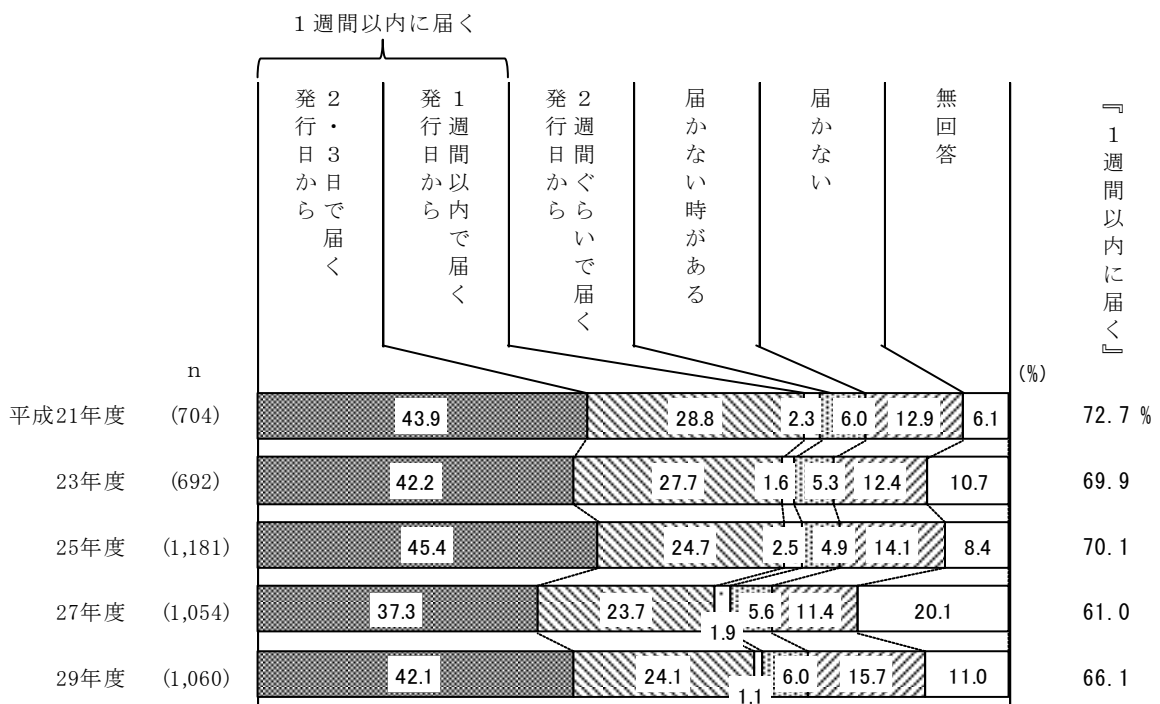
図 15-3-1



広報「たいとう」の配布状況は、「発行日から2・3日で届く」(42.1%)が4割を超えて最も多く、「発行日から1週間以内で届く」(24.1%)を合わせた『一週間以内に届く』(66.1%)が6割半ばとなっている。(図 15-3-1)

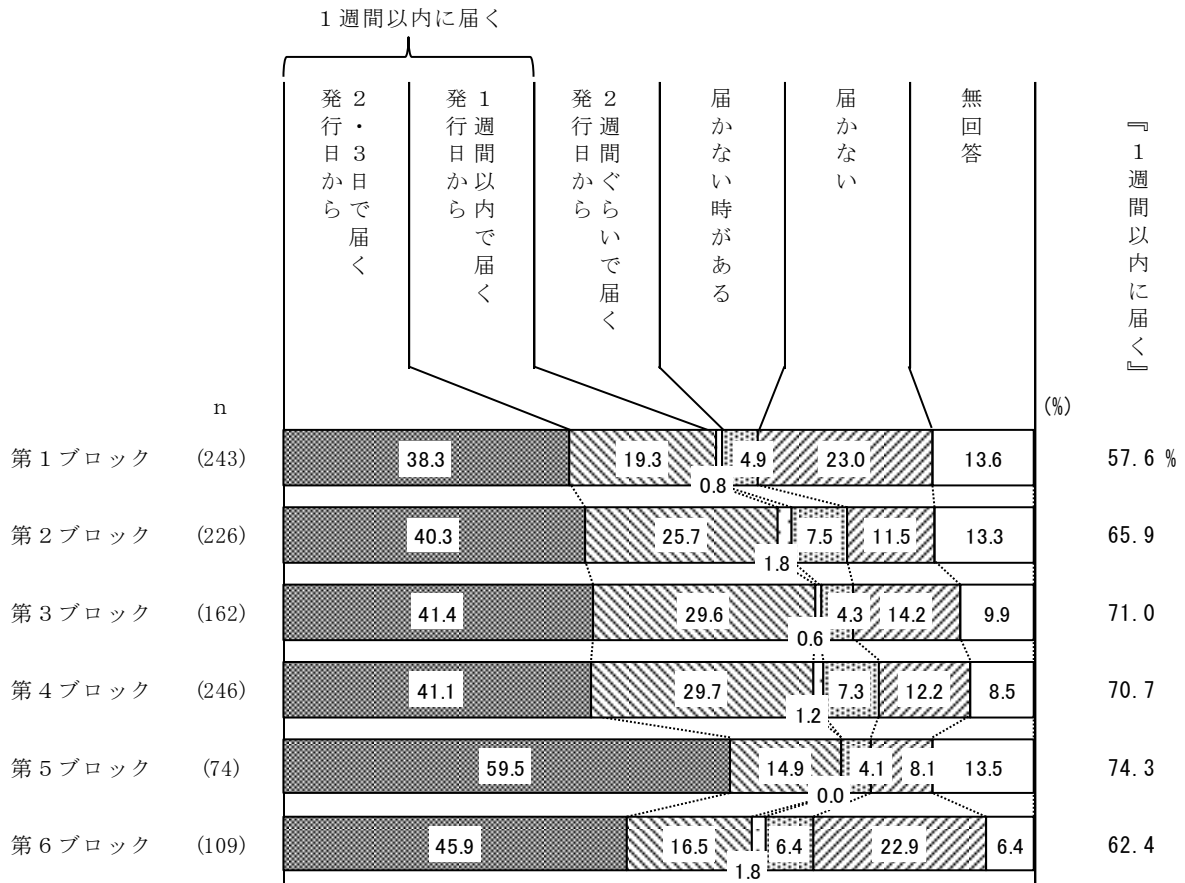
広報「たいとう」の配布状況の推移をみると、「発行日から2・3日で届く」と「発行日から1週間以内で届く」を合わせた『一週間以内に届く』は平成27年度から5.1ポイント高くなっている。(図 15-3-2)

図 15-3-2 広報「たいとう」の配布状況—推移



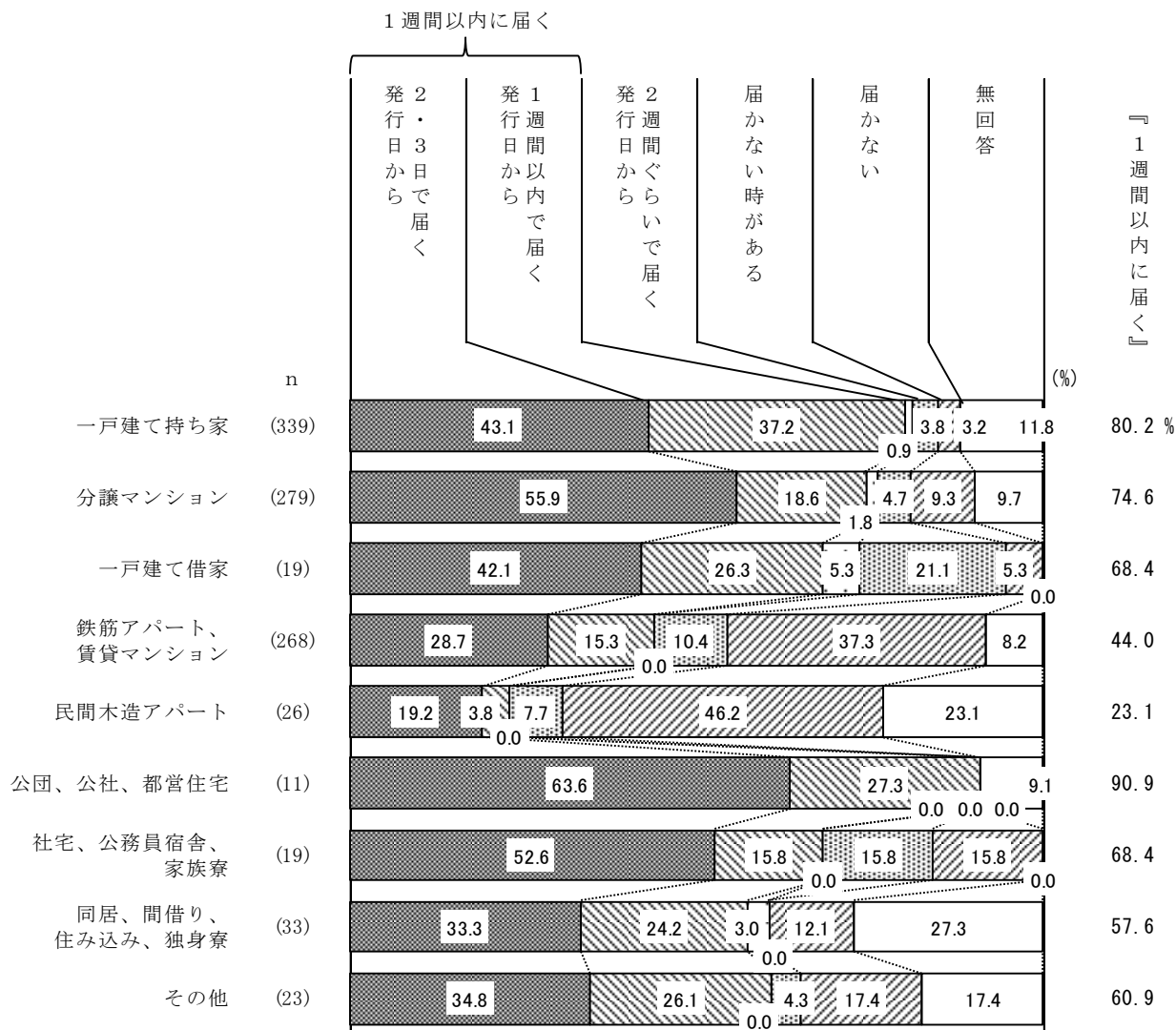
地区別でみると、「発行日から2・3日で届く」と「発行日から1週間以内で届く」を合わせた『1週間以内に届く』は第5ブロック（74.3%）で7割半ばと最も多く、最も少ない第1ブロック（57.6%）でも6割近くとなっている。（図15-3-3）

図15-3-3 広報「たいとう」の配布状況—地区別



住居形態別にみると、「発行日から2・3日で届く」と「発行日から1週間以内で届く」を合わせた『1週間以内に届く』は公団、公社、都営住宅（90.9%）でほぼ9割と最も多く、次いで1戸建て持ち家（80.2%）、分譲マンション（74.6%）となっている。一方、「届かない」は民間木造アパート（46.2%）で4割半ばと最も多く、次いで鉄筋アパート、賃貸マンション（37.3%）となっている。（図15-3-4）

図15-3-4 広報「たいとう」の配布状況－住居形態別

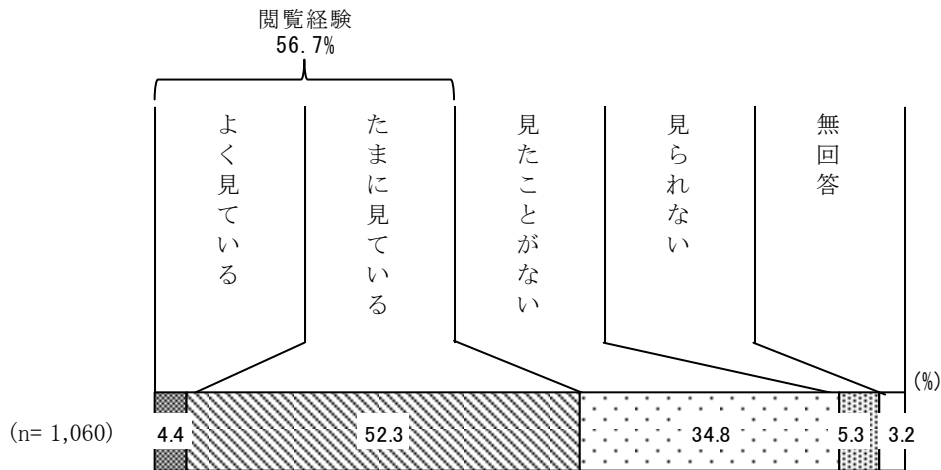


## 15-4 区ホームページの閲覧状況

『閲覧経験』は6割近く

問 43 区ホームページを見たことがありますか。(○は1つだけ)

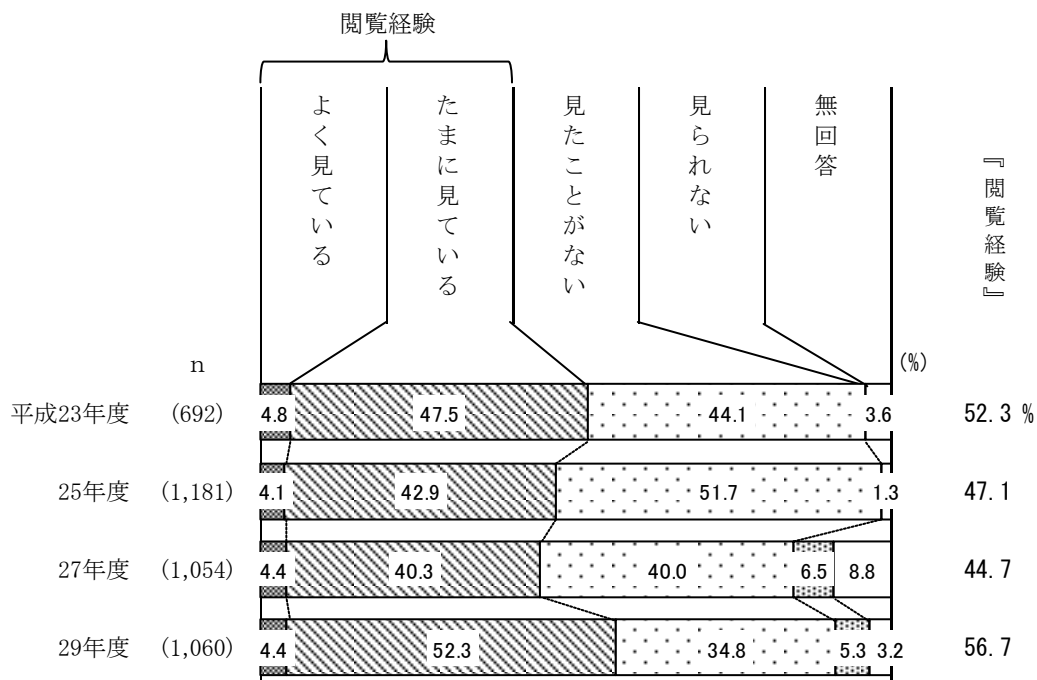
図 15-4-1



区ホームページの閲覧状況は、「たまに見ている」(52.3%)が5割を超えて最も多く、「よく見ている」(4.4%)と合わせた『閲覧経験』(56.7%)が6割近くとなっている。一方、「見たことがない」(34.8%)は3割半ばとなっている。(図 15-4-1)

推移をみると、「よく見ている」と「たまに見ている」を合わせた『閲覧経験』は平成27年度から12.0ポイント高くなっている。「見たことはない」は平成27年度から5.2ポイント低くなっている。(図 15-4-2)

図 15-4-2 区ホームページの閲覧状況-推移

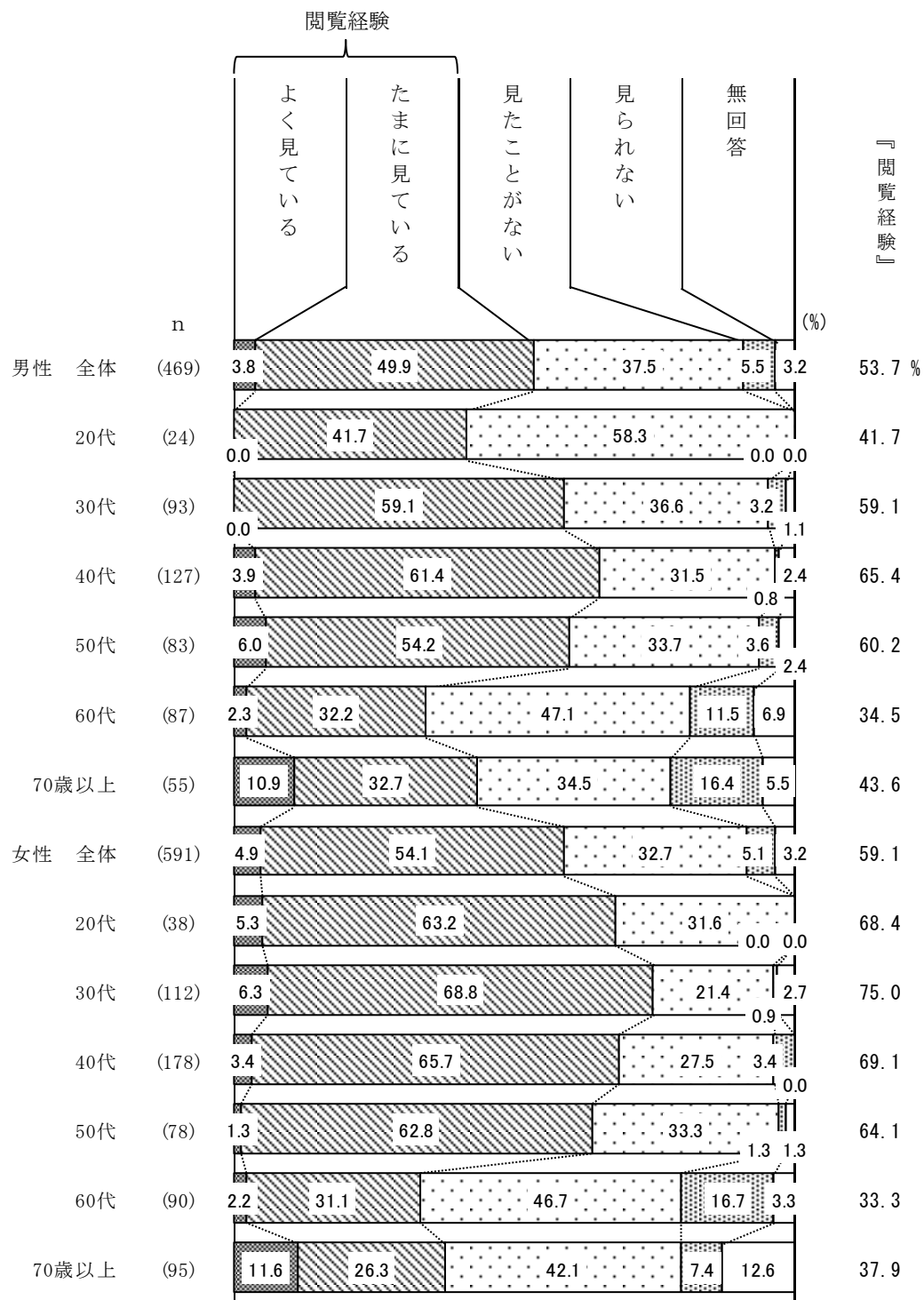


※「見られない」は平成23, 25年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「よく見ている」と「たまに見ている」を合わせた『閲覧経験』は女性（59.1%）が男性（53.7%）より5.4ポイント高くなっている。「見たことがない」は男性（37.5%）が女性（32.7%）より4.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「よく見ている」と「たまに見ている」を合わせた『閲覧経験』は女性30代（75.0%）で7割半ばと最も多く、次いで女性40代（69.1%）、女性20代（68.4%）となっている。一方、「見たことがない」は男性20代（58.3%）で6割近くと最も多く、次いで男性60代（47.1%）、女性60代（46.7%）となっている。（図15-4-3）

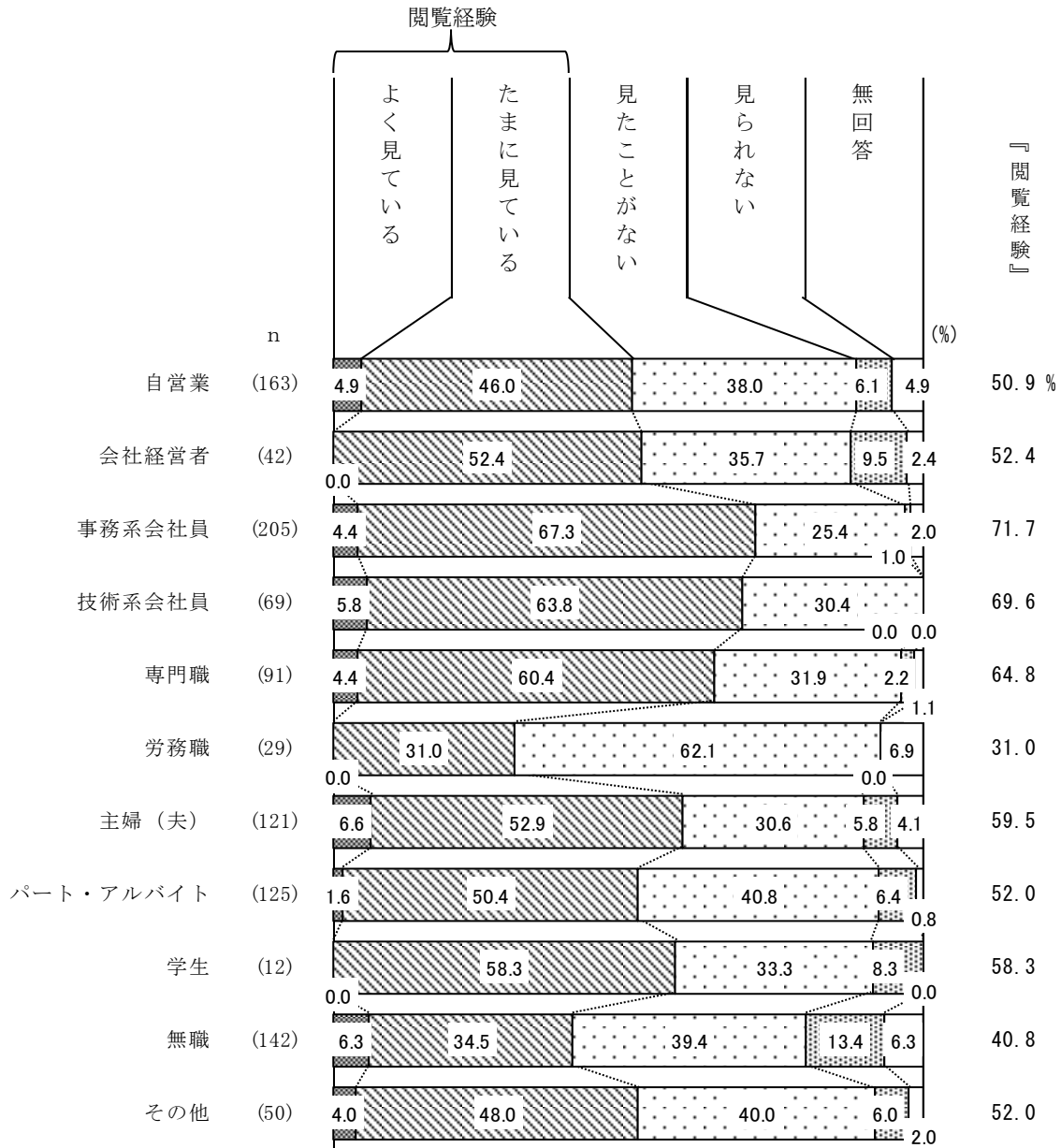
図15-4-3 区ホームページの閲覧状況—性別、性・年代別





職業別でみると、「よく見ている」と「たまに見ている」を合わせた『閲覧経験』は事務系会社員（71.7%）で7割を超え最も多く、次いで技術系会社員（69.6%）、専門職（64.8%）となっている。「見たことがない」は労務職（62.1%）で6割を超えて最も多く、次いでパート・アルバイト（40.8%）、無職（39.4%）となっている。（図15-4-4）

図15-4-4 区ホームページの閲覧状況－職業別



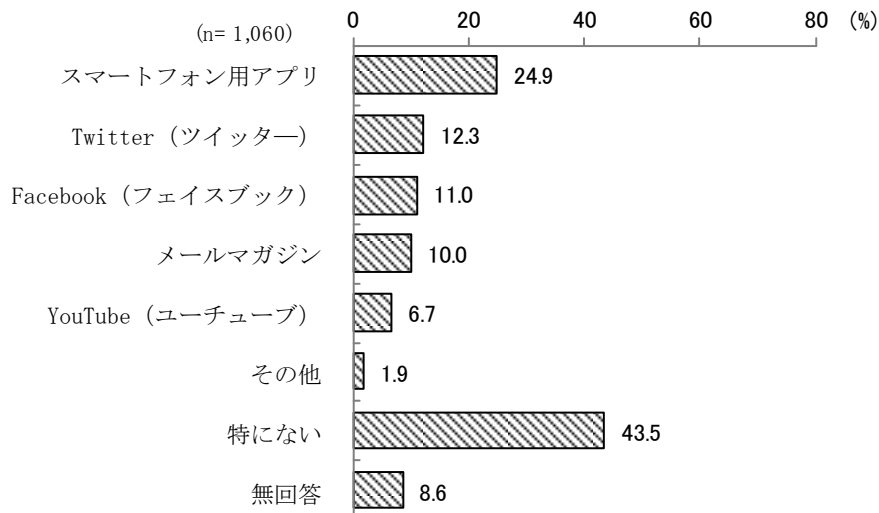
## 15-5 区の情報を得るために利用してみたい方法

「スマートフォン用アプリ」が2割半ば

問 44 次のうち、区の情報を得る上で利用してみたいと思うものはありますか。

(○はいくつでも)

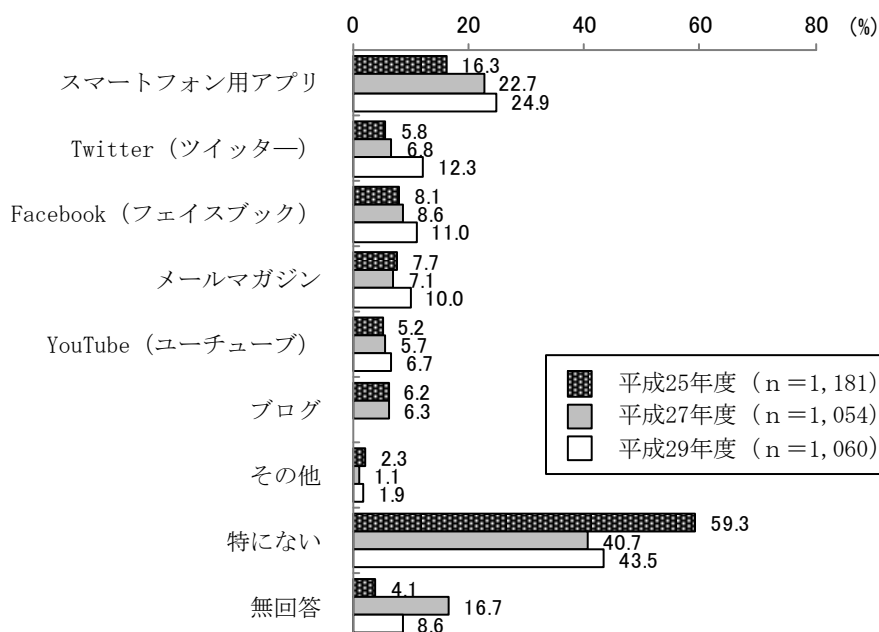
図 15-5-1



区の情報を得るために利用してみたい方法は、「スマートフォン用アプリ」(24.9%)が2割半ばと最も多く、次いで「Twitter (ツイッター)」(12.3%)、「Facebook (フェイスブック)」(11.0%)となっている。一方、「特にない」(43.5%)は4割を超えている。(図 15-5-1)

推移をみると、平成27年度から「スマートフォン用アプリ」は2.2ポイント、「Twitter (ツイッター)」は5.5ポイント、それぞれ高くなっている。(図 15-5-2)

図 15-5-2 区の情報を得るために利用してみたい方法—推移

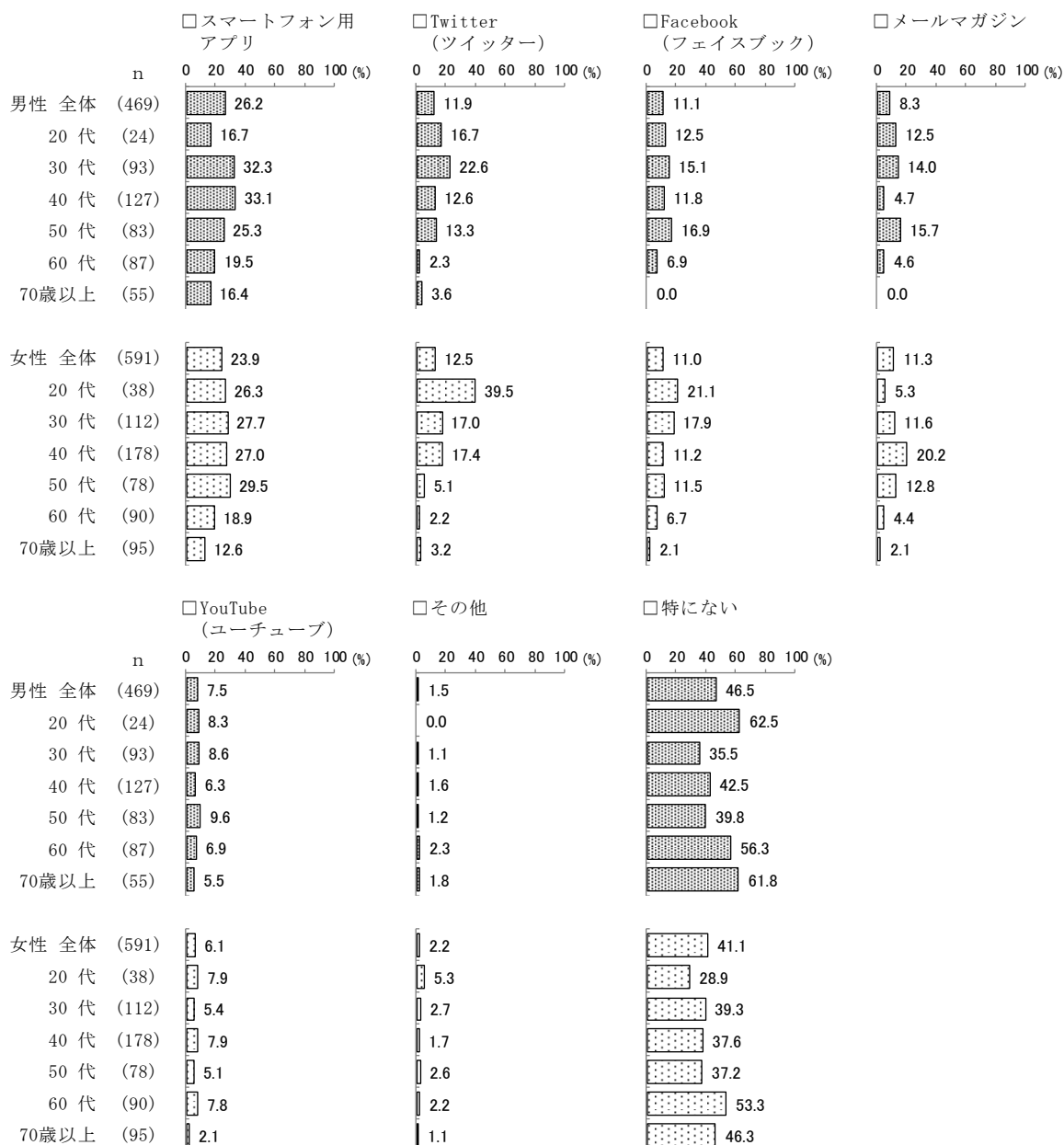


※「ブログ」は平成29年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「スマートフォン用アプリ」は男性（26.2%）が女性（23.9%）より2.3ポイント、「メールマガジン」は女性（11.3%）が男性（8.3%）より3.0ポイント、「特にない」は男性（46.5%）が女性（41.1%）より5.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、「スマートフォン用アプリ」は男性30代（32.3%）と男性40代（33.1%）で3割を超えている。「特にない」は男性20代（62.5%）で6割を超えて最も多く、次いで男性70歳以上（61.8%）、男性60代（56.3%）となっている。（図15-5-3）

図15-5-3 区の情報を得るために利用してみたい方法—性別、性・年代別



## 16. 区議会

開かれた議会に向けて、区議会の活動状況を広く知っていただき、区議会に関心を持っていただけるよう、「たいとう区議会だより」をはじめ、様々な広報媒体を活用し、情報を発信しています。

今回の調査では、「たいとう区議会だより」の「くわしく読んでいる」と「興味のある記事だけ読んでいる」を合わせた『閲読率』は平成27年度より10.3ポイント低くなった一方、区議会ホームページの「よく見ている」、「たまに見ている」、「1～2回試しに見たことがある」を合わせた『閲覧経験』は、2.4ポイント高くなりました。

両媒体は、区議会の情報を提供する主要な媒体であり、さらなる閲読率及び、閲覧率の向上が必要であると考えています。

今回の調査結果を踏まえて、「たいとう区議会だより」については、より多くの方に興味をもっていただける広報紙をめざし、今後もイラスト等を活用するなど区議会の情報をわかりやすく伝えられるよう努めてまいります。区議会ホームページについては、ツイッターやメールマガジン等の特徴の異なる媒体との連携を進め、効率的、効果的な情報発信を行っていきます。

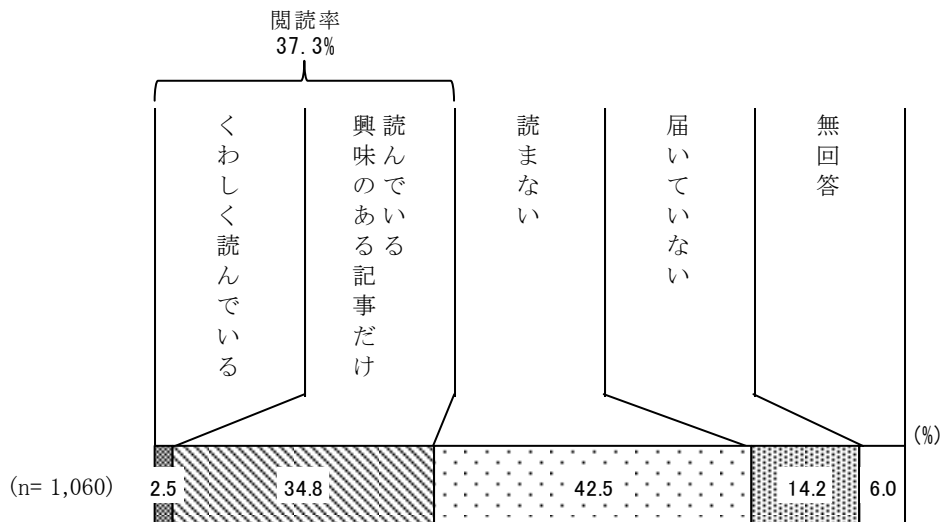
(区議会事務局)

16-1 「たいとう区議会だより」の閲読状況

「たいとう区議会だより」の『閲読率』は4割近く

問 45 台東区議会では、年5回、「たいとう区議会だより」を発行していますが、  
どの程度読んでいますか。（○は1つだけ）

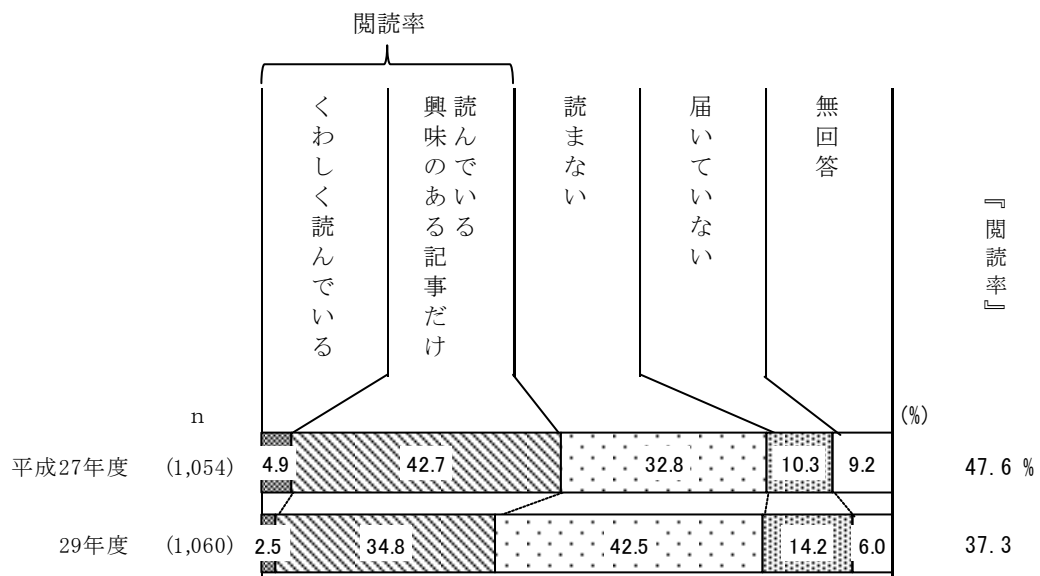
図 16-1-1



「たいとう区議会だより」の閲読状況は、「読まない」(42.5%)が4割を超えて最も多くなっている。「興味のある記事だけ読んでいる」(34.8%)は3割半ばで、「くわしく読んでいる」(2.5%)と合わせた『閲読率』(37.3%)は4割近くとなっている。(図 16-1-1)

推移をみると、平成27年度から「くわしく読んでいる」と「興味のある記事だけ読んでいる」を合わせた『閲読率』は10.3ポイント、低くなっており、「読まない」は9.7ポイント高くなっている。(図 16-1-2)

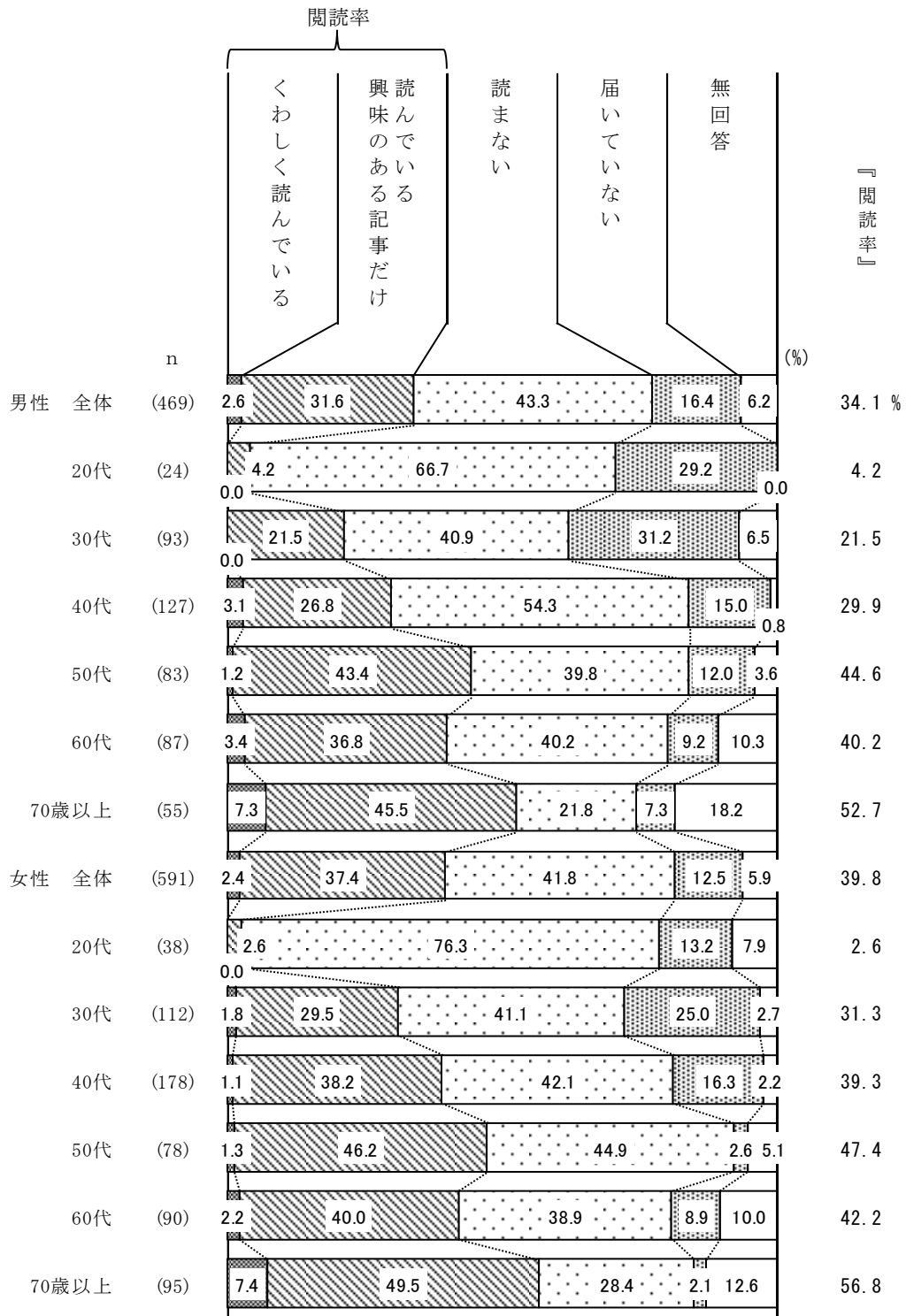
図 16-1-2 「たいとう区議会だより」の閲読状況—推移



性別で見ると、「くわしく読んでいる」と「興味のある記事だけ読んでいる」を合わせた『閲読率』は女性（39.8%）が男性（34.1%）より5.7ポイント、「読まない」は男性（43.3%）が女性（41.8%）より1.5ポイント、それぞれ高くなっている。

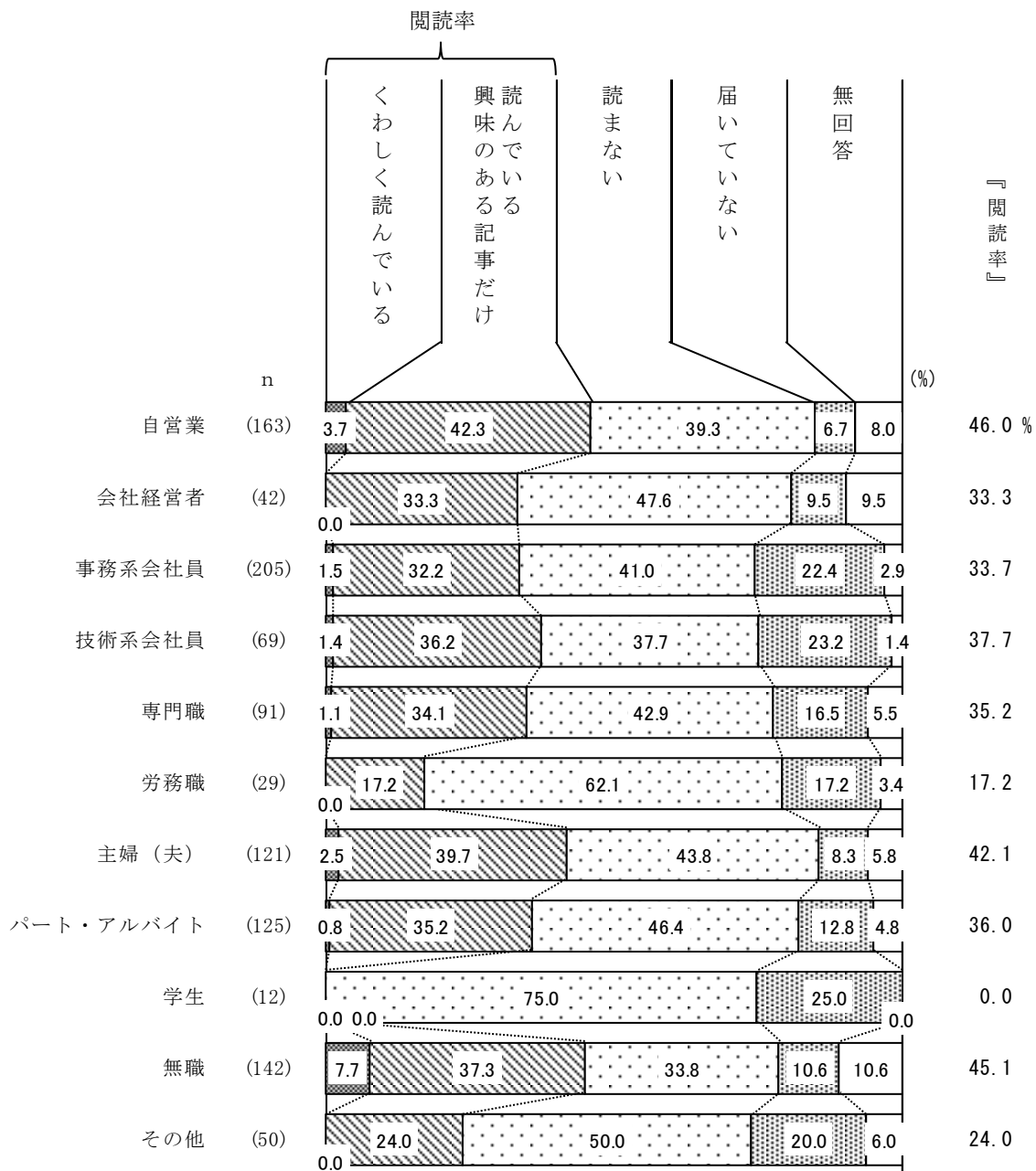
性・年代別で見ると、「くわしく読んでいる」と「興味のある記事だけ読んでいる」を合わせた『閲読率』は女性70歳以上（56.8%）で6割近くと最も多く、次いで男性70歳以上（52.7%）、女性50代（47.4%）となっている。「読まない」は男性20代（66.7%）、女性20代（76.3%）となっている。（図16-1-3）

図16-1-3 「たいとう区議会だより」の閲読状況－性別、性・年代別



職業別でみると、「くわしく読んでいる」と「興味のある記事だけ読んでいる」を合わせた『閲読率』は自営業（46.0%）で4割半ばと最も多く、次いで無職（45.1%）、主婦（夫）（42.1%）となっている。「読まない」は学生（75.0%）で7割半ばと最も多く、次いで労務職（62.1%）となっている。（図16-1-4）

図16-1-4 「たいとう区議会だより」の閲読状況－職業別



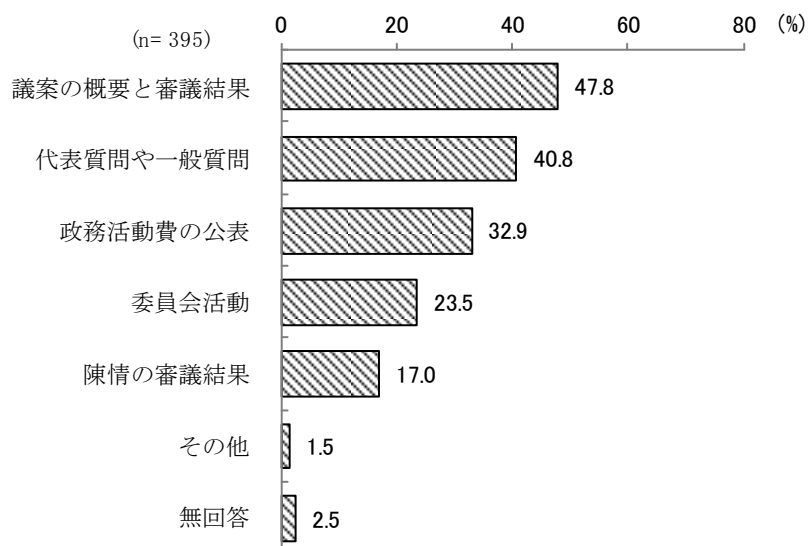
## 16-2 「たいとう区議会だより」で興味のある記事

「議案の概要と審議結果」が5割近く

(問45で、「1. くわしく読んでいる」または「2. 興味のある記事だけ読んでいる」とお答えの方に)

問45-1 どの記事に興味がありますか。(○は3つまで)

図16-2-1



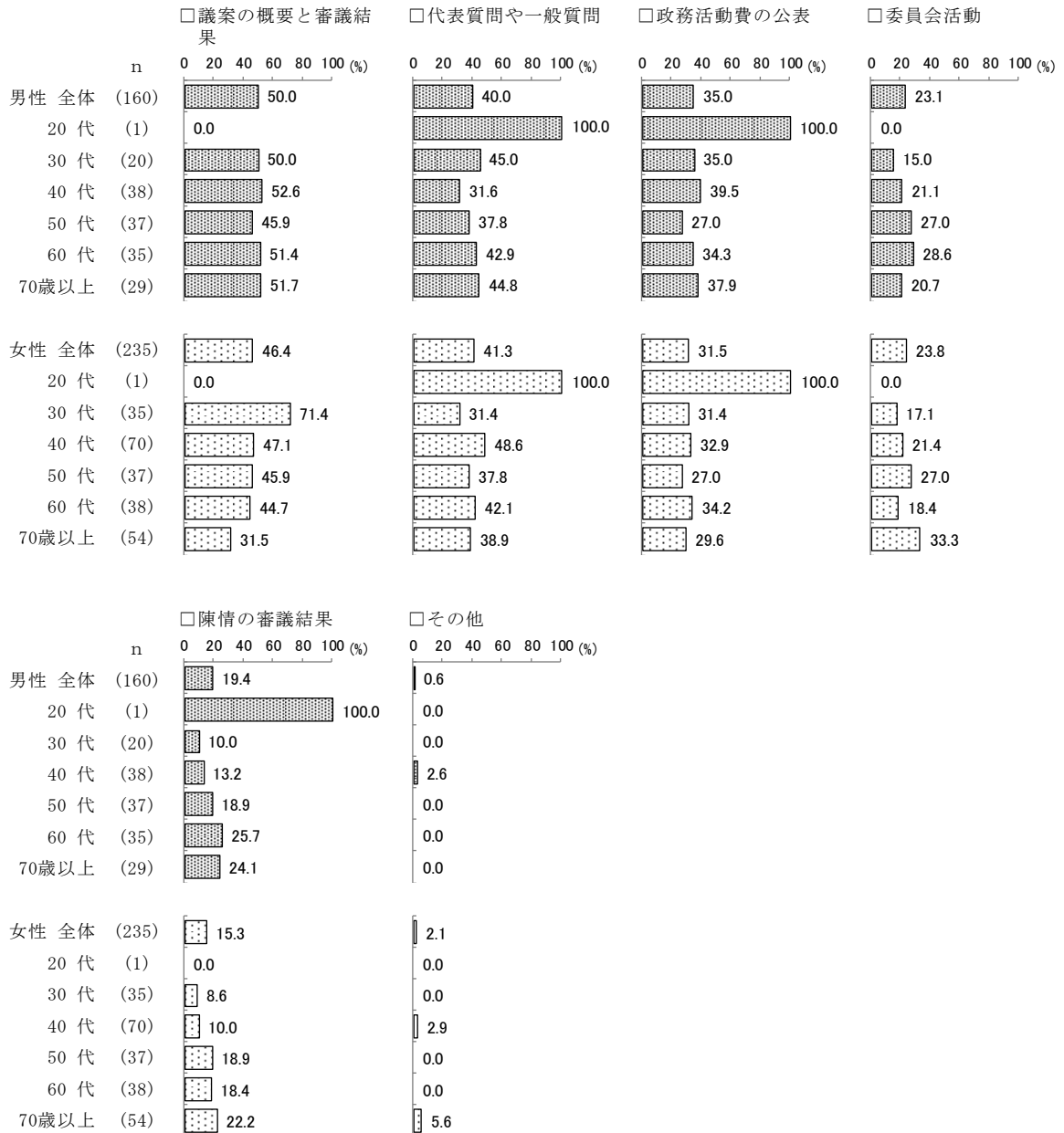
「たいとう区議会だより」で興味のある記事は、「議案の概要と審議結果」(47.8%)が5割近くと最も多く、次いで「代表質問や一般質問」(40.8%)、「政務活動費の公表」(32.9%)、「委員会活動」(23.5%)となっている。(図16-2-1)



性別でみると、大きな男女差は見られない。

性・年代別でみると、「議案の概要と審議結果」は女性 30 代（71.4%）で 7 割を超えて最も多くなっている。（図 16-2-2）

図 16-2-2 「たいとう区議会だより」で興味のある記事－性別、性・年代別



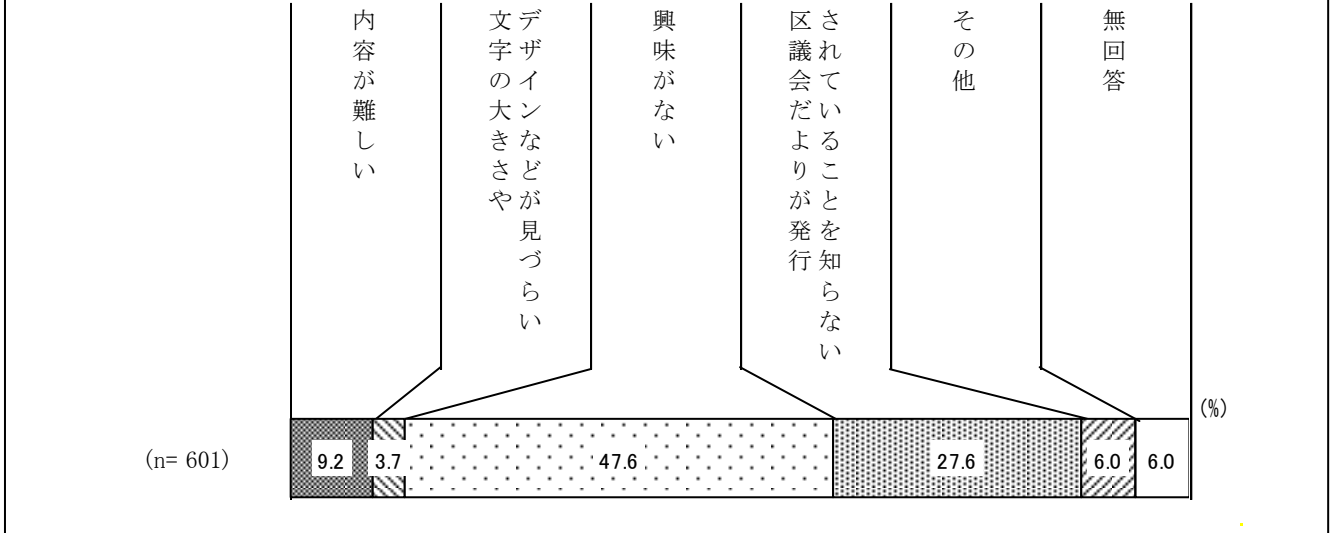
16-3 「たいとう区議会だより」を読まない理由

「興味がない」が5割近く

(問45で、「3. 読まない」または「4. 届いていない」とお答えの方に)

問45-2 その主な理由は何ですか。(○は1つだけ)

図16-3-1

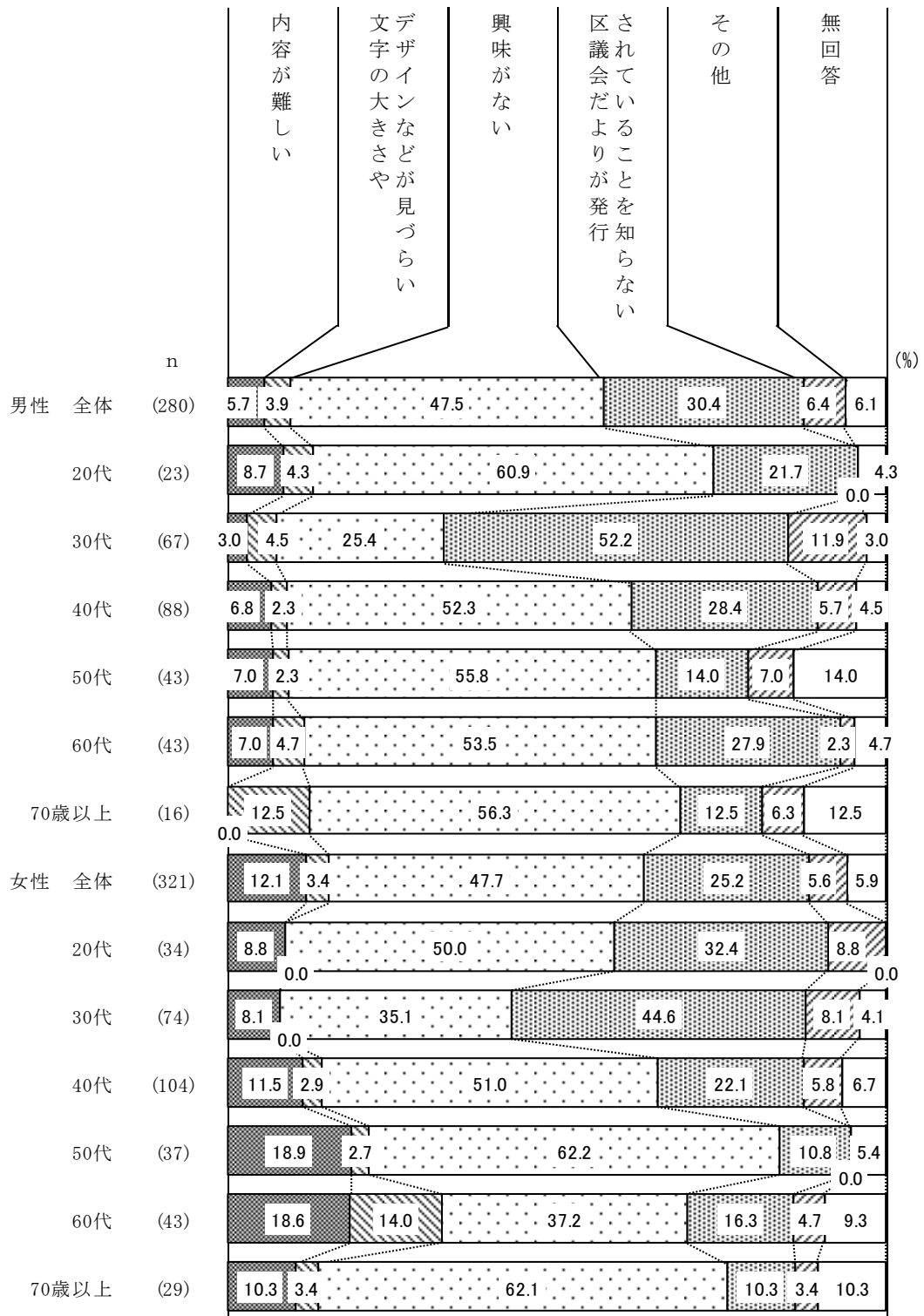


「たいとう区議会だより」を読まない理由は、「興味がない」(47.6%)が5割近くと最も多く、次いで「区議会だよりが発行されていることを知らない」(27.6%)、「内容が難しい」(9.2%)となっている。(図16-3-1)

性別で見ると、「内容が難しい」は女性（12.1%）が男性（5.7%）より6.4ポイント、「区議会だよりが発行されていることを知らない」は男性（30.4%）が女性（25.2%）より5.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、「興味がない」は女性50代（62.2%）で6割を超えて最も多く、次いで女性70歳以上（62.1%）、男性20代（60.9%）となっている。「区議会だよりが発行されていることを知らない」は男性30代（52.2%）と女性30代（44.6%）で多くなっている。（図16-3-2）

図16-3-2 「たいとう区議会だより」を読まない理由—性別、性・年代別

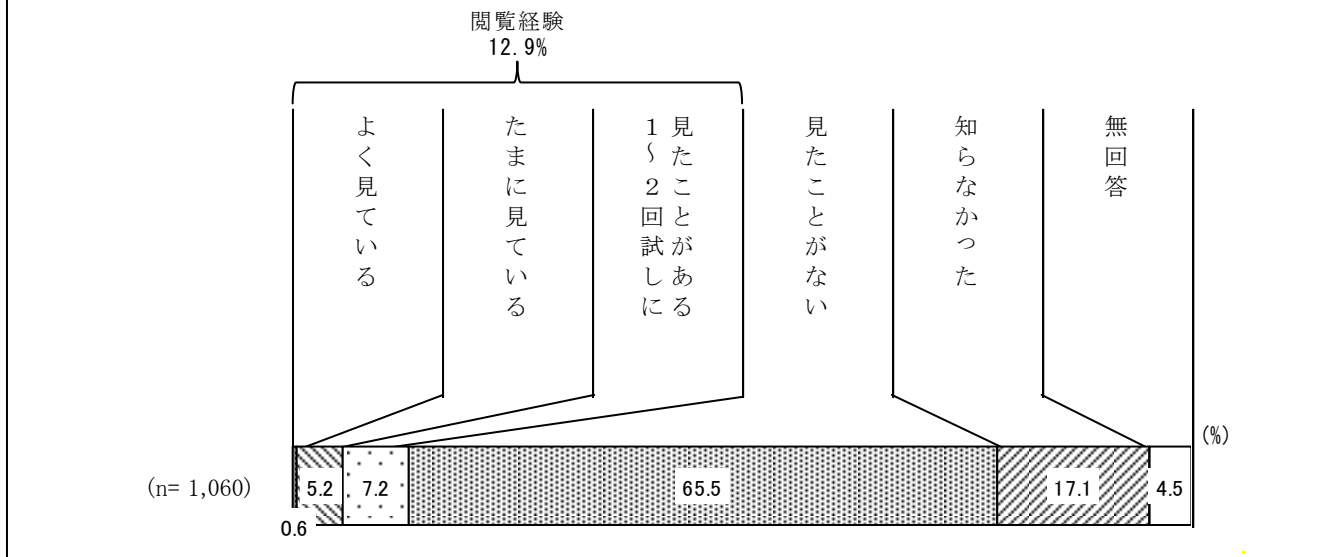


16-4 区議会ホームページの閲覧状況

『閲覧経験』は1割を超える

問 46 区議会のホームページを見たことがありますか。(○は1つだけ)

図 16-4-1

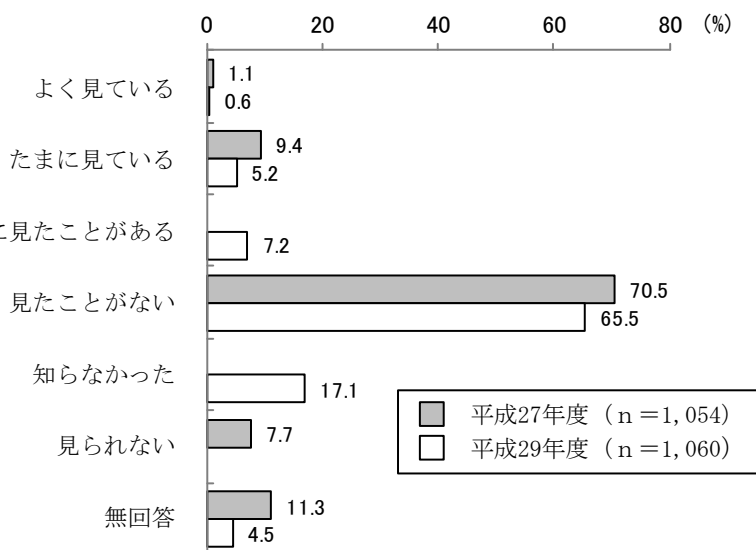


区議会ホームページの閲覧状況は、「よく見ている」(0.6%)、「たまに見ている」(5.2%)、「1〜2回試しに見たことがある」(7.2%)を合わせた『閲覧経験』(12.9%)は1割を超えている。一方、「見たことがない」(65.5%)は6割半ば、「知らなかった」(17.1%)は2割近くとなっている。(図 16-4-1)

推移をみると、過年度調査とは選択肢が異なるため単純に比較することができないが、平成27年度から「よく見ている」、「たまに見ている」、「1〜2回試しに見たことがある」を合わせた『閲覧経験』は2.4ポイント高くなっており、「見たことがない」は5.0ポイント低くなっている。

(図 16-4-2)

図 16-4-2 区議会ホームページの閲覧状況—推移



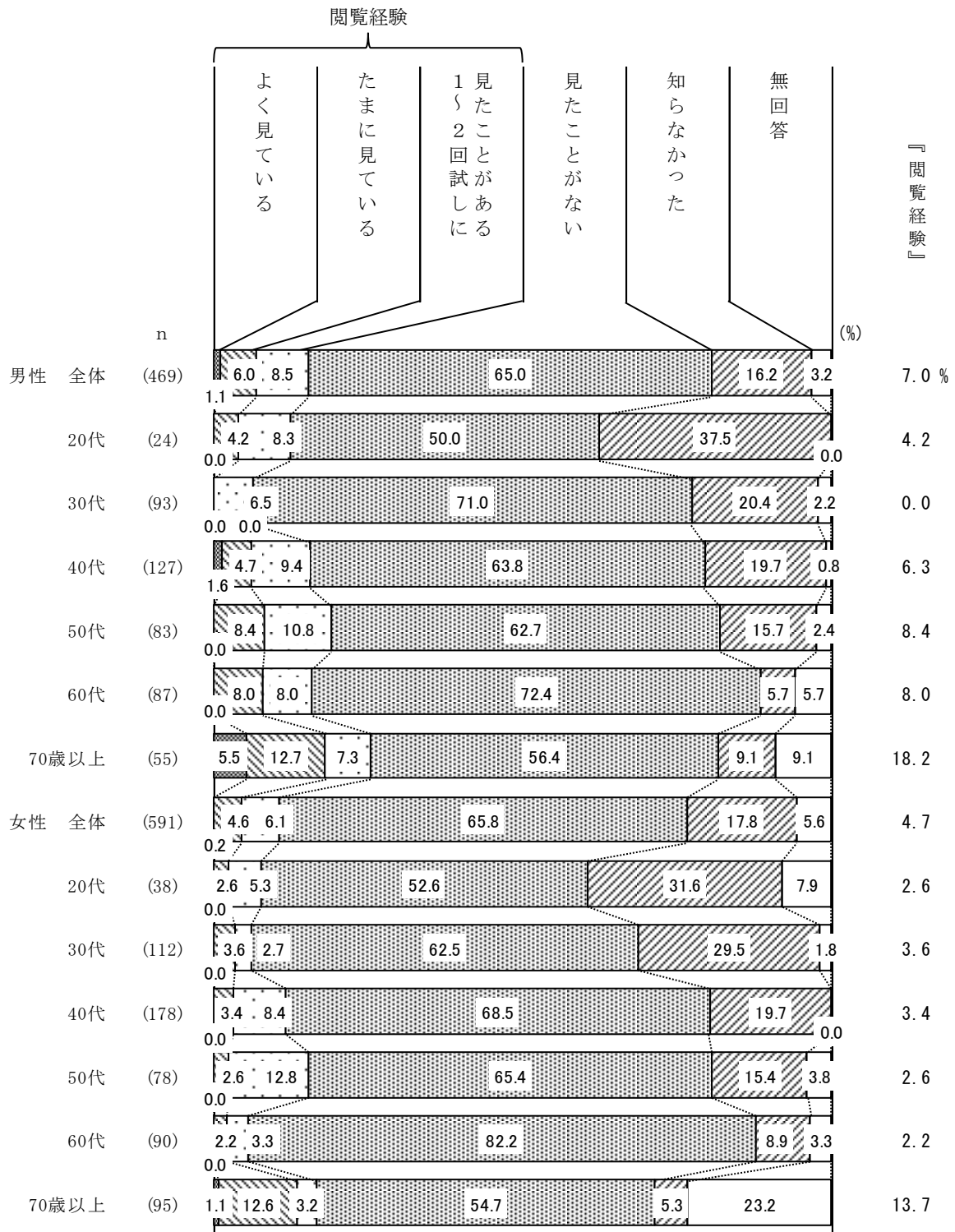
※ 「1〜2回試しに見たことがある」、「知らなかった」は平成27年度調査には無い選択肢である。

※ 「見られない」は平成29年度調査には無い選択肢である。

性別で見ると、「よく見ている」、「たまに見ている」、「1～2回試しに見たことがある」を合わせた『閲覧経験』は男性（7.0%）が女性（4.7%）より2.3ポイント高くなっている。「見たことがない」は男性（65.0%）と女性（65.8%）に大きな差は見られない。

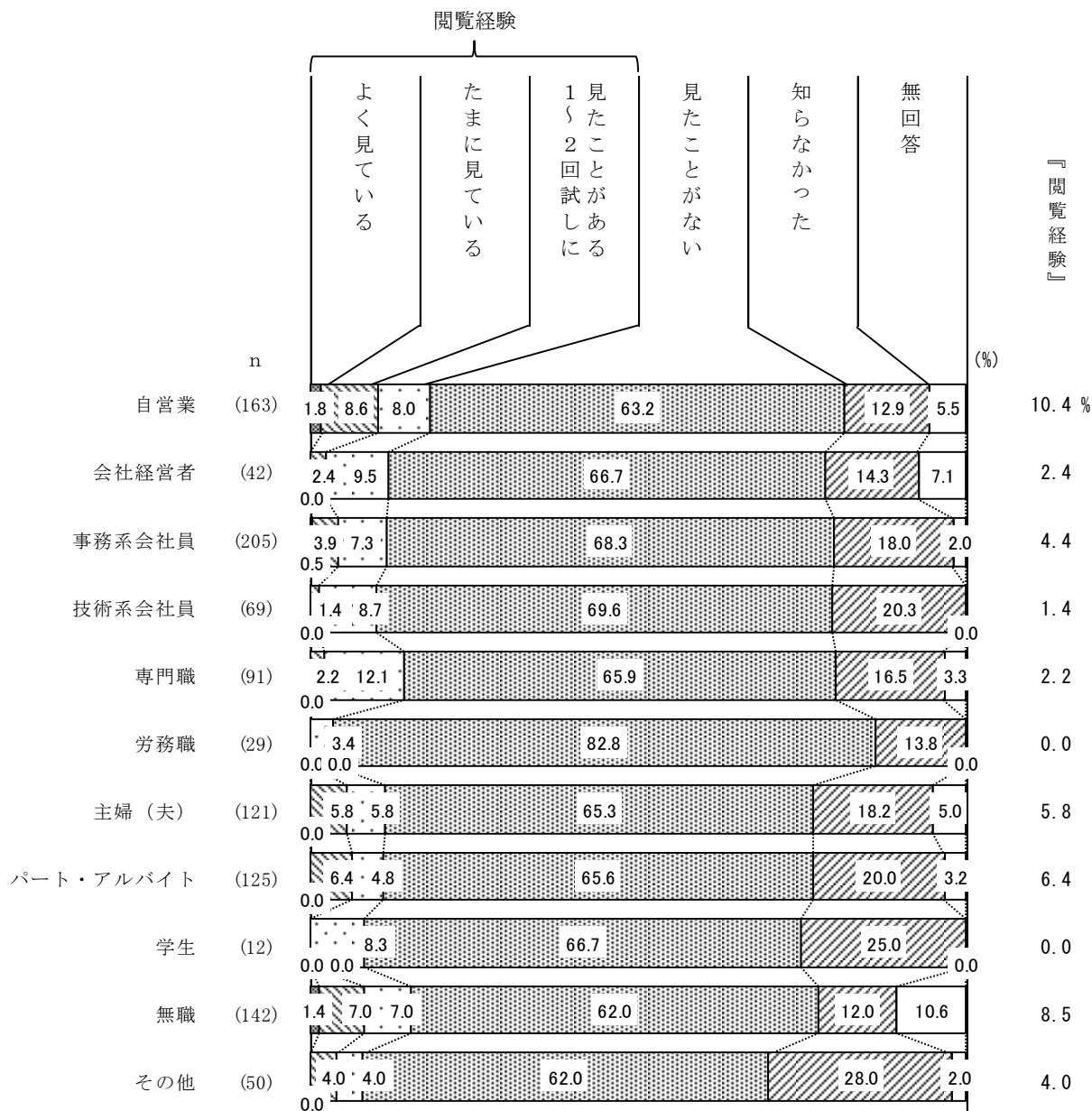
性・年代別で見ると、「よく見ている」、「たまに見ている」、「1～2回試しに見たことがある」を合わせた『閲覧経験』は男性70歳以上（18.2%）と女性70歳以上（13.7%）で1割台となっている。一方、「見たことがない」は女性60代（82.2%）で8割を超えて最も多く、次いで男性60代（72.4%）、男性30代（71.0%）となっている。（図16-4-3）

図16-4-3 区議会ホームページの閲覧状況－性別、性・年代別



職業別でみると、「よく見ている」、「たまに見ている」、「1～2回試しに見たことがある」を合わせた『閲覧経験』は自営業（10.4%）で1割と最も多く、次いで無職（8.5%）となっている。「見たことがない」は労務職（82.8%）で8割を超えて最も多く、次いで技術系会社員（69.6%）、事務系会社員（68.3%）となっている。（図16-4-4）

図16-4-4 区議会ホームページの閲覧状況－職業別

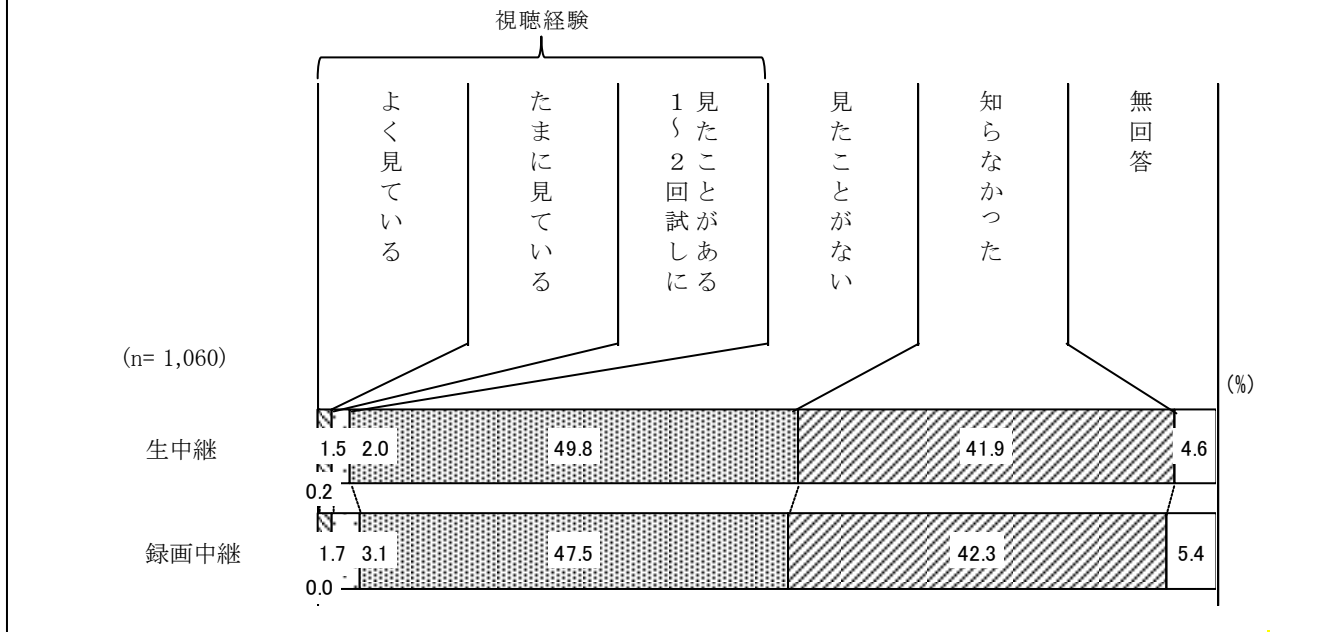


16-5 区議会インターネット配信サービスの視聴状況

区議会インターネット配信サービスの『視聴経験』は1割以下

問47 区議会では、インターネット配信サービス USTREAM（ユーストリーム）を活用して委員会の生中継と録画中継を配信していますが、見たことはありますか。（○は1つだけ）

図 16-5-1



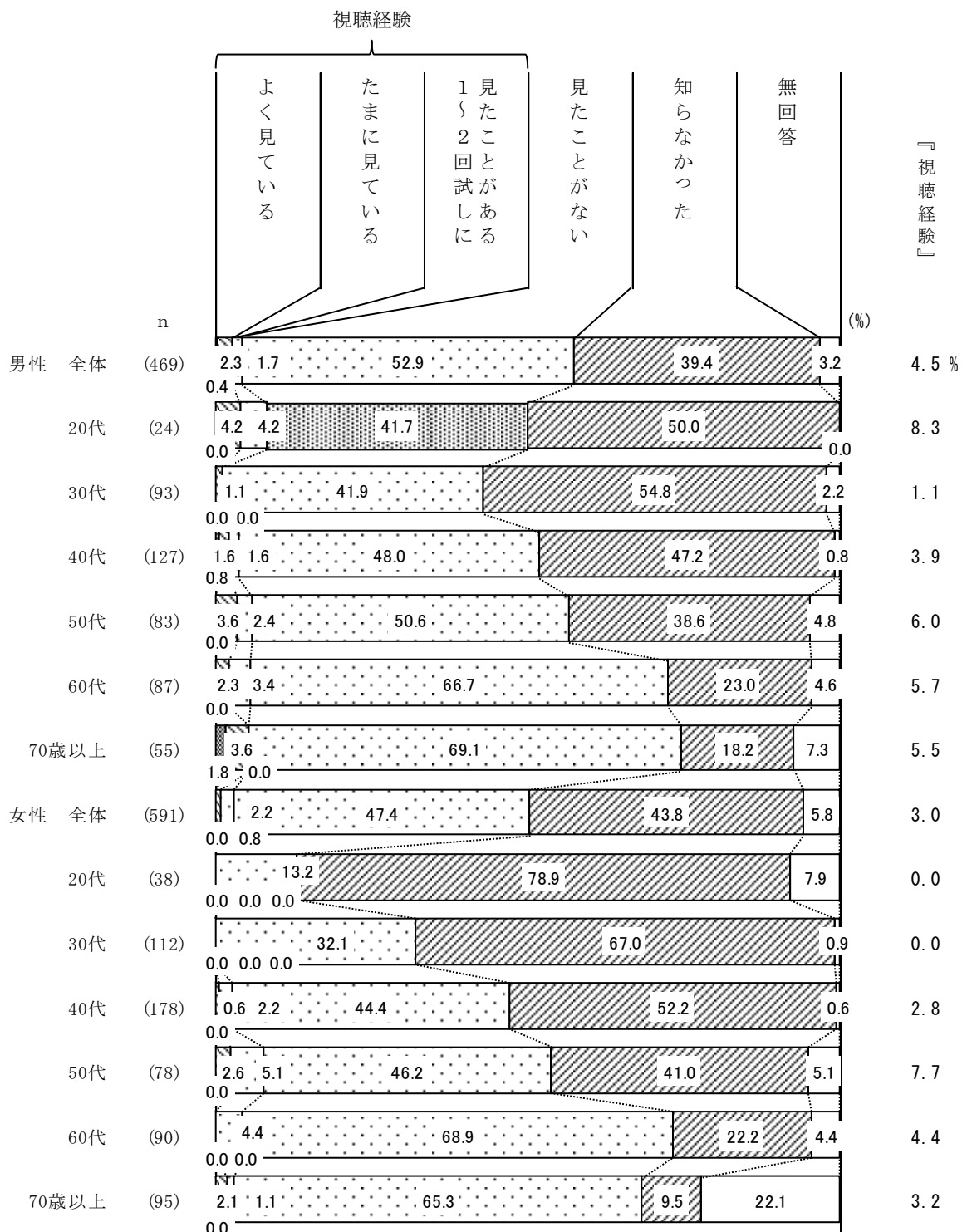
区議会インターネット配信サービスの視聴状況は、生中継と録画中継ともに「よく見ている」、「たまに見ている」、「1〜2回試しに見たことがある」を合わせた『視聴経験』は1割以下となっている。一方、生中継と録画中継ともに「見たことがない」と「知らなかった」は4割台となっている。

(図 16-5-1)

性別で見ると、生中継の「よく見ている」、「たまに見ている」、「1～2回試しに見たことがある」を合わせた『視聴経験』は男性（4.5%）が女性（3.0%）より1.5ポイント高くなっている。「見たことがない」は男性（52.9%）が女性（47.4%）より5.5ポイント、「知らなかった」は女性（43.8%）が男性（39.4%）より4.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、生中継の「よく見ている」、「たまに見ている」、「1～2回試しに見たことがある」を合わせた『視聴経験』は男性20代（8.3%）で1割近くと最も多く、次いで女性50代（7.7%）、男性50代（6.0%）となっている。（図16-5-2）

図16-5-2 区議会インターネット配信サービスの視聴状況（生中継）  
—性別、性・年代別

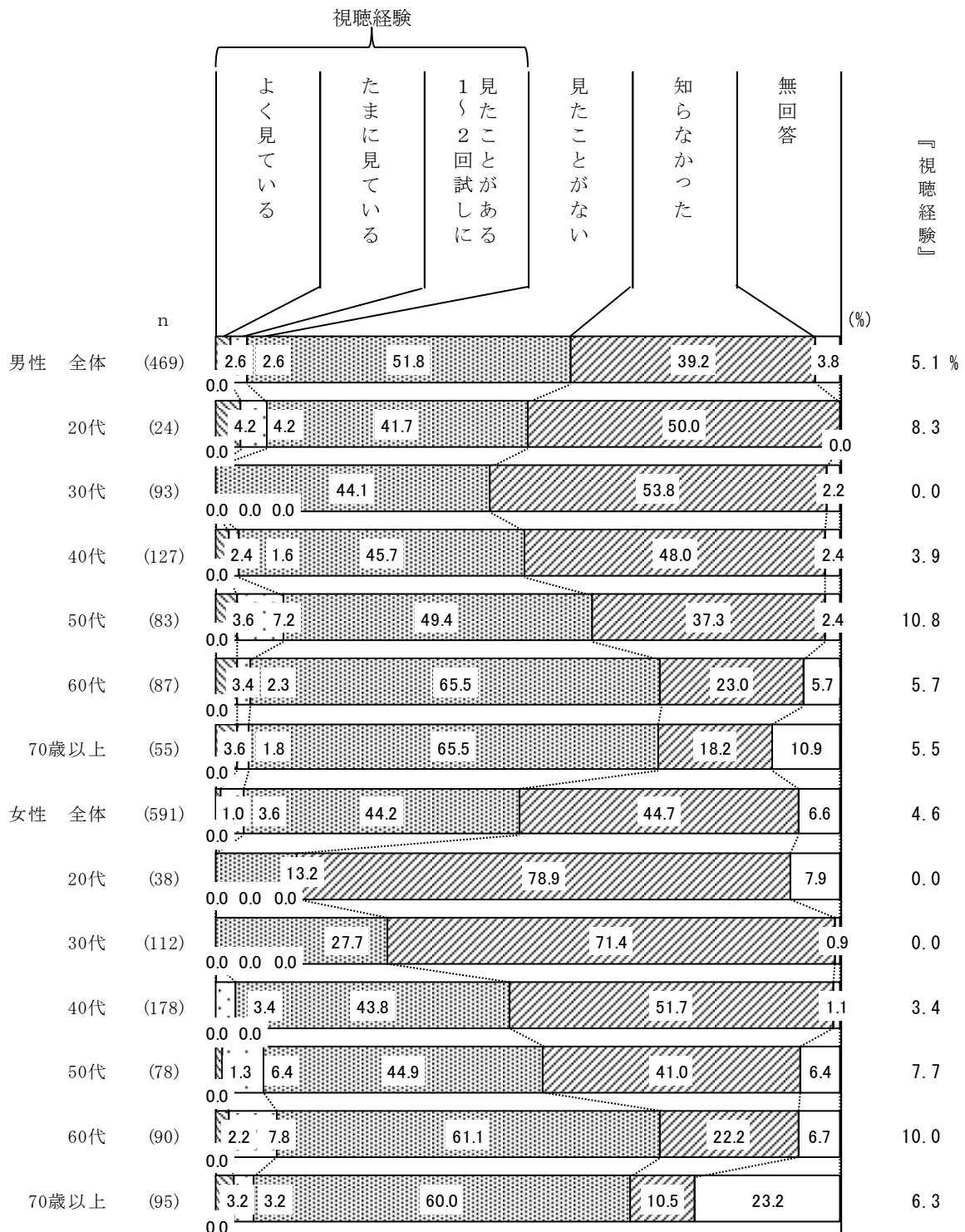




性別で見ると、録画中継の「よく見ている」、「たまに見ている」、「1～2回試しに見たことがある」を合わせた『視聴経験』は男性（5.1%）が女性（4.6%）より0.5ポイント高くなっている。「見たことがない」は男性（51.8%）が女性（44.2%）より7.6ポイント、「知らなかった」は女性（44.7%）が男性（39.2%）より5.5ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、録画中継の「よく見ている」、「たまに見ている」、「1～2回試しに見たことがある」を合わせた『視聴経験』は男性50代（10.8%）でほぼ1割と最も多く、次いで女性60代（10.0%）、男性20代（8.3%）となっている。（図16-5-3）

図16-5-3 区議会インターネット配信サービスの視聴状況（録画中継）  
—性別、性・年代別



## 17. ケーブルテレビ

ケーブルテレビによる「行政情報番組の視聴状況」についてお聞きしました。

今回の調査では、行政情報番組の『視聴経験』が平成27年度より4.3ポイント減少したものの、20代から70歳以上までの幅広い年代の方にご視聴いただけていることがわかりました。

また、職業・家族構成別では、主婦（夫）層、小・中学生がいるご家族の『視聴経験』が4割を超えており、特に子育て世代にご視聴いただけている結果となりました。

今回の結果を踏まえ、地域情報の発信はもとより台東区公式チャンネル（ユーチューブ）の更なる活用を進めるとともに、一人でも多くの方にご視聴いただけるような魅力ある番組づくりを進めてまいります。

（総務部 広報課）

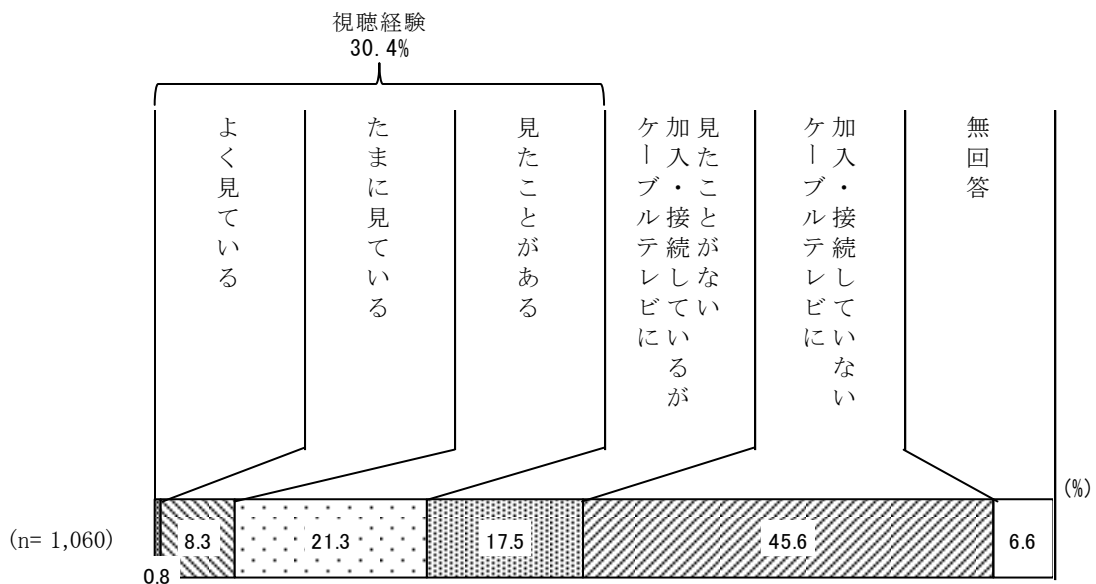
### 17-1 行政情報番組の視聴状況

『視聴経験』は3割

問 48 あなたは、台東区が制作した番組をご自宅や職場で見たことがありますか。

（○は1つだけ）

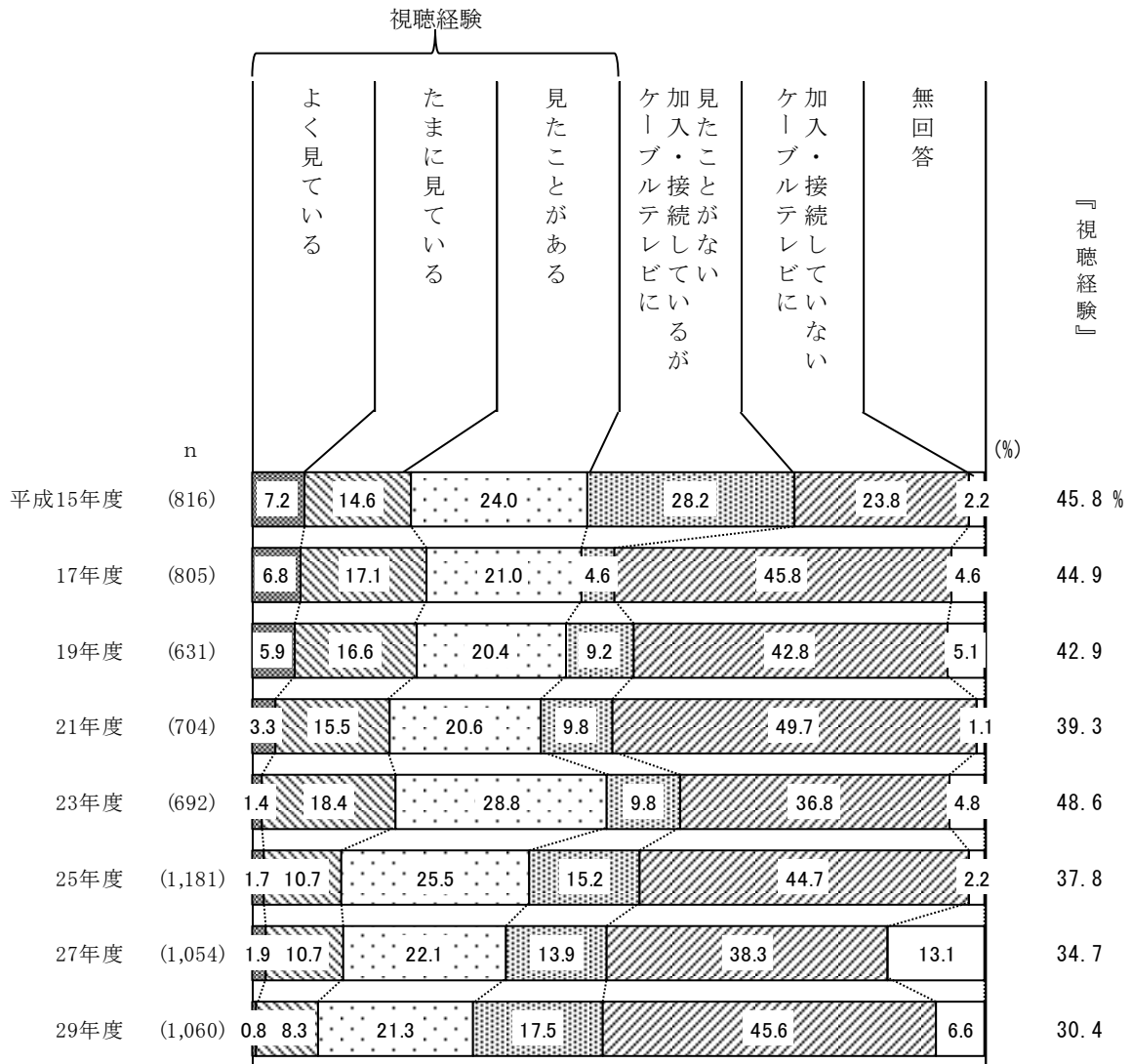
図 17-1-1



行政情報番組の視聴状況は、「ケーブルテレビに加入・接続していない」(45.6%)が4割半ばと最も多く、次いで「見たことがある」(21.3%)、「ケーブルテレビに加入・接続しているが見たことがない」(17.5%)となっている。「よく見ている」、「たまに見ている」、「見たことがある」を合わせた『視聴経験』(30.4%)が3割となっている。(図 17-1-1)

推移をみると、「よく見ている」、「たまに見ている」、「見たことがある」を合わせた『視聴経験』は減少傾向となっており、平成27年度から4.3ポイント低くなっている。(図17-1-2)

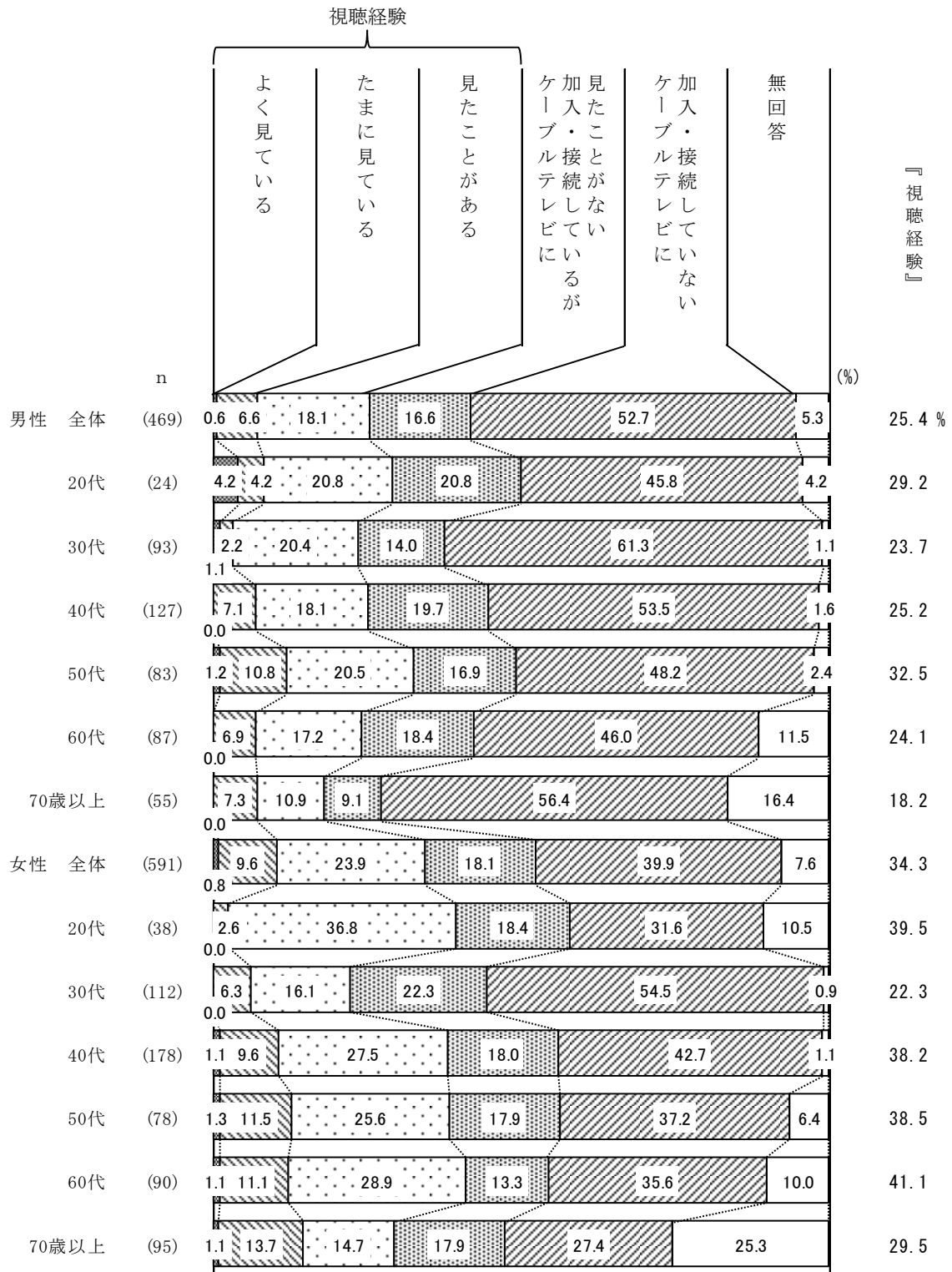
図17-1-2 行政情報番組の視聴状況－推移



性別で見ると、「よく見ている」、「たまに見ている」、「見たことがある」を合わせた『視聴経験』は女性（34.3%）が男性（25.4%）より8.9ポイント高くなっている。

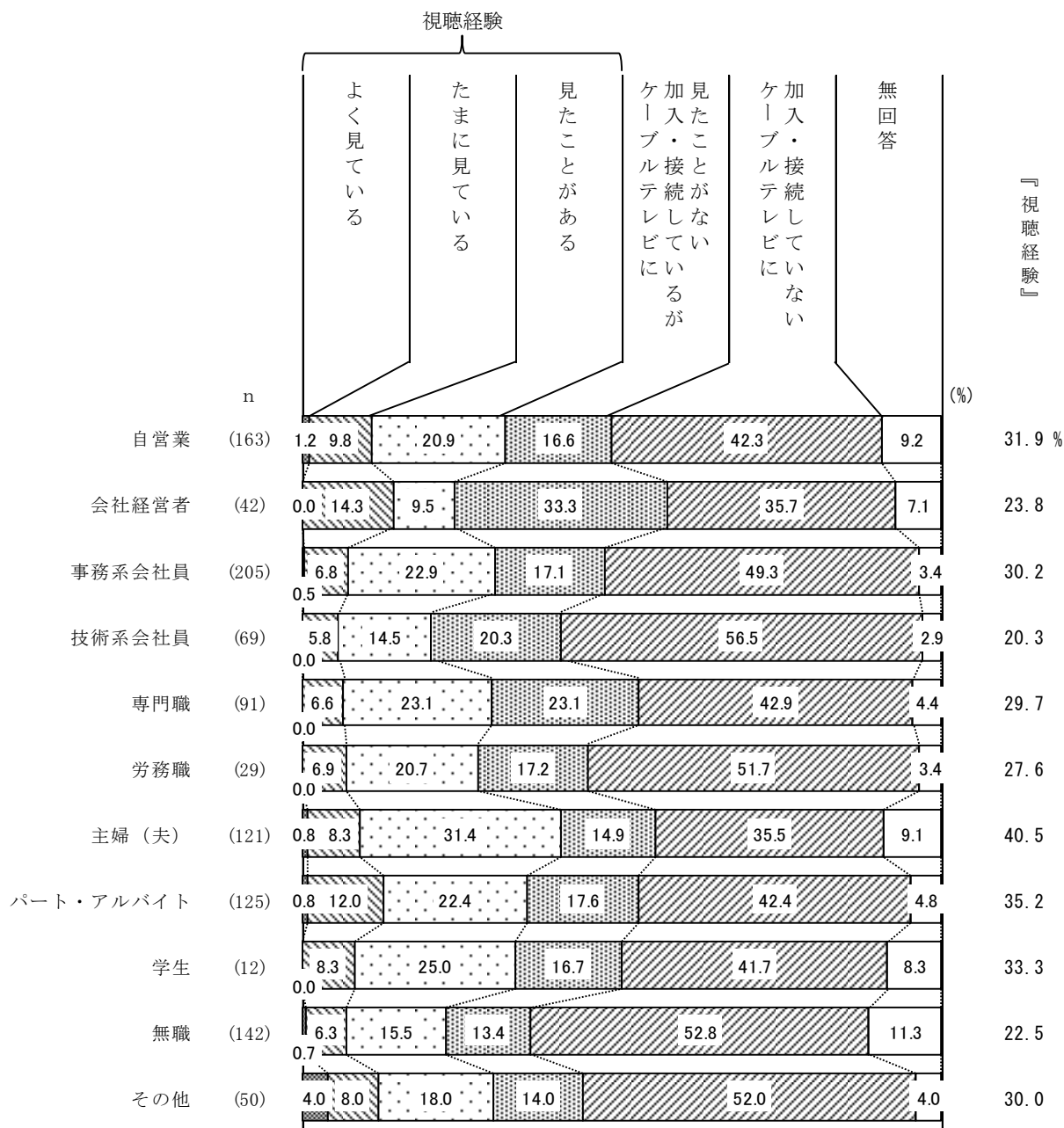
性・年代別で見ると、「よく見ている」、「たまに見ている」、「見たことがある」を合わせた『視聴経験』は女性60代（41.1%）で4割を超えており、次いで女性20代（39.5%）、女性50代（38.5%）となっている。一方、「ケーブルテレビに加入・接続しているが見たことがない」は女性30代（22.3%）と男性20代（20.8%）で2割台となっている。（図17-1-3）

図17-1-3 行政情報番組の視聴状況—性別、性・年代別



職業別でみると、「よく見ている」、「たまに見ている」、「見たことがある」を合わせた『視聴経験』は主婦(夫) (40.5%) でほぼ4割と最も多く、次いでパート・アルバイト (35.2%)、学生 (33.3%) となっている。一方、「ケーブルテレビに加入・接続しているが見たことがない」は会社経営者 (33.3%) で3割を超えて最も多く、次いで専門職 (23.1%)、技術系会社員 (20.3%) となっている。(図17-1-4)

図17-1-4 行政情報番組の視聴状況－職業別



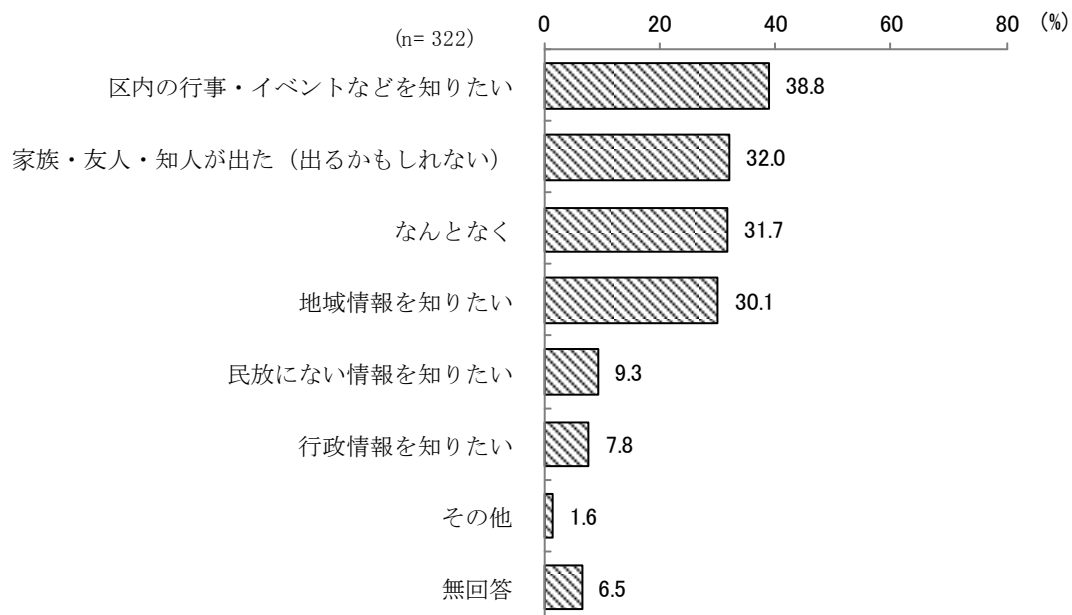
## 17-2 行政情報番組の視聴動機

「区内の行事・イベントなどを知りたい」が4割近く

(問48で、「1. よく見ている」から「3. 見たことがある」のいずれかにお答えの方に)

問48-1 見ている・見たことがある動機は何ですか。(〇はいくつでも)

図17-2-1

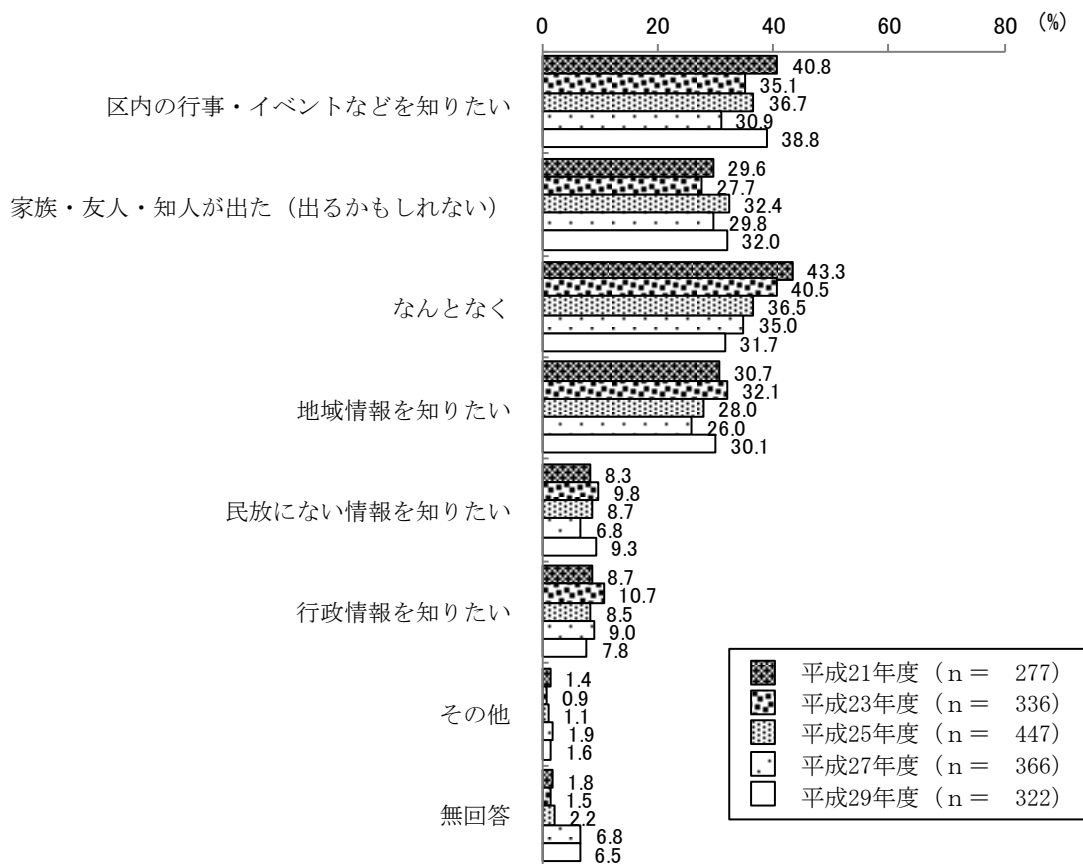


行政情報番組の視聴動機は、「区内の行事・イベントなどを知りたい」(38.8%)が4割近くと最も多く、次いで「家族・友人・知人が出た(出るかもしれない)」(32.0%)、「なんとなく」(31.7%)、「地域情報を知りたい」(30.1%)となっている。(図17-2-1)

推移をみると、平成27年度から「区内の行事・イベントなどを知りたい」は8.0ポイント、「地域情報を知りたい」は4.1ポイント、「民放にない情報を知りたい」は2.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「なんとなく」は平成27年度から3.3ポイント低くなっている。

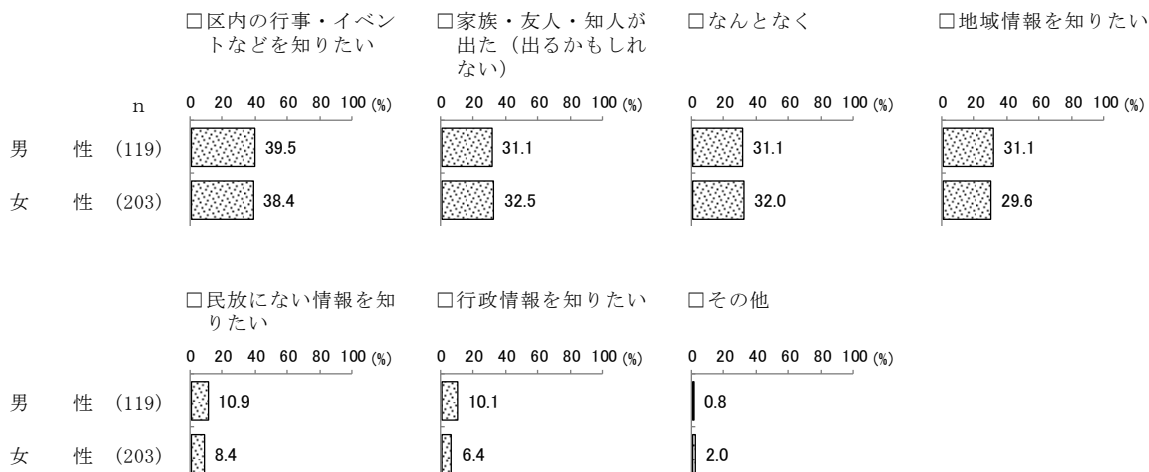
(図17-2-2)

図17-2-2 行政情報番組の視聴動機—推移



性別でみると、大きな男女差は見られず、「行政情報を知りたい」で男性(10.1%)が女性(6.4%)より3.7ポイント、「民放にない情報を知りたい」で男性(10.9%)が女性(8.4%)より2.5ポイント、それぞれ高くなっている。(図17-2-3)

図17-2-3 行政情報番組の視聴動機—性別

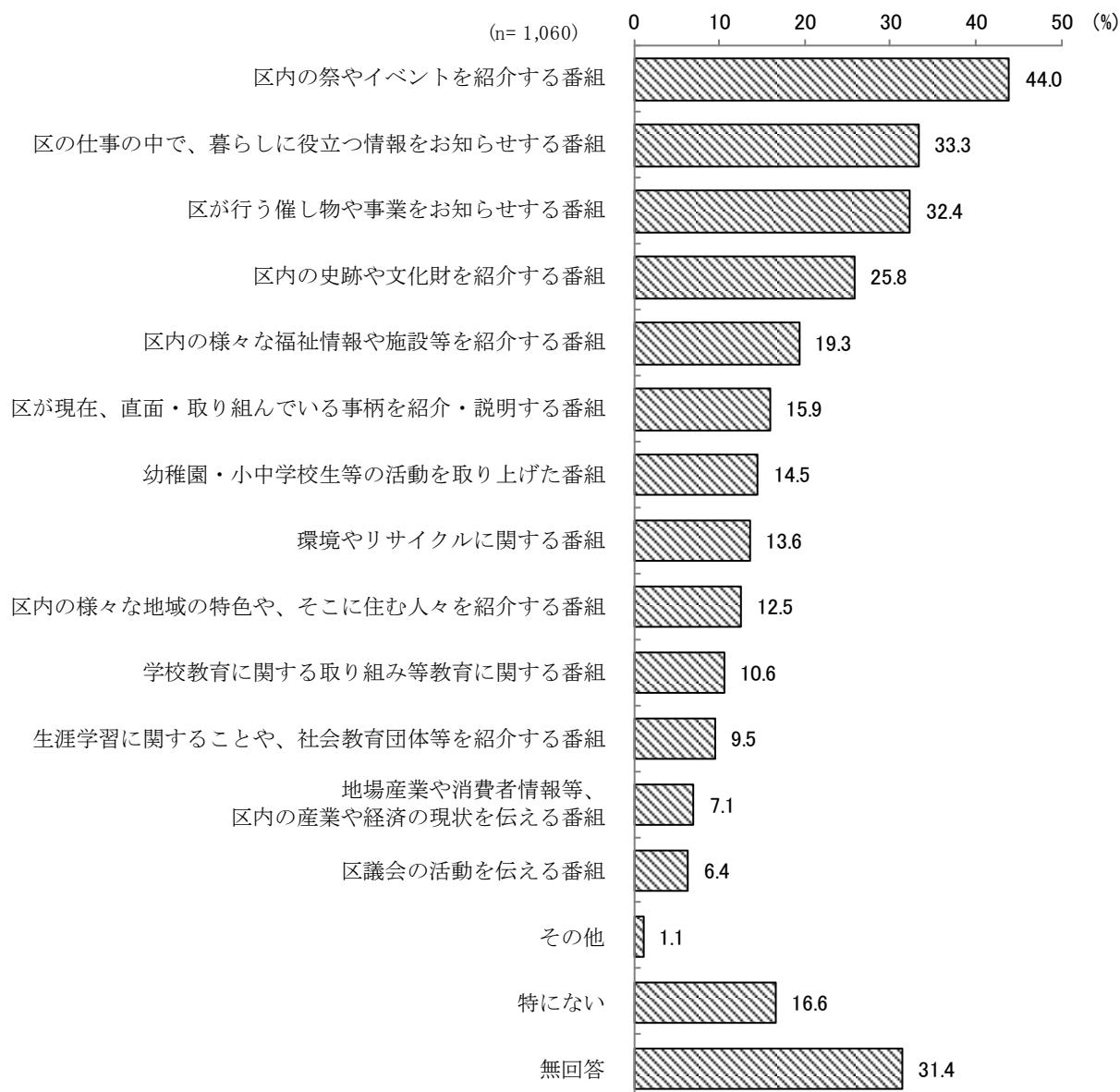


### 17-3 行政情報番組で見たいと思うもの

「区内の祭やイベントを紹介する番組」が4割半ば

問 49 台東区が制作・放送している行政情報番組で、あなたが見たいと思うものはどれですか。  
(○はいくつでも)

図 17-3-1

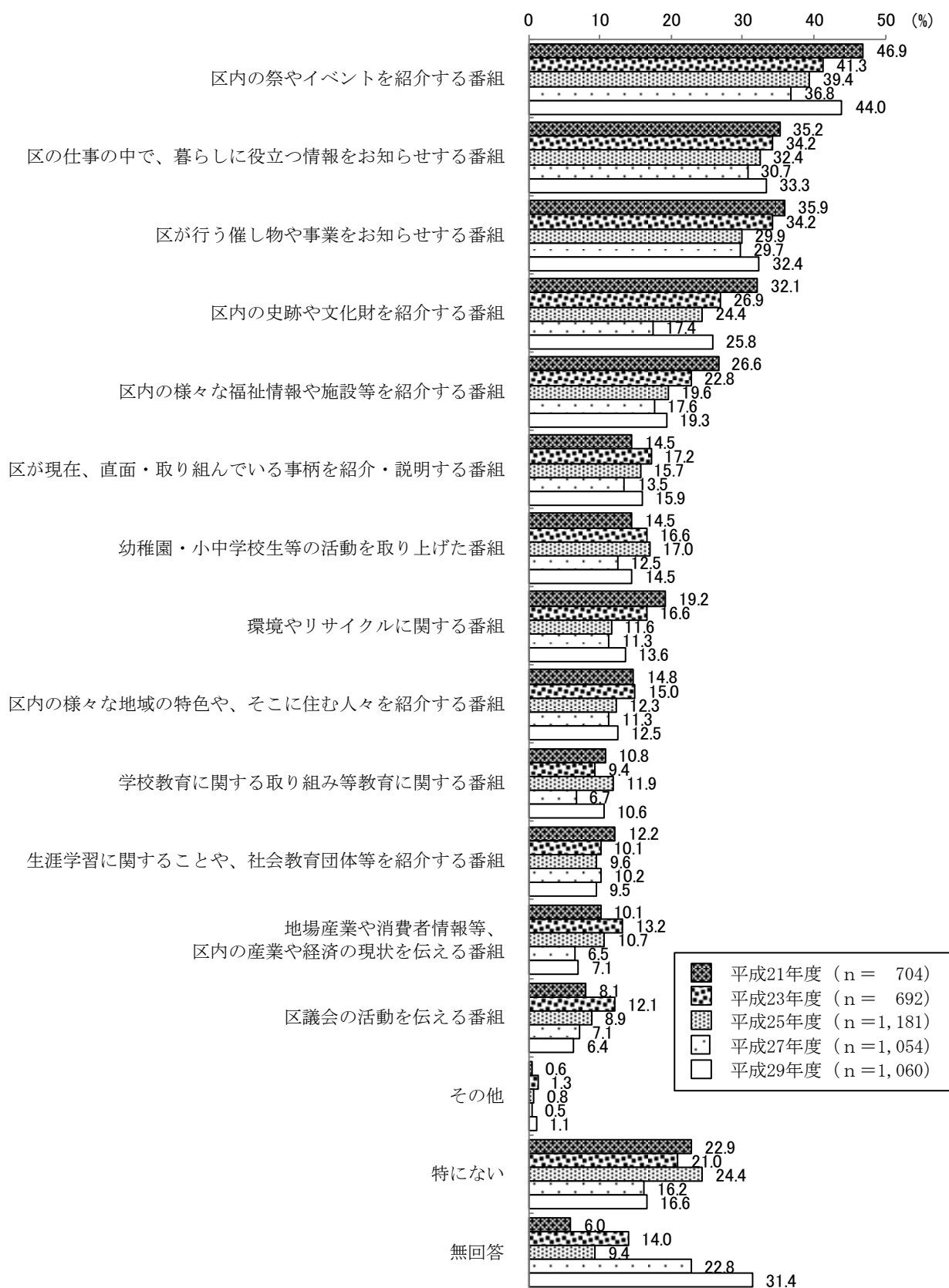


行政情報番組で見たいと思うものは、「区内の祭やイベントを紹介する番組」(44.0%)が4割半ばで最も多く、次いで「区の仕事の中で、暮らしに役立つ情報をお知らせする番組」(33.3%)、「区が行う催し物や事業をお知らせする番組」(32.4%)、「区内の史跡や文化財を紹介する番組」(25.8%)となっている。(図 17-3-1)



推移をみると、平成27年度から「区内の祭やイベントを紹介する番組」が7.2ポイント、「区内の史跡や文化財を紹介する番組」が8.4ポイント、それぞれ高くなっている。(図17-3-2)

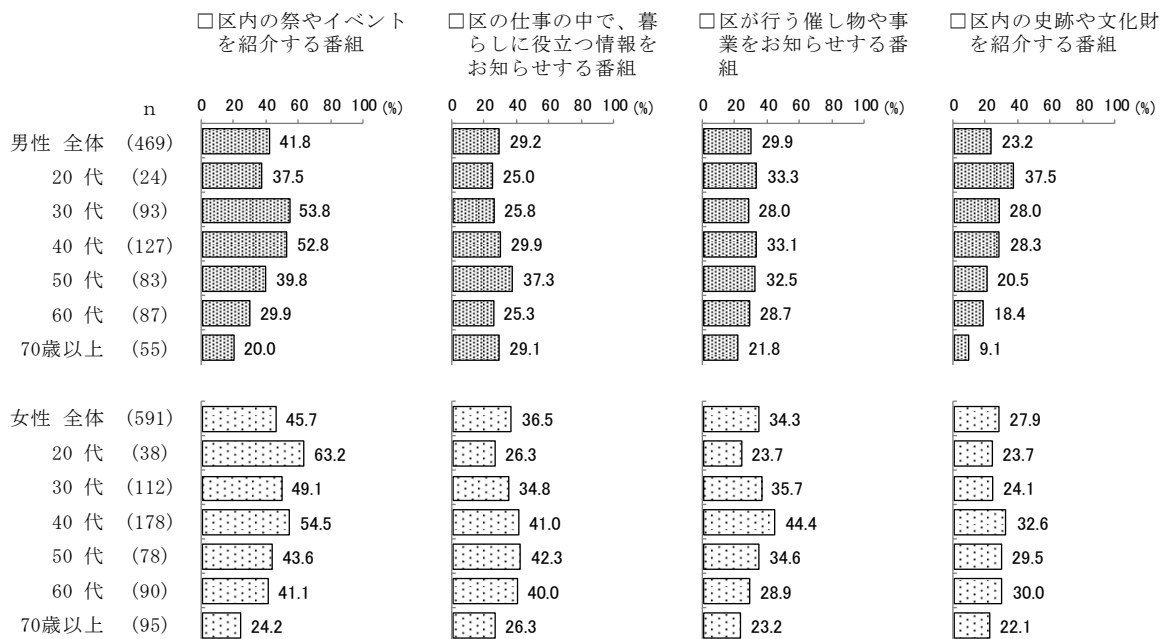
図17-3-2 行政情報番組で見たいと思うもの—推移



性別で見ると、「区の仕事の中で、暮らしに役立つ情報をお知らせする番組」は女性（36.5%）が男性（29.2%）より7.3ポイント、「区内の史跡や文化財を紹介する番組」は女性（27.9%）が男性（23.2%）より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると「区内の祭やイベントを紹介する番組」は女性20代（63.2%）で6割を超えて最も多く、次いで女性40代（54.5%）、男性30代（53.8%）となっている。「区の仕事の中で、暮らしに役立つ情報をお知らせする番組」は女性40代（41.0%）、女性50代（42.3%）、女性60代（40.0%）で4割台、「区が行う催し物や事業をお知らせする番組」は女性40代（44.4%）で4割半ばと多くなっている。（図17-3-3）

図17-3-3 行政情報番組で見たいと思うもの—性別、性・年代別（上位4位）



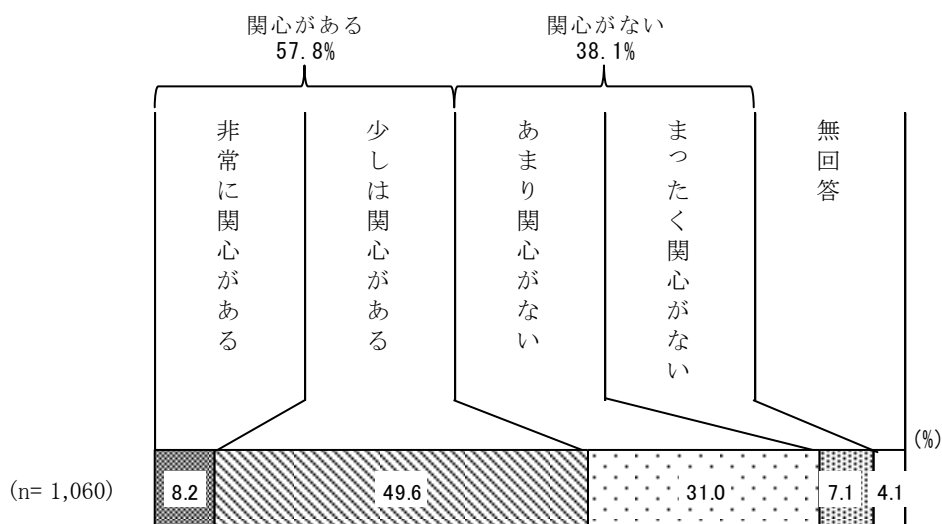
## 18. 区政への関心と要望

### 18-1 区政への関心度

『関心がある』が6割近く

問 50 あなたは区政に関心がありますか。(○は1つだけ)

図 18-1-1

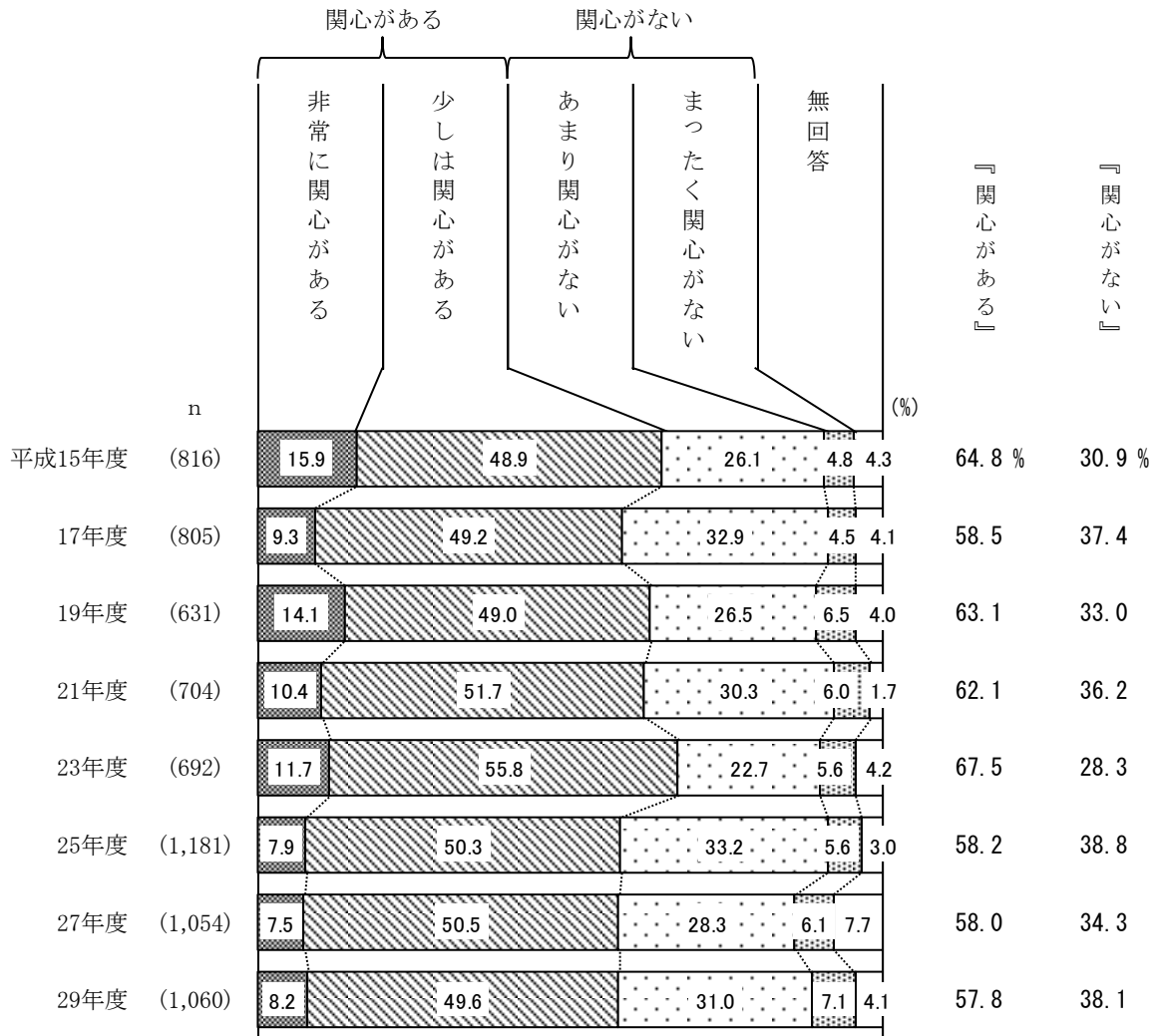


区政への関心度は、「少しは関心がある」(49.6%)と「非常に関心がある」(8.2%)を合わせた『関心がある』(57.8%)が6割近くとなっている。一方、「あまり関心がない」(31.0%)と「まったく関心がない」(7.1%)を合わせた『関心がない』(38.1%)は4割近くとなっている。

(図 18-1-1)

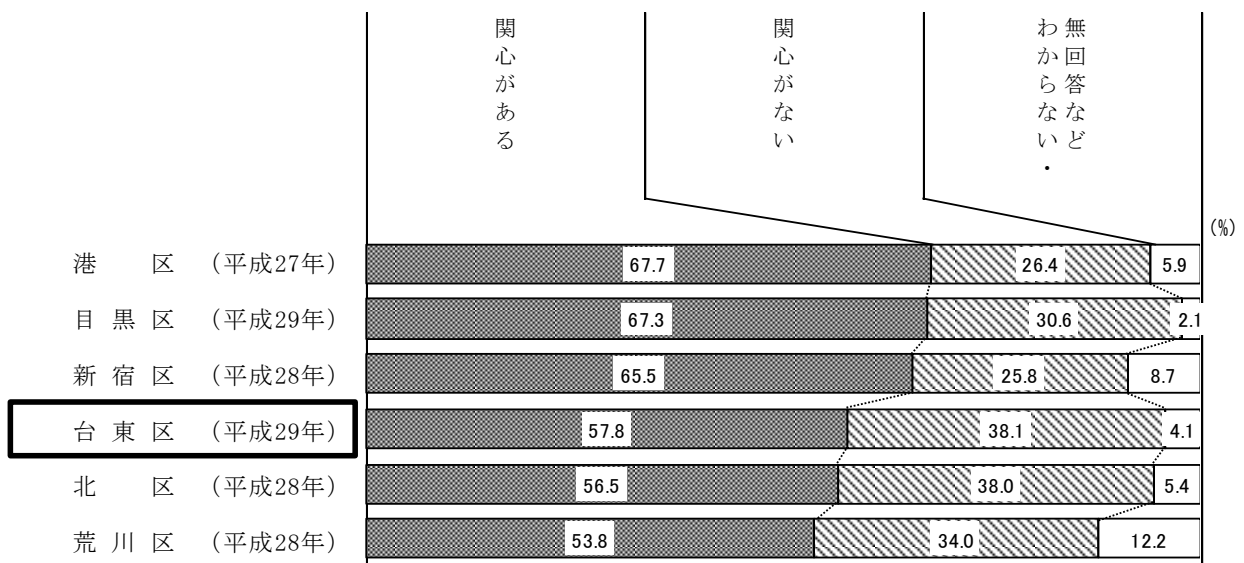
区政への関心度の推移をみると、平成27年度から「非常に関心がある」と「少しは関心がある」を合わせた『関心がある』は0.2ポイント低く、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた『関心がない』は3.8ポイント高くなっている。(図 18-1-2)

図 18-1-2 区政への関心度—推移



この結果を他区と比較すると、「非常に関心がある」と「少しは関心がある」を合わせた『関心がある』は、比較できる東京都の6区の中で第4位となっている。(図 18-1-3)

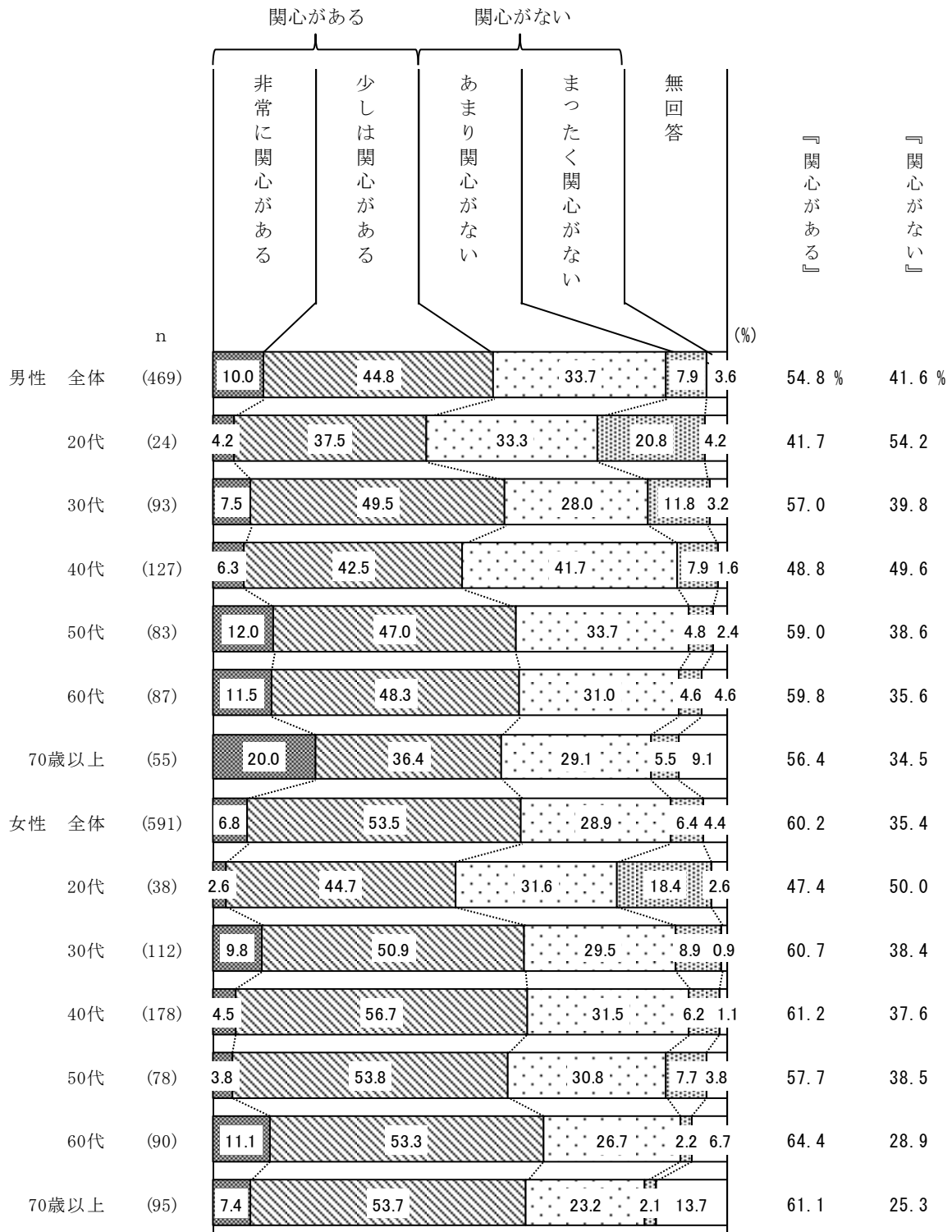
図 18-1-3 区政への関心度—他区との比較



性別で見ると、「非常に関心がある」と「少しは関心がある」を合わせた『関心がある』は女性(60.2%)が男性(54.8%)より5.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「非常に関心がある」と「少しは関心がある」を合わせた『関心がある』は女性60代(64.4%)で6割半ばと最も多く、次いで女性40代(61.2%)、女性70歳以上(61.1%)となっている。一方、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた『関心がない』は男性20代(54.2%)と女性20代(50.0%)で5割台と多くなっている。(図18-1-4)

図18-1-4 区政への関心度—性別、性・年代別



18-2 施策の要望

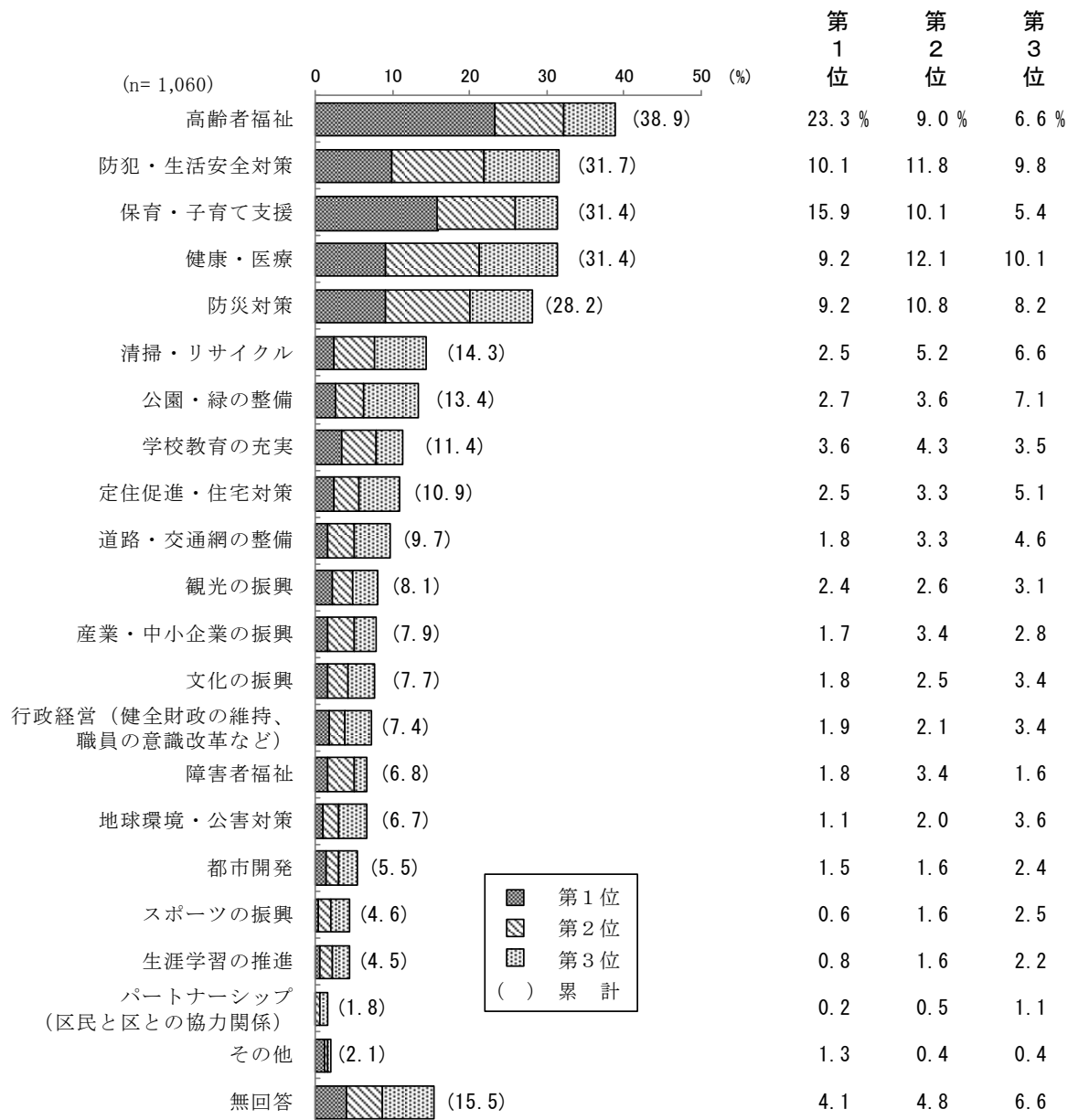
「高齢者福祉」、「防犯・生活安全対策」、「保育・子育て支援」が上位3項目

問51 今後、区に力を入れてほしい施策はどんなことですか。

(次の中から3つまで選び、第1位・第2位・第3位と順位をつけて、

下にある □ の中に番号を記入してください)

図 18-2-1



施策の要望は、第1位から第3位の総合で「高齢者福祉」(38.9%)が4割近くと最も多く、次いで「防犯・生活安全対策」(31.7%)、「保育・子育て支援」(31.4%)、「健康・医療」(31.4%)となっている。また、第1位には「高齢者福祉」(23.3%)、次いで「保育・子育て支援」(15.9%)、「防犯・生活安全対策」(10.1%)となっている。(図 18-2-1)

### 【施策の要望－他区との比較】

この結果を比較可能な他の21区と比較すると、「高齢者福祉」は目黒区、大田区、江戸川区を除くいずれの区でも3位以内となっており、台東区のほかに8つの区で第1位となっている。「防犯・生活安全対策」は選択肢となっていない区もあるが、目黒区では第1位、台東区のほかに5つの区で第2位となっている。「保育・子育て支援」は5つの区で第2位、台東区のほかに5つの区で第3位となっている。「健康・医療」は選択肢を細分化して尋ねている区もあるが、5つの区で第5位となっている。「防災対策」は台東区では第5位であるが、10区で第1位、2つの区で第2位となっている。(表18-2-1)

### 【施策の要望－推移】

施策の要望の推移をみると、昭和62年度から通して、「高齢者福祉」(平成2年度までは「老人福祉」)は第1位となっている。第10位までの上位項目は平成27年度調査と同じであり、「保育・子育て支援」は4.1ポイント、「防災対策」は3.8ポイント高くなっており、「高齢者福祉」は4.8ポイント、「防犯・生活安全対策」は4.2ポイント低くなっている。(表18-2-2)

### 【施策の要望－地区別、性別・年代別】

地区別でみると、全体で上位第5位以内の項目は、順位に違いがあるものの、全ての地区で第5位以内に入っている。「高齢者福祉」は第6ブロックで第2位(33.9%)となっているが、他の地区ではすべて第1位となっている。なお、第6ブロックの第1位は「防犯・生活安全対策」(38.5%)となっている。

性別でみると、全体で上位第5位以内の項目は、順位に違いがあるものの男性、女性ともに第5位以内に入っている。「健康・医療」は女性(34.7%)が男性(27.3%)より7.4ポイント、「防災対策」は女性(31.6%)が男性(23.9%)より7.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者福祉」は男性、女性ともに50代以上で第1位となっている。「保育・子育て支援」は男性30代(53.8%)、男性40代(35.4%)、女性20代(60.5%)、女性30代(53.6%)で第1位となっている。(表18-2-3)

表 18-2-1 (1) 施策の要望—他区との比較 (上位 10 位)

(%)

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位
台東区 平成29年度	高齢者福祉 38.9	防犯・生活安全対策 31.7	保育・子育て支援/ 健康・医療 31.4		防災対策 28.2	清掃・リサイクル 14.3	公園・緑の整備 13.4	学校教育の充実 11.4	定住促進・住宅対策 10.9	道路・交通網の整備 9.7
千代田区 平成28年度	環境対策 49.9	高齢者施策 49.6	防災対策 47.9	まちづくりの推進 44.4	児童福祉 42.7	生涯学習、文化・スポーツの振興 42.6	保健・衛生対策 38.8	住宅対策 38.2	学校教育の充実 36.9	商工・観光・消費生活 31.0
中央区 平成28年度	高齢者福祉・介護 37.4	子育て支援 34.5	防災対策 26.9	防犯対策 21.6	公園・緑地・水辺の整備 16.8	住宅対策 11.7	学校教育の充実 11.1	障害者福祉 10.0	駐車場・駐輪場の整備 10.0	道路環境整備、交通安全対策 8.8
港区 平成27年度	高齢者福祉 36.0	自転車対策 28.7	防災 25.9	子育て支援 25.0	たばこ対策 21.2	街づくり 20.0	生活安全 19.2	幼・小・中学校教育 17.5	景観 15.1	保育 15.1
新宿区 平成28年度	高齢者福祉の充実 34.6	防犯・地域安全対策 27.5	震災・水害対策 23.4	子育て支援 20.6	低所得者への支援 14.6	学校教育の充実 10.7	環境美化対策 9.8	道路・交通対策 9.3	緑化の推進・公園の整備 9.2	住宅対策 8.7
文京区 平成27年度	高齢者施策 35.2	子育て支援施策 29.1	防災施策 20.2	学校教育施策 16.6	公園・緑化・景観施策 15.0	住宅・定住施策 12.6	都市整備施策 11.7	環境施策 10.5	低所得者施策 10.2	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 9.6
墨田区 平成28年度	防災対策 53.2	高齢者福祉対策 34.3	防犯対策 26.1	子育て支援対策 23.6	健康・保健・医療 21.9	低所得者対策 14.4	まちづくり・都市再開発 13.3			
江東区 平成27年度	高齢者対策 50.8	防災対策 41.4	児童・幼児対策 38.5	治安対策 23.8	保健・衛生 13.5	都市景観 13.2	交通安全対策 13.1	道路整備 12.5	個人情報保護対策 11.2	緑化推進 10.5
品川区 平成28年度	防災対策 30.8	安全な市街地整備 27.9	高齢者福祉 26.5	生活安全 24.5	子育て支援 21.7	保健・医療・健康 16.4	公園整備・緑化推進 10.4	環境問題 10.3	交通安全対策 9.9	都市基盤の整備 8.9
目黒区 平成29年度	防犯 30.5	防災 30.1	子育て支援 29.5	高齢者福祉 28.5	保健・医療 17.9	環境保全 17.8	学校教育 16.1	交通安全 16.0	公園・緑化 14.5	都市整備 13.6
大田区 平成28年度	防災対策 54.7	防犯対策 53.4	児童福祉 42.6	高齢者福祉 39.8	保健・健康 34.1	学校教育 32.2	交通安全対策 29.3	緑化推進 29.0	清掃・リサイクルの推進 29.0	公園・児童遊園の整備 28.8



表 18-2-1 (2) 施策の要望—他区との比較 (上位 10 位)

(%)

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位
世田谷区 平成28年度	災害に強いまちづくり 32.0	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 26.2	子どもが育つ環境づくり 22.9	区民・事業者との協働による地域づくり ※1 13.0	健康づくりの推進 11.6	質の高い学校教育の推進 9.9	虐待のないまち・子ども・子育てで家庭への支援 9.3	交通ネットワークの整備 8.8	若者が力を発揮する地域づくり 8.3
渋谷区 平成21年度	高齢者に関する施策 34.3	子育てに関する施策 23.5	まちの治安・安全対策に関する施策 22.7	清掃事業・まちの美化に関する施策 21.6	まちづくりに関する施策 19.2	交通環境の整備に関する施策 19.1	防災に関する施策 17.0	地球環境に関する施策/健康に関する施策 11.1		学校教育に関する施策 10.5
中野区 平成28年度	防災 27.8	防犯 22.5	高齢者福祉 22.4	子育て支援 21.2	住宅・まちづくり 17.0	みどり・公園 15.9	道路・交通 14.3	駅前などの重点的まちづくり 13.3	区財政の健全化 11.1	学校教育 11.0
杉並区 平成28年度	災害に強いまちづくり 29.2	子育て支援 子ども・青少年の育成支援の充実 28.7	高齢者の支援 22.0	安全・安心な地域社会づくり 20.3	利便性の高い快適な都市基盤の整備 14.5	地域医療体制の整備 12.6	学校教育等の充実 12.1	文化・芸術の振興 8.5	障害者の支援 7.6	地域福祉の充実 7.1
豊島区 平成28年度	高齢者福祉の充実 34.9	治安対策 33.8	子育て支援の充実 32.2	防災対策 29.5	保健・医療の充実 28.4	みどりや公園づくり 28.1	モラル低下等による迷惑行為の防止対策 27.1	再開発・街づくり・街並みの整備 18.4	子どもの健全育成 17.3	学校教育の充実 16.9
荒川区 平成28年度	地震などの防災対策 37.0	高齢者福祉の充実 31.7	幼児・児童の子育て支援の充実 24.9	地域防犯の取組 22.2	子どもの安全対策 20.4	公園の整備充実・緑化の推進 19.6	良好な生活環境のための施策の充実 ※2 19.0	街づくりの推進 ※3 18.5	健康づくりなどの保健衛生施策の充実 18.0	学校教育の充実 16.4
板橋区 平成27年度	介護・高齢福祉・見守り 46.6	子育て 45.4	防犯 36.4	高齢者社会参加・介護予防 32.2	学校教育 29.6	防災 25.7	交通安全 23.8	健康・衛生 23.1	就労支援 22.5	緑・公園・景観 19.1
練馬区 平成28年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 23.4	交通安全対策 21.3	高齢者福祉 20.1	子育て支援 18.2	駅周辺のまちづくり 17.0	災害に強い安全なまちづくり 16.5	医療環境の充実 15.0	学校教育 11.8	地域環境の保全 9.5	みどりの保全と創出 8.8
足立区 平成28年度	防災対策 45.6	交通対策 45.4	高齢者支援 43.9	都市開発 42.7	住宅対策 38.1	自然・緑化対策 35.9	子育て支援 35.2	障がい者支援 32.9	低所得者対策 32.3	学校教育対策 32.2
葛飾区 平成27年度	防災対策 42.2	高齢者福祉対策 33.2	交通安全対策 21.1	健康の増進・疾病の予防 19.5	子育ての支援 15.9	公共交通の充実 11.8	道路の整備 10.2	学校教育の充実 10.0	公共交通の整備 9.4	水辺環境・都市景観の整備 9.2
江戸川区 平成26年度	震災対策 39.1	防犯対策 33.4	水害対策 25.0	子育て支援 21.2	熟年者施策 19.9	交通網整備 14.8	学校教育 11.8	都市基盤整備 10.1	住宅対策 7.9	障害者支援 7.9

※1「区民・事業者との協働による地域づくり」は「見守り施策や地域支えあいの推進など、区民・事業者との協働による地域づくり」を省略した。

※2「良好な生活環境のための施策の充実」は「騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実」を省略した。

※3「街づくりの推進」は「魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進」を省略した。

表 18-2-2 施策の要望—推移（上位 10 位）

(%)

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位
平成 29 年度	高齢者福祉 38.9	防犯・生活安全対策 31.7	保育・子育て支援/ 健康・医療 31.4		防災対策 28.2	清掃・リサイクル 14.3	公園・緑の整備 13.4	学校教育の充実 11.4	定住促進・住宅対策 10.9	道路・交通網の整備 9.7
27 年度	高齢者福祉 43.7	防犯・生活安全対策 35.9	健康・医療 30.1	保育・子育て支援 27.3	防災対策 24.4	公園・緑の整備 13.5	清掃・リサイクル 11.0	道路・交通網の整備 9.6	学校教育の充実 8.9	定住促進・住宅対策 8.8
25 年度	高齢者福祉 40.3	防犯・生活安全対策 30.9	健康・医療 30.2	保育・子育て支援 29.1	防災対策 25.7	公園・緑の整備 17.1	産業・中小企業の振興 13.5	学校教育の充実 13.1	定住促進・住宅対策 10.0	清掃・リサイクル 9.7
23 年度	高齢者福祉 41.5	保育・子育て支援/ 健康・医療 29.6		防災対策 29.0	防犯・生活安全対策 27.2	公園・緑の整備 16.2	産業・中小企業の振興 13.7	清掃・リサイクル 12.1	学校教育の充実 10.7	観光の振興 10.5
21 年度	高齢者福祉 46.2	健康・医療 36.4	保育・子育て支援 29.7	防犯・生活安全対策 27.3	防災対策 15.8	定住促進・住宅対策 15.3	清掃・リサイクル/ 公園・緑の整備 14.3		地球環境・公害対策 12.6	産業・中小企業の振興 12.2
19 年度	高齢者福祉 52.5	健康・医療 31.7	防犯・生活安全 31.1	保育・子育て支援 23.6	防災 17.6	公園・緑の整備 14.1	清掃・リサイクル 13.8	地球環境・公害 13.2	定住促進・住宅 12.8	産業・中小企業の振興 9.0
17 年度	高齢者福祉 42.7	治安 31.8	防災 30.1	児童福祉・子育て支援 19.5	住宅 14.2	環境・公害 13.2	中小企業 10.9	保健・健康 10.8	清掃・リサイクル 9.7	緑化推進 9.6
15 年度	高齢者福祉 53.3	防災 21.6	清掃・リサイクル 18.5	児童福祉 16.4	中小企業 16.2	緑化推進 15.0	保健・健康 14.7	住宅 13.6	環境・公害 13.2	障害者福祉 12.3
13 年度	高齢者福祉 57.8	住宅 23.5	保健・健康 17.3	防災 17.1	清掃・リサイクル 16.4	中小企業 15.9	障害者福祉 13.8	児童福祉/緑化推進 13.4		定住促進 10.7
11 年度	高齢者福祉 47.6	環境・公害 25.9	住宅 21.4	防災 19.1	中小企業 15.3	児童福祉 15.0	緑化推進 12.4	保健・健康 12.2	障害者福祉 11.9	定住促進 11.2
9 年度	高齢者福祉 58.3	住宅 26.7	防災 22.0	環境・公害 19.9	保健・健康 17.4	緑化推進 15.3	消費者 14.6	中小企業 14.1	障害者福祉 12.3	定住促進 12.2
7 年度	高齢者福祉 54.4	防災 33.5	住宅 32.1	環境・公害 23.3	中小企業 15.8	障害者福祉 15.1	緑化推進 13.7	保健・健康 12.8	消費者 12.1	地価抑制 11.4
6 年度	高齢者福祉 54.2	住宅 32.7	環境・公害 24.0	中小企業/防災 14.7		消費者 14.4	障害者福祉/ 緑化推進 13.6		保健・健康 13.3	地価抑制 13.2
5 年度	高齢者福祉 57.2	住宅 32.8	地価抑制 22.7	環境・公害 21.9	緑化推進 17.6	防災 17.4	保健・健康 17.0	消費者 13.2	交通網整備 11.6	中小企業 10.8
4 年度	高齢者福祉 45.9	住宅 37.1	環境・公害 23.2	緑化推進 19.5	地価抑制 19.2	保健・健康 15.9	消費者 12.5	防災 12.1	中小企業 11.2	交通網整備 11.0
3 年度	高齢者福祉 55.9	住宅 37.6	環境・公害 21.9	地価抑制 21.7	緑化推進 16.6	交通網整備 12.1	中小企業 11.4	消費者/道路整備 11.2		防災 11.0
2 年度	老人福祉 49.0	住宅 37.2	地価抑制 27.2	保健・健康 16.9	防災 15.3	消費者/中小企業 14.6		緑化推進 14.3	公害 12.7	スポーツ振興 12.1
元年度	老人福祉 46.7	住宅 32.1	地価抑制 24.3	消費者 24.2	保健・健康 20.2	緑化推進 14.6	中小企業 13.5	防災 12.6	都市再開発 12.2	青少年 11.5
昭和 63 年度	老人福祉 48.4	住宅 29.5	地価抑制 23.7	緑化推進 17.0	公園児童遊園 14.3	中小企業 14.1	防災 13.9	保健・健康 13.4	都市再開発 12.0	消費者 10.9
62 年度	老人福祉 42.9	住宅 27.8	地価抑制 23.2	中小企業 13.3	都市再開発 13.0	防災 11.2	消費者 11.1	緑化 10.5	児童福祉 10.2	保健・健康 9.8

表 18-2-3 施策の要望—地区別、性・年代別（上位5位）

(%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		高齢者福祉 38.9	防犯・生活安全対策 31.7	保育・子育て支援/健康・医療 31.4	防災対策 28.2	
地区別	第1ブロック	高齢者福祉 35.4	保育・子育て支援 34.6	防犯・生活安全対策 33.7	防災対策 31.7	健康・医療 29.2
	第2ブロック	高齢者福祉 35.0	保育・子育て支援 33.2	防犯・生活安全対策 29.6	健康・医療 29.2	防災対策 26.5
	第3ブロック	高齢者福祉 48.1	健康・医療 35.8	防災対策 29.0	防犯・生活安全対策 27.2	保育・子育て支援 25.3
	第4ブロック	高齢者福祉 41.5	健康・医療 33.7	保育・子育て支援 33.3	防犯・生活安全対策 32.1	防災対策 29.3
	第5ブロック	高齢者福祉 40.5	保育・子育て支援 35.1	防犯・生活安全対策 29.7	健康・医療 25.7	防災対策 23.0
	第6ブロック	防犯・生活安全対策 38.5	高齢者福祉 33.9	健康・医療 33.0	防災対策 23.9	保育・子育て支援 22.9
性別	男性	高齢者福祉 38.0	防犯・生活安全対策 33.3	保育・子育て支援 29.6	健康・医療 27.3	防災対策 23.9
	女性	高齢者福祉 39.6	健康・医療 34.7	保育・子育て支援 32.8	防災対策 31.6	防犯・生活安全対策 30.5
性・年代別	男性 20代	防災対策/防犯・生活安全対策/健康・医療 29.2			保育・子育て支援/観光の振興/文化の振興/ 清掃・リサイクル 20.8	
	30代	保育・子育て支援 53.8	防犯・生活安全対策 37.6	公園・緑の整備 20.4	学校教育の充実 18.3	観光の振興 17.2
	40代	保育・子育て支援 35.4	防犯・生活安全対策 34.6	高齢者福祉 32.3	防災対策 25.2	健康・医療 21.3
	50代	高齢者福祉/防犯・生活安全対策 41.0		健康・医療 33.7	防災対策 27.7	清掃・リサイクル 19.3
	60代	高齢者福祉 58.6	健康・医療 39.1	防犯・生活安全対策 29.9	防災対策 25.3	保育・子育て支援 16.1
	70歳以上	高齢者福祉 70.9	健康・医療 36.4	保育・子育て支援 25.5	防災対策 23.6	障害者福祉 20.0
	女性 20代	保育・子育て支援 60.5	防犯・生活安全対策 34.2	観光の振興/健康・医療/公園・緑の整備 21.1		
	30代	保育・子育て支援 53.6	防犯・生活安全対策 30.4	防災対策 29.5	健康・医療 27.7	公園・緑の整備 25.0
	40代	防犯・生活安全対策 37.6	健康・医療 32.6	高齢者福祉/防災対策 31.5		保育・子育て支援 30.9
	50代	高齢者福祉 51.3	健康・医療 38.5	防災対策 37.2	防犯・生活安全対策 35.9	保育・子育て支援 25.6
	60代	高齢者福祉 55.6	健康・医療 43.3	防災対策 38.9	防犯・生活安全対策 27.8	保育・子育て支援 21.1
	70歳以上	高齢者福祉 67.4	健康・医療 41.1	防災対策 29.5	保育・子育て支援 17.9	防犯・生活安全対策 13.7

### 18-3 施設の要望

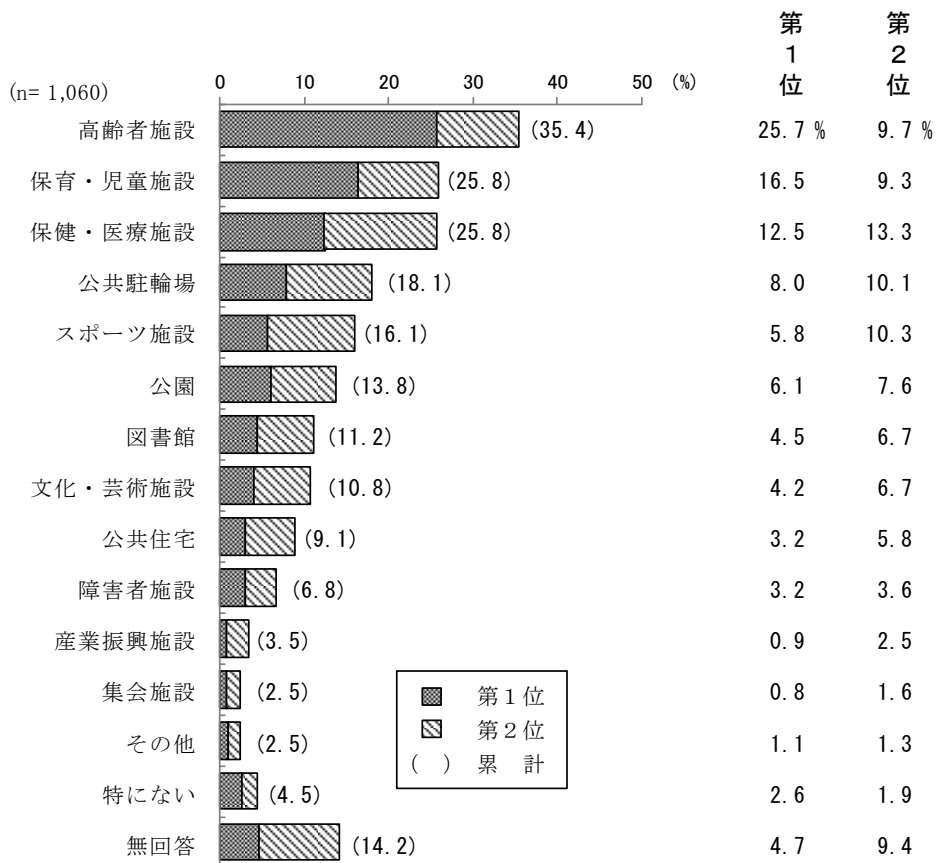
「高齢者施設」、「保育・児童施設」、「保健・医療施設」が上位3項目

問52 今後、あなたは区内にどのような施設を整備・充実すべきだと思いますか。

(次の中から2つまで選び、第1位・第2位と順位をつけて、

下にある □ の中に番号を記入してください)

図 18-3-1



施設の要望は、第1位から第3位の総合で「高齢者施設」(35.4%)が3割半ばと最も多く、次いで「保育・児童施設」(25.8%)、「保健・医療施設」(25.8%)、「公共駐輪場」(18.1%)となっている。また、第1位には「高齢者施設」(25.7%)、次いで「保育・児童施設」(16.5%)、「保健・医療施設」(12.5%)となっている。(図 18-3-1)

### 【施設の要望—推移】

推移をみると、「高齢者施設」（平成 17 年度及び平成 15 年度は「特別養護老人ホーム」、平成 13 年度までは「特養老人ホーム」）は、昭和 62 年度から引き続き第 1 位となっている。「保健・医療施設」は平成 4 年度及び平成 3 年度を除き、昭和 62 年度から引き続き第 2 位となっている。「保育・児童施設」は同率の 2 位、「公共駐輪場」は平成 25 年度から引き続き第 4 位、「スポーツ施設」は平成 27 年度から引き続き第 5 位となっている。（表 18-3-1）

### 【施設の要望—地区別、性別、性・年代別】

地区別でみると、「高齢者施設」は全てのブロックで第 1 位、「保健・医療施設」は、第 3 ブロック、第 4 ブロック、第 5 ブロック、第 6 ブロックで第 2 位、「保育・児童施設」は第 1 ブロック、第 2 ブロック、第 3 ブロックで第 2 位となっている。

性別でみると、男性、女性ともに第 1 位は「高齢者施設」となっており、女性（38.1%）が男性（32.0）よりも 6.1 ポイント高くなっている。「保育・児童施設」は男性が第 2 位、女性が第 3 位であるが、女性（27.7%）が男性（23.5%）よりも 4.2 ポイント高くなっている。「保健・医療施設」は男性が第 3 位、女性が第 2 位となっており、女性（27.9%）が男性（23.0%）よりも 4.9 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者施設」は男性、女性ともに 40 代以上で第 1 位となっている。「保育・児童施設」は男性 30 代、女性 20 代及び 30 代で第 1 位となっている。「図書館」は男性 20 代で第 1 位となっている。（表 18-3-2）

表 18-3-1 施設の要望-推移 (上位5位)

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成29年度	高齢者施設 35.4	保健・医療施設/保育・児童施設 25.8	公共駐輪場 18.1	スポーツ施設 16.1	
27年度	高齢者施設 42.0	保健・医療施設 24.5	保育・児童施設 22.5	公共駐車場 21.2	スポーツ施設 16.3
25年度	高齢者施設 40.0	保健・医療施設 25.3	保育・児童施設 21.9	公共駐車場 20.0	公園 15.1
23年度	高齢者施設 38.7	保健・医療施設 26.4	保育・児童施設 22.1	公園 16.5	スポーツ施設 14.9
21年度	高齢者施設 42.2	保健・医療施設 32.2	保育・児童施設 20.6	公園 14.3	スポーツ施設 13.2
19年度	高齢者施設 49.9	保健・医療施設 29.8	公園 15.2	保育・児童施設 13.0	公共住宅 12.4
17年度	特別養護老人ホーム 34.0	保健・医療施設 26.3	スポーツ施設 16.9	区営住宅 14.2	リサイクルセンター 12.0
15年度	特別養護老人ホーム 41.4	保健・医療施設 33.3	区営住宅 12.5	リサイクルセンター 11.9	スポーツ施設 10.5
13年度	養護老人ホーム 41.7	保健・医療施設 26.2	区営住宅 19.5	リサイクルセンター 15.8	区民保養施設 11.8
11年度	養護老人ホーム 32.0	保健・医療施設 25.3	リサイクルセンター 14.7	公共駐車場 14.3	区営住宅 13.8
9年度	養護老人ホーム 37.3	保健・医療施設 30.3	区営住宅 18.2	公共駐車場 14.1	スポーツ施設 12.5
7年度	養護老人ホーム 34.7	保健・医療施設 25.0	区営住宅 22.3	公共駐車場 15.2	リサイクルセンター 14.0
6年度	養護老人ホーム 30.7	保健・医療施設 23.2	区営住宅 20.5	公共駐車場 15.9	スポーツ施設 15.1
5年度	養護老人ホーム 37.7	保健・医療施設 26.0	区営住宅 18.5	スポーツ施設 15.9	公共駐車場 15.3
4年度	養護老人ホーム 31.7	区営住宅 25.2	公共駐車場 20.3	保育・児童施設 20.1	リサイクルセンター 16.0
3年度	養護老人ホーム 40.8	区営住宅 21.6	公共駐車場 21.2	保育・児童施設 21.0	スポーツ施設 16.7
2年度	養護老人ホーム 36.4	保健・医療施設 29.5	スポーツ施設 24.9	区営住宅 23.6	区民保養施設 17.9
元年度	養護老人ホーム 39.9	保健・医療施設 26.1	スポーツ施設 22.0	区営住宅 21.7	区民保養施設 15.7
昭和63年度	養護老人ホーム 40.9	保健・医療施設 31.6	スポーツ施設 22.6	区民保養施設 15.3	公園・児童遊園 13.8
62年度	養護老人ホーム 38.4	保健・医療施設 26.3	心身障害者(児) 17.1	公園・児童遊園 14.7	区民保養施設 12.6

表 18-3-2 施設の要望—地区別、性・年代別（上位5位）

(%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		高齢者施設 35.4	保健・医療施設/保育・児童施設 25.8	公共駐輪場 18.1	スポーツ施設 16.1	
地区別	第1ブロック	高齢者施設 31.7	保育・児童施設 30.5	保健・医療施設 21.8	スポーツ施設 18.5	公園 18.1
	第2ブロック	高齢者施設 32.3	保育・児童施設 29.2	保健・医療施設 25.2	公共駐輪場 21.7	公園 13.3
	第3ブロック	高齢者施設 40.1	保健・医療施設 29.6	保育・児童施設 22.2	公共駐輪場 19.1	公共住宅 14.2
	第4ブロック	高齢者施設 40.7	保健・医療施設 29.3	保育・児童施設 23.2	スポーツ施設 19.1	公共駐輪場 15.9
	第5ブロック	高齢者施設 39.2	保健・医療施設/保育・児童施設 24.3	公園 18.9	スポーツ施設 17.6	
	第6ブロック	高齢者施設 28.4	保健・医療施設 22.9	保育・児童施設 21.1	公共駐輪場 20.2	図書館/スポーツ施設/ 文化・芸術施設 17.4
性別	男性	高齢者施設 32.0	保育・児童施設 23.5	保健・医療施設 23.0	公共駐輪場 19.6	スポーツ施設 19.0
	女性	高齢者施設 38.1	保健・医療施設 27.9	保育・児童施設 27.7	公共駐輪場 16.9	スポーツ施設 13.9
性・年代別	男性 20代	図書館 37.5	スポーツ施設 29.2	保育・児童施設 20.8	公共住宅/文化・芸術施設 16.7	
	30代	保育・児童施設 43.0	スポーツ施設 29.0	公園 26.9	保健・医療施設 19.4	図書館 18.3
	40代	高齢者施設 29.9	保育・児童施設 26.0	公共駐輪場 24.4	スポーツ施設 22.0	保健・医療施設 18.1
	50代	高齢者施設 39.8	保健・医療施設 30.1	公共駐輪場 21.7	スポーツ施設 15.7	図書館 13.3
	60代	高齢者施設 44.8	保健・医療施設 28.7	公共駐輪場 17.2	保育・児童施設 12.6	障害者施設/ 文化・芸術施設 11.5
	70歳以上	高齢者施設 52.7	保健・医療施設 25.5	障害者施設 21.8	保育・児童施設 20.0	公共駐輪場 16.4
	女性 20代	保育・児童施設 52.6	図書館/スポーツ施設 23.7	保健・医療施設 18.4	公園 15.8	
	30代	保育・児童施設 47.3	公園/公共駐輪場 23.2	保健・医療施設/スポーツ施設 16.1		
	40代	高齢者施設 32.6	保健・医療施設 30.3	保育・児童施設 23.0	公共駐輪場 20.2	スポーツ施設 17.4
	50代	高齢者施設 50.0	保健・医療施設 24.4	保育・児童施設/公共駐輪場 21.8	公共住宅 20.5	
	60代	高齢者施設 56.7	保健・医療施設 36.7	保育・児童施設 21.1	公共住宅 14.4	公園/文化・芸術施設 12.2
	70歳以上	高齢者施設 58.9	保健・医療施設 35.8	保育・児童施設 14.7	公共駐輪場 10.5	障害者施設/ 文化・芸術施設 9.5

